

多様な性と人権に関する市民意識調査
報 告 書

令和元（2019）年 11 月
国 立 市

はじめに

国立市では、平成 31（2019）年 4 月に「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」を施行し、“全ての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み支え合い共に生きる”というソーシャル・インクルージョンを理念としたまちづくりを推進しております。

国においては、平成 11（1999）年 6 月に「男女共同参画社会基本法」が施行され、20 年が経とうとしております。その間、平成 27（2015）年度には「第 4 次男女共同参画基本計画（平成 27 年度～令和 2 年度）」が策定され、進められています。

こうした中、市では、平成 28（2016）年 4 月に策定した「国立市第 5 次男女平等・男女共同参画推進計画」の進捗状況の把握と改善を行い、今後の男女平等参画推進のための基礎資料を得るための調査を実施いたしました。この調査結果については、市民の様々な分野における男女平等観、多様な性に関する意識、ワークライフバランスなどの実態を把握し、男女平等参画を推進するために活用させていただきたいと考えております。

最後に、本調査の実施に当たりまして、ご協力をいただきました市民の皆さま並びに国立市男女平等推進市民委員会の皆さまに心より感謝申し上げます。

令和元（2019）年 11 月

国立市政策経営部

市長室

I	調査概要	1
1.	調査目的	3
2.	調査設計	3
3.	調査実施機関	3
4.	調査内容	3
5.	回収結果	3
6.	報告書の見方	4
II	調査回答者の属性	5
III	調査結果の分析	15
1.	女性と男性の平等について	
(1)	女性と男性の地位の平等感	17
(2)	女性と男性についての考え方	29
(3)	女性が仕事をすることについての考え方	35
2.	教育、子育てについて	
(1)	学校教育の場で女性と男性及び多様な性の平等のために必要なこと	38
(2)	子育てに関して不安なこと	40
3.	家庭や暮らしについて	
(1)	生活時間	43
(2)	夫婦（パートナー）の役割分担（現状）	59
(3)	夫婦（パートナー）の役割分担（希望）	72
(4)	育児休業取得の実態	85
(4-1)	育児休業の取得期間	87
(4-2)	育児休業を取得したなかでの不満	89
(4-3)	育児休業を取得しなかった理由	91
(5)	介護休業取得の実態	93
(6)	男性の介護への参加を進めるために重要なこと	95
4.	仕事について	
(1)	働き方	98
(2)	職場での仕事の内容や待遇面の問題	100
(3)	就業意向	103
(4)	働く上で障害になっていること	106

目 次

5. 社会的な活動について	
(1) 社会的活動への参加状況と意向	109
(2) 市議会、審議会への女性の参画について	115
6. 人権をおびやかす行為について	
(1) 基本的人権の侵害についての考え方	118
(2) パートナーから暴力を受けた経験	120
(2-1) 受けた暴力の内容	122
(2-2) 子どもや他の家族の対応	128
(2-3) 相談先	130
(2-4) 相談しなかった理由	132
(3) 暴力をなくすために必要な対策	134
(4) セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きしたりした経験	136
(5) 職場や学校などでのセクシュアル・ハラスメントをなくすために必要なこと	138
7. LGBT（セクシュアル・マイノリティ）を含む多様な性について	
(1) LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の認知度	140
(2) LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の方が直面している課題	142
(3) 性のあり方の悩みについての経験	144
8. 国や自治体の取組について	
(1) 法律や市の施策の認知度	146
(2) 「くにたち男女平等参画ステーション パラソル」の利用状況	157
(3) 女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け力を入れていくべきこと	159
(4) 同性カップルのパートナーシップ証明制度の導入について	161
9. 自由意見	163
IV 調査のまとめ	175
V 調査票	185

I 調查概要

I 調査概要

1. 調査目的

平成28（2016）年4月に策定した「国立市第5次男女平等・男女共同参画推進計画」の進捗状況の把握と改善を行い、今後の男女平等参画推進のための基礎的資料とすることを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域 国立市全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの層化（地域毎の人口に按分）無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布－郵送回収
- (6) 調査期間 令和元（2019）年8月5日（月）～8月26日（月）

3. 調査実施機関

株式会社アストジェイ

4. 調査内容

- (1) 女性と男性の平等について
- (2) 教育、子育てについて
- (3) 家庭や暮らしについて
- (4) 仕事について
- (5) 社会的な活動について
- (6) 人権をおびやかす行為について
- (7) LGBT（セクシュアル・マイノリティ）を含む多様な性について
- (8) 国や自治体の取組について

5. 回収結果

- (1) 標本数 3,000人
- (2) 有効回収数 722人
- (3) 有効回収率 24.1%

6. 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100.0%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100.0%を上回ることがある。
- (4) 図表では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。
- (7) この調査の標本誤差は下記の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)、および回答比率(P)によって異なる。

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数(サンプル数)
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
722	±2.23	±2.98	±3.41	±3.65	±3.72
600	±2.45	±3.27	±3.74	±4.00	±4.08
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
400	±3.00	±4.00	±4.58	±4.90	±5.00

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ として算出している。

<注/この表の見方>

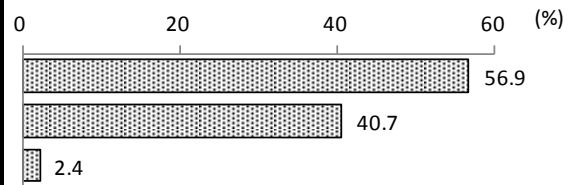
例えば、「ある設問の回答者数が722人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.65%以内(63.65%～56.35%)である」とみることができる。

Ⅱ 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

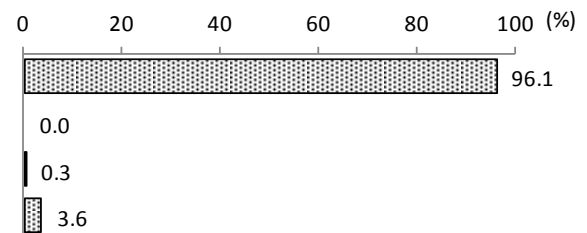
(1) 性別

	基数(人)	構成比(%)
女性	411	56.9
男性	294	40.7
無回答	17	2.4
合計	722	100.0



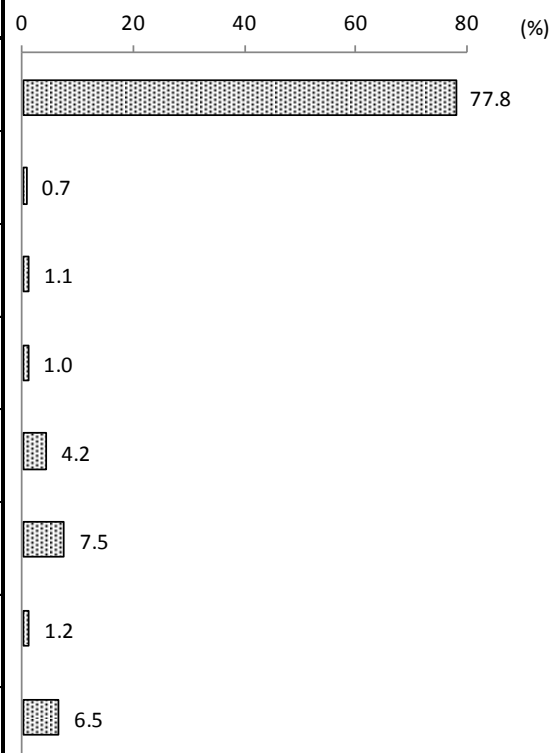
(2) 性自認

	基数(人)	構成比(%)
出生時の性別と同じ	694	96.1
別の性別だととらえている	-	-
違和感がある	2	0.3
無回答	26	3.6
合計	722	100.0



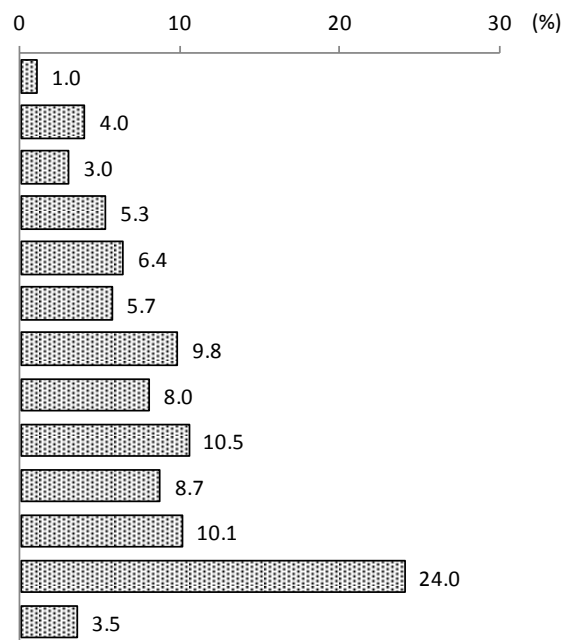
(3) 性的指向

	基数(人)	構成比(%)
異性愛者、すなわちレズビアン・ゲイ等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]	562	77.8
レズビアン・ゲイ・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]	5	0.7
バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]	8	1.1
無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]	7	1.0
決めたくない・決めていない	30	4.2
質問の意味がわからない	54	7.5
答えたくない	9	1.2
無回答	47	6.5
合計	722	100.0



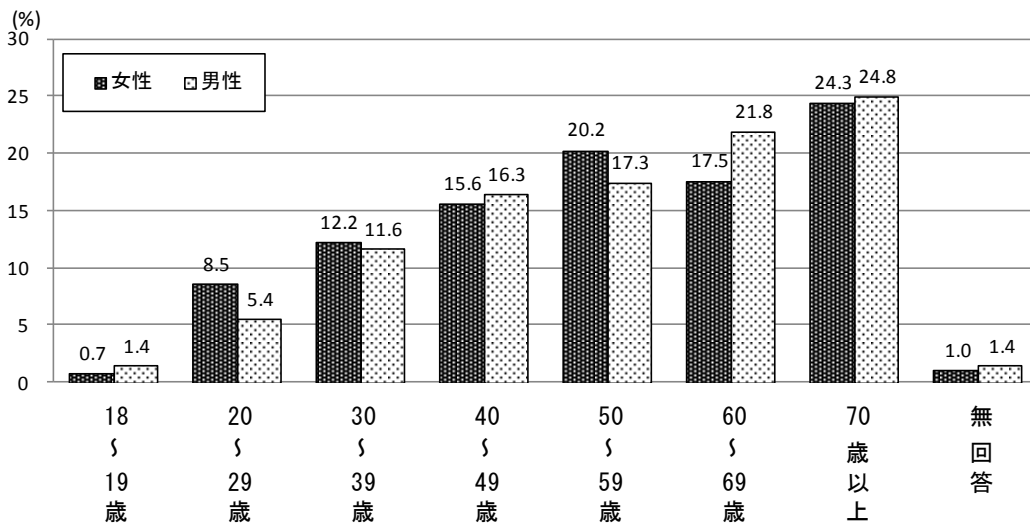
(4) 年齢

	基数(人)	構成比(%)
18～19歳	7	1.0
20～24歳	29	4.0
25～29歳	22	3.0
30～34歳	38	5.3
35～39歳	46	6.4
40～44歳	41	5.7
45～49歳	71	9.8
50～54歳	58	8.0
55～59歳	76	10.5
60～64歳	63	8.7
65～69歳	73	10.1
70歳以上	173	24.0
無回答	25	3.5
合計	722	100.0



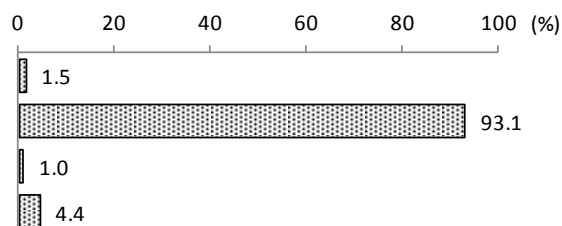
(4-1) 性別・年齢別

	女性		男性		不明
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)
18～19歳	3	0.7	4	1.4	-
20～29歳	35	8.5	16	5.4	-
30～39歳	50	12.2	34	11.6	-
40～49歳	64	15.6	48	16.3	-
50～59歳	83	20.2	51	17.3	-
60～69歳	72	17.5	64	21.8	-
70歳以上	100	24.3	73	24.8	-
(無回答)	4	1.0	4	1.4	17
合計	411	100.0	294	100.0	17



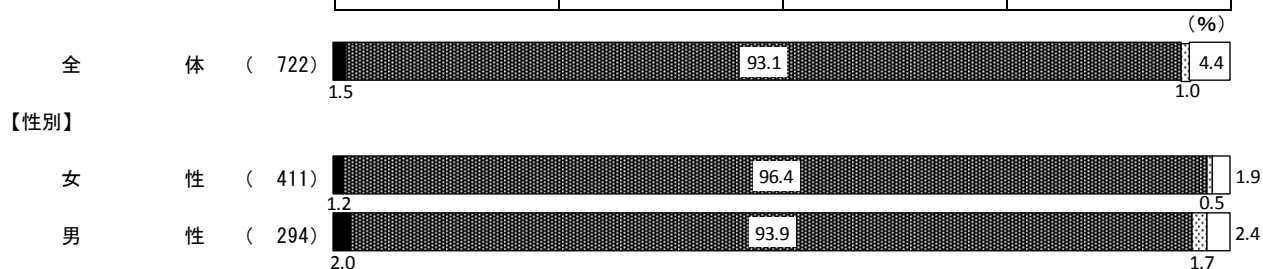
(5) 外国のルーツの有無

	基数(人)	構成比(%)
外国にルーツがある	11	1.5
外国にルーツはない	672	93.1
答えたくない	7	1.0
無回答	32	4.4
合計	722	100.0



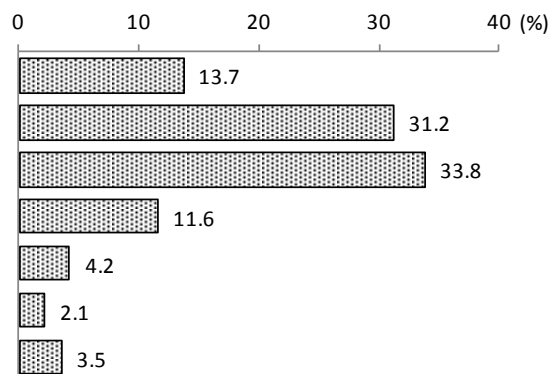
(5-1) 外国のルーツの有無×性別

外国にルーツがある	外国にルーツはない	答えたくない	無回答
■	■	■	□

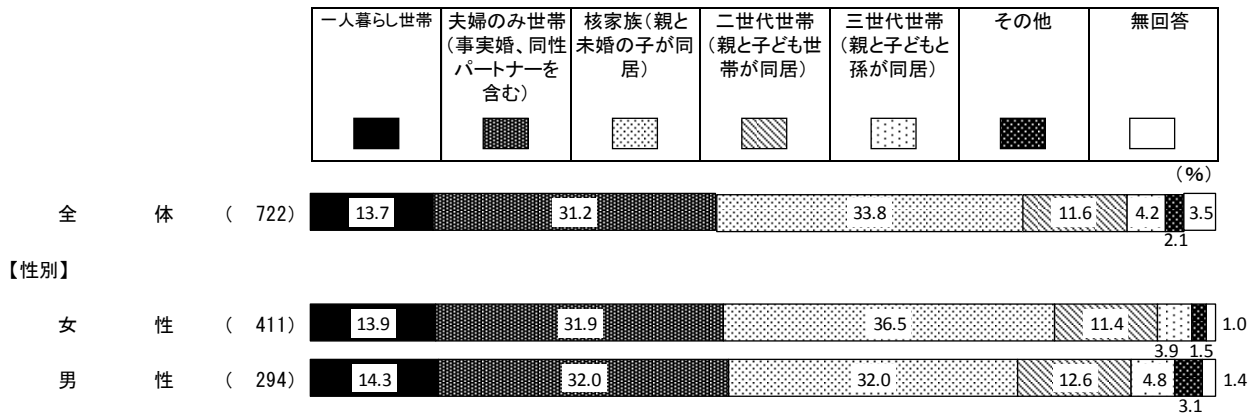


(6) 家族構成

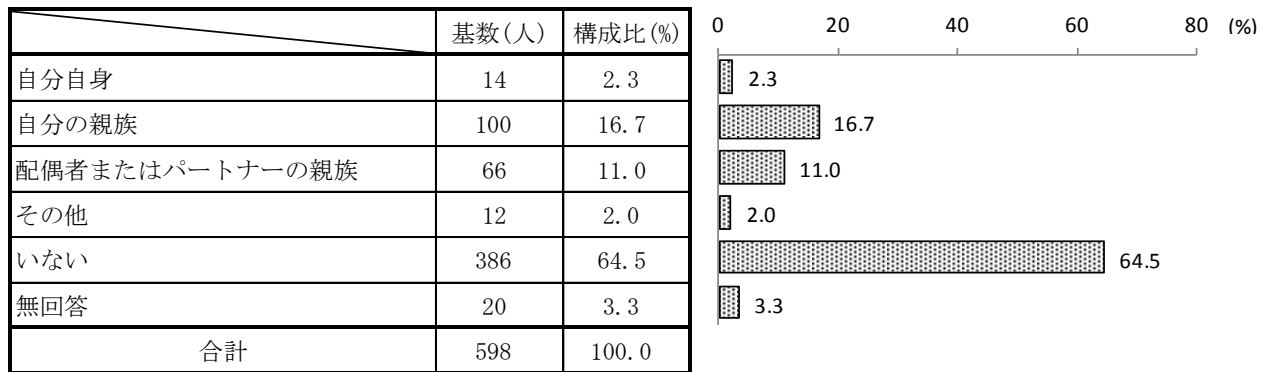
	基数(人)	構成比(%)
一人暮らし世帯	99	13.7
夫婦のみ世帯 (事実婚、同性パートナーを含む)	225	31.2
核家族 (親と未婚の子が同居)	244	33.8
二世帯世帯 (親と子ども世帯が同居)	84	11.6
三世帯世帯 (親と子どもと孫が同居)	30	4.2
その他	15	2.1
無回答	25	3.5
合計	722	100.0



(6-1) 家族構成×性別

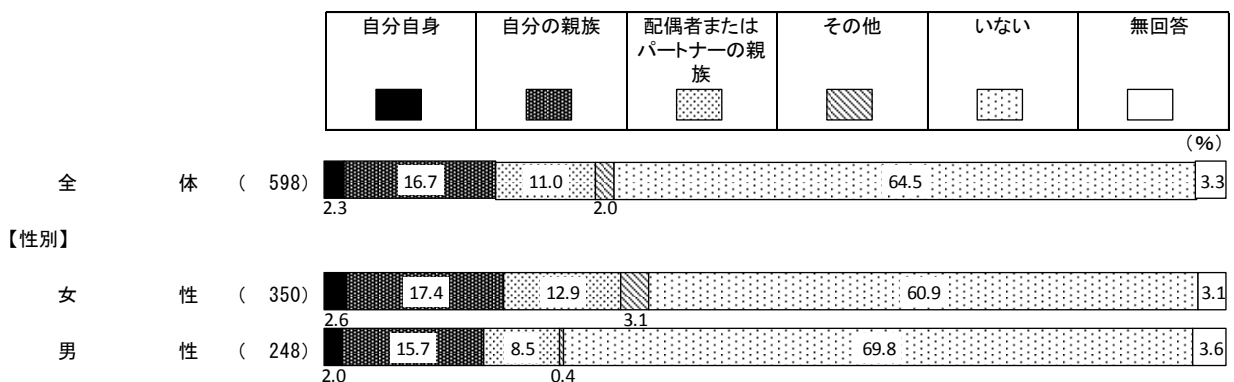


(7) 要援護者※の有無



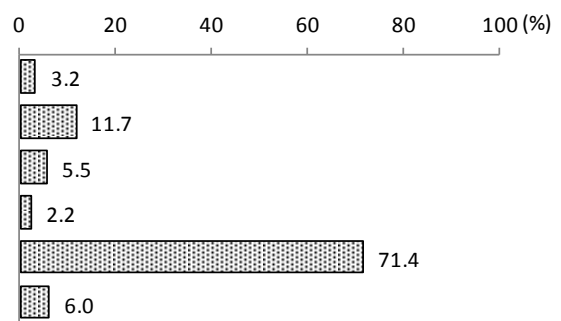
※家族の中で、高齢者や病人など身の回りの世話や介護を必要としている方の有無

(7-1) 要援護者の有無×性別



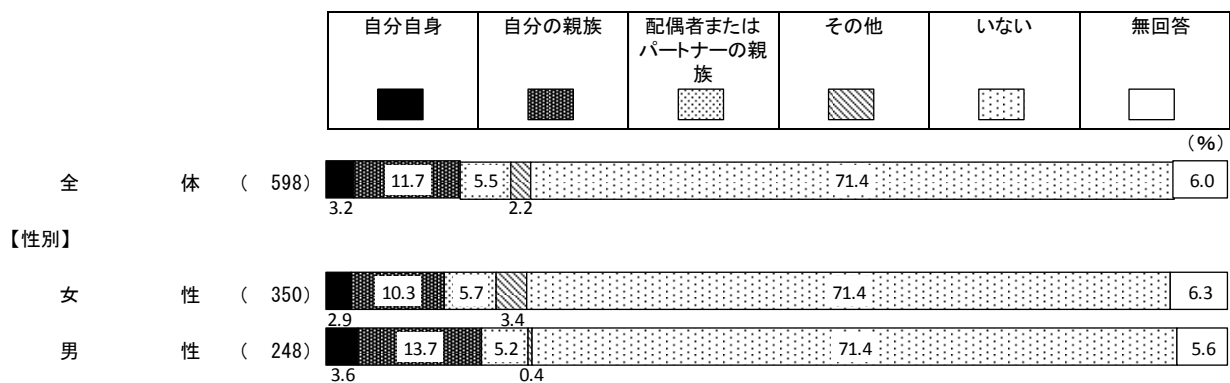
(8) しょうがいしゃ※の有無

	基数(人)	構成比(%)
自分自身	19	3.2
自分の親族	70	11.7
配偶者またはパートナーの親族	33	5.5
その他	13	2.2
いない	427	71.4
無回答	36	6.0
合計	598	100.0



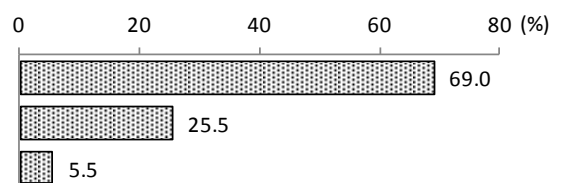
※家族の中で、しょうがいがある方の有無

(8-1) しょうがいしゃの有無×性別



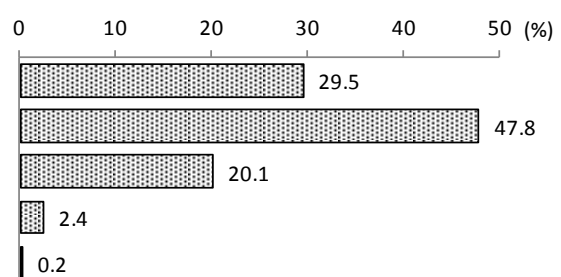
(9) 配偶者（事実婚のパートナーを含む）の有無

	基数(人)	構成比(%)
いる	498	69.0
いない	184	25.5
無回答	40	5.5
合計	722	100.0



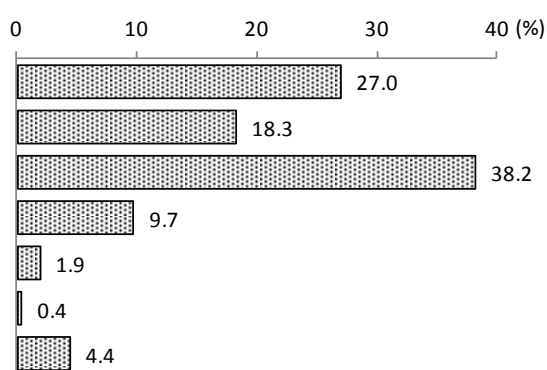
(9-1) 自分とパートナーの働き方

	基数(人)	構成比(%)
自分又はパートナーだけが働いている	147	29.5
共働きである	238	47.8
どちらも働いていない	100	20.1
その他	12	2.4
無回答	1	0.2
合計	498	100.0



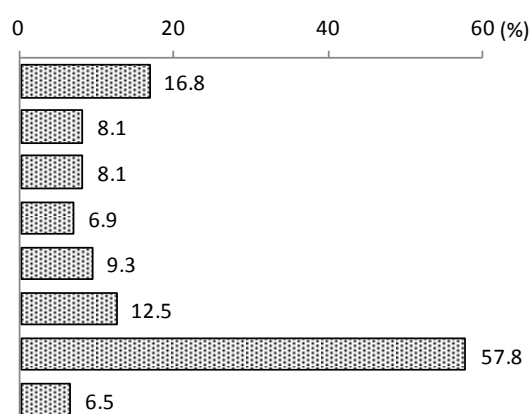
(10) 子どもの有無

	基数(人)	構成比(%)
子どもはいない	195	27.0
1人	132	18.3
2人	276	38.2
3人	70	9.7
4人	14	1.9
5人以上	3	0.4
無回答	32	4.4
合計	722	100.0



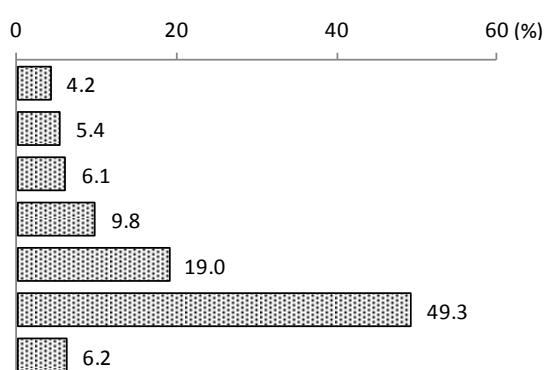
(10-1) 子どもの年齢

	基数(人)	構成比(%)
未就学児	83	16.8
小学1～3年生	40	8.1
小学4～6年生	40	8.1
中学生	34	6.9
高校生	46	9.3
大学生	62	12.5
社会人以上	286	57.8
無回答	32	6.5
合計	495	100.0

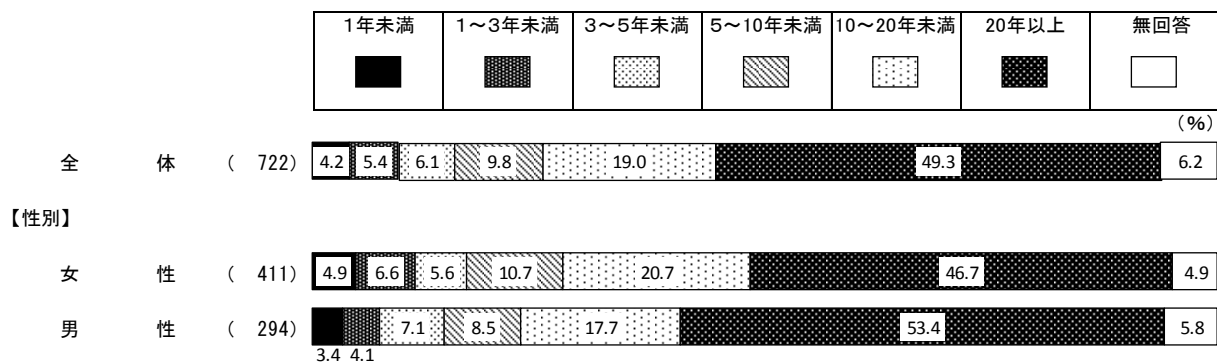


(11) 居住年数

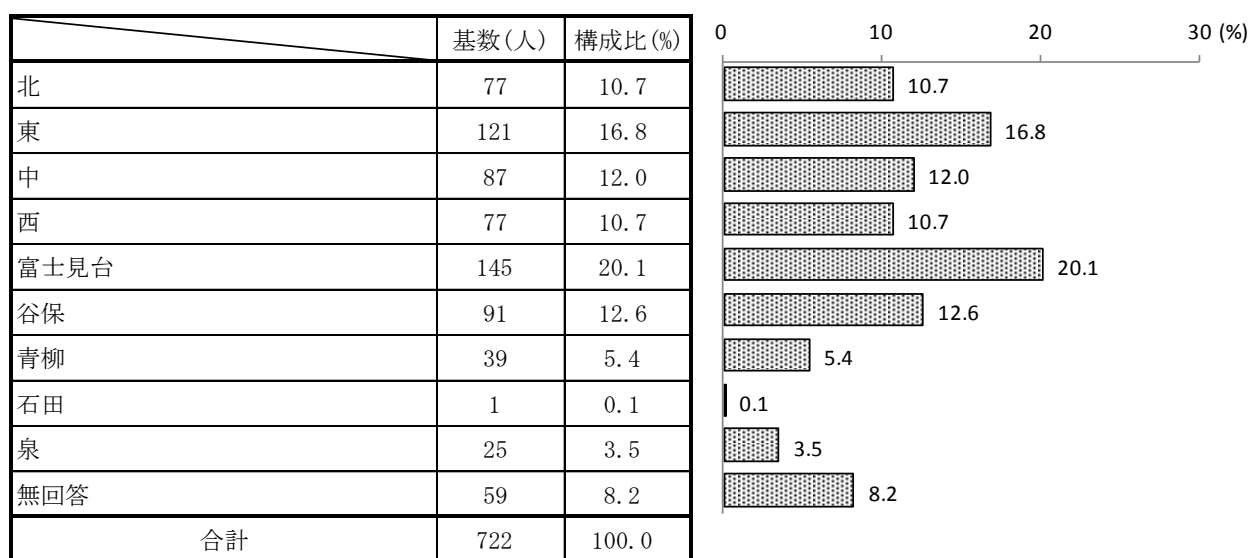
	基数(人)	構成比(%)
1年未満	30	4.2
1～3年未満	39	5.4
3～5年未満	44	6.1
5～10年未満	71	9.8
10～20年未満	137	19.0
20年以上	356	49.3
無回答	45	6.2
合計	722	100.0



(11-1) 居住年数×性別



(12) 居住地域



Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

1. 女性と男性の平等について

(1) 女性と男性の地位の平等感

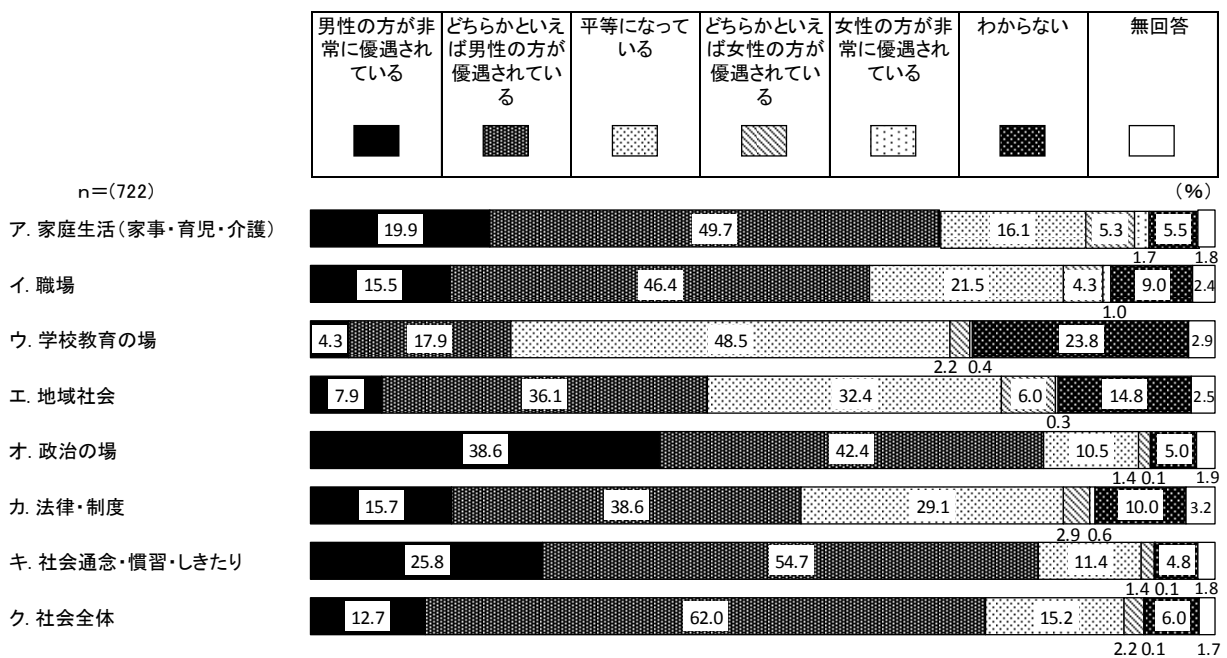
◇「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、“政治の場”や“社会通念・慣習・しきたり”で約8割

◇「平等になっている」は、“学校教育の場”で約5割

◇「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』は、どの分野においても1割以下

問1 あなたは現在、つぎのような分野で女性と男性の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、1～6のうちあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

図1-1

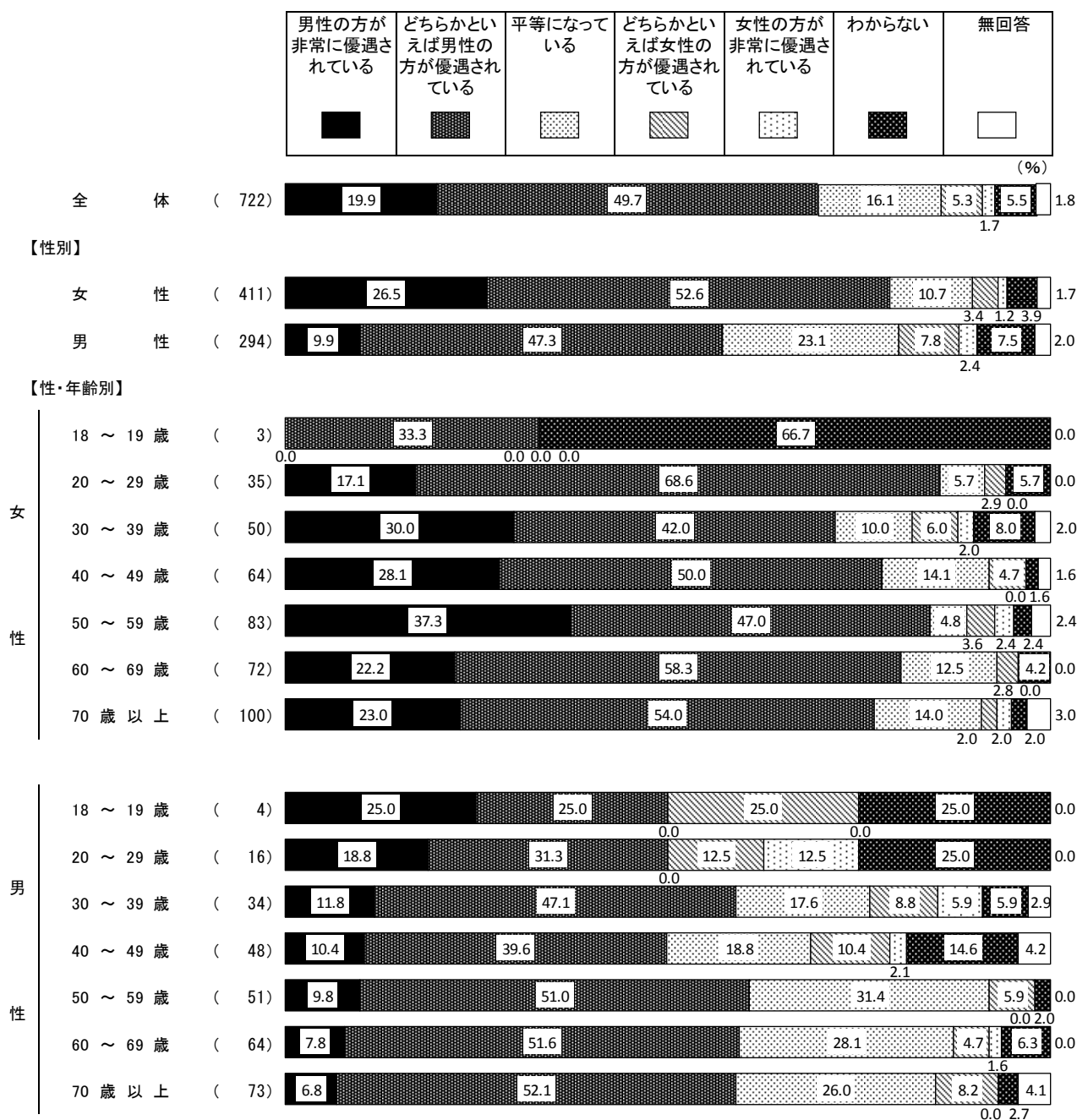


女性と男性の地位の平等感について聞いたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、“政治の場”（81.0%）と“社会通念・慣習・しきたり”（80.5%）で約8割と高く、次いで、“社会全体”（74.7%）、“家庭生活（家事・育児・介護）”（69.6%）の順となっている。また、「平等になっている」は、“学校教育の場”（48.5%）で約5割と最も高く、次いで、“地域社会”（32.4%）、“法律・制度”（29.1%）の順となっている。一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』は、“家庭生活（家事・育児・介護）”（7.0%）が最も高いが、どの分野においても1割を超えているものはない。（図1-1）

家庭生活（家事・育児・介護）

《家庭生活（家事・育児・介護）》を性別／性・年齢別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、女性（79.1%）が男性（57.2%）より 21.9 ポイント高く、女性と男性で意識に差が見られる。特に『男性優遇』は女性 20～29 歳（85.7%）8 割台半ばと最も高くなっており、次いで、女性 50～59 歳で（84.3%）、女性 60～69 歳（80.5%）と 8 割を超えて続いている。また、40～49 歳で『男性優遇』は、女性（78.1%）が、男性（50.0%）より 28.1 ポイント高く、女性と男性で意識の差がみられる。（図 1－2）

図 1－2 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別）－ア. 家庭生活（家事・育児・介護）



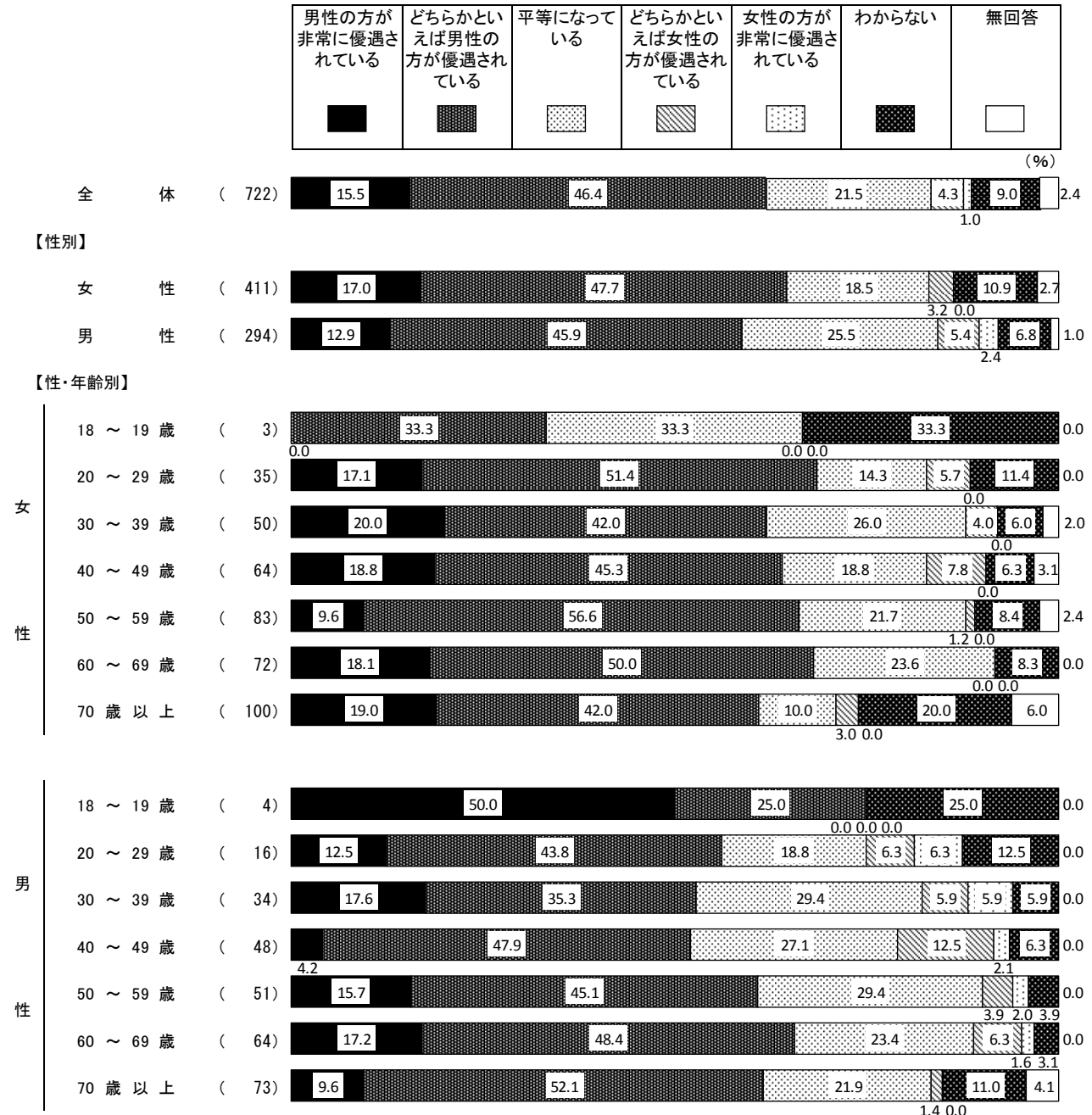
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

職場

《職場》を性別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、女性（64.7%）が男性（58.8%）より5.9ポイント上回っている。

性別・年齢別では女性の20歳以上の各年代で6割を超えて『男性優遇』と感じている。男性においても『男性優遇』と感じている割合は各年代で過半数を超えている。（図1-3）

図1-3 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別）-イ. 職場



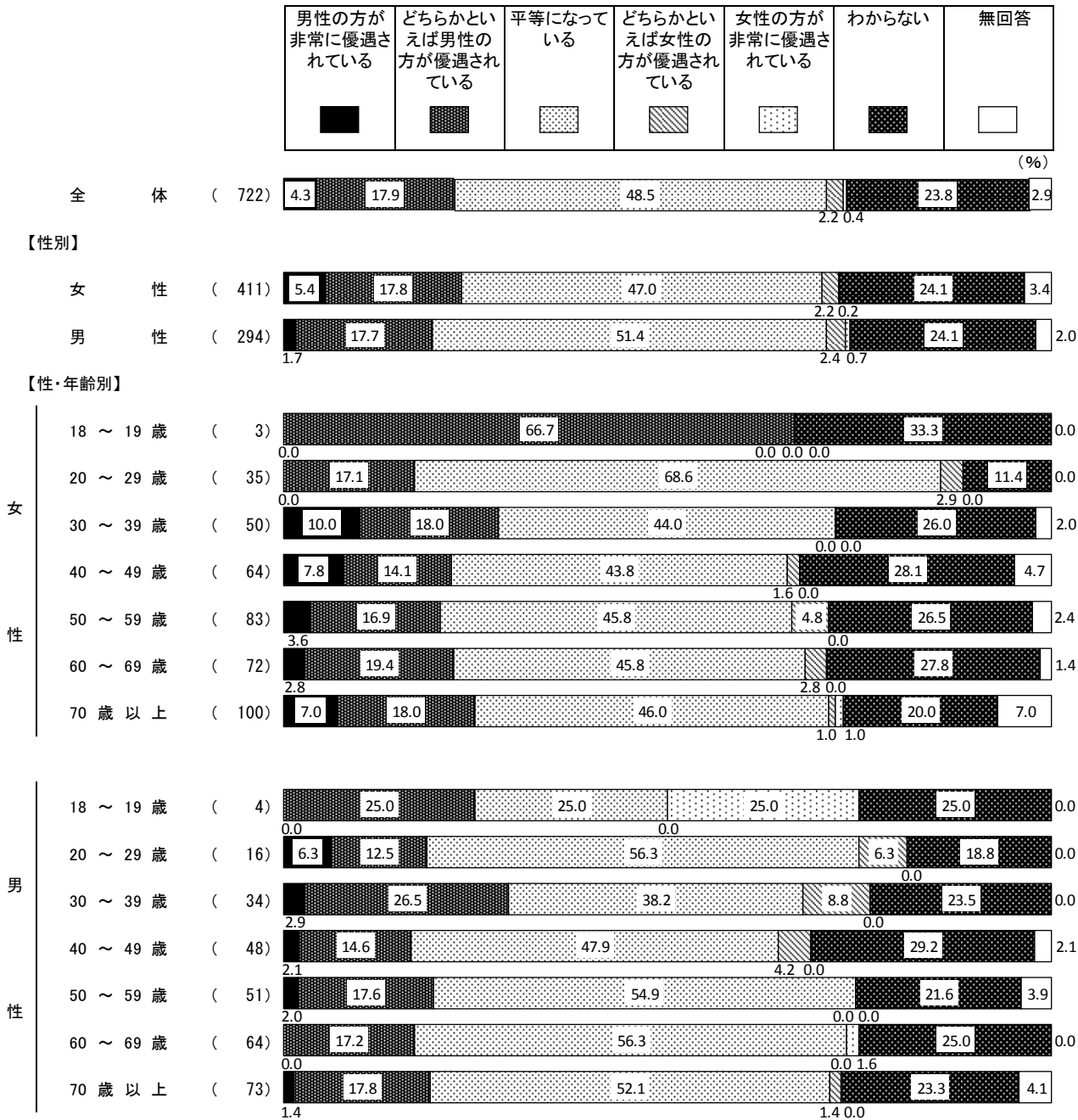
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

学校教育の場

《学校教育の場》では性別で見ると、「平等になっている」は女性（47.0%）で4割台半ばを超え、男性（51.4%）で約5割となっている。

性別・年齢別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は女性30～39歳で28.0%、男性30～39歳で29.4%となっており、他の年代に比べて高くなっている。また、「平等になっている」は女性20～29歳（68.6%）と約7割となっており、他の年代に比べて高くなっている。（図1-4）

図1-4 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別）－ウ. 学校教育の場



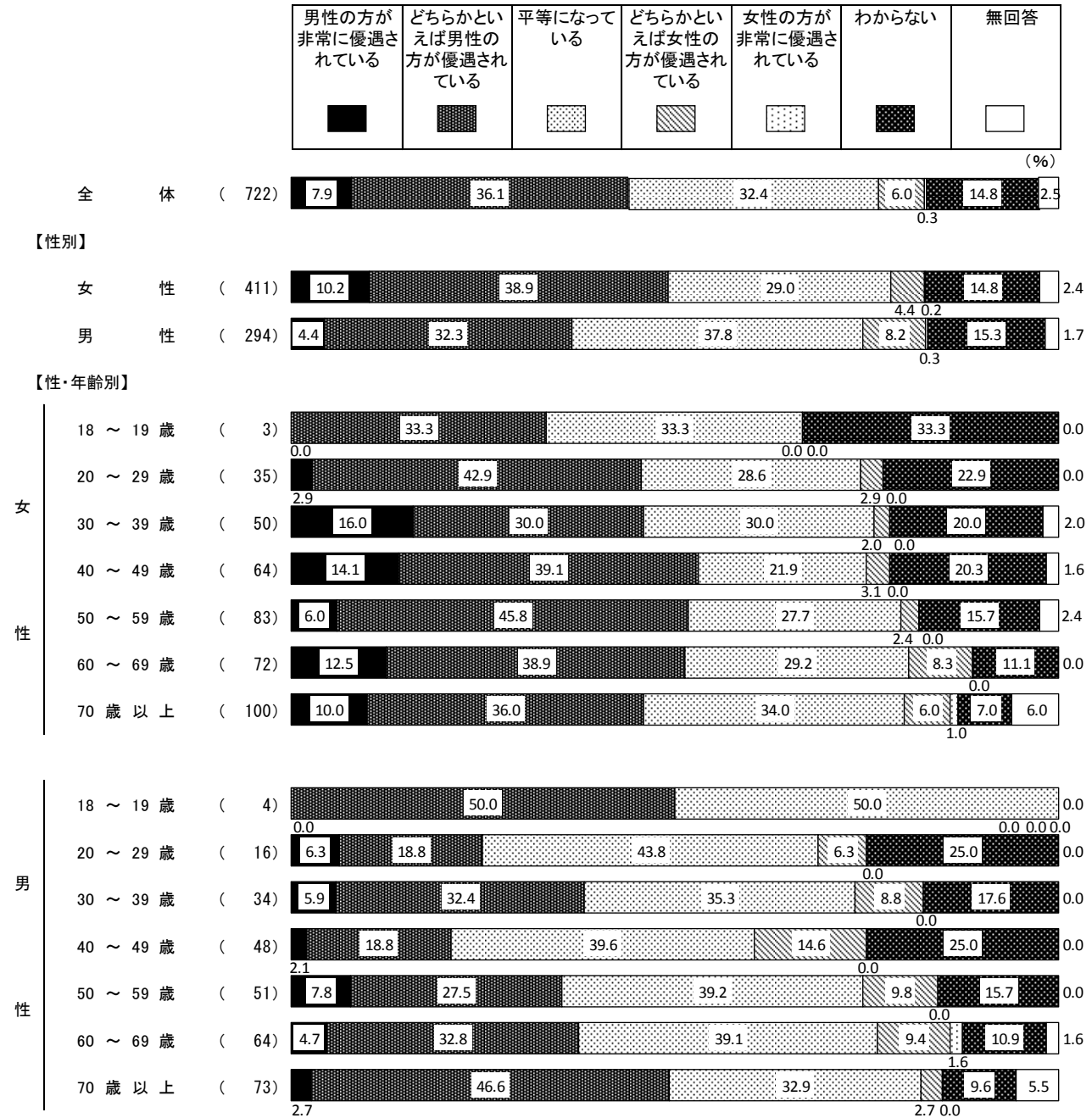
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

地域社会

《地域社会》では性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、女性（49.1%）が男性（36.7%）より 12.4 ポイント高くなっており、女性と男性で意識に差が見られる。

性別・年齢別では女性の 40 歳以上の各年代において『男性優遇』と半数を超えて感じている。また、男性の「平等になっている」はいずれの年代も 3 割を超えて感じている。（図 1 - 5）

図 1 - 5 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別） - I. 地域社会



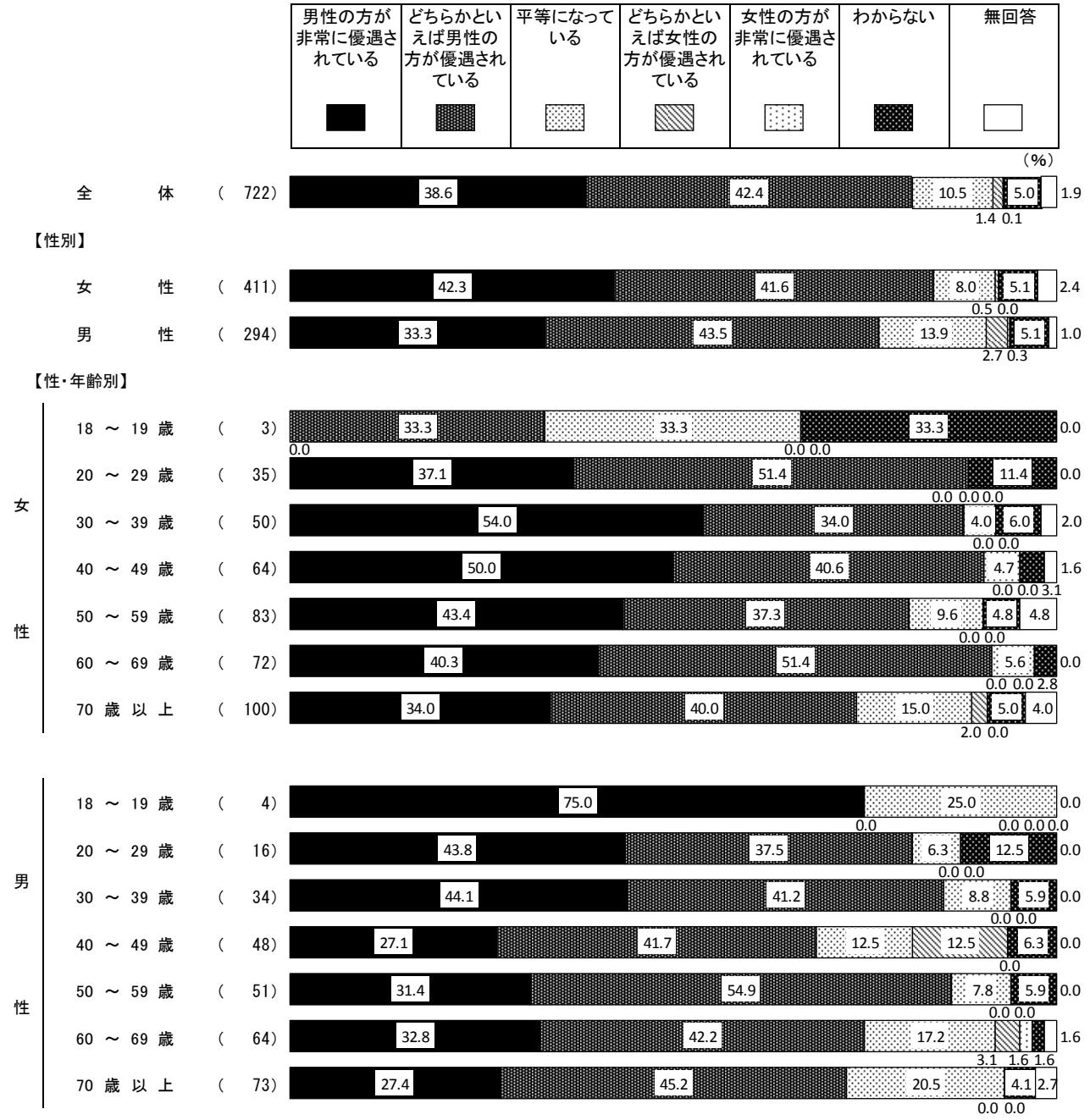
※女性・男性ともに「18~19歳」、男性「20~29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

政治の場

《政治の場》では性別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』と感じている割合が女性と男性、ともに高く、女性で83.9%、男性で76.8%となっている。

性別・年齢別で見ると女性60～69歳（91.7%）、40～49歳（90.6%）と9割を超え、一番低いもので男性40～49歳（68.8%）で7割弱となっており、全体的に女性と男性ともに『男性優遇』と感じている割合が高くなっている。（図1-6）

図1-6 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別）—オ. 政治の場

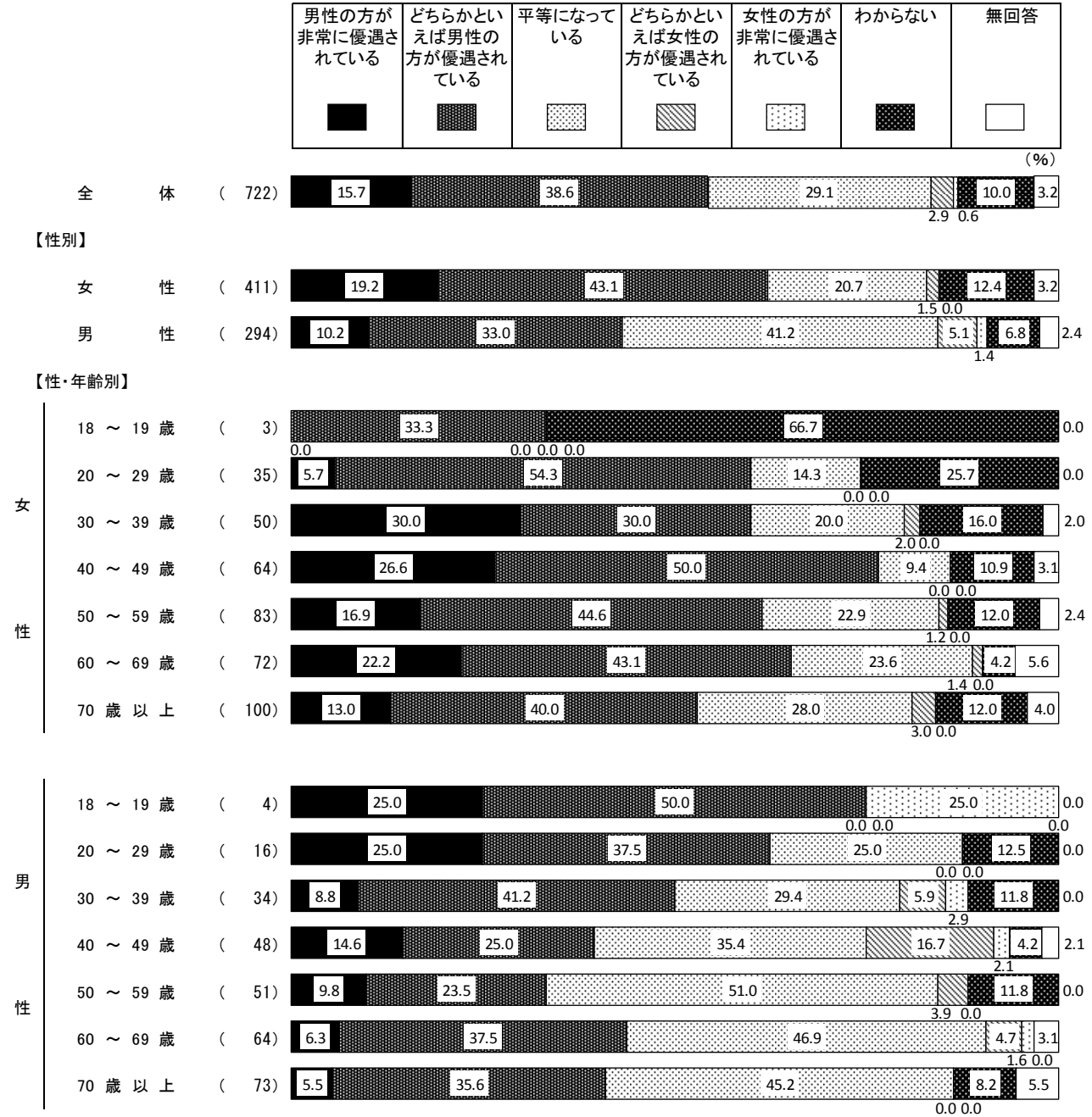


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

法律・制度

《法律・制度》では性別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、女性（62.3%）が男性（43.2%）より19.1ポイント高くなっている一方、「平等になっている」は男性（41.2%）が女性（20.7%）より20.5ポイント高くなっており、女性と男性で意識に差が見られる。特に『男性優遇』は女性40～49歳（76.6%）で8割弱と高くなっている。また「平等になっている」は男性50～59歳で（51.0%）と半数を超え、他の年代に比べて高くなっている。（図1-7）

図1-7 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別）－カ. 法律や制度の上



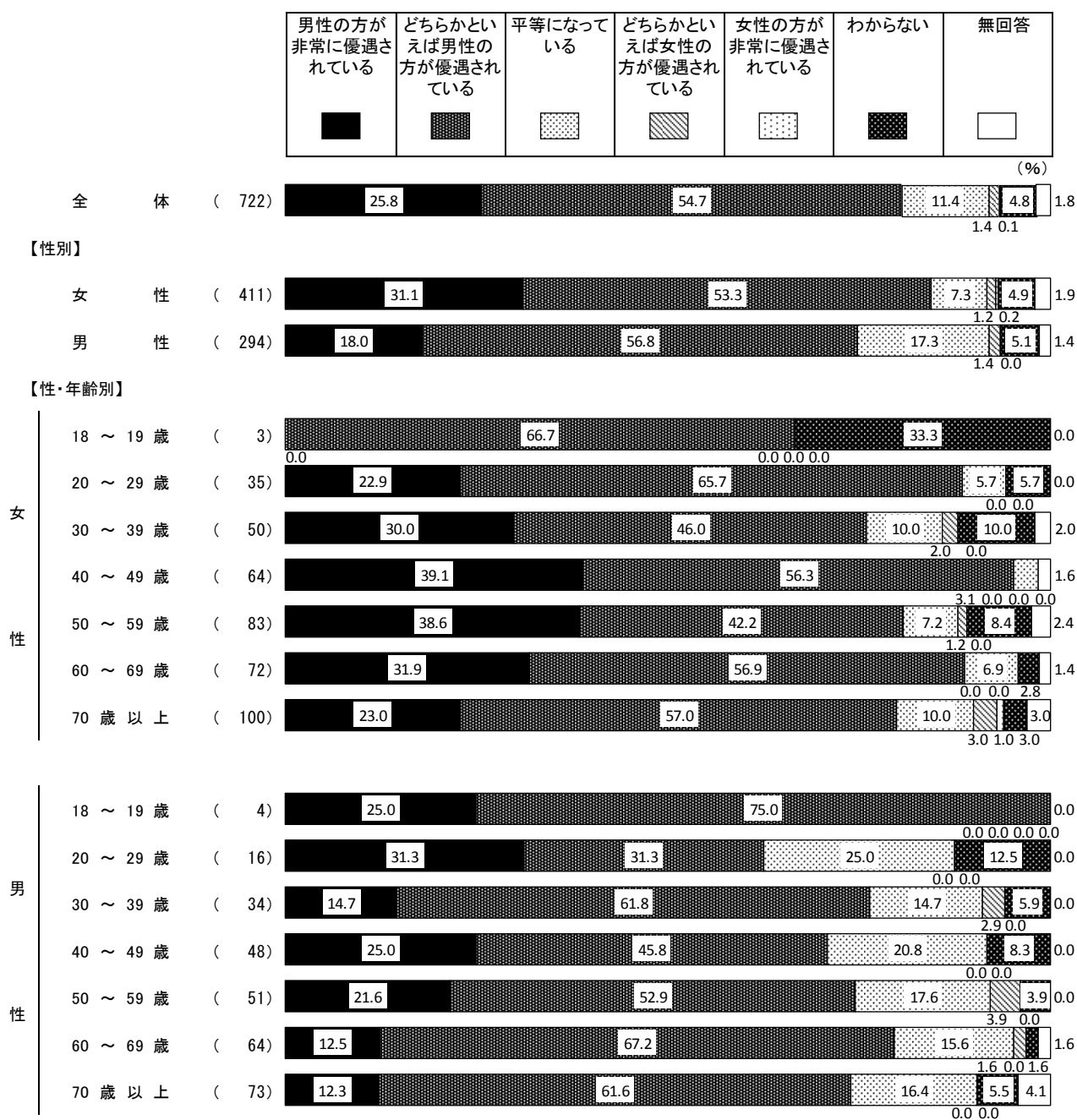
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

社会通念・慣習・しきたり

《社会通念・慣習・しきたり》では性別でみると、女性と男性ともに「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』と感じている割合が高く、女性で84.4%、男性では74.8%となっている。

性別・年齢別では『男性優遇』が女性40～49歳（95.4%）で9割台半ばと最も高くなっており、女性60～69歳（88.8%）、女性20～29歳（88.6%）で9割弱、女性50～59歳（80.8%）、70歳以上（80.0%）で約8割と続き、男性においても30歳以上の年代で『男性優遇』が7割を超え、全体的に女性と男性ともに『男性優遇』と感じる割合が高くなっている。（図1-8）

図1-8 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別）—キ. 社会通念・慣習・しきたりなど

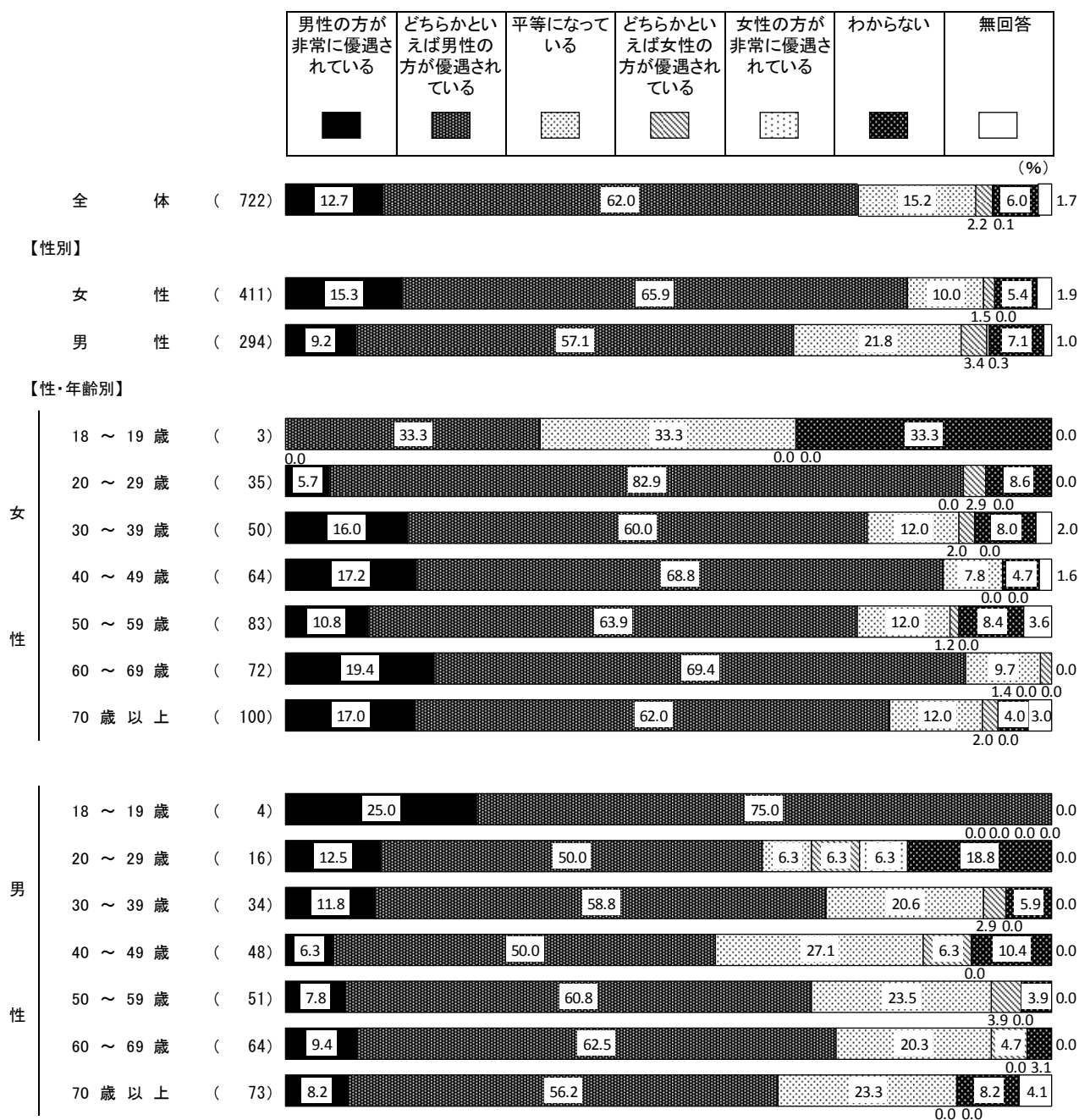


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

社会全体

《社会全体》では性別で見ると、『男性優遇』は、女性（81.2%）が男性（66.3%）より14.9ポイント高くなっている一方、「平等になっている」は男性（21.8%）が女性（10.0%）より11.8ポイント高くなっており、女性と男性で意識に差が見られる。特に、『男性優遇』は女性60～69歳（88.8%）、女性20～29歳（88.6%）、女性40～49歳（86.0%）で8割を超えて続けている。また、『男性優遇』は男性60～69歳（71.9%）、男性30～39歳（70.6%）と7割と高くなっている。（図1-9）

図1-9 女性と男性の地位の平等感（性別・年齢別）ーク.全体として



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

時系列比較でみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、全ての項目で増加しており、特に“家庭生活（家事・育児・介護）”では23.0ポイント、“法律・制度”では10.3ポイント、平成27年調査より増加している。「平等になっている」では5項目で平成27年調査より減少しており、“家庭生活（家事・育児・介護）”では今回調査（16.1%）が平成27年（35.5%）より19.4ポイント、“社会全体”では今回調査（15.2%）が平成27年（21.6%）より6.4ポイント、それぞれ減少している。（図1-10）

図1-10 女性と男性の地位の平等感（時系列比較）

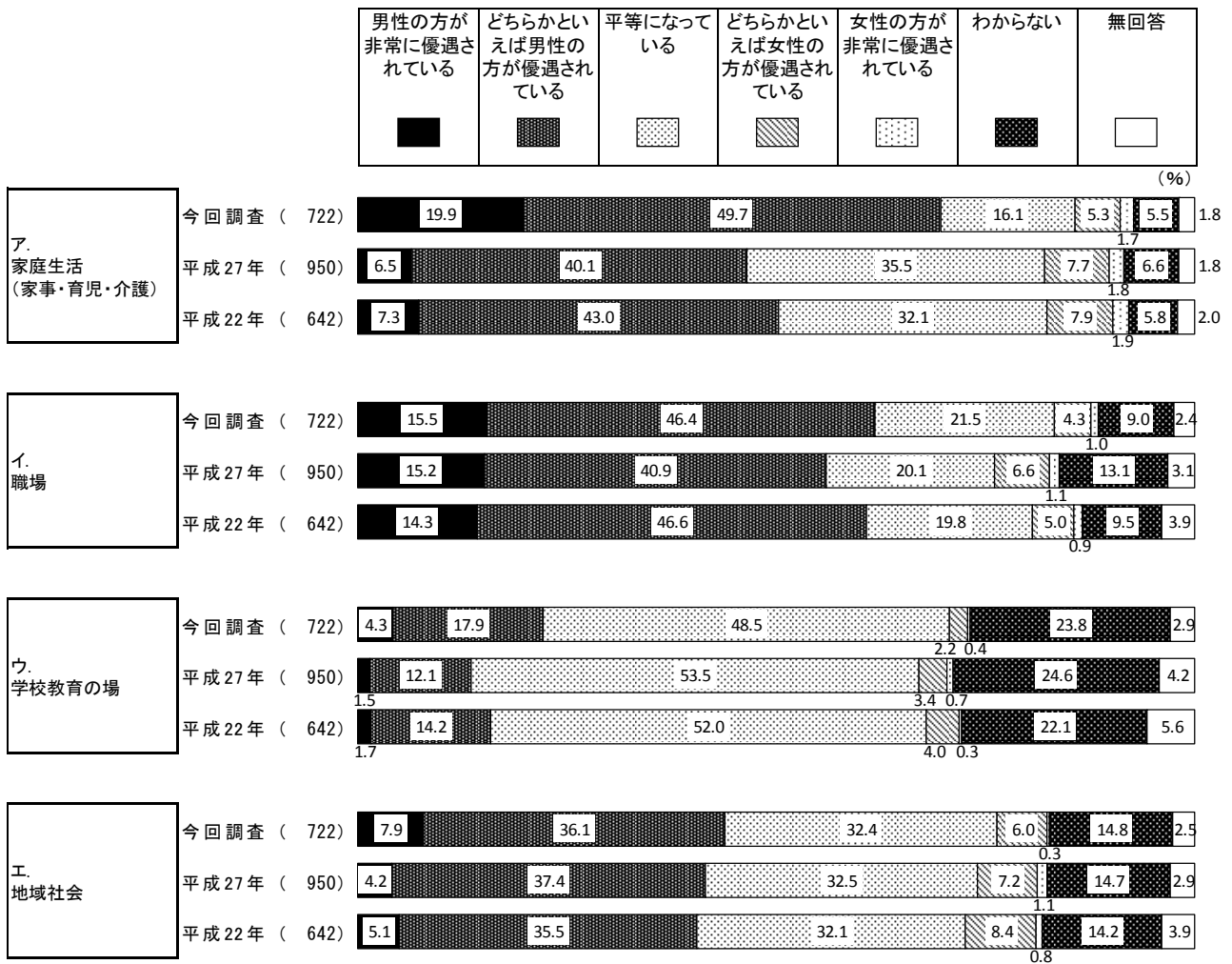
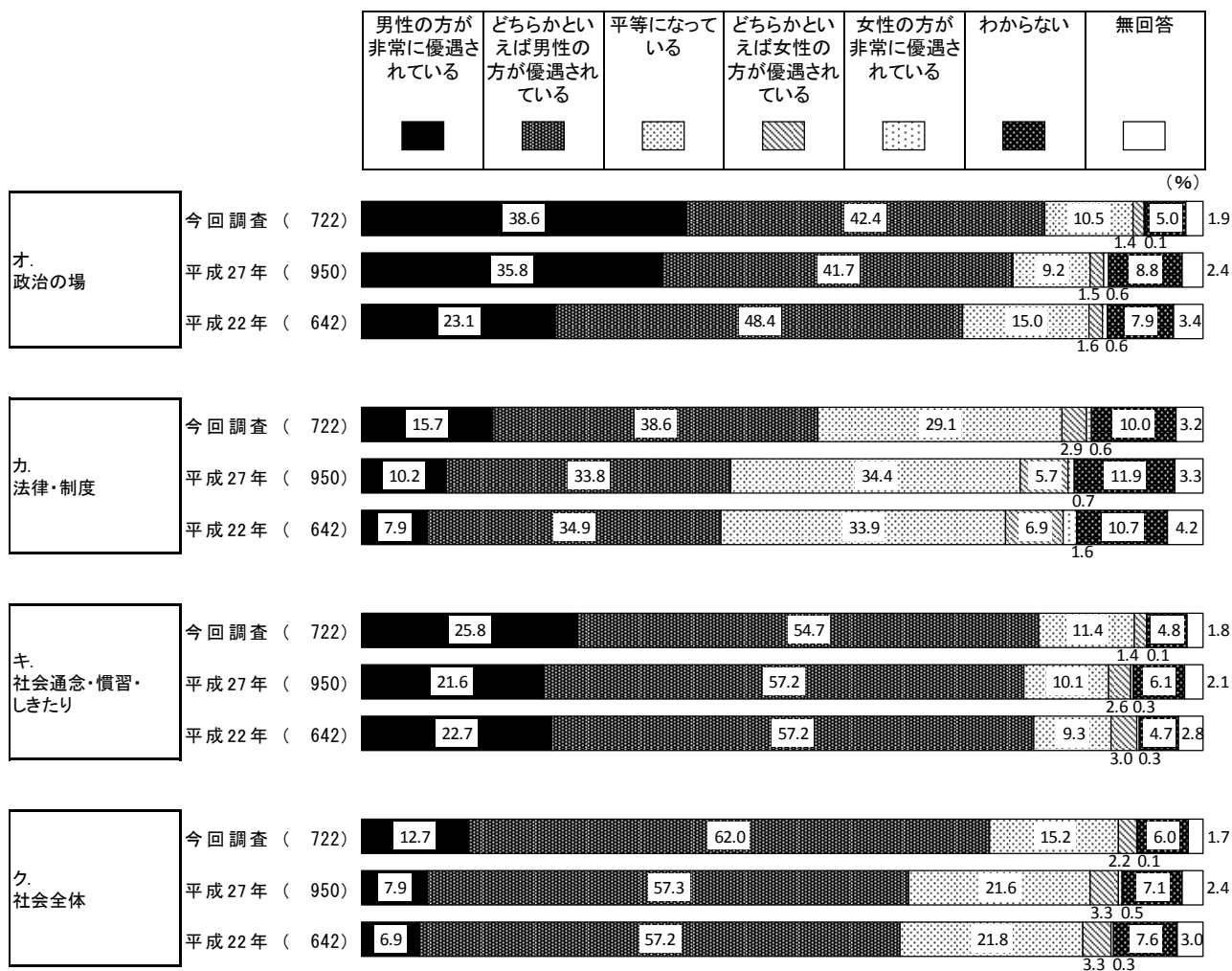
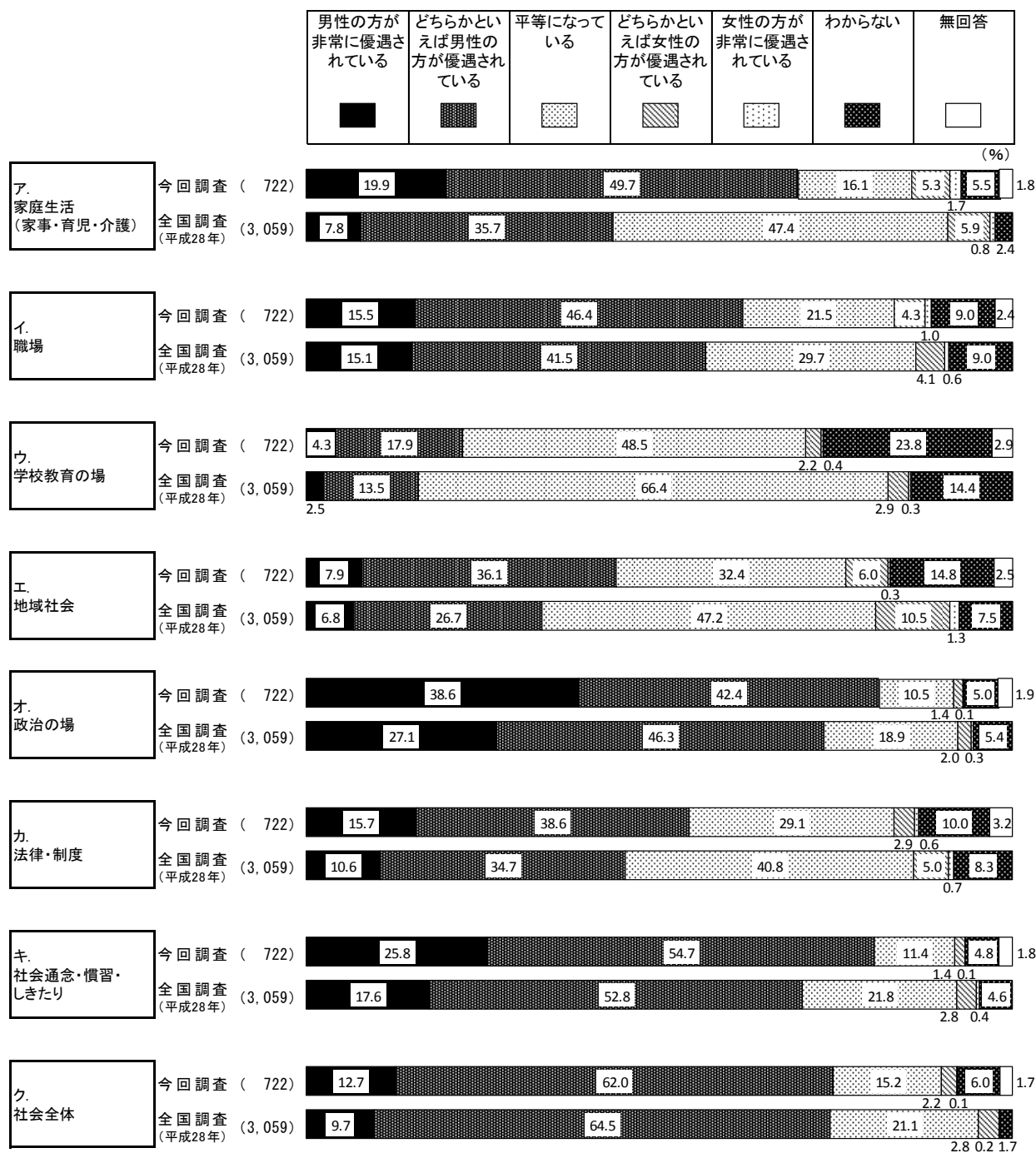


図 1-10 女性と男性の地位の平等感（時系列比較）（つづき）



全国調査との比較で見ると、「平等になっている」は全ての項目で全国調査を下回っており、“家庭生活（家事・育児・介護）”では31.3ポイント、“学校教育の場”では17.9ポイント、“地域社会”では14.8ポイント、それぞれ下回っている。また、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、全ての項目で全国調査を上回っており、“家庭生活（家事・育児・介護）”では26.1ポイント、“地域社会”では10.5ポイント、“社会通念・慣習・しきたり”では10.1ポイント、それぞれ上回っている。（図1-11）

図1-11 女性と男性の地位の平等感（全国調査との比較）



※全国調査は、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成28年

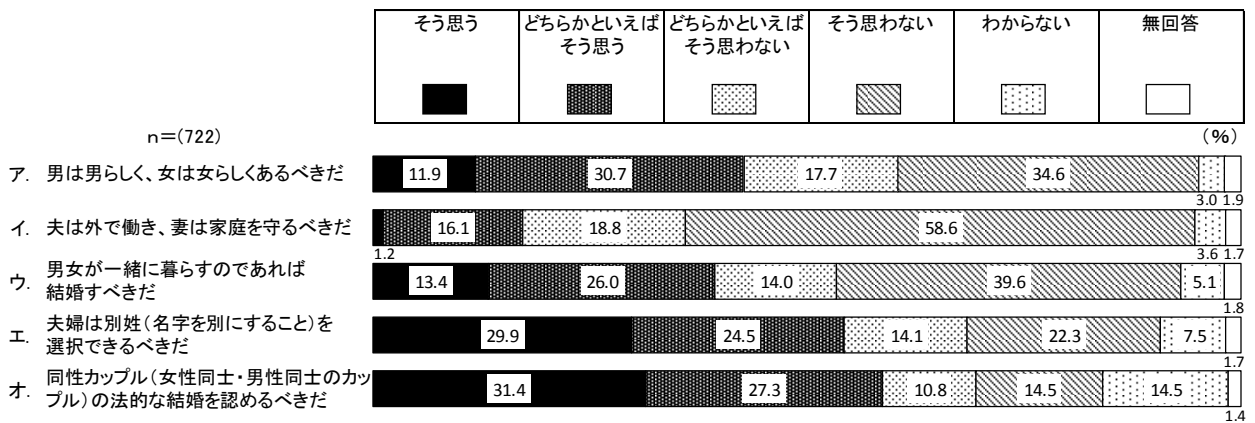
(2) 女性と男性についての考え方

◇ “夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ” は「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『否定的』の考えが7割台半ばを超える

◇ “同性カップル（女性同士・男性同士のカップル）の法的な結婚を認めるべきだ” は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定的』の考えが約6割

問2 次のことについて、1～5のうち、あなたの考えにもっとも近いものの番号に1つずつ○をつけてください。

図1-12



“男は男らしく、女は女らしくあるべきだ”、“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ”、“男女が一緒に暮らすのであれば結婚すべきだ”という考え方について聞いたところ、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『否定的』の考えが半数を超えている。特に“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ”の『否定的』の考えは77.4%で約8割と割合が高くなっている。

“夫婦は別姓(名字を別にすること)を選択できるべきだ”と“同性カップル(女性同士・男性同士のカップル)の法的な結婚を認めるべきだ”という考え方について聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定的』の考えが半数を超えている。特に“同性カップル(女性同士・男性同士のカップル)の法的な結婚を認めるべきだ”の『肯定的』の考えは58.7%で約6割と割合が高くなっている。(図1-12)

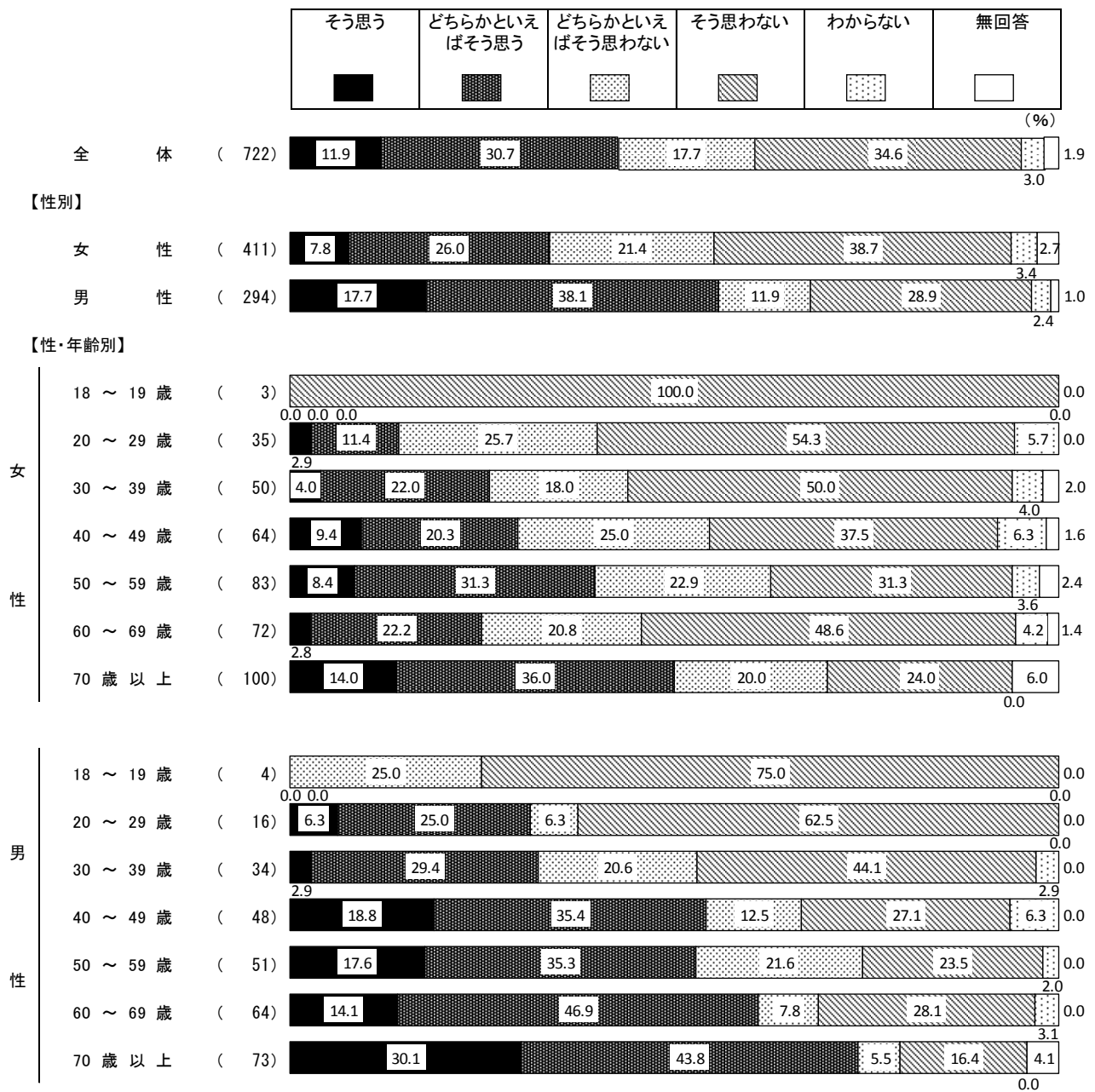
男は男らしく、女は女らしくあるべきだ

《男は男らしく、女は女らしくあるべきだ》では性別で見ると、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『否定的』の考えは女性（60.7%）が男性（40.8%）より19.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「そう思う」は男性70歳以上（30.1%）で約3割と他の年代に比べ高くなっている。一方、「そう思わない」は女性20～29歳（54.3%）、女性30～39歳（50.0%）で半数を超え、他の年代に比べ高くなっている。（図1-13）

図1-13 女性と男性についての考え方（性別・年齢別）

ーア. 男は男らしく、女は女らしくあるべきだ



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

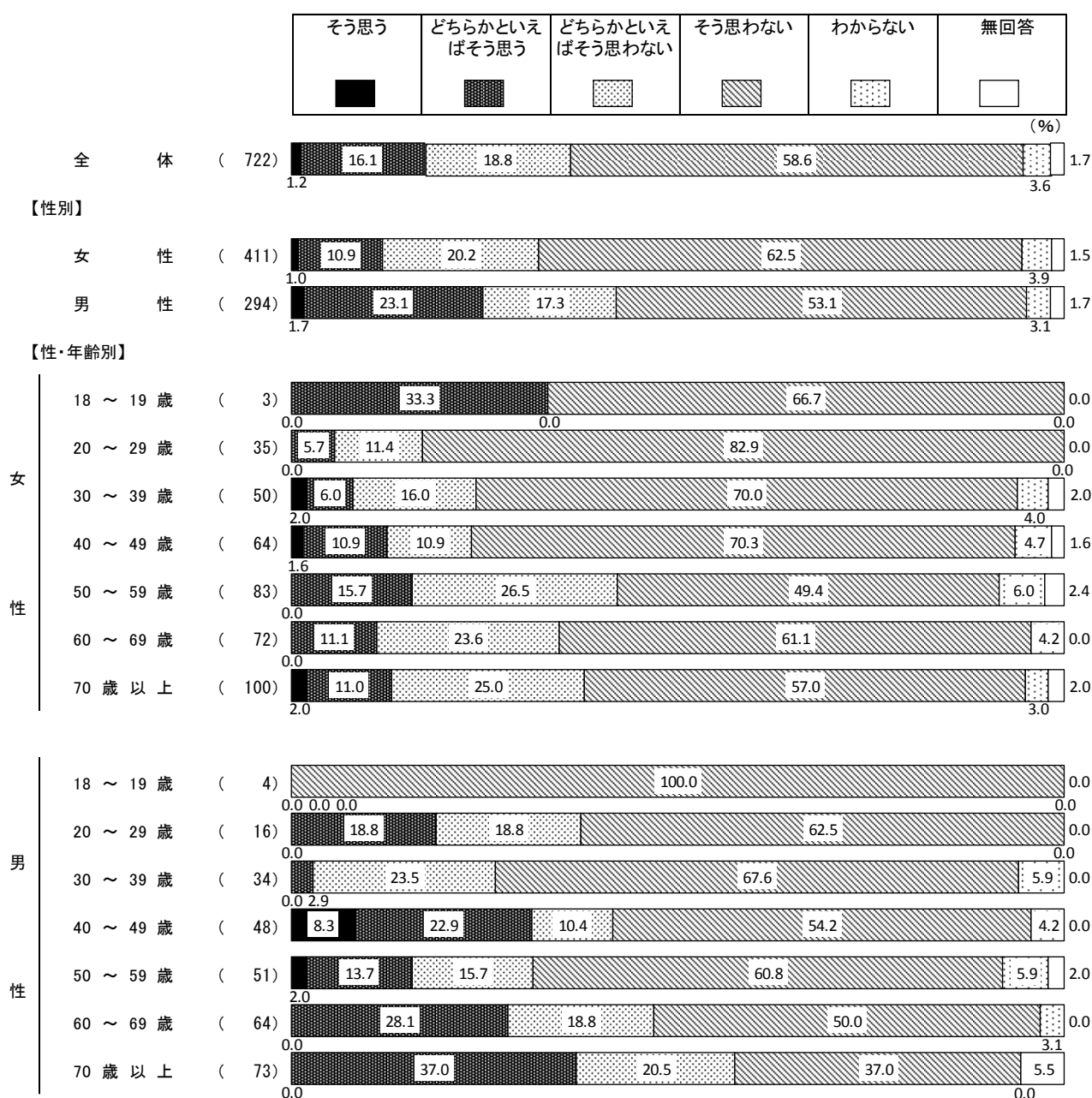
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

《夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ》では性別で見ると、「そう思わない」は女性（62.5%）、男性（53.1%）と女性と男性ともに半数を超えているが、「どちらかといえば思う」は男性（23.1%）が女性（10.9%）より12.2ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「そう思わない」は女性では20～29歳（82.9%）で8割を超え、40～49歳（70.3%）、30～39歳（70.0%）で約7割と高い割合が続く。女性40～49歳では70.3%と男性40～49歳の54.2%より16.1ポイント高く、女性と男性で意識の差が見られる。（図1-14）

図1-14 女性と男性についての考え方（性別・年齢別）

ーイ. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

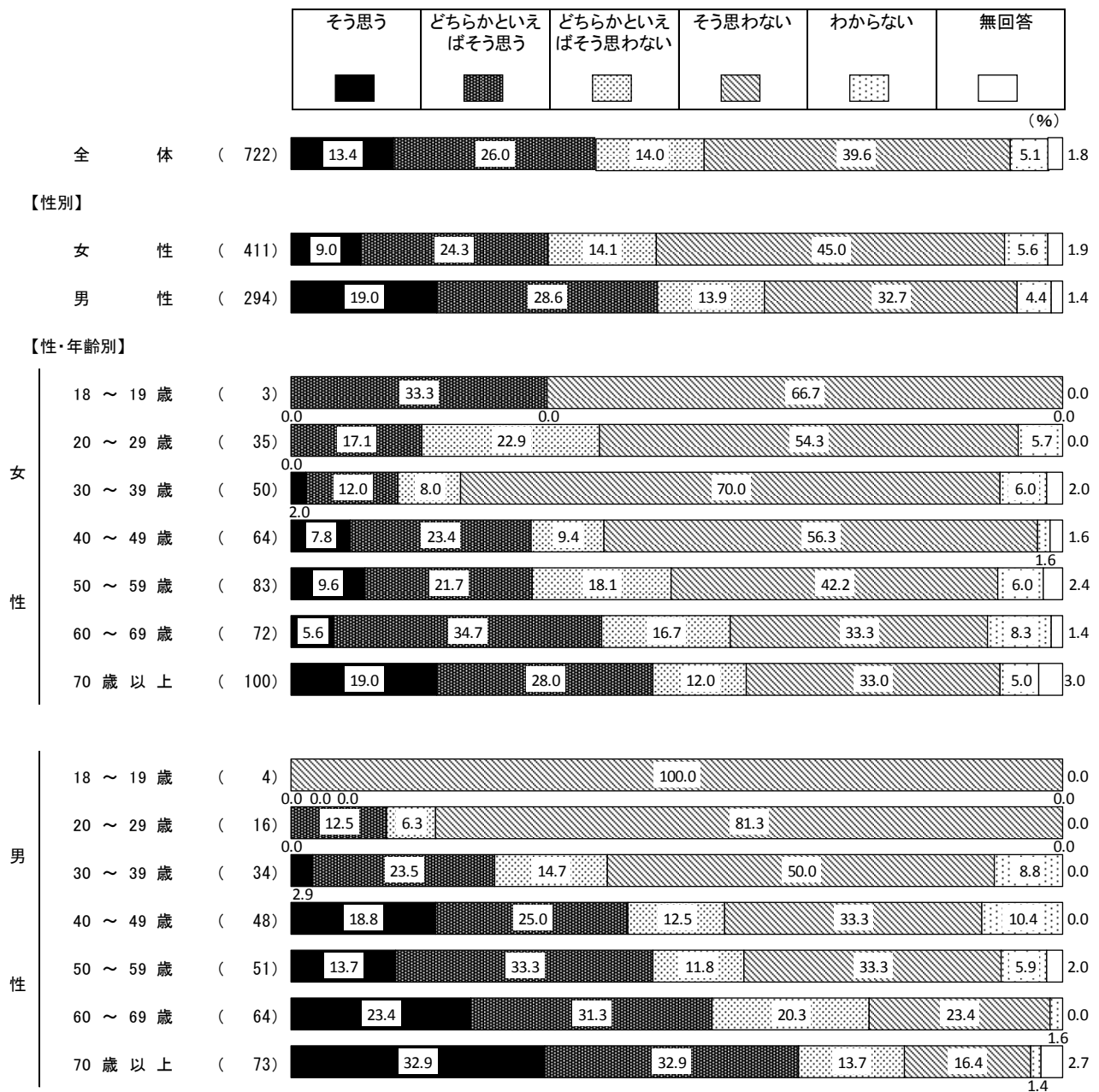
男女が一緒に暮らすのであれば結婚すべきだ

《男女が一緒に暮らすのであれば結婚すべきだ》では性別でみると、「そう思わない」は男女ともに最も高い割合を占めているが、女性（45.0%）、男性（32.7%）と女性の方が12.3ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「そう思わない」は女性30～39歳（70.0%）で7割と、最も高くなっている。一方で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定的』の考えは女性と男性ともに年代が高くなるのに比例して、割合も高くなっている。「そう思わない」では男性の年代が高くなるとともに割合が低くなっている。（図1-15）

図1-15 女性と男性についての考え方（性別・年齢別）

一ウ. 男女が一緒に暮らすのであれば結婚すべきだ



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

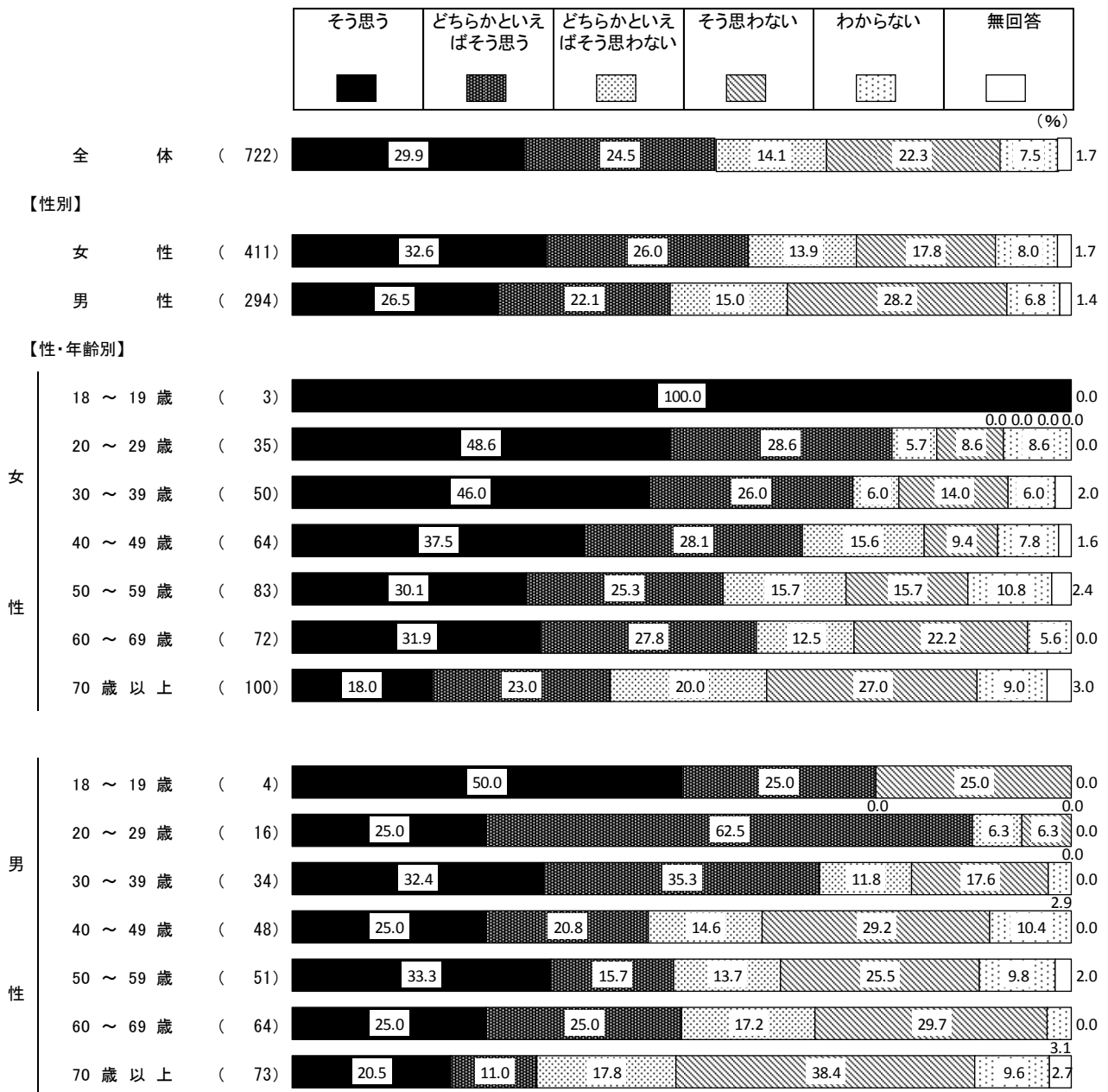
夫婦は別姓（名字を別にする）を選択できるべきだ

《夫婦は別姓（名字を別にする）を選択できるべきだ》では性別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定的』の考えは、女性（58.6%）が男性（48.6%）より10ポイント高く、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『否定的』の考えは、男性（43.2%）が女性（31.7%）より11.5ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「そう思う」では女性20～29歳（48.6%）、女性30～39歳（46.0%）と4割台半ばを超えており、他の年代より高くなっている。（図1-16）

図1-16 女性と男性についての考え方（性別・年齢別）

一エ. 夫婦は別姓（名字を別にする）を選択できるべきだ



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

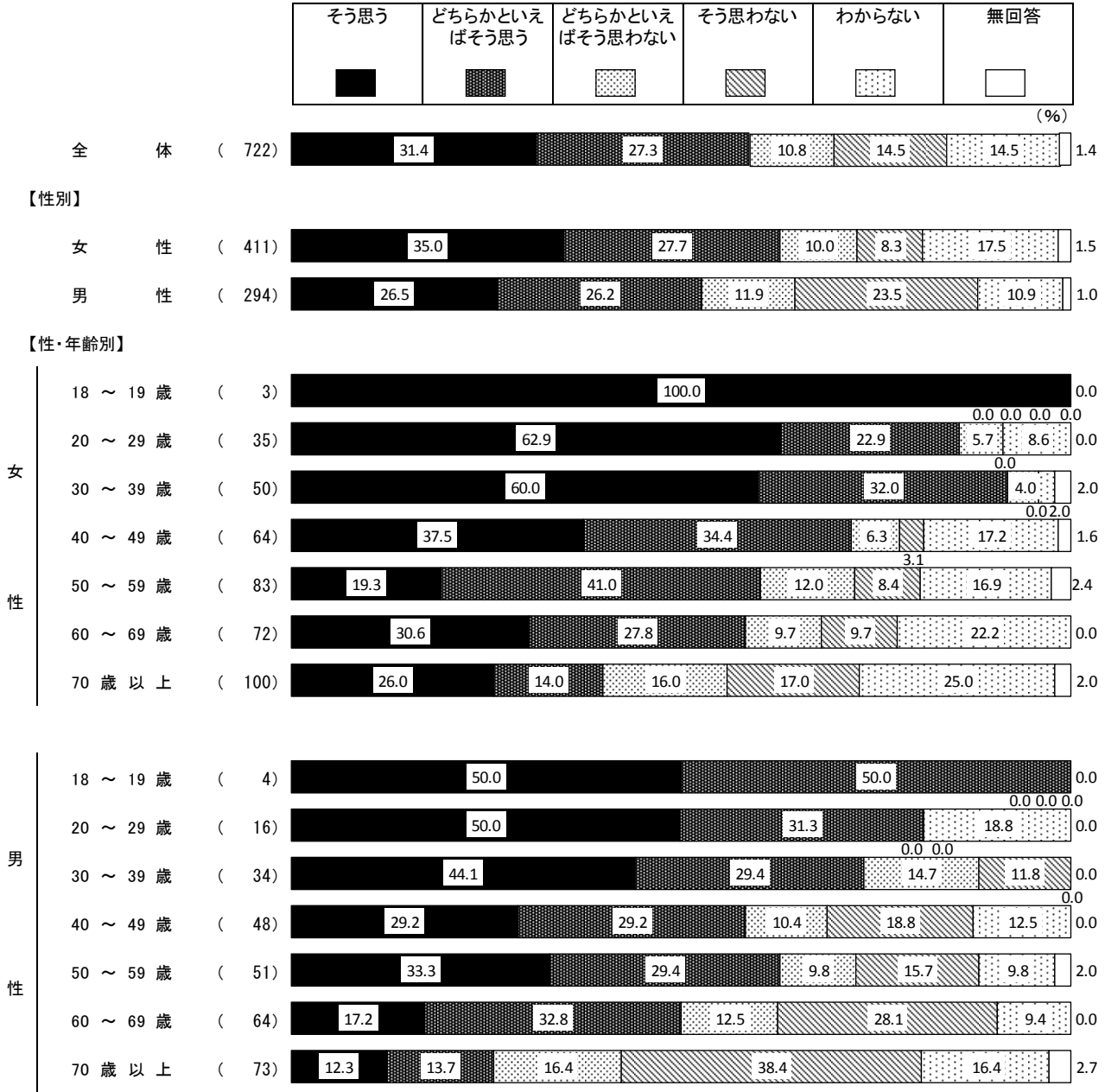
同性カップル（女性同士・男性同士のカップル）の法的な結婚を認めるべきだ

《同性カップル（女性同士・男性同士のカップル）の法的な結婚を認めるべきだ》では性別で見ると「そう思わない」では男性（23.5%）が女性（8.3%）より15.2ポイント高くなっており女性と男性で意識に差がみられる。

性別・年齢別で見ると、「そう思う」では女性20～29歳（62.9%）、女性30～39歳（60.0%）と6割を超え、他の年代より高くなっている。また「そう思わない」では男性70歳以上が38.4%で4割弱と、他の年代に比べ最も高い割合となっている。（図1-17）

図1-17 女性と男性についての考え方（性別・年齢別）

一オ. 同性カップル（女性同士・男性同士のカップル）の法的な結婚を認めるべきだ



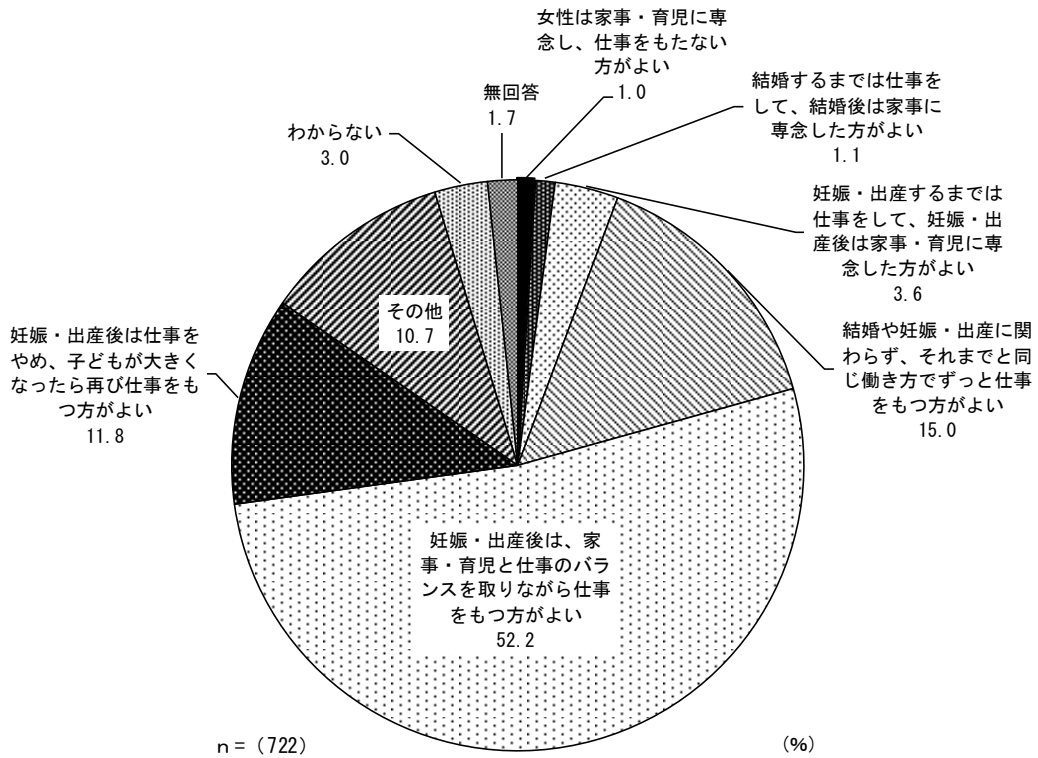
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(3) 女性が仕事をすることについての考え方

◇「妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい」が過半数

問3 女性が仕事をする事について、どのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

図1-18

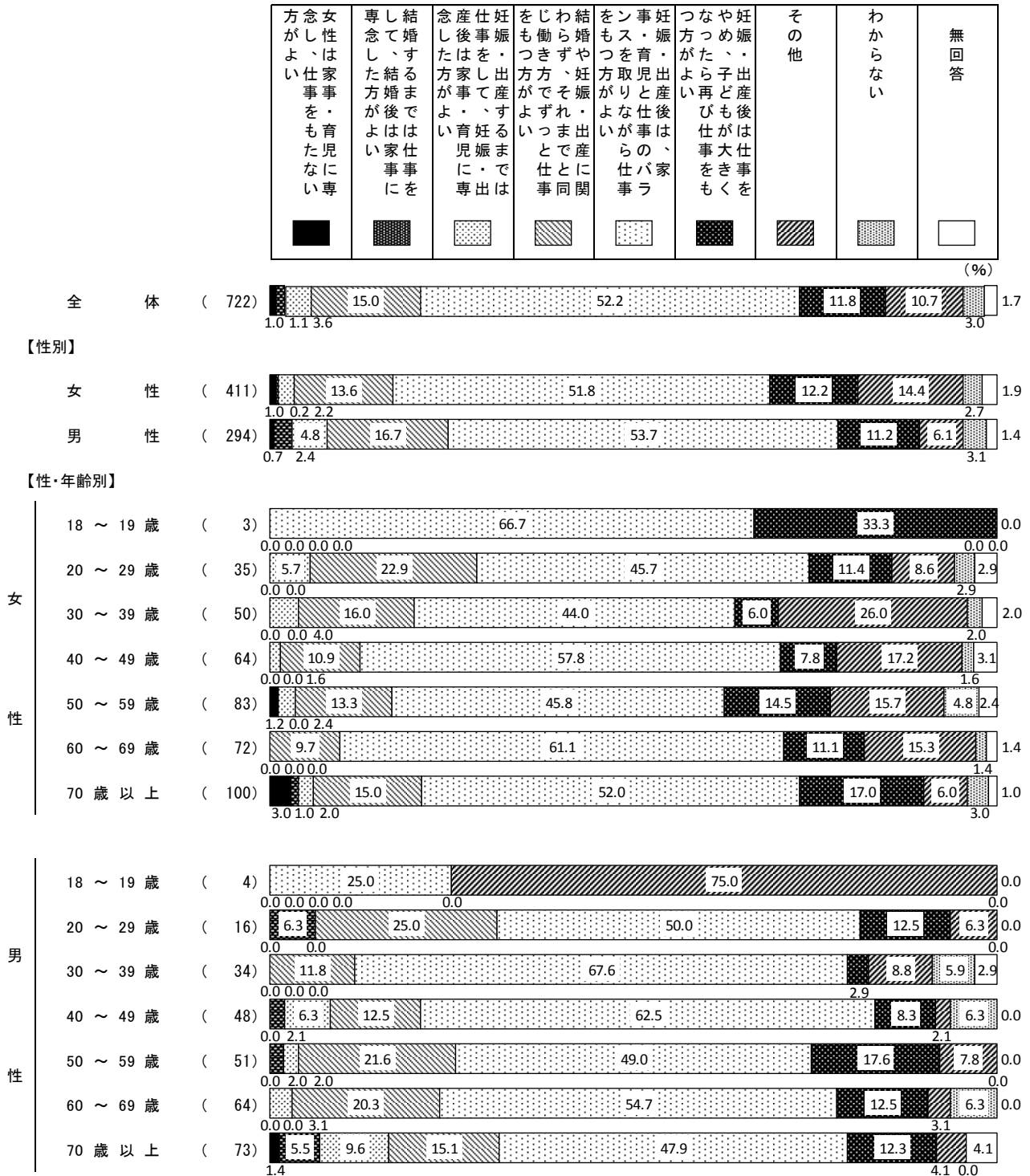


女性が仕事をする事について聞いたところ、「妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい」(52.2%)が半数を超え最も高く、次いで、「結婚や妊娠・出産に関わらず、それまでと同じ働き方でずっと仕事をもつ方がよい」(15.0%)、「妊娠・出産後は仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」(11.8%)の順となっている。(図1-18)

性別でみると、女性と男性ともに「妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい」が過半数となっており大きな違いはみられない。

性別・年齢別でみると、「妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい」は男性30～39歳（67.6%）が最も高く、次いで男性40～49歳（62.5%）、女性60～69歳（61.1%）と6割を超え高くなっている。（図1-19）

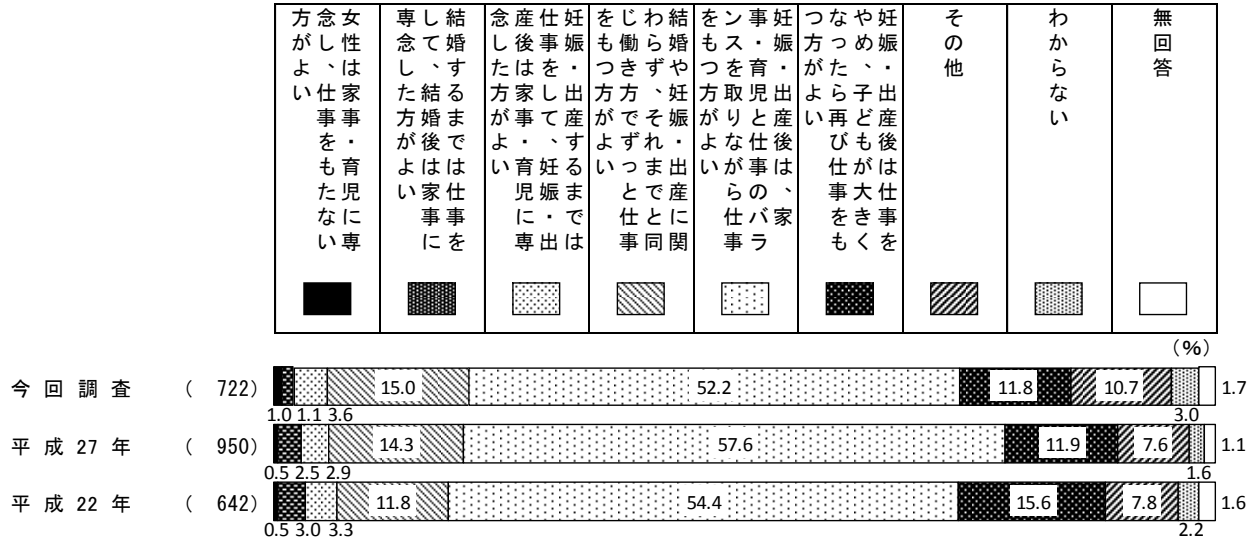
図1-19 女性が仕事をするについての考え方（性別・年齢別）



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

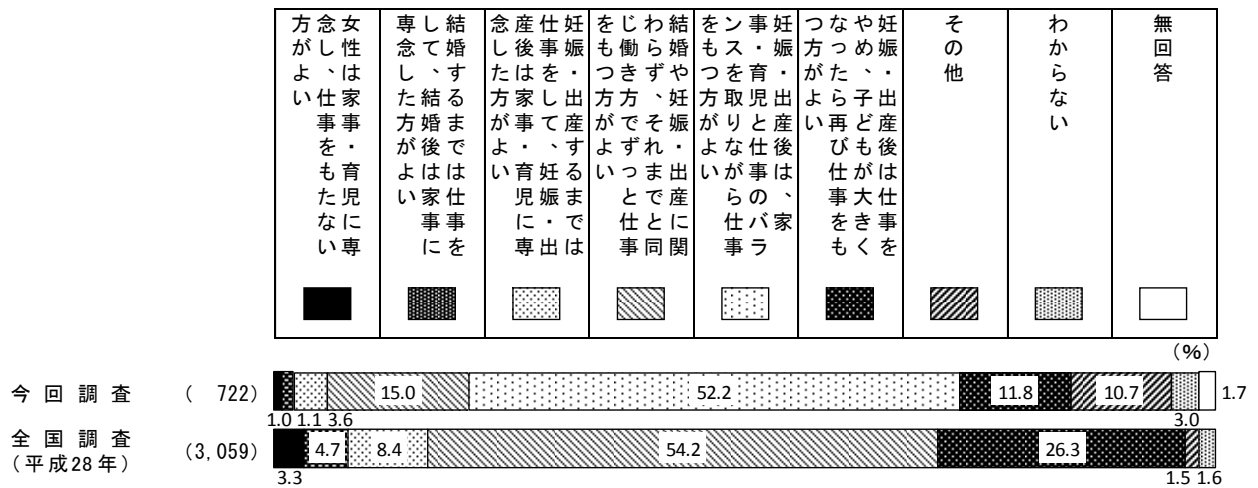
時系列比較でみると、平成 22 年、平成 27 年、今回調査と大きく変化した項目は見られない。どの年の調査も、「妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい」が過半数を占めている。(図 1-20)

図 1-20 女性が仕事をするについての考え方 (時系列比較)



全国調査との比較は、選択肢が異なるため参考に図示する。(図 1-21)

図 1-21 女性が仕事をするについての考え方 (全国調査との比較)



※全国調査は、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 28 年

※全国調査は、「結婚や妊娠・出産に関わらず、それまでと同じ働き方でずっと仕事をもつ方がよい」と「妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい」の選択肢が無く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」となっている

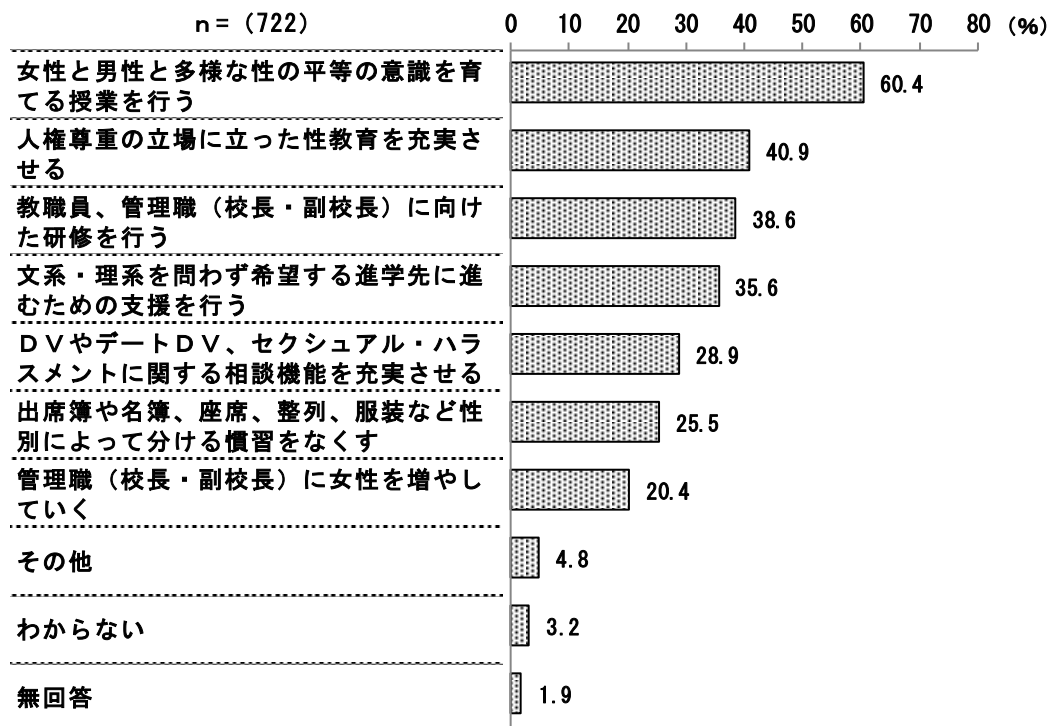
2. 教育、子育てについて

(1) 学校教育の場で女性と男性及び多様な性の平等のために必要なこと

◇「女性と男性と多様な性の平等の意識を育てる授業を行う」が約6割

問4 女性と男性及び多様な性の平等のため、あなたは学校教育の場では特にどのようなことが必要だと思いますか。必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

図2-1

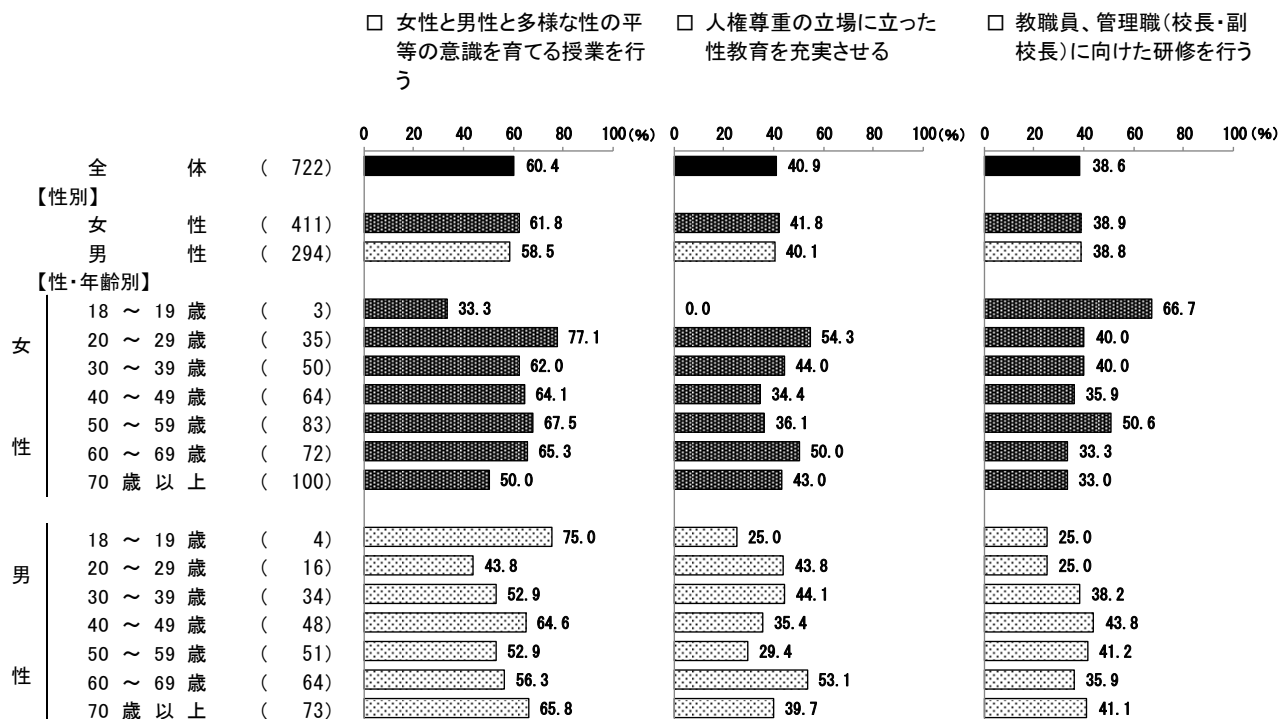


女性と男性及び多様な性の平等のため、学校教育の場では特にどのようなことが必要だと思うかを聞いたところ、「女性と男性と多様な性の平等の意識を育てる授業を行う」が60.4%と約6割と最も高く、次いで「人権尊重の立場に立った性教育を充実させる」(40.9%)、「教職員、管理職（校長・副校長）に向けた研修を行う」(38.6%)の順となっている。(図2-1)

全体で上位3項目に挙げられた項目を性別で見ると、目立った差異はみられない。

性別・年齢別で見ると、「女性と男性と多様な性の平等の意識を育てる授業を行う」では女性20～29歳（77.1%）が約8割と最も高い。（図2-2）

図2-2 学校教育の場で女性と男性及び多様な性の平等のために必要なこと（性別・年齢別）



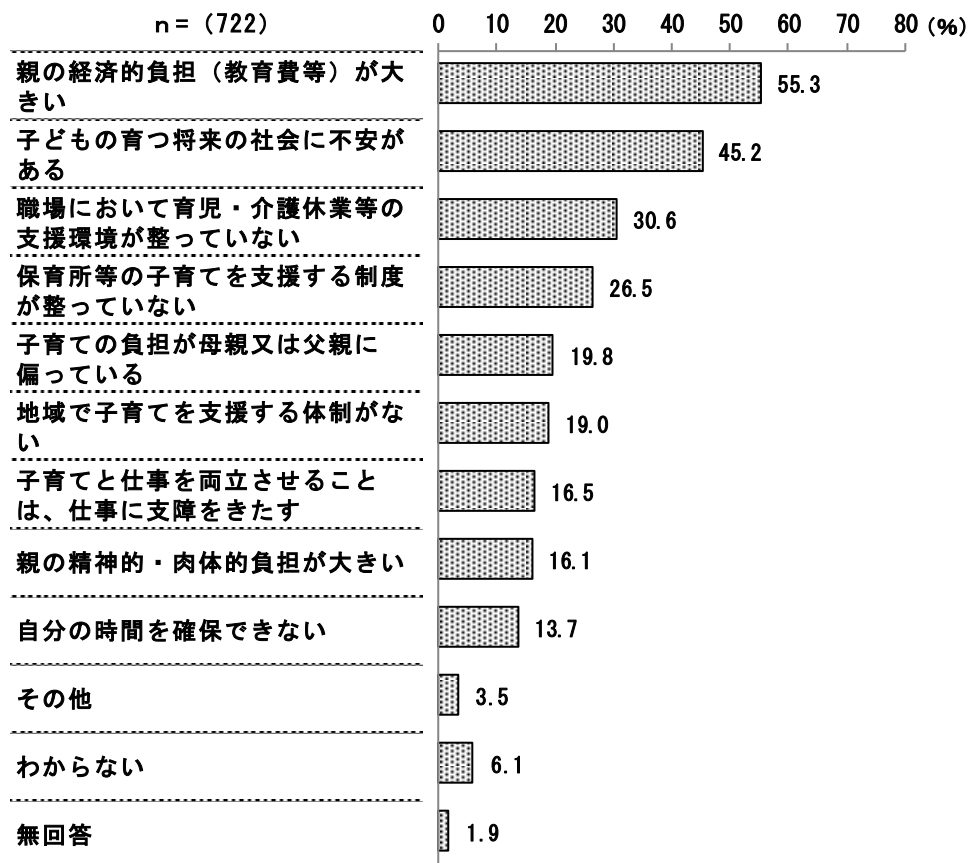
※女性・男性ともに「18～19歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(2) 子育てに関して不安なこと

◇「親の経済的負担（教育費等）が大きい」が半数を超える

問5 あなたは子育てに関し何を不安に感じますか。不安だと考えるものを3つまで選び、○をつけてください。

図2-3

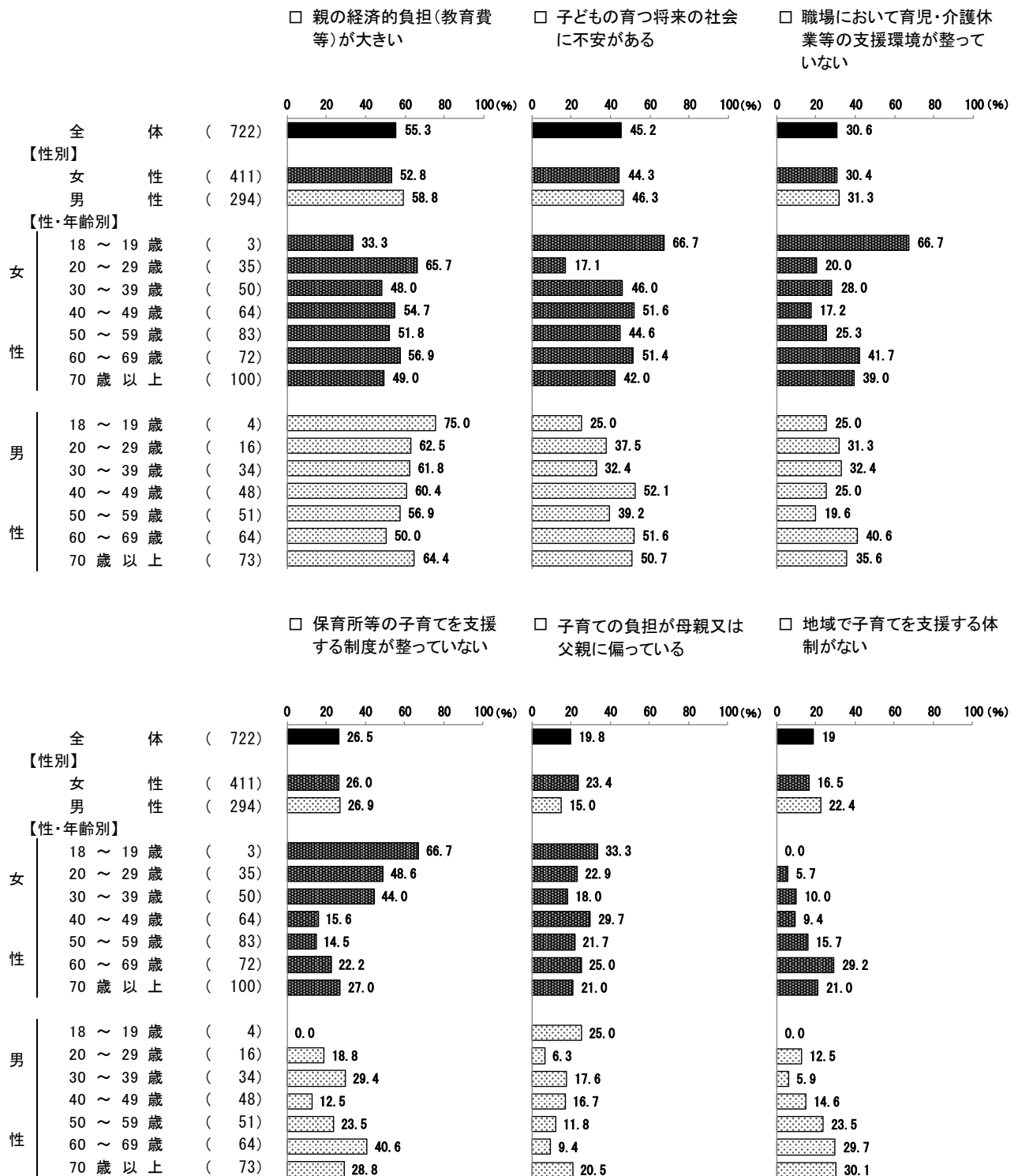


子育てに関して不安なことを聞いたところ、「親の経済的負担（教育費等）が大きい」（55.3%）と半数を超え最も高く、次いで「子どもの育つ将来の社会に不安がある」（45.2%）、「職場において育児・介護休業等の支援環境が整っていない」（30.6%）の順になっている。（図2-3）

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別でみると、「子育ての負担が母親又は父親に偏っている」は女性(23.4%)が男性(15.0%)より8.4ポイント、「地域で子育てを支援する体制がない」は男性(22.4%)が女性(16.5%)より5.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性別・年齢別でみると、「親の経済的負担(教育費等)が大きい」は女性20~29歳(65.7%)、男性70歳以上(64.4%)、男性20~29歳(62.5%)、男性30~39歳(61.8%)と6割を超え高くなっている。(図2-4)

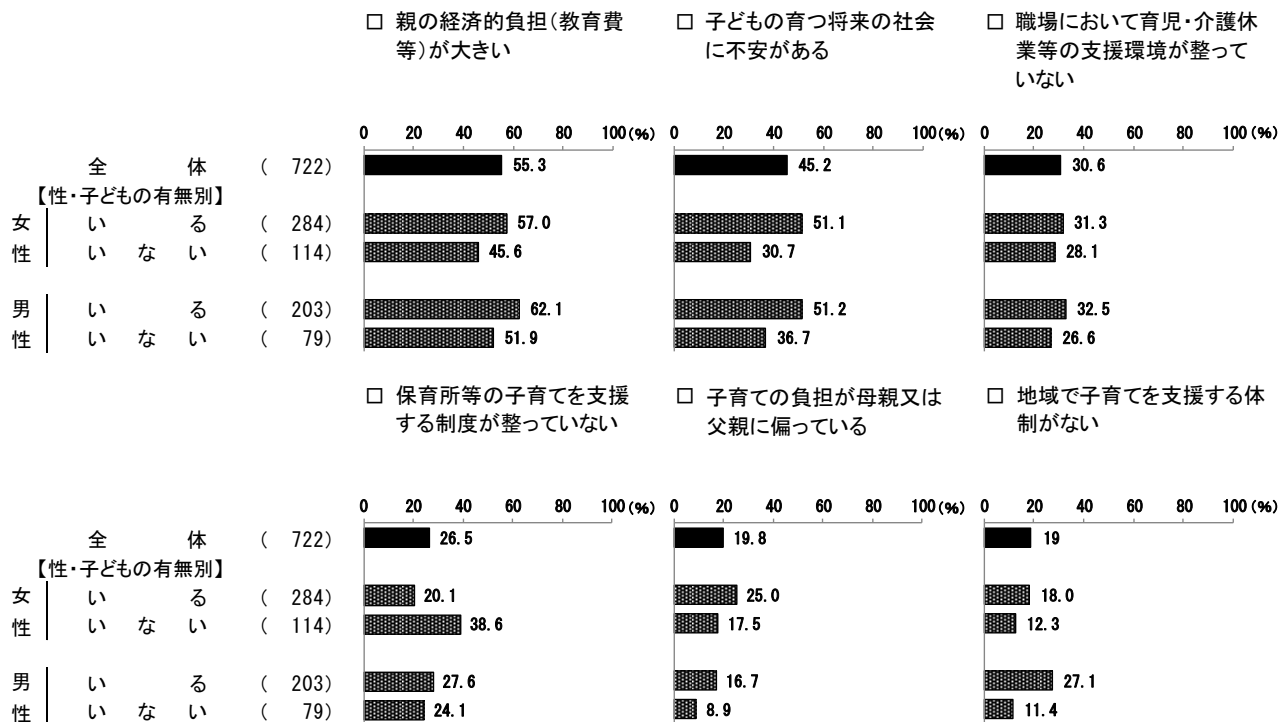
図2-4 子育てに関して不安なこと(性別・年齢別) <上位6項目>



※女性・男性ともに「18~19歳」、男性「20~29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別・子どもの有無別でみると、「親の経済的負担（教育費等）が大きい」では“男性/子どもがいる”が62.1%と6割を超えている。またほとんど項目で“子どもがいる”が“子どもがいない”よりも割合が高くなっているが、「保育所等の子育てを支援する制度が整っていない」の女性では“子どもがいない”（38.6%）が“子どもがいる”（20.1%）より18.5ポイント高くなっている。（図2-5）

図2-5 子育てに関して不安なこと（性別・子どもの有無別）＜上位6項目＞



3. 家庭や暮らしについて

(1) 生活時間

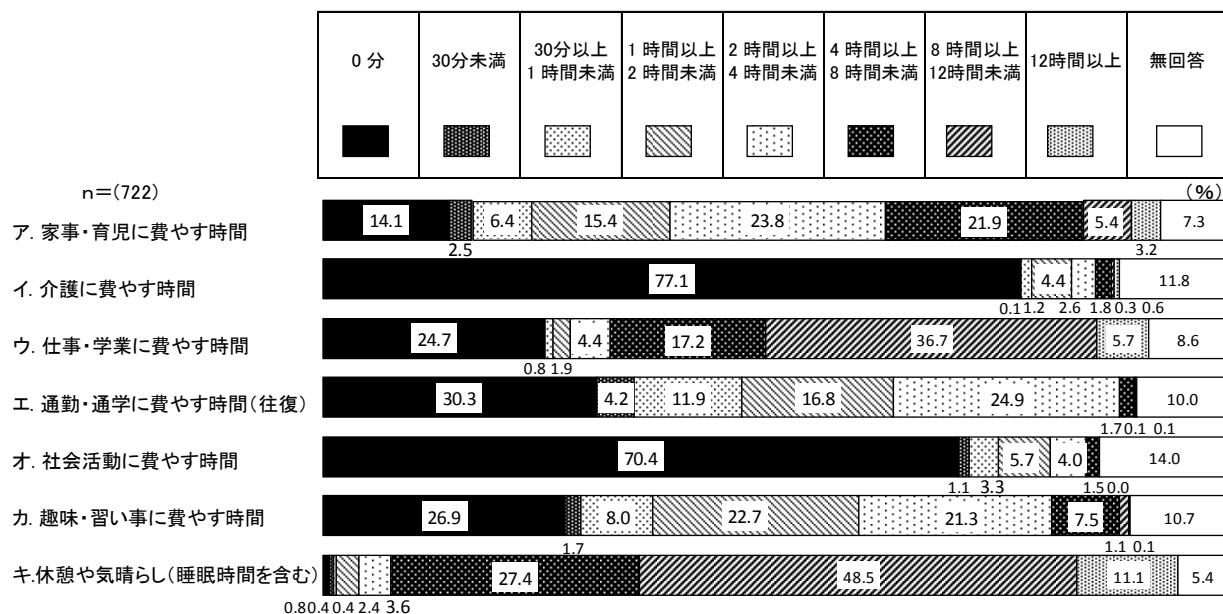
- ◇ “家事・育児に費やす時間” では、「2時間以上4時間未満」と「4時間以上8時間未満」が2割
- ◇ “仕事・学業に費やす時間” では、「8時間以上12時間未満」が3割半ば
- ◇ “休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）” では、「8時間以上12時間未満」が約5割

問6 あなたのふだんの生活時間についておたずねします。

平日の1日、あなたがつぎのようなことに費やす時間は平均してどのくらいですか。それぞれについて、数値でお答えください。（ない場合は「0」（ゼロ）とご記入ください）。

- * 1 ここでは収入を得る仕事をさします。上司や同僚とのつきあいの時間も含めてお答えください。
- * 2 ボランティアや地域活動等をさします。移動時間も含めてお答えください。
- * 3 合計が24時間とならなくてもかまいません。24時間以内でおおよその時間をお答えください。

図3-1



ふだんの平日の生活時間を聞いたところ、“家事・育児に費やす時間”では、「2時間以上4時間未満」(23.8%)が最も高く、次いで「4時間以上8時間未満」(21.9%)の順となっている。“仕事・学業に費やす時間”では、「8時間以上12時間未満」(36.7%)が3割半ばを超え最も高く、“休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）”では、「8時間以上12時間未満」(48.5%)が約5割で最も高くなっている。また、他の項目では「0分」の割合が最も高くなっているが、費やしている時間としては、“介護に費やす時間”では、「1時間以上2時間未満」(4.4%)、“通勤・通学に費やす時間(往復)”では、「2時間以上4時間未満」(24.9%)、“社会活動に費やす時間”では、「1時間以上2時間未満」(5.7%)、“趣味・習い事に費やす時間”では、「1時間以上2時間未満」(22.7%)と「2時間以上4時間未満」(21.3%)が高くなっている。(図3-1)

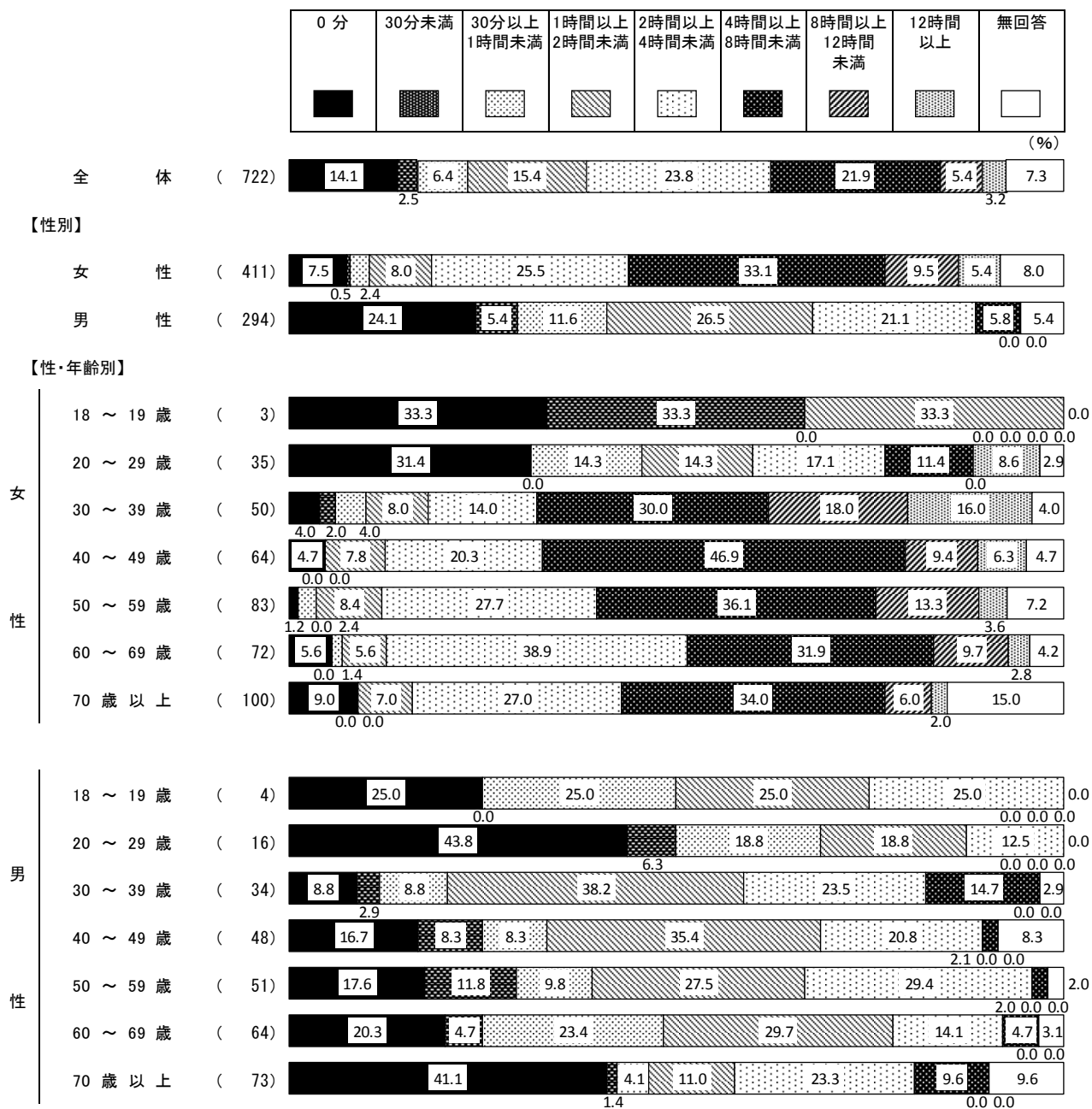
家事・育児に費やす時間

《家事・育児に費やす時間》を性別で見ると、男性よりも女性の方が費やす時間が多く、「4時間以上8時間未満」は女性（33.1%）が男性（5.8%）より27.3ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「4時間以上8時間未満」は女性40～49歳（46.9%）で4割半ばを超え、「2時間以上4時間未満」は女性60～69歳（38.9%）で約4割、「1時間以上2時間未満」は男性30～39歳（38.2%）で約4割と他の年代に比べて高くなっている。（図3-2）

図3-2 生活時間（性別・年齢別）

ア. 家事・育児に費やす時間

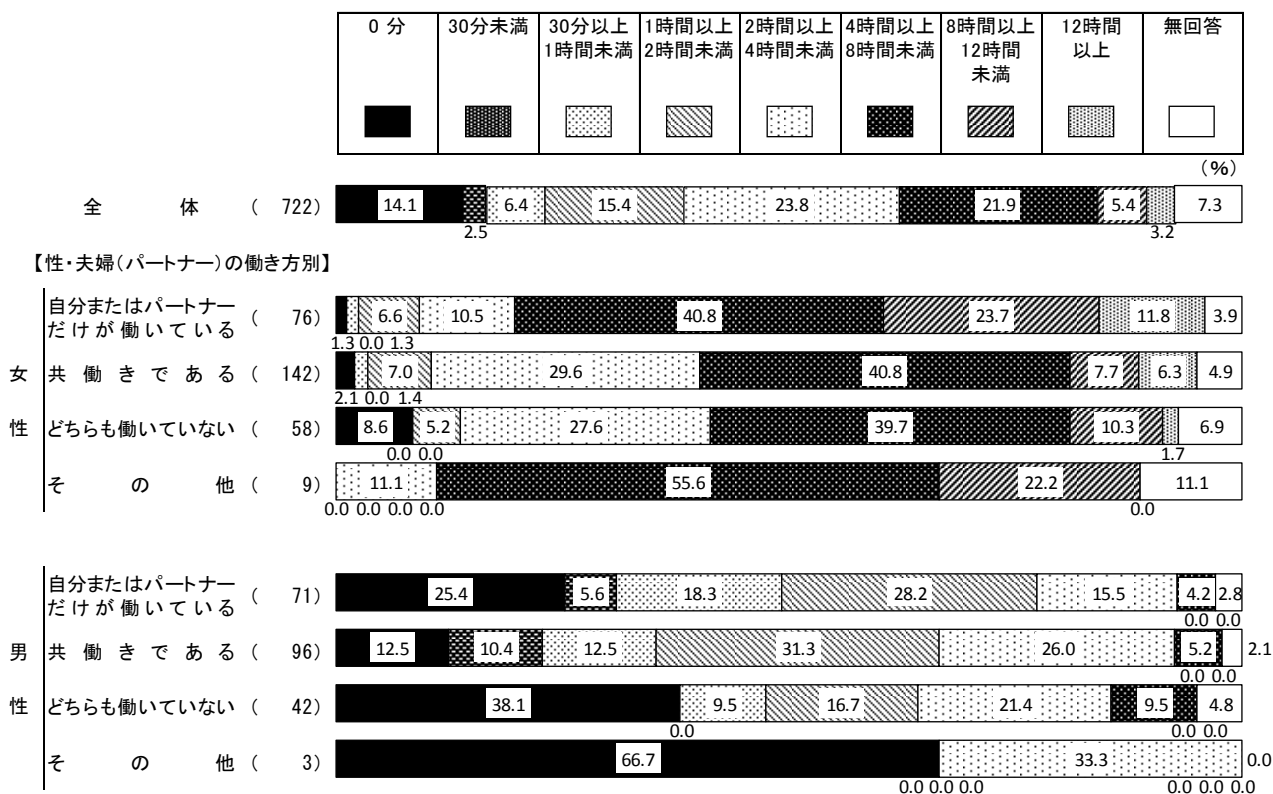


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《家事・育児に費やす時間》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「8時間以上12時間未満」では“女性/自分またはパートナーだけが働いている”が23.7%と他に比べ高くなっている。「1時間以上2時間未満」では“男性/共働きである”が31.3%と3割を超えている。（図3-3）

図3-3 生活時間（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）

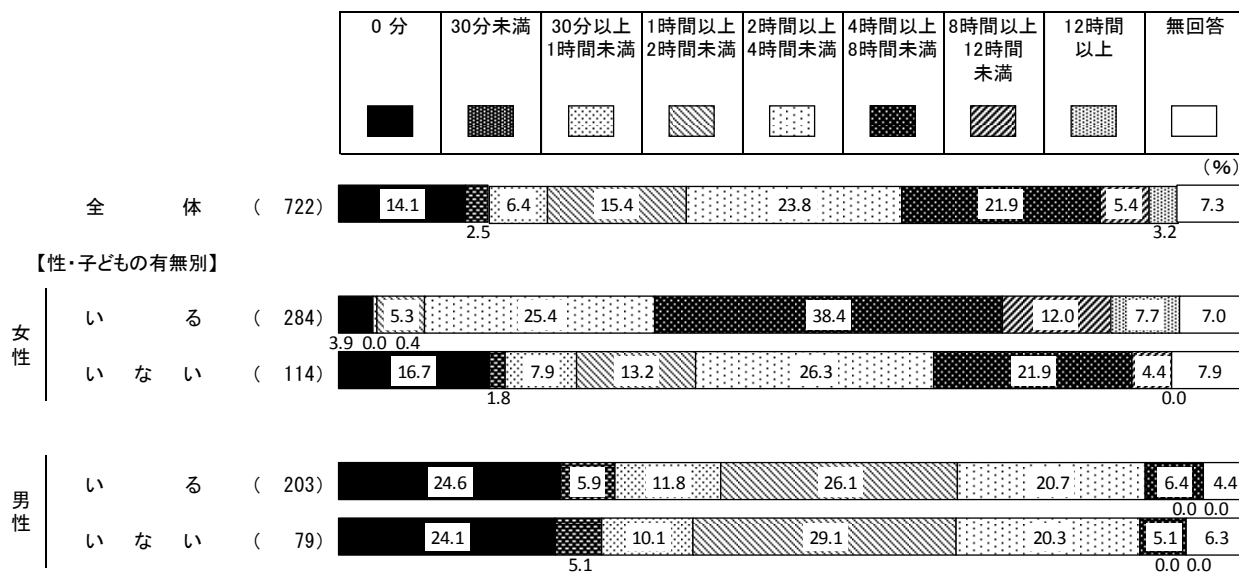
ーア. 家事・育児に費やす時間



《家事・育児に費やす時間》を性別・子どもの有無別で見ると、女性では子どもがいる人といない人で費やす時間が大きく異なっており、「4時間以上8時間未満」は“女性/いる”で38.4%と高くなっている。また、男性では全体的に費やしている時間が女性に比べ短く、子どもがいる人といない人との費やす時間の差はあまりみられない。(図3-4)

図3-4 生活時間（性別・子どもの有無別）

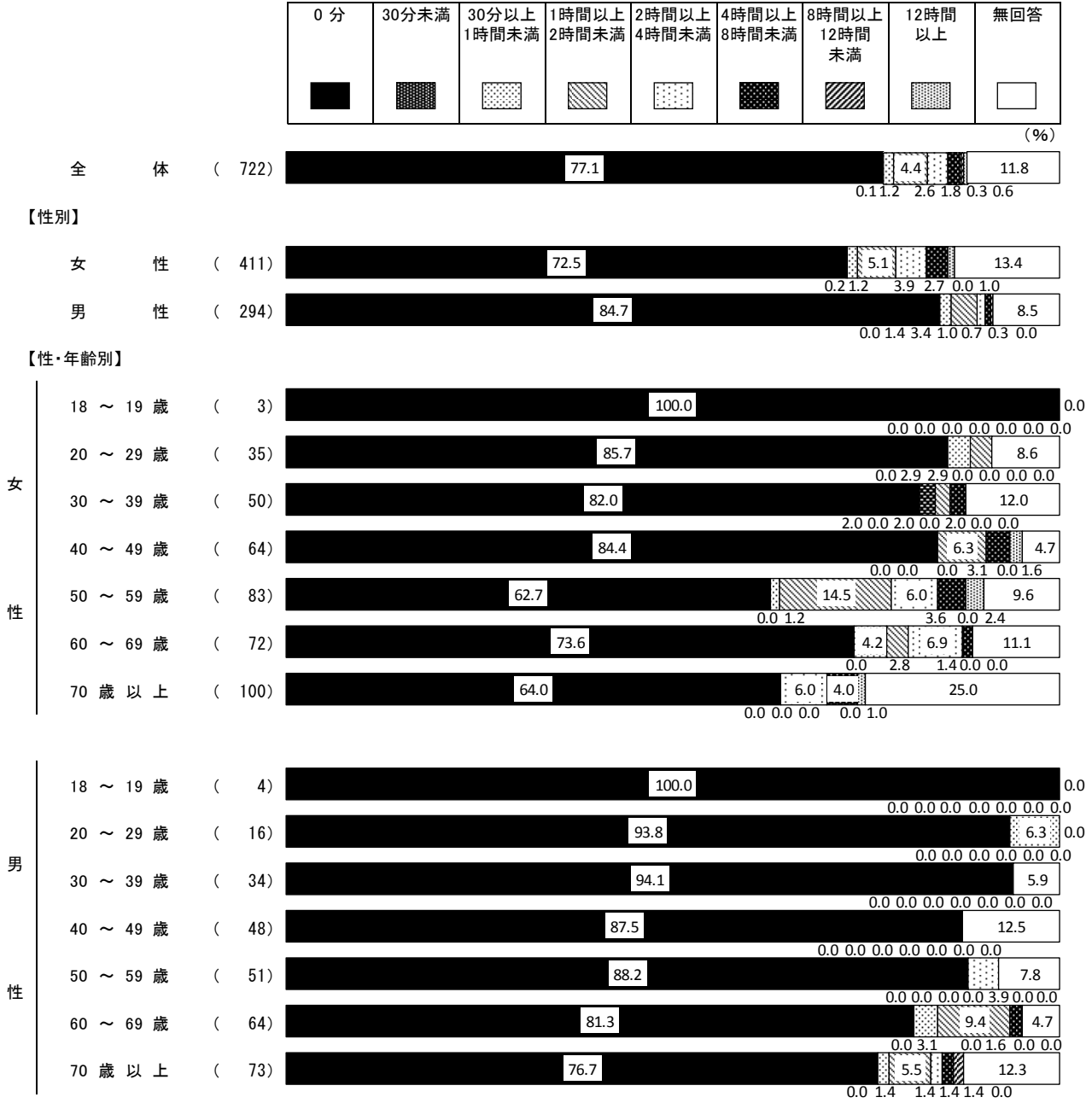
ア. 家事・育児に費やす時間



介護に費やす時間

《介護に費やす時間》を性別で見ると、「0分」が男性で84.7%、女性で72.5%と、女性と男性ともに費やす時間は短くなっている。性別・年齢別で見ると、「1時間以上2時間未満」が女性50～59歳（14.5%）と1割を超え、他の年代に比べ高くなっている。（図3-5）

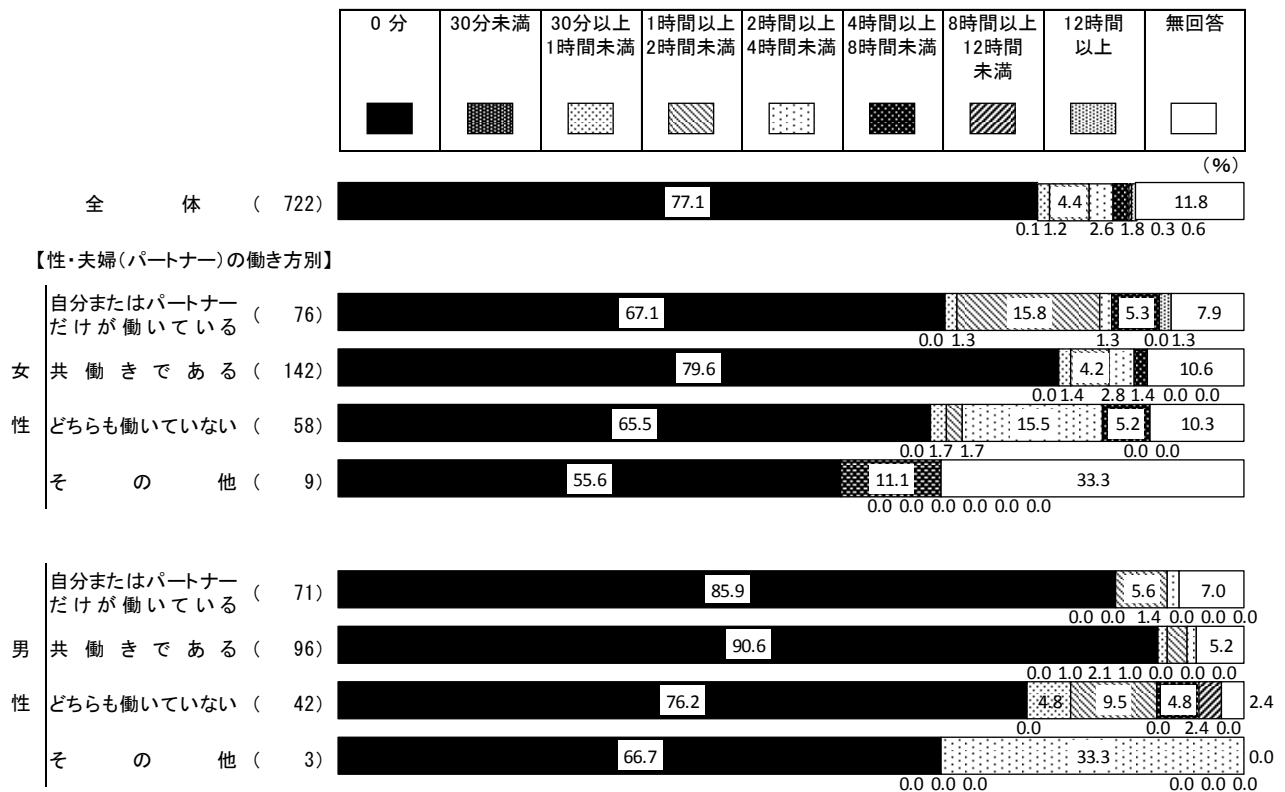
図3-5 生活時間（性別・年齢別）
 -イ. 介護に費やす時間



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《介護に費やす時間》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、いずれも費やす時間は短くなっているが、女性と男性ともに、“共働きである”では費やす時間が“自分またはパートナーだけが働いている”や“どちらも働いていない”と比較して短くなっている。（図3-6）

図3-6 生活時間（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 ーイ. 介護に費やす時間



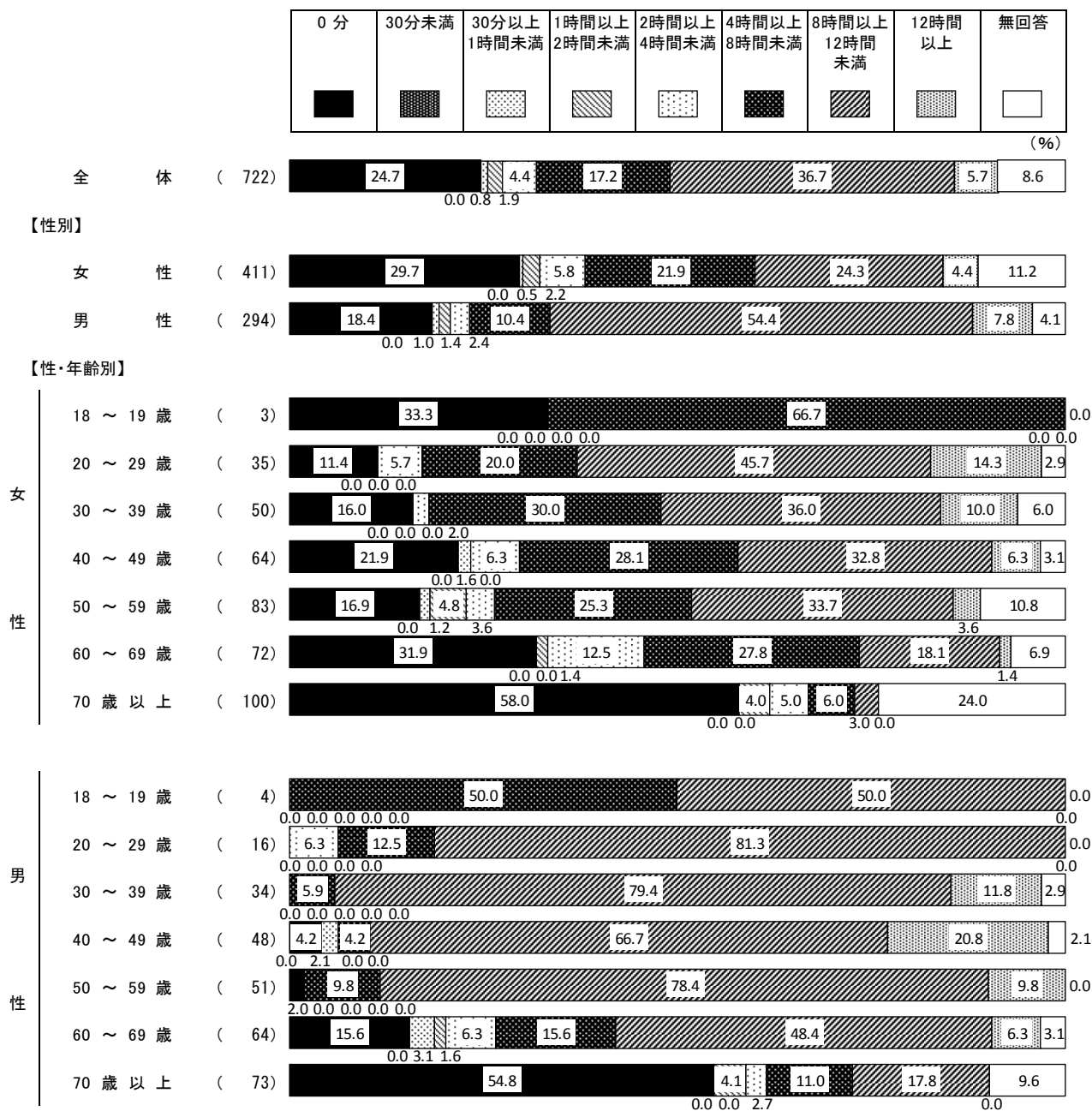
仕事・学業に費やす時間

《仕事・学業に費やす時間》を性別で見ると、「4時間以上8時間未満」は女性（21.9%）が男性（10.4%）より11.5ポイント、「8時間以上12時間未満」は男性（54.4%）が女性（24.3%）より30.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「0分」は女性（29.7%）が男性（18.4%）より11.3ポイント高くなっており、女性よりも男性の方が費やす時間が長くなっている。

性別・年齢別で見ると、「8時間以上12時間未満」と「12時間以上」が女性の低い年代ほど増加する傾向がみられる。また、「8時間以上12時間未満」では男性30～39歳（79.4%）が約8割で、最も高くなっている。（図3-7）

図3-7 生活時間（性別・年齢別）

ウ. 仕事・学業に費やす時間

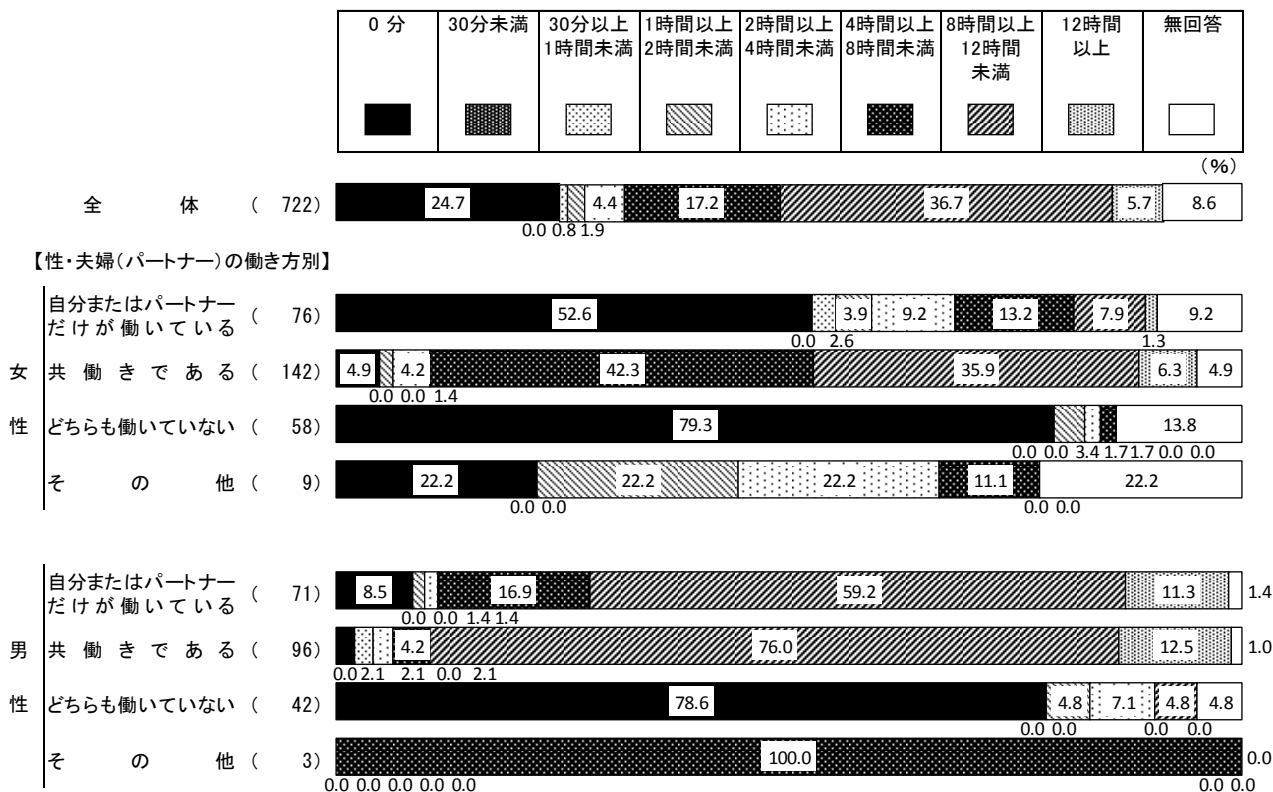


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《仕事・学業に費やす時間》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「0分」では女性と男性ともに“どちらも働いていない”で約8割と高い割合となっている。また「8時間以上12時間未満」では“男性/共働きである”（76.0%）が“女性/共働きである”（35.9%）より40.1ポイント高くなっており女性と男性で差がみられる。（図3-8）

図3-8 生活時間（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）

ーウ. 仕事・学業に費やす時間

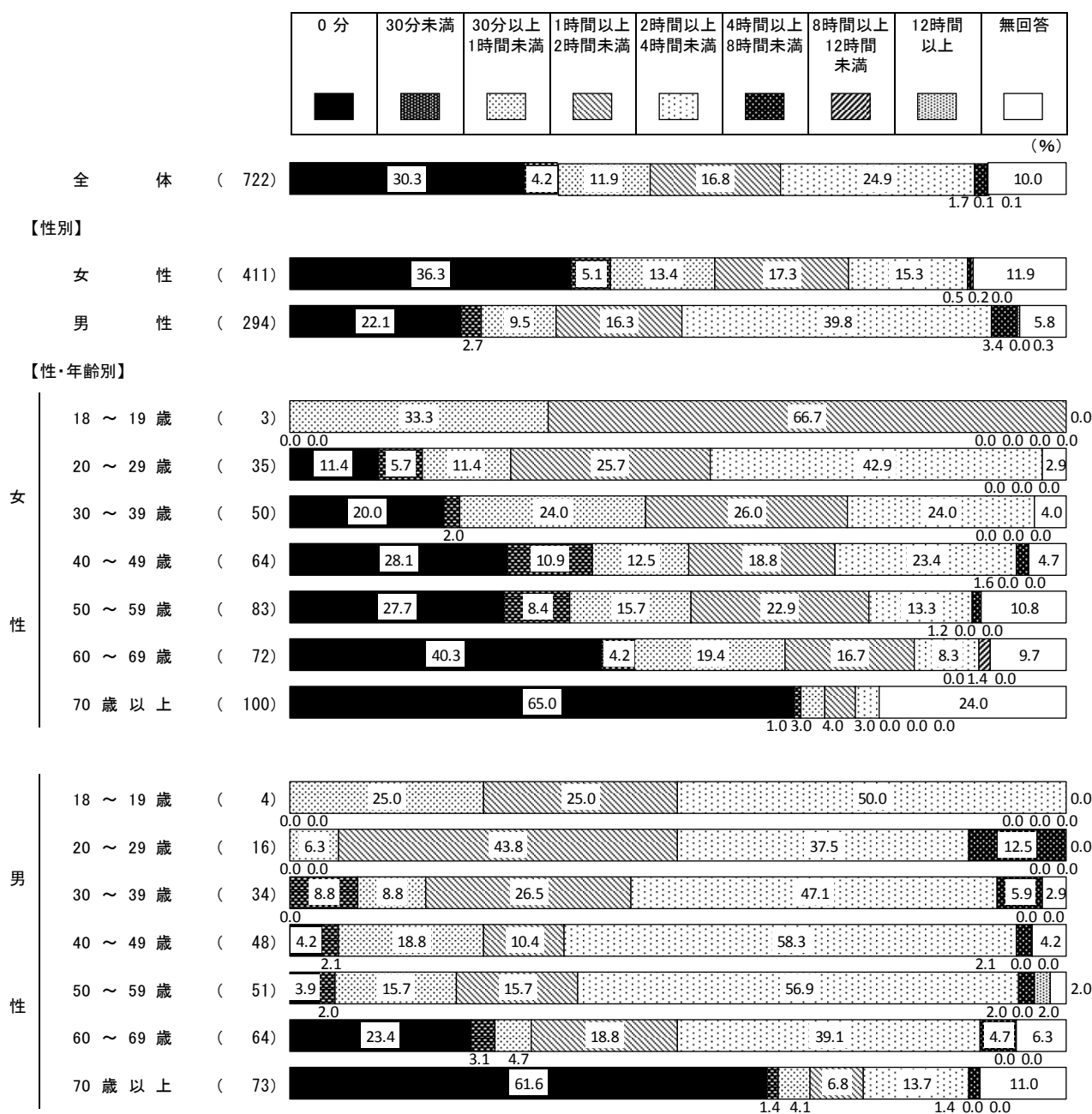


通勤・通学に費やす時間（往復）

《通勤・通学に費やす時間（往復）》を性別で見ると、「2時間以上4時間未満」は男性（39.8%）が女性（15.3%）より24.5ポイント高くなっている。一方、「0分」は女性（36.3%）が男性（22.1%）より14.2ポイント高くなっており、女性よりも男性の方が費やす時間が長くなっている。

性別・年齢別で見ると、「2時間以上4時間未満」の女性では低い年代ほど増加する傾向がみられ、20～29歳が42.9%と他の年代に比べ高くなっている。男性では、「2時間以上4時間未満」が60歳代まで割合が高くなっていて、40～49歳で58.3%と最も高くなっている。一方で60歳代以上では「0分」が増加し、費やす時間が短くなっている。（図3-9）

図3-9 生活時間（性別・年齢別）
一工. 通勤・通学に費やす時間（往復）

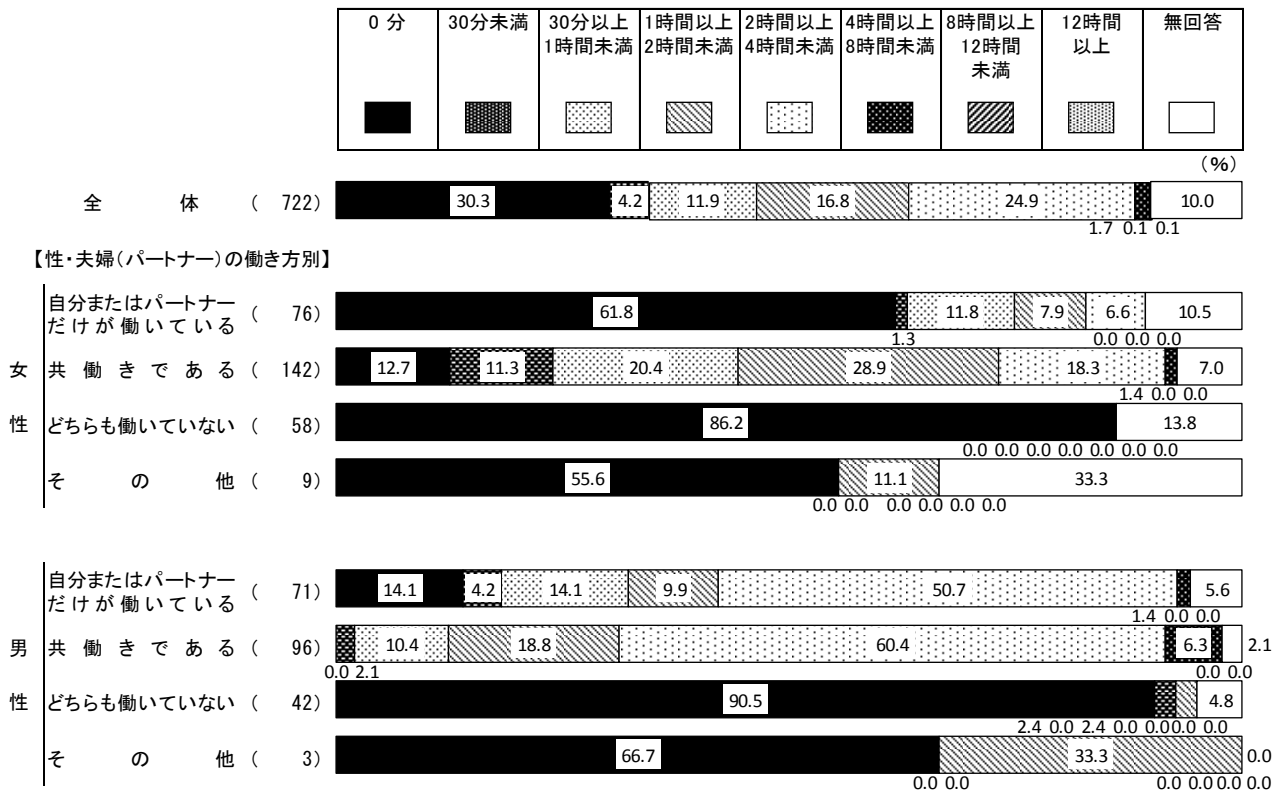


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《通勤・通学に費やす時間》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「2時間以上4時間未満」は“男性/共働きである”（60.4%）と“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（50.7%）で半数以上と他に比べ高くなっている。一方、「0分」は“男性/どちらも働いていない”で90.5%、“女性/どちらも働いていない”で86.2%、“女性/自分またはパートナーだけが働いている”で61.8%、と、他に比べ高くなっている。（図3-10）

図3-10 生活時間（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）

一エ. 通勤・通学に費やす時間（往復）



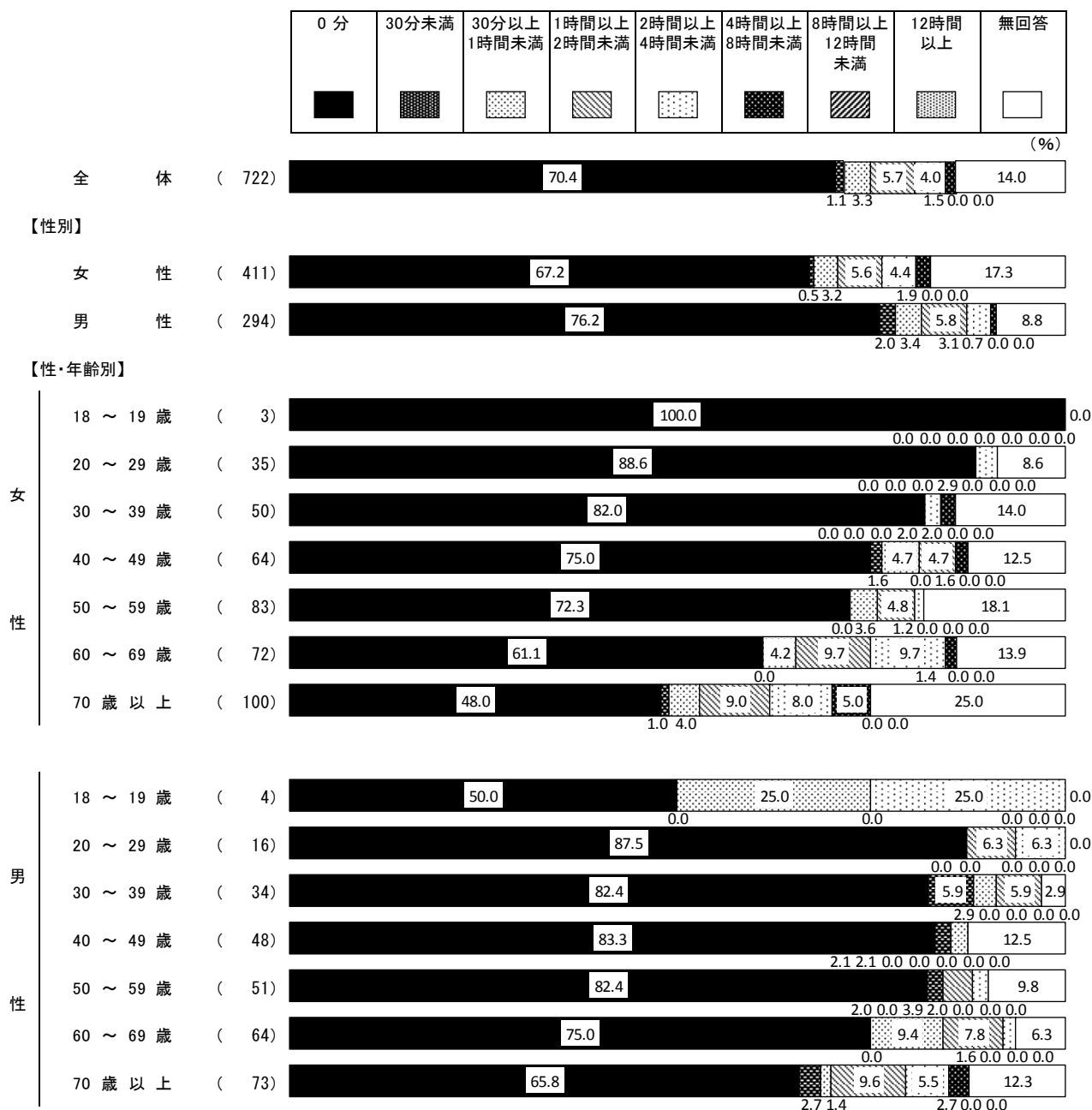
社会活動に費やす時間

《社会活動に費やす時間》を性別で見ると、「0分」が男性で76.2%、女性で67.2%と女性と男性ともに費やす時間は短いですが、男性が9.0ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、女性は年代が高くなるごとに、「0分」が減り、費やす時間が長くなっている。男性では各年代で「0分」が半数を超えている。(図3-11)

図3-11 生活時間（性別・年齢別）

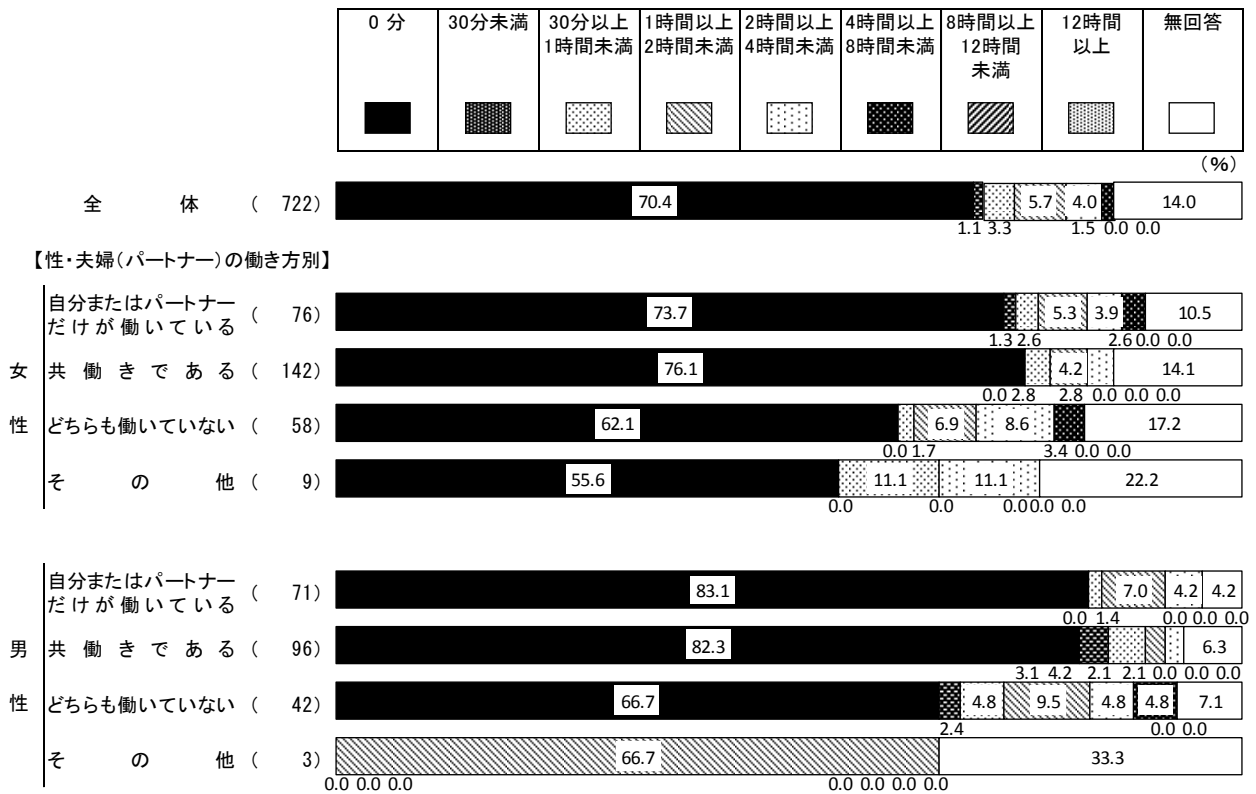
一オ. 社会活動に費やす時間



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《社会活動に費やす時間》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、女性と男性ともに“どちらも働いていない”で費やしている時間がやや長くなっているものの、全体的に費やしている時間は短いものとなっている。（図3-12）

図3-12 生活時間（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
一オ. 社会活動に費やす時間



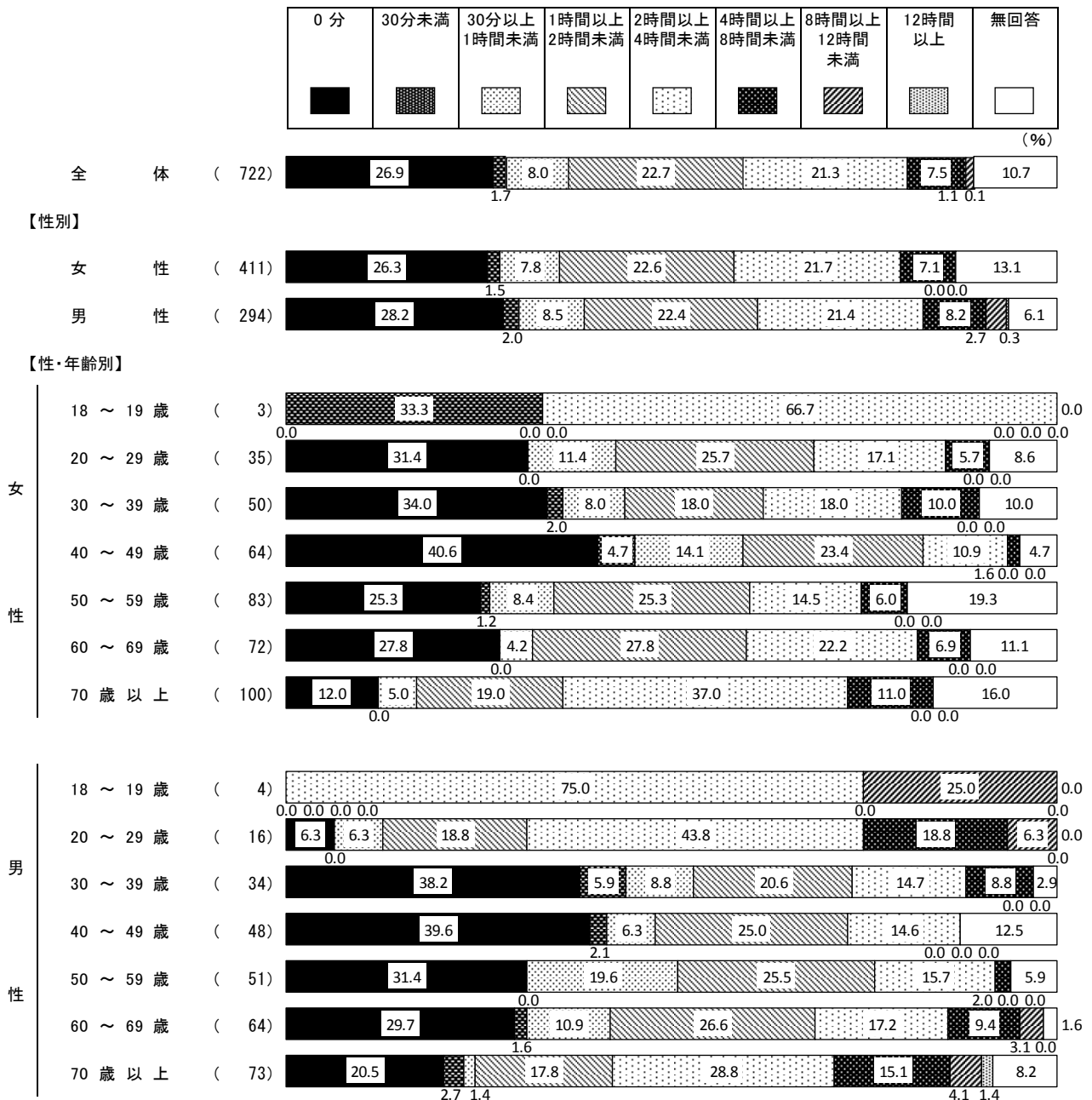
趣味・習い事に費やす時間

《趣味・習い事に費やす時間》を性別で見ると、女性と男性で大きな差はみられない。

性別・年齢別で見ると、「2時間以上4時間未満」では女性70歳以上（37.0%）が3割台半ばを超え最も高くなっている。「0分」は男性の40歳以上から年代ごとに減る傾向がみられる。（図3-13）

図3-13 生活時間（性別・年齢別）

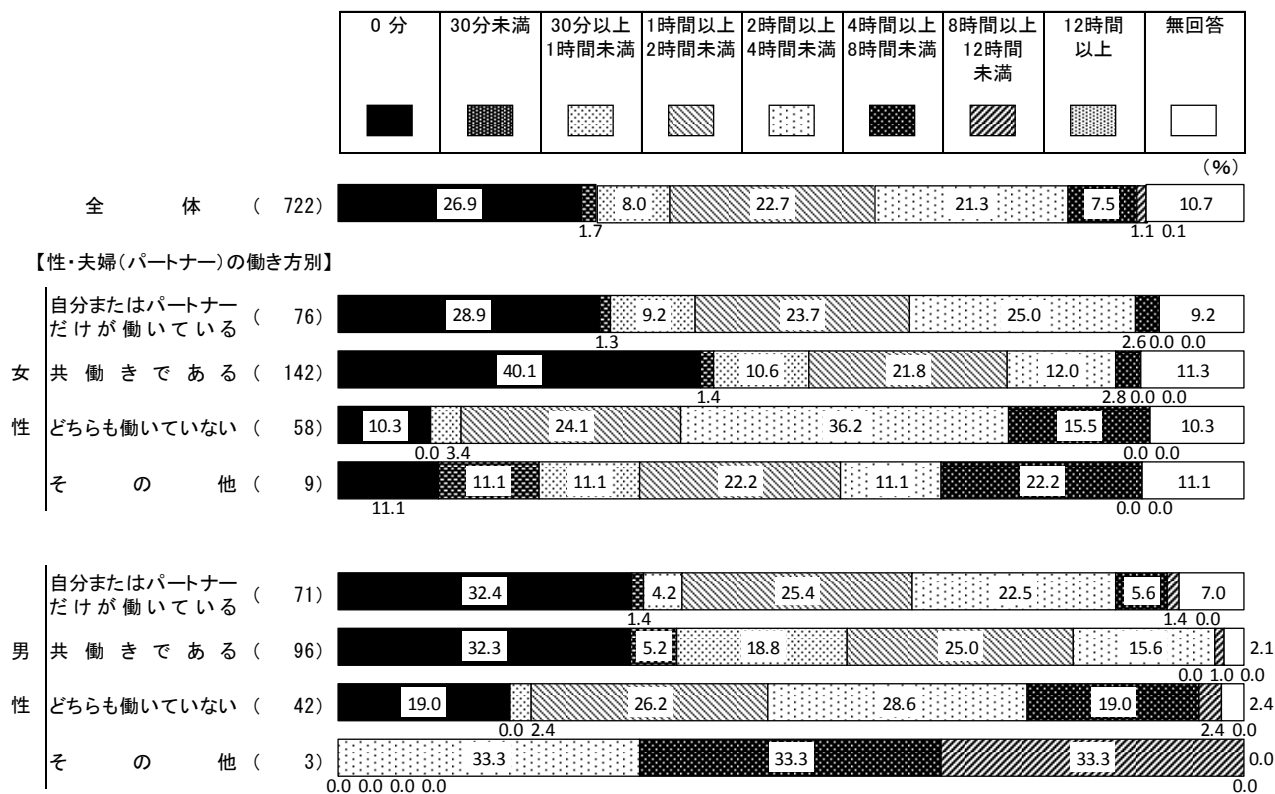
一カ. 趣味・習い事に費やす時間



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《趣味・習い事に費やす時間》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「0分」では“女性/共働きである”（40.1%）で約4割と高くなっている。「2時間以上4時間未満」では“女性/どちらも働いていない”が36.2%と他と比べて高くなっている。（図3-14）

図3-14 生活時間（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
一カ. 趣味・習い事に費やす時間

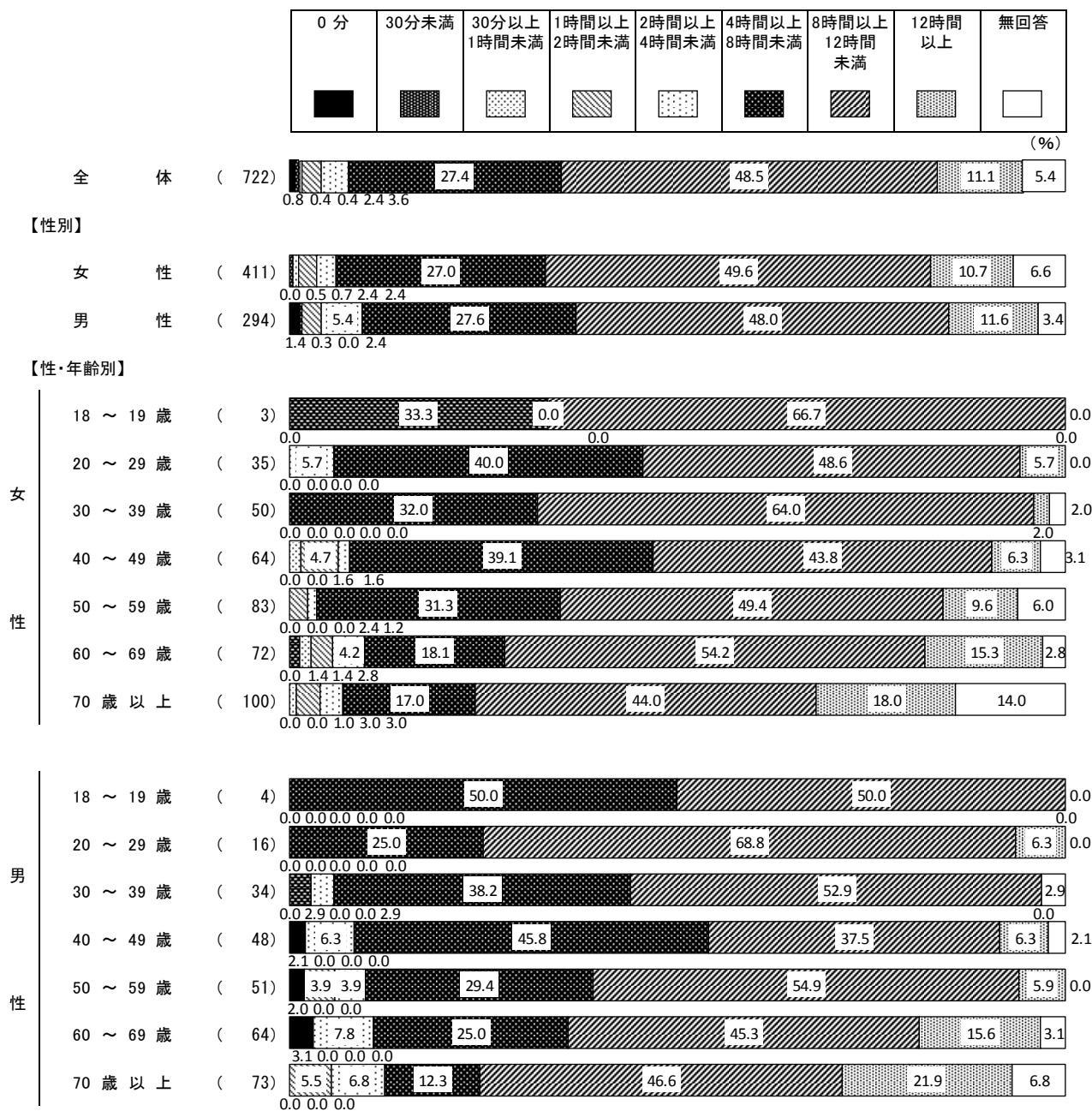


休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）

《休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）》を性別で見ると、男女ともに費やす時間は長く、大きな違いはみられない。

性別・年齢別で見ると、女性と男性ともに40歳以上から年代ごとに「4時間以上8時間未満」の割合が減る傾向がみられる一方、「12時間以上」では年代ごとに割合が増加する傾向がみられ、男性70歳以上は21.9%と他に比べて高くなっている。（図3-15）

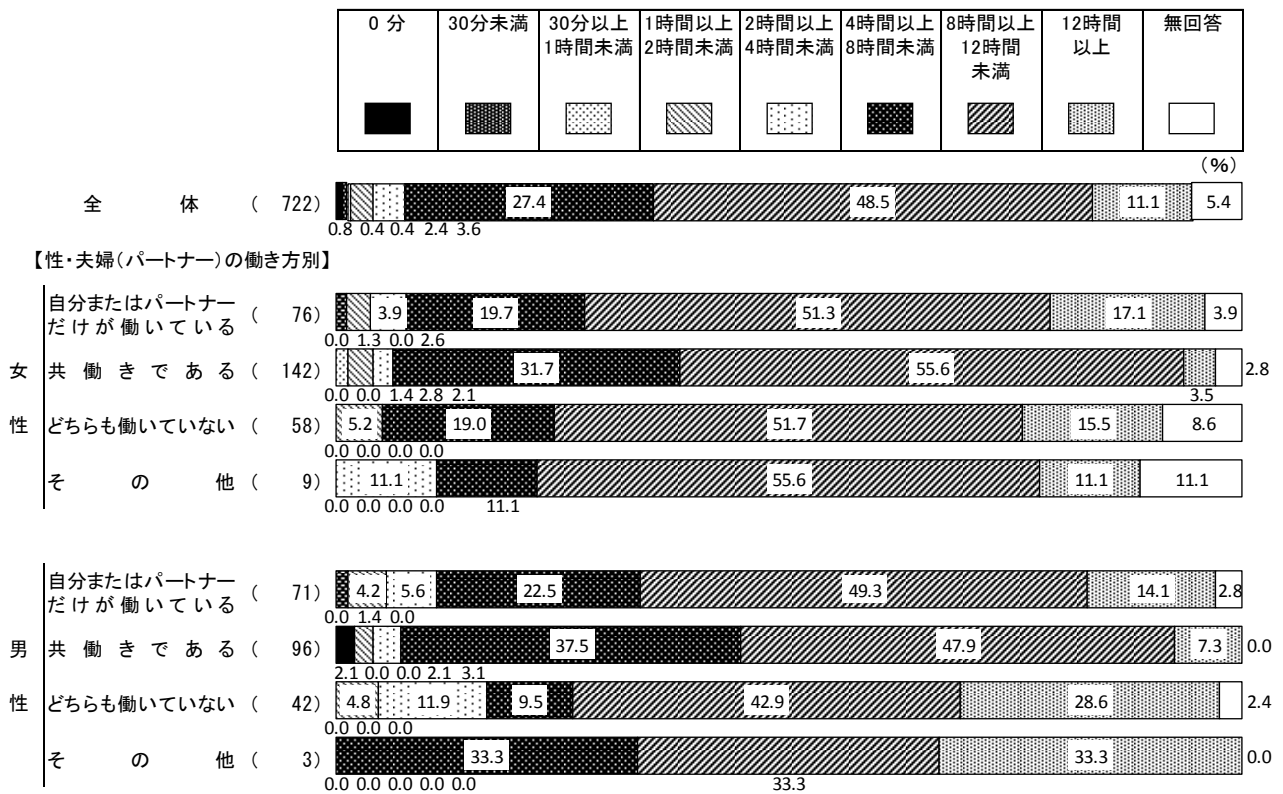
図3-15 生活時間（性別・年齢別）
一キ. 休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「8時間以上 12時間未満」が男女ともにどの働き方でも半数を占めているが、「4時間以上 8時間未満」では“共働きである”の割合が高くなり、「12時間以上」の割合が高くなっている。（図3-16）

図3-16 生活時間（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 キ. 休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）



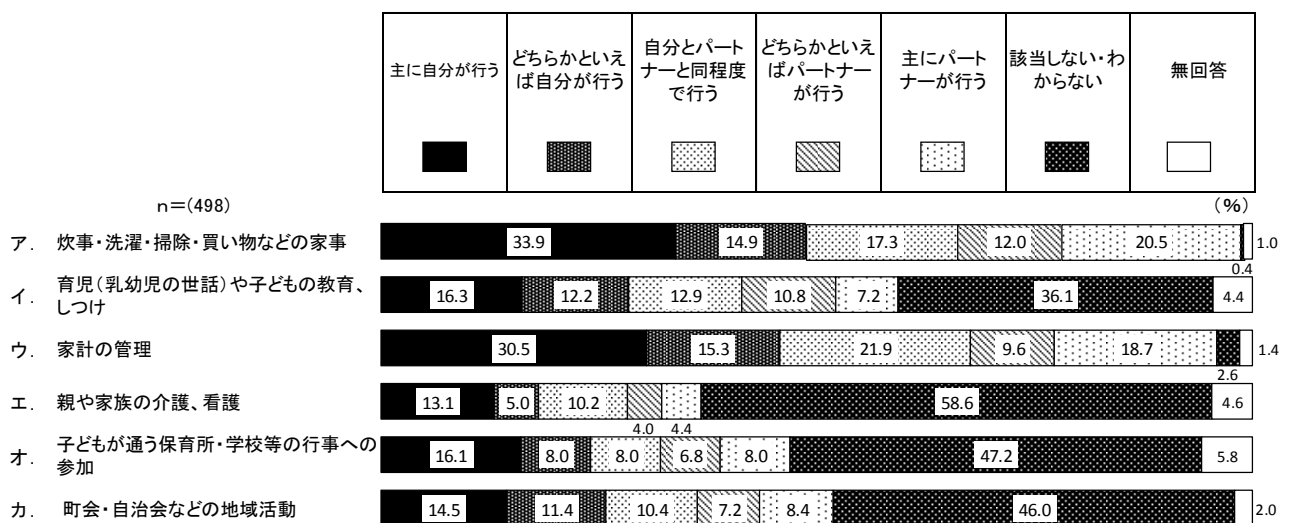
(2) 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）

- ◇「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（48.8%）で約5割
- ◇「自分とパートナーと同程度で行う」は、“家計の管理”（21.9%）で2割を超える
- ◇「主にパートナーが行う」と「どちらかといえばパートナーが行う」を合わせた『パートナーが行う』は、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（32.5%）で3割を超える

結婚している方におたずねします（事実婚（*）の方もお答えください）

問7 家庭生活での、夫婦の（またはパートナーとの）役割分担はどのようになっていますか。

図3-17



結婚している方（事実婚含む）に夫婦の（またはパートナーとの）役割分担を聞いたところ、「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（48.8%）で約5割と最も高く、次いで“家計の管理”（45.8%）で4割台半ば、“育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ”（28.5%）などの順となっている。「自分とパートナーと同程度で行う」は、“家計の管理”（21.9%）で2割を超して最も高く、次いで“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（17.3%）、“育児（乳幼児の世話や子どもの教育、しつけ”（12.9%）などの順となっている。「主にパートナーが行う」と「どちらかといえばパートナーが行う」を合わせた『パートナーが行う』は、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（32.5%）で3割を超して最も高く、次いで“家計の管理”（28.3%）、“育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ”（18.0%）などの順となっている。（図3-17）

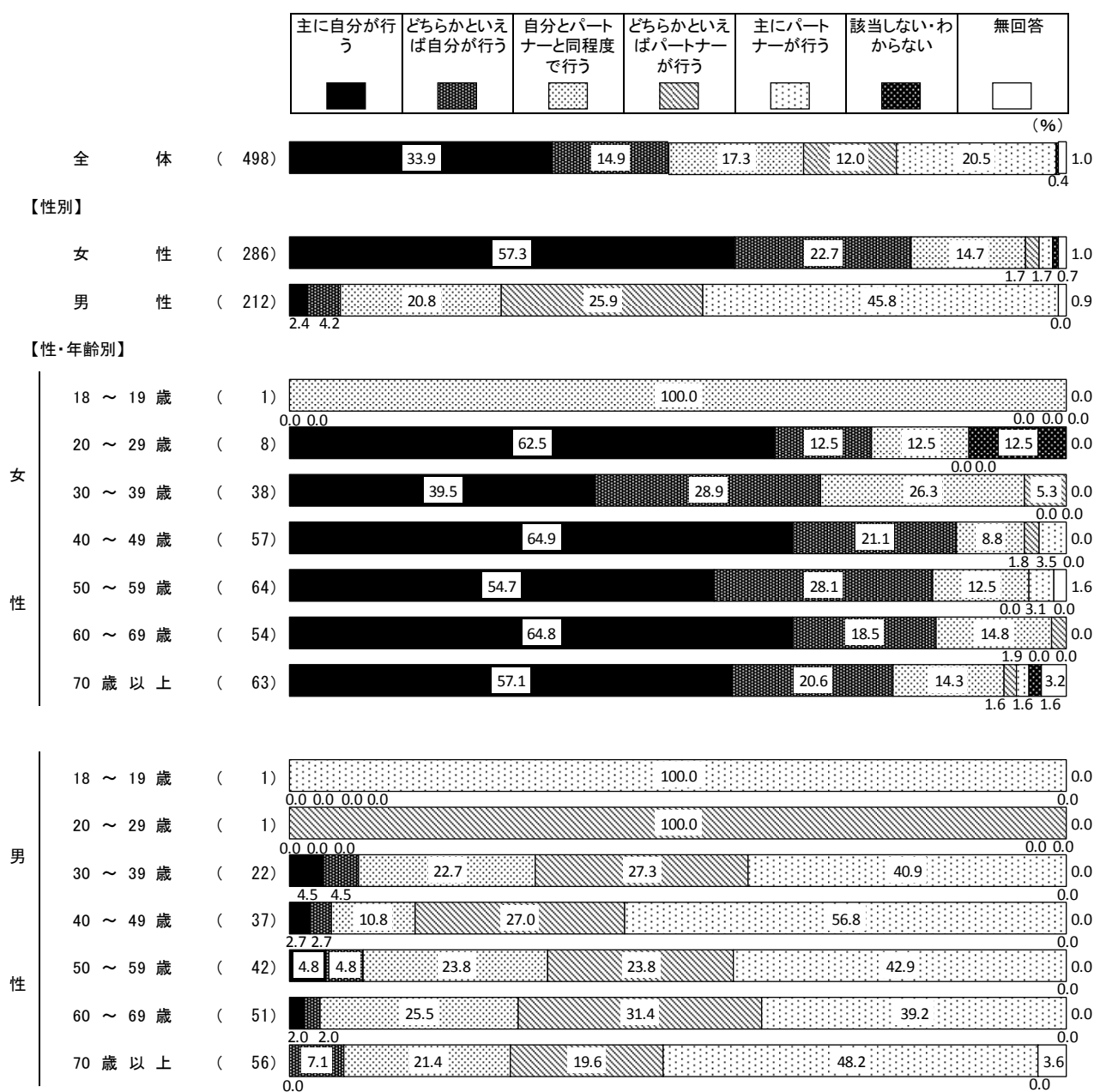
炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事

《炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事》を性別で見ると、「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は女性（80.0%）が男性（6.6%）より73.4ポイント高く、女性と男性で大きな差がみられる。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は、女性40～49歳（86.0%）で、他の年代に比べ高くなっている。『パートナーが行う』は、男性40～49歳（83.8%）で、他の年代に比べ高くなっている。「自分とパートナーと同程度で行う」は、男性の50歳以上の年代では、それぞれ2割を超え、他に比べ高くなっている。女性30～39歳（26.3%）で他の年代に比べ高くなっている。（図3-18）

図3-18 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・年齢別）

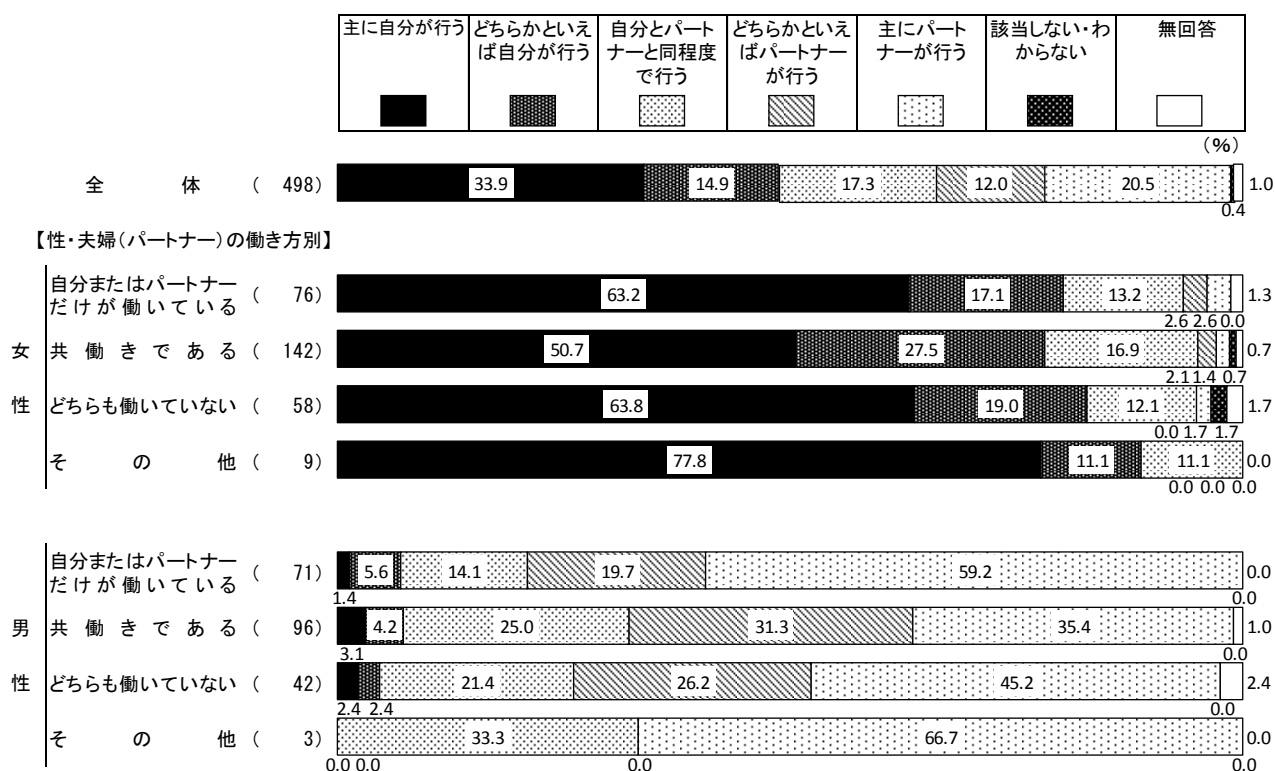
ア. 炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、“女性/どちらも働いていない”（82.8%）が最も高くなっている。「主にパートナーが行う」と「どちらかといえばパートナーが行う」を合わせた『パートナーが行う』は、“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（78.9%）が最も高くなっている。「自分とパートナーと同程度で行う」は“男性/共働きである”（25.0%）、“どちらも働いていない”（21.4%）が2割を超えている。（図3-19）

図3-19 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 ア. 炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事



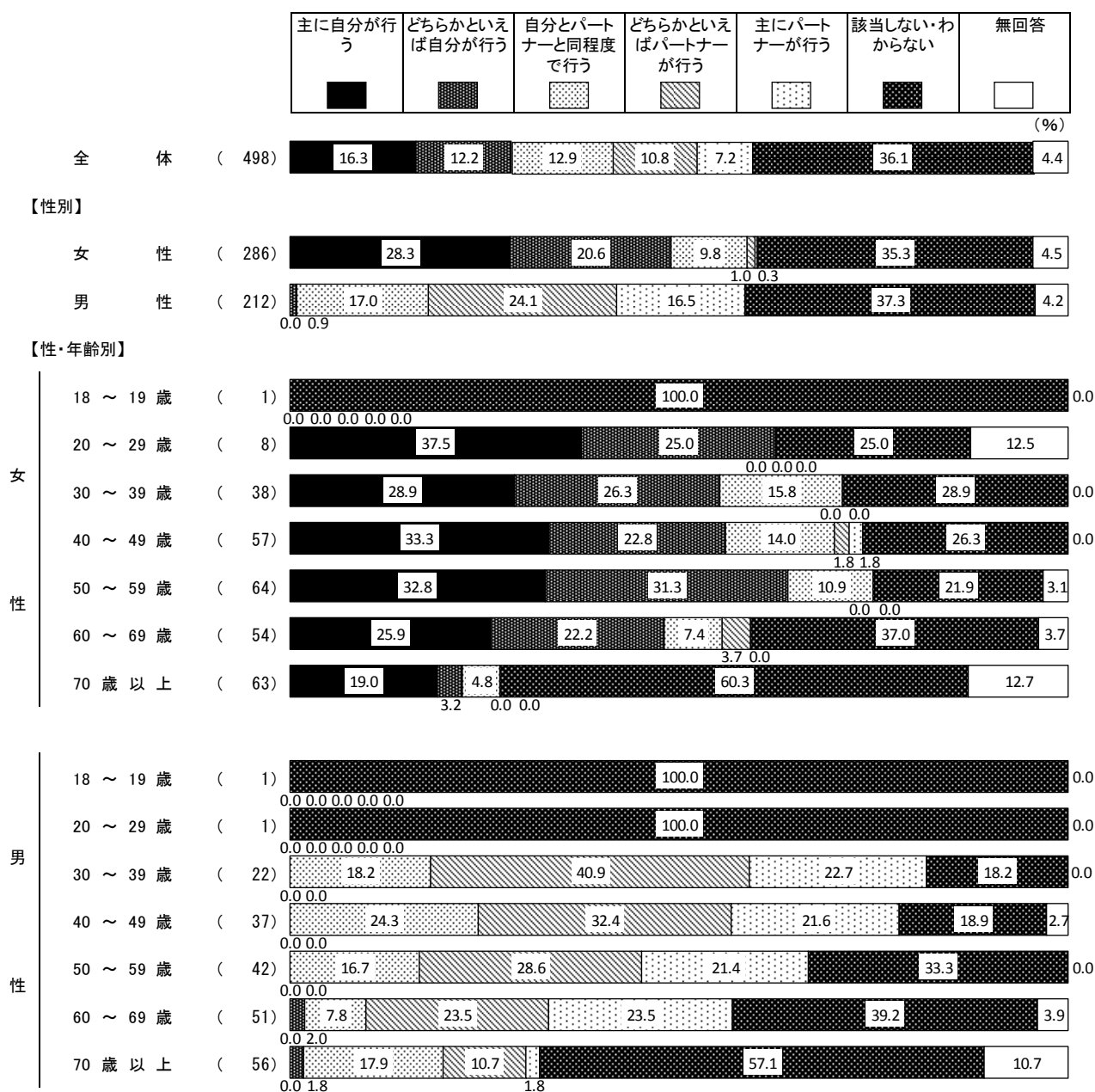
育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ

《育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ》を性別で見ると、「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、女性（48.9%）が男性（0.9%）より48.0ポイント高く、女性と男性で大きな差がみられる。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は女性50～59歳（64.1%）が6割半ばと他の年代よりも高くなっている。『パートナーが行う』は男性40～49歳（54.0%）が他の年代より高くなっている。「自分とパートナーと同程度で行う」は、女性は30歳以上から年代ごとに割合が減る傾向にある。（図3-20）

図3-20 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・年齢別）

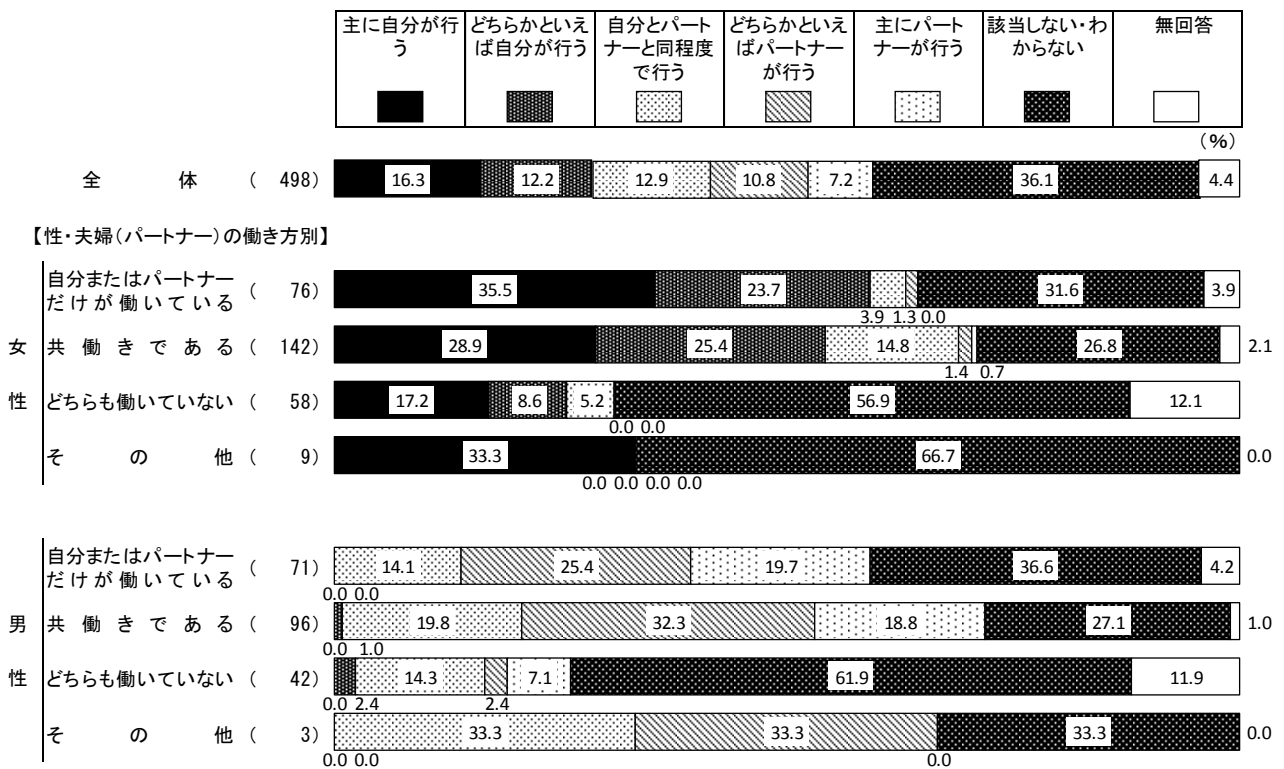
ーイ. 育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、“女性/自分またはパートナーだけが働いている”（59.2%）、“女性/共働きである”（54.3%）で半数を超えている。「主にパートナーが行う」と「どちらかといえばパートナーが行う」を合わせた『パートナーが行う』は、“男性/共働きである”（51.1%）が半数を超えており、他よりも高くなっている。「自分とパートナーと同程度で行う」は女性と男性どちらも“共働きである”の割合が高くなっている。（図3-21）

図3-21 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 -イ. 育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ



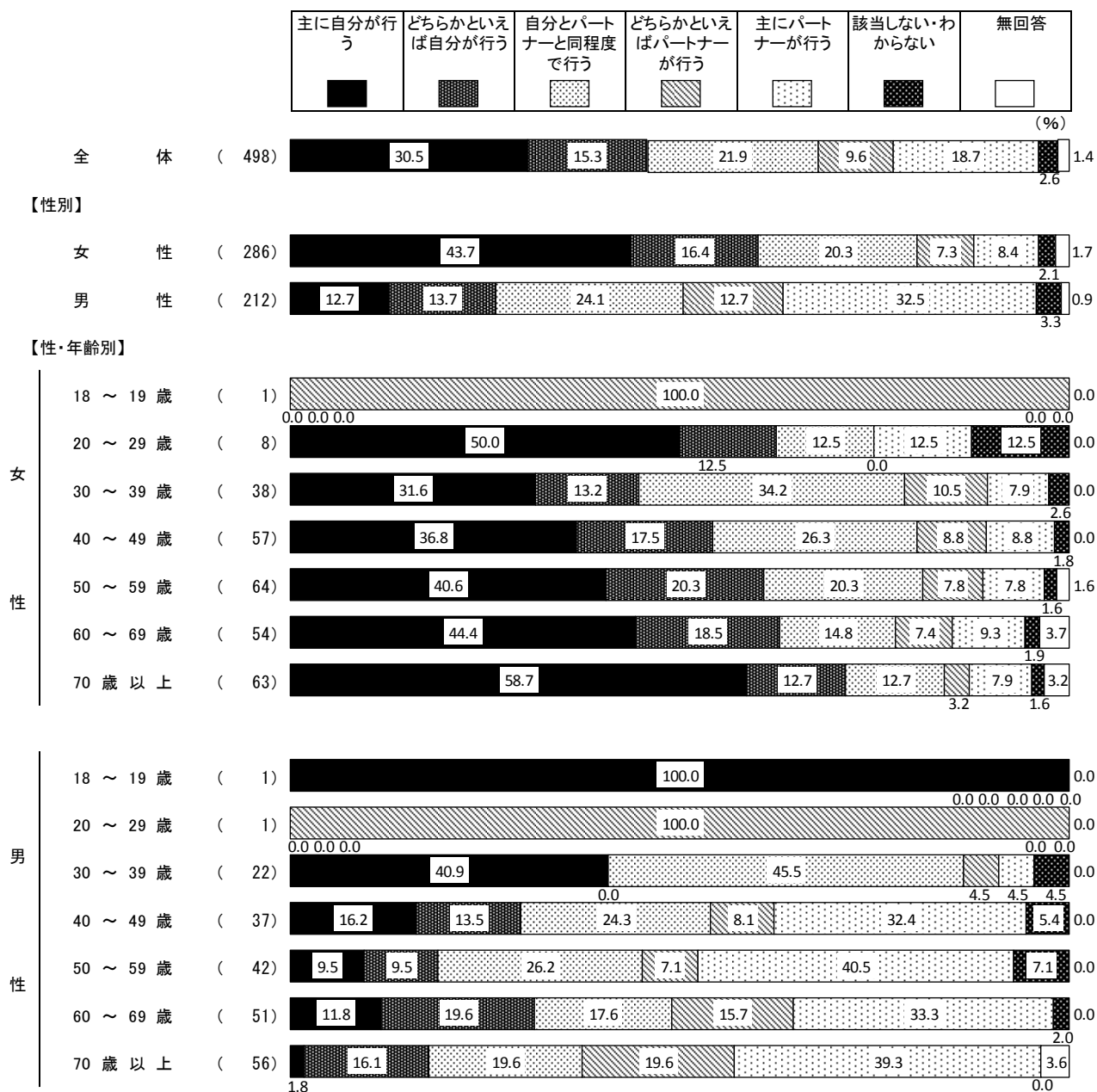
家計の管理

《家計の管理》を性別で見ると、『自分が行う』は、女性（60.1%）が男性（26.4%）より33.7ポイント高くなっている。一方で『パートナーが行う』は、男性（45.2%）が女性（15.7%）より29.5ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は女性の30歳以上から年代ごとに割合が増える傾向にある。（図3-22）

図3-22 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・年齢別）

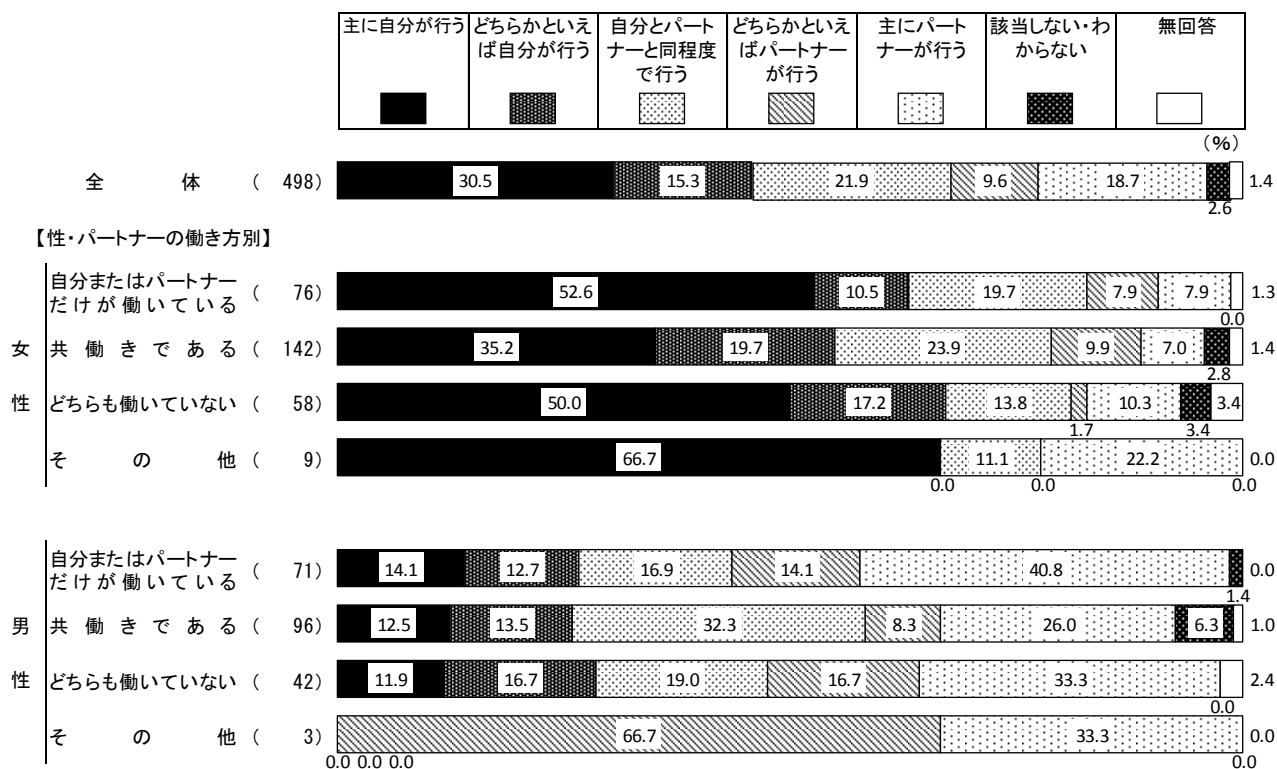
ウ. 家計の管理



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《家計の管理》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、『自分が行う』は、女性のどの属性でも半数を超えている。『パートナーが行う』は、“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（54.9%）と“どちらも働いていない”（50.0%）で半数を超えている。「自分とパートナーと同程度で行う」は女性と男性どちらも“共働きである”の割合が高くなっている。（図3-23）

図3-23 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 ウ. 家計の管理



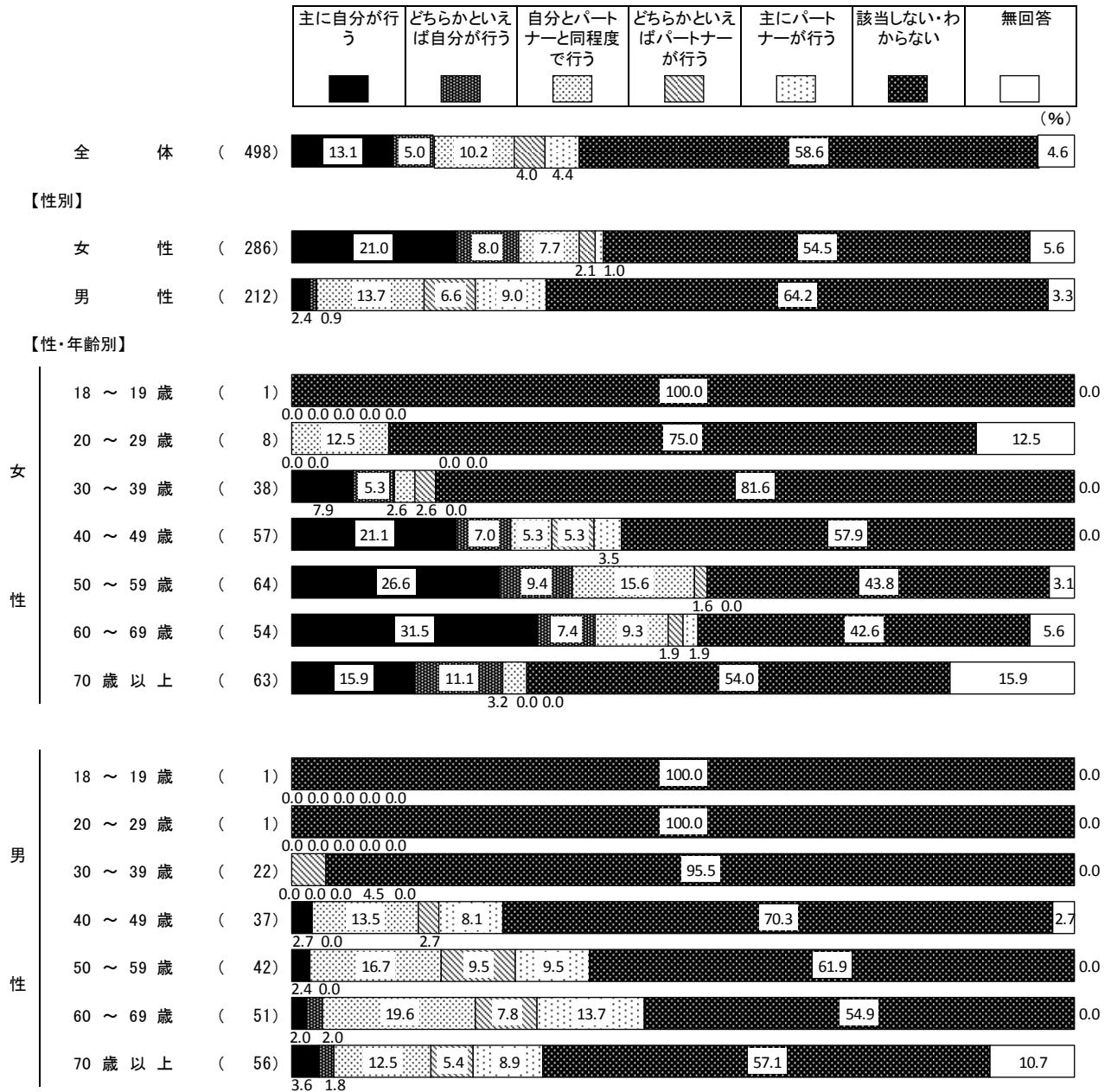
親や家族の介護、看護

《親や家族の介護、看護》を性別で見ると、『自分が行う』は女性（29.0%）が男性（3.3%）より25.7ポイント高く、女性と男性で大きな差がある。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は女性60～69歳（38.9%）が他の年代に比べ高くなっている。『パートナーが行う』は男性60～69歳（21.5%）が他の年代に比べ高くなっている。男性の「自分とパートナーと同程度で行う」はどの年代も1割を超えている。（図3-24）

図3-24 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・年齢別）

一エ. 親や家族の介護、看護

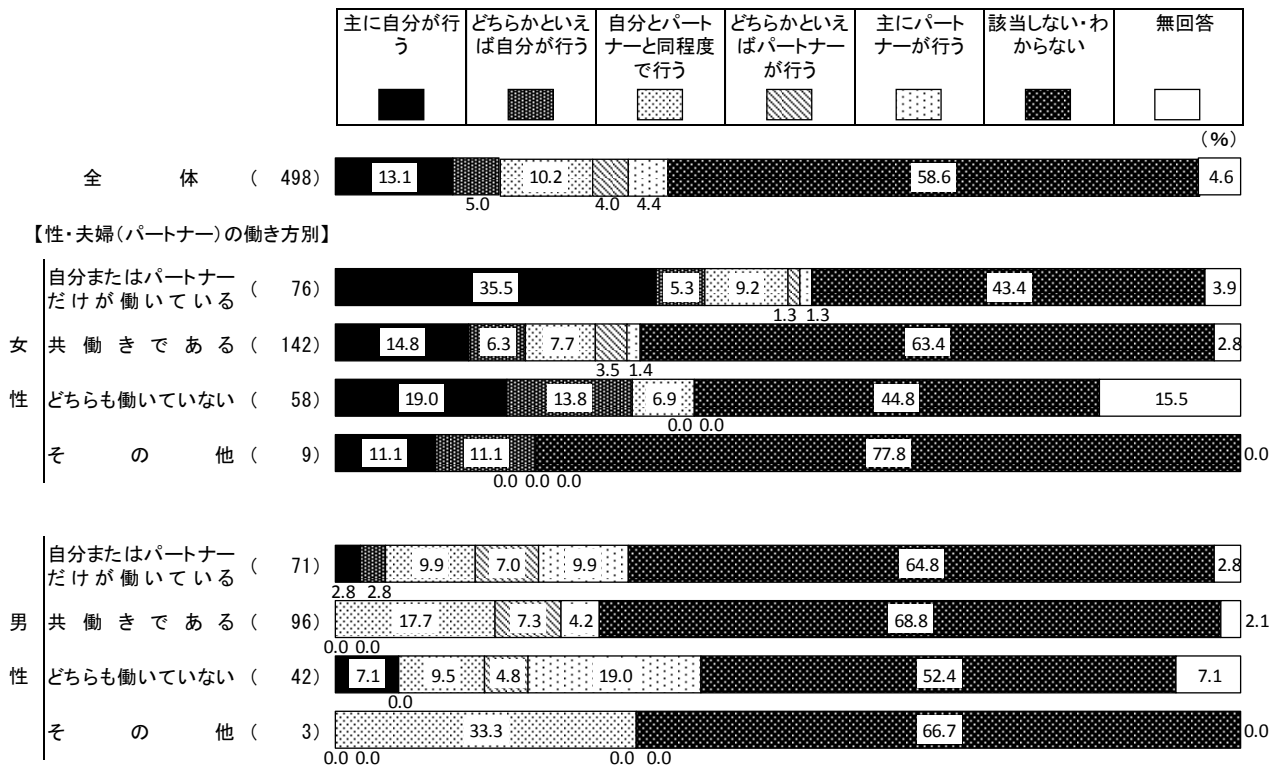


※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《親や家族の介護、看護》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、『自分が行う』は“女性/自分またはパートナーだけが働いている”（40.8%）が最も高くなっている。『パートナーが行う』は“男性/どちらも働いていない”（23.8%）が最も高くなっている。「自分とパートナーと同程度で行う」は“男性/共働きである”（17.7%）が最も高くなっている。（図3-25）

図3-25 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）

一エ. 親や家族の介護、看護



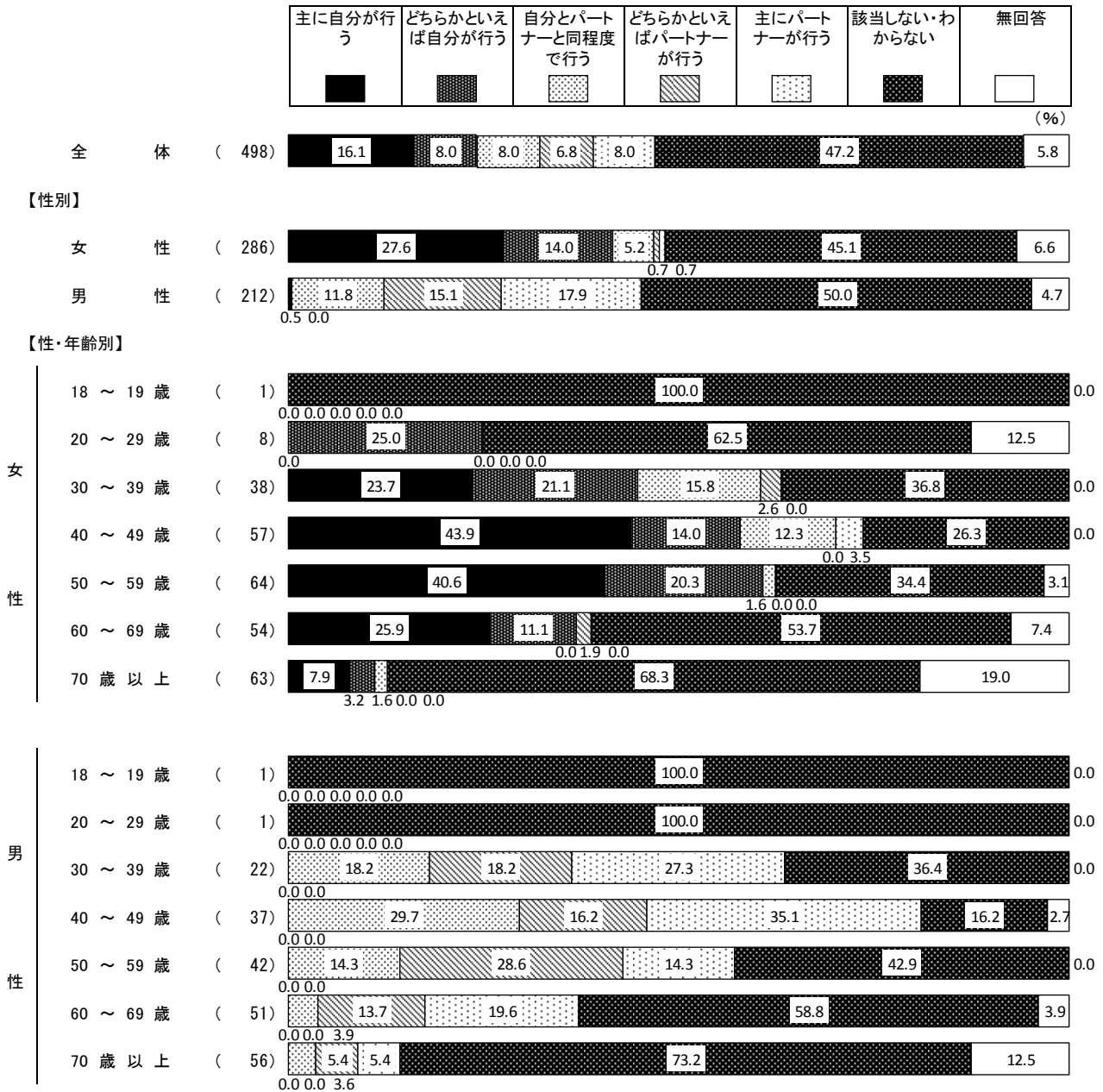
子どもが通う保育所・学校等の行事への参加

《子どもが通う保育所・学校等の行事への参加》を性別で見ると、『自分が行う』は女性(41.6%)が男性(0.5%)より41.1ポイント高く、女性と男性で大きな差がある。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は女性50～59歳(60.9%)で約6割と、他の年代に比べて高くなっている。『パートナーが行う』は男性40～49歳(51.3%)、「自分とパートナーと同程度で行う」は男性40～49歳(29.7%)と、どちらも他の年代に比べて高くなっている。(図3-26)

図3-26 夫婦(パートナー)の役割分担(現状)(性別・年齢別)

一オ. 子どもが通う保育所・学校等の行事への参加

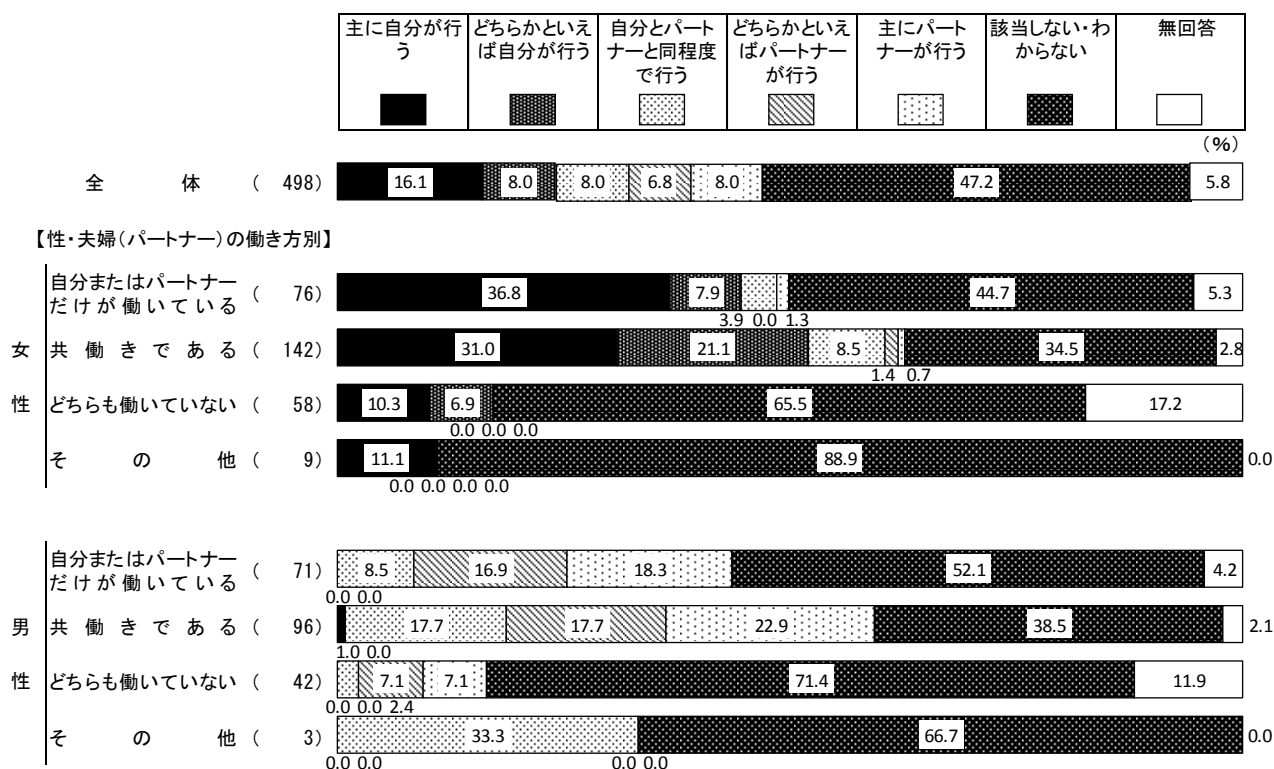


※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《子どもが通う保育所・学校等の行事への参加》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、『自分が行う』は、“女性/共働きである”（52.1%）が“男性/共働きである”（1.0%）より51.1ポイント高く男女で大きな差がある。『パートナーが行う』は、“男性/共働きである”（40.6%）が最も高くなっている。「自分とパートナーと同程度で行う」は、“男性/共働きである”（17.7%）が最も高くなっている。（図3-27）

図3-27 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・夫婦の働き方別）

一オ. 子どもが通う保育所・学校等の行事への参加



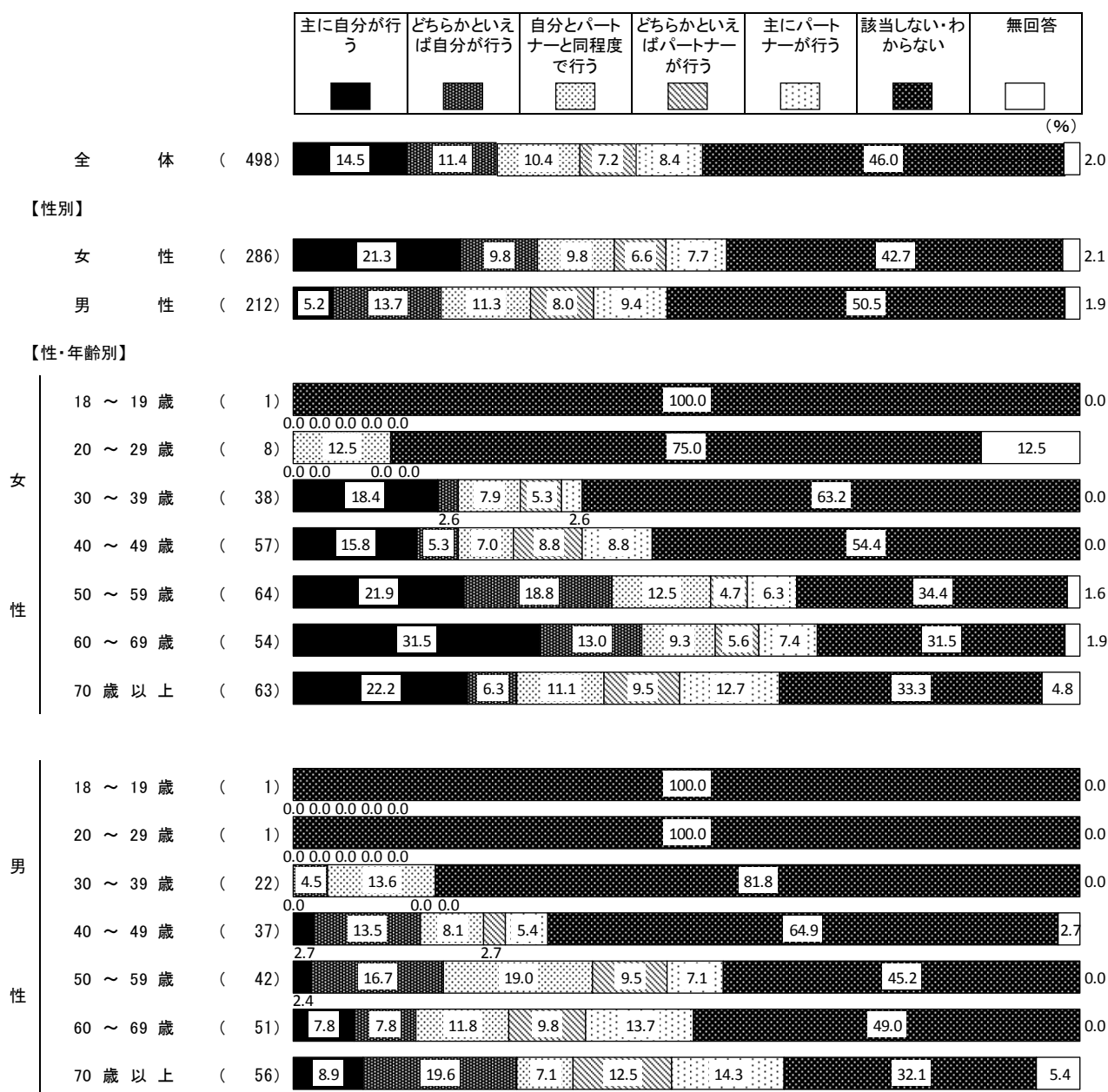
町会・自治会などの地域活動

《町会・自治会などの地域活動》を性別で見ると、『自分が行う』は、女性(31.1%)が男性(18.9%)より12.2ポイント高くなっている。『パートナーが行う』は、男性(17.4%)が女性(14.3%)より3.1ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は、女性60～69歳(44.5%)、女性50～59歳(40.7%)と4割を超え、他の年代よりも高くなっている。『パートナーが行う』は男性70歳以上(26.8%)で2割半ばを超え、他の年代よりも高くなっている。「自分とパートナーと同程度行う」は男性50～59歳(19.0%)で約2割と、他の年代よりも高くなっている。(図3-28)

図3-28 夫婦(パートナー)の役割分担(現状)(性別・年齢別)

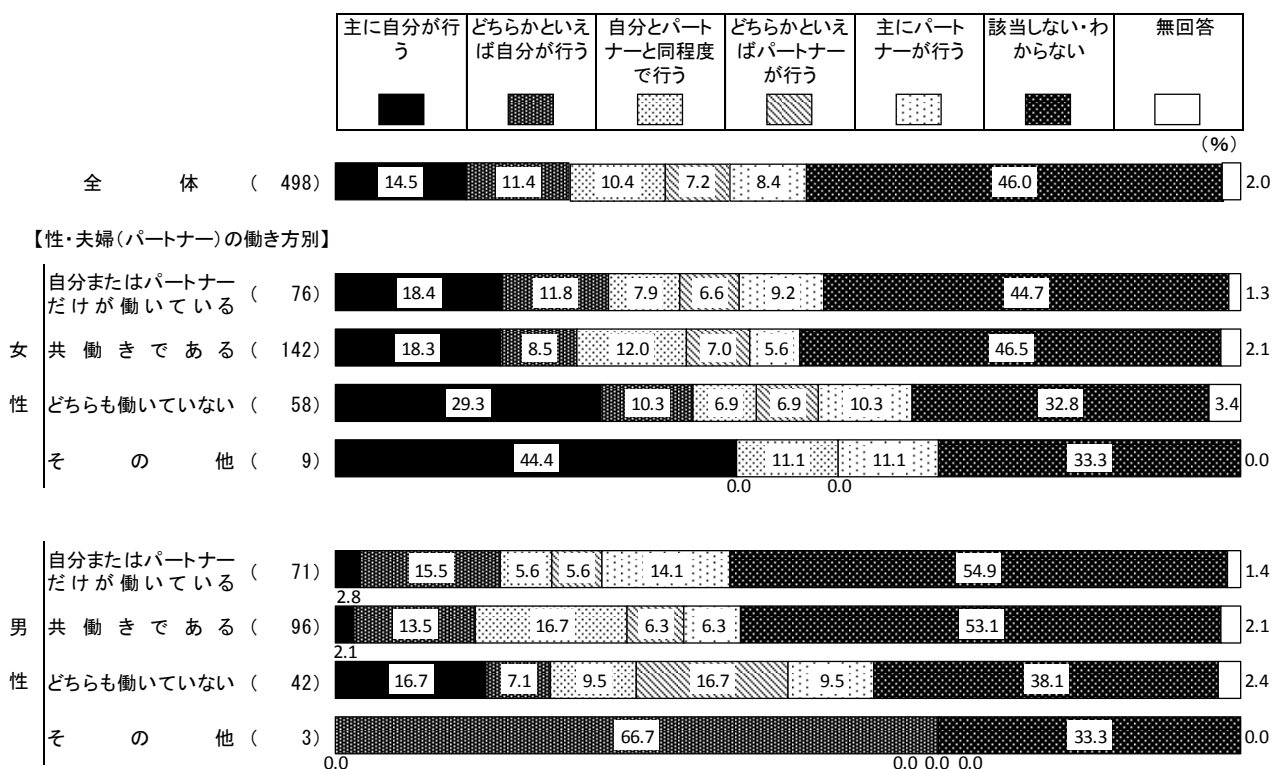
一カ. 町会・自治会などの地域活動



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《町会・自治会などの地域活動》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、『自分が行う』は“女性/どちらも働いていない”（39.6%）で約4割と最も高くなっている。『パートナーが行う』は、“男性/どちらも働いていない”（26.2%）で2割半ばを超えて最も高くなっている。「自分とパートナーと同程度行う」は“男性/共働きである”（16.7%）で1割半ばを超えて最も高くなっている。（図3-29）

図3-29 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 一カ．町会・自治会などの地域活動



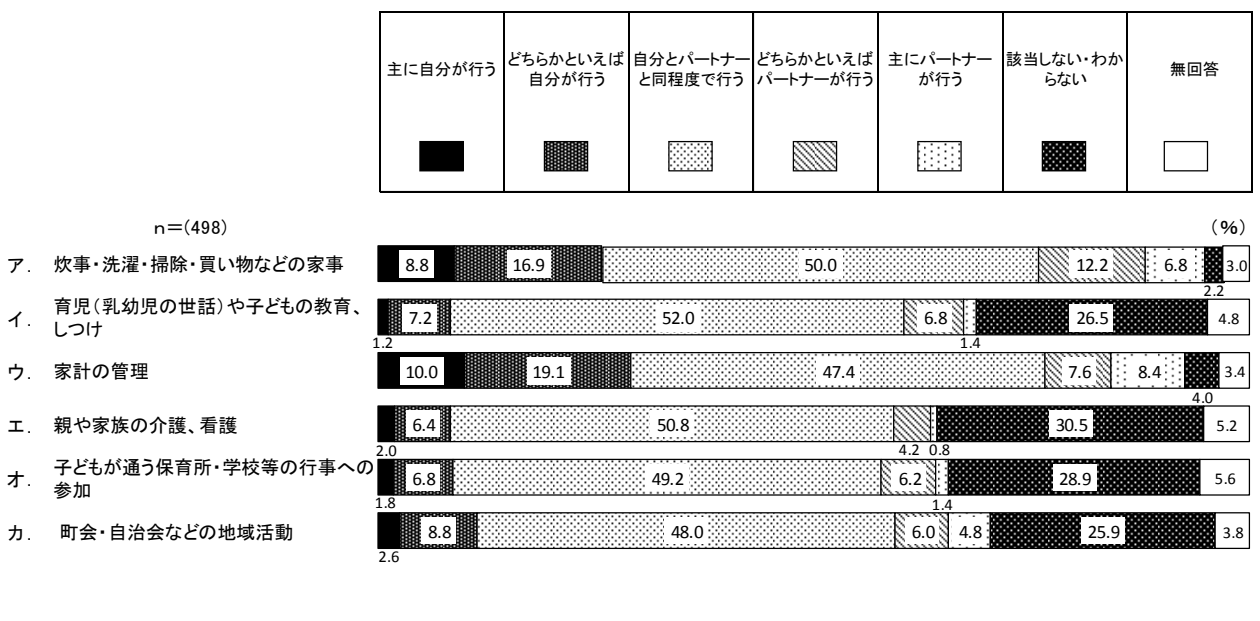
(3) 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）

- ◇「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、“家計の管理”で約3割
- ◇「自分とパートナーと同程度で行う」は、いずれも5割前後
- ◇「主にパートナーが行う」と「どちらかといえばパートナーが行う」を合わせた『パートナーが行う』は、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”で約2割

結婚している方におたずねします（事実婚（*）の方もお答えください）

問8 家庭生活での、夫婦の（またはパートナーとの）役割分担はどのように分担することが望ましいと考えますか。

図3-30



結婚している方（事実婚含む）に、夫婦の（またはパートナーとの）役割分担の希望を聞いたところ、「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、“家計の管理”（29.1%）で約3割と最も高く、次いで“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（25.7%）、“町会・自治会などの地域活動”（11.4%）の順となっている。また、「自分とパートナーと同程度で行う」は、“育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ”（52.0%）で5割を超え最も高く、他の各項目でも5割前後となっている。「主にパートナーが行う」と「どちらかといえばパートナーが行う」を合わせた『パートナーが行う』は、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（19.0%）で約2割と最も高く、次いで、“家計の管理”（16.0%）、“町会・自治会などの地域活動”（10.8%）の順となっている。（図3-30）

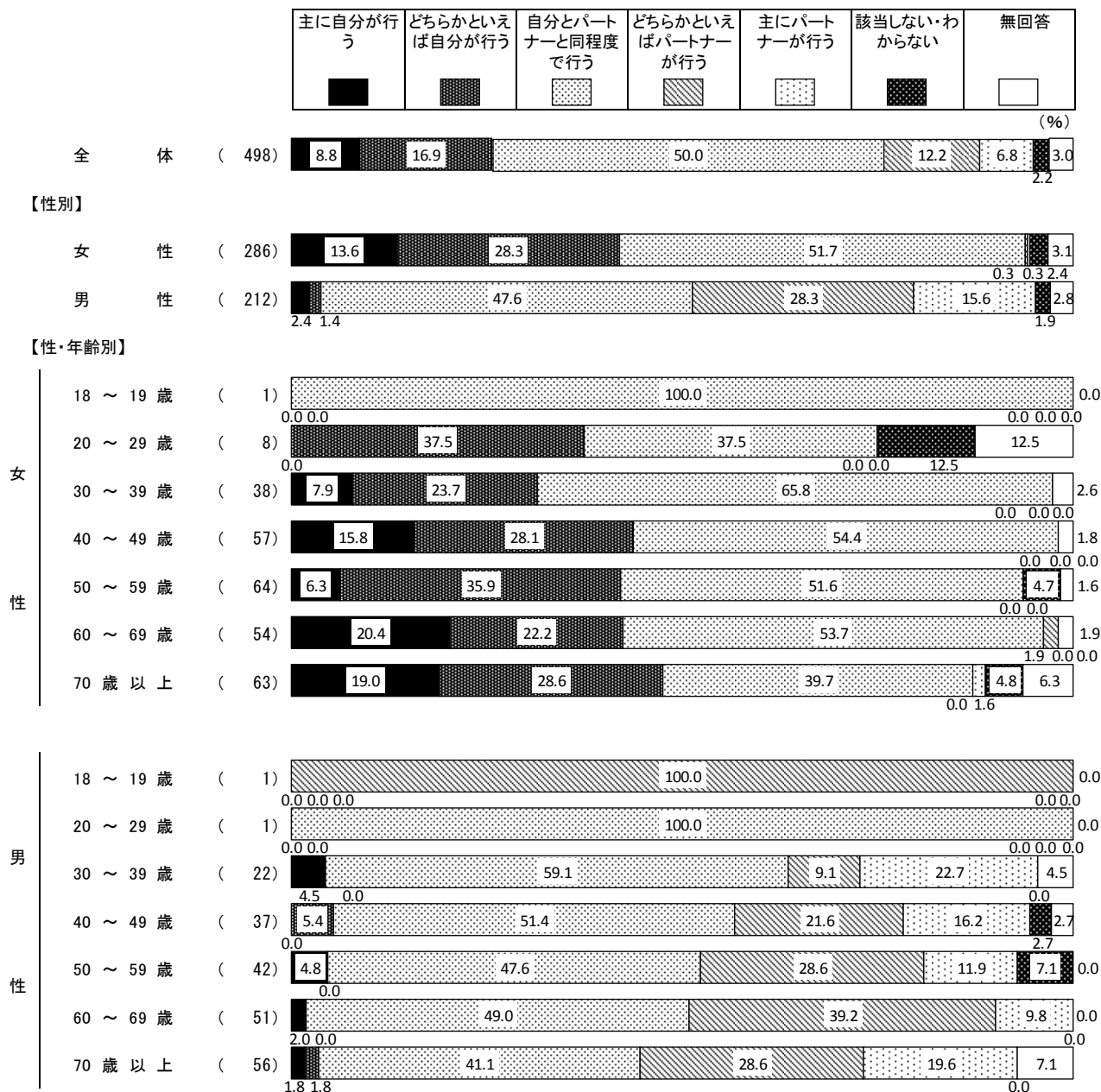
炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事

《炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事》を性別で見ると、『自分が行う』は女性（41.9%）が男性（3.8%）より38.1ポイント高く、女性と男性で大きな差がみられる。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は女性70歳以上（47.6%）で約5割と最も高くなっている。また、『パートナーが行う』は男性60～69歳（49.0%）で約5割と最も高くなっている。（図3-31）

図3-31 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・年齢別）

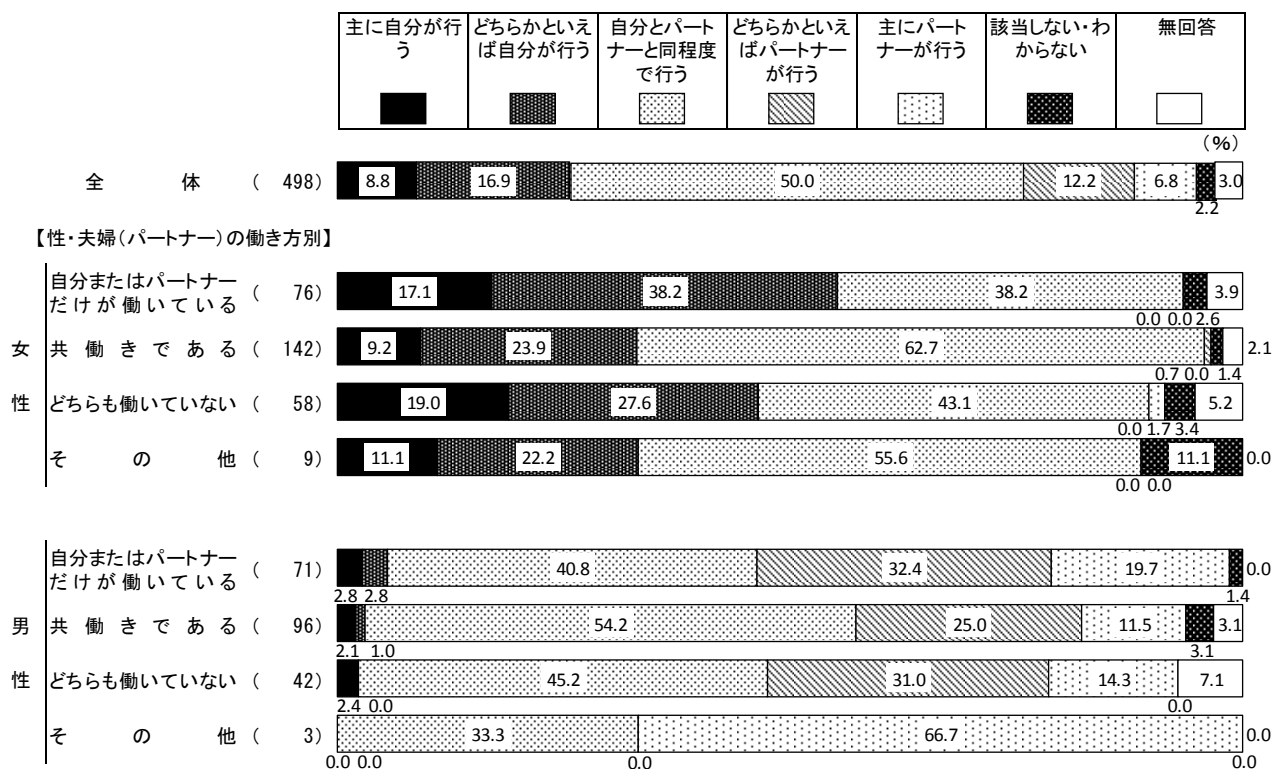
ア. 炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、『自分が行う』は“女性/自分またはパートナーだけが働いている”（55.3%）で5割台半ばと最も高くなっている。一方、『パートナーが行う』は“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（52.1%）で5割を超えて最も高くなっている。（図3-32）

図3-32 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 ア. 炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事



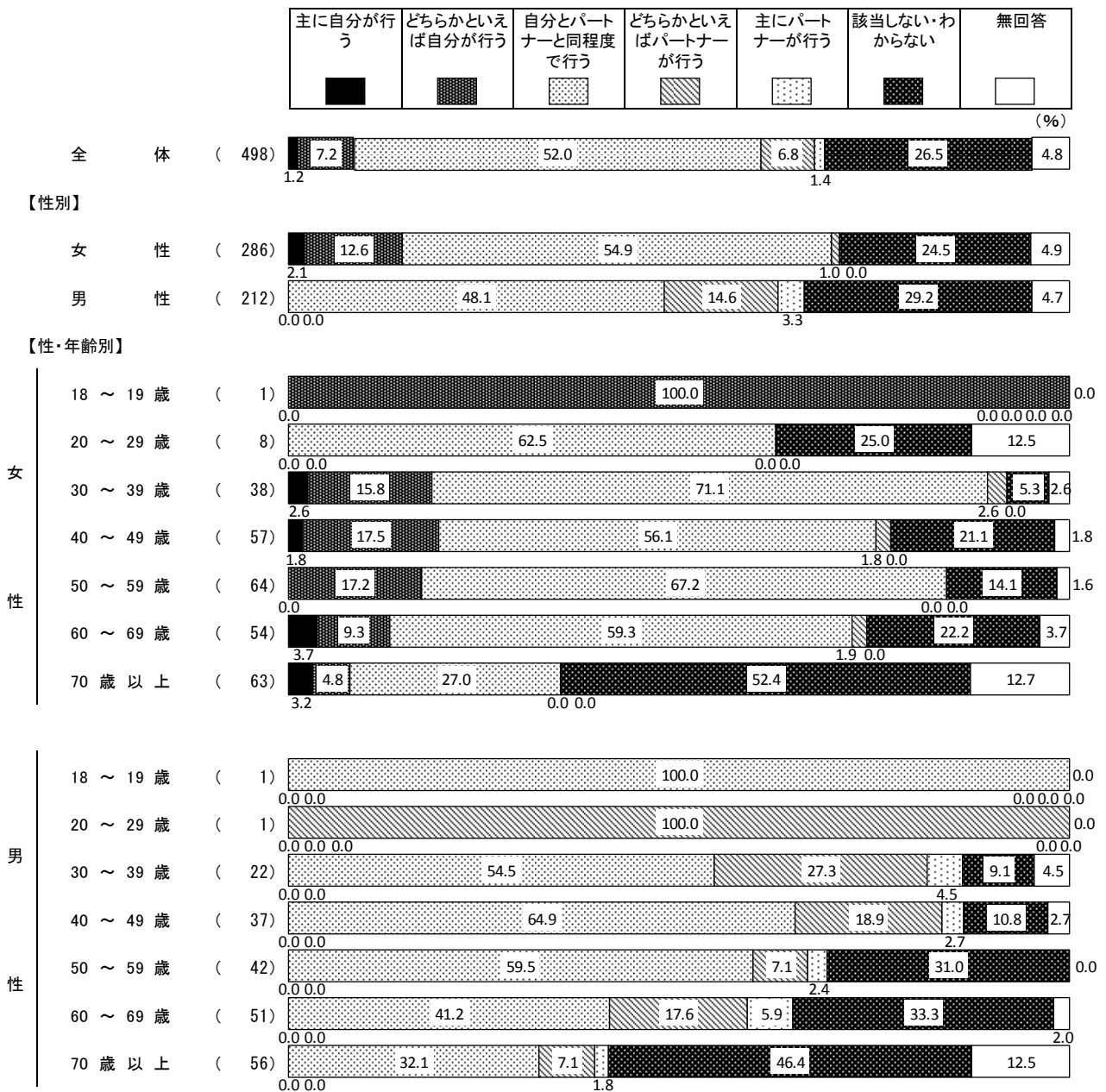
育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ

《育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ》を性別で見ると、『自分が行う』は男性が0.0%で、女性が14.7%、『パートナーが行う』は男性（17.9%）が女性（1.0%）より16.9ポイント高く、いずれも女性と男性で大きな差がみられる。

性別・年齢別で見ると、『自分が行う』は、女性40～49歳（19.3%）で約2割となっている。『パートナーが行う』は男性60～69歳（23.5%）、男性40～49歳（21.6%）で2割を超えている。（図3-33）

図3-33 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・年齢別）

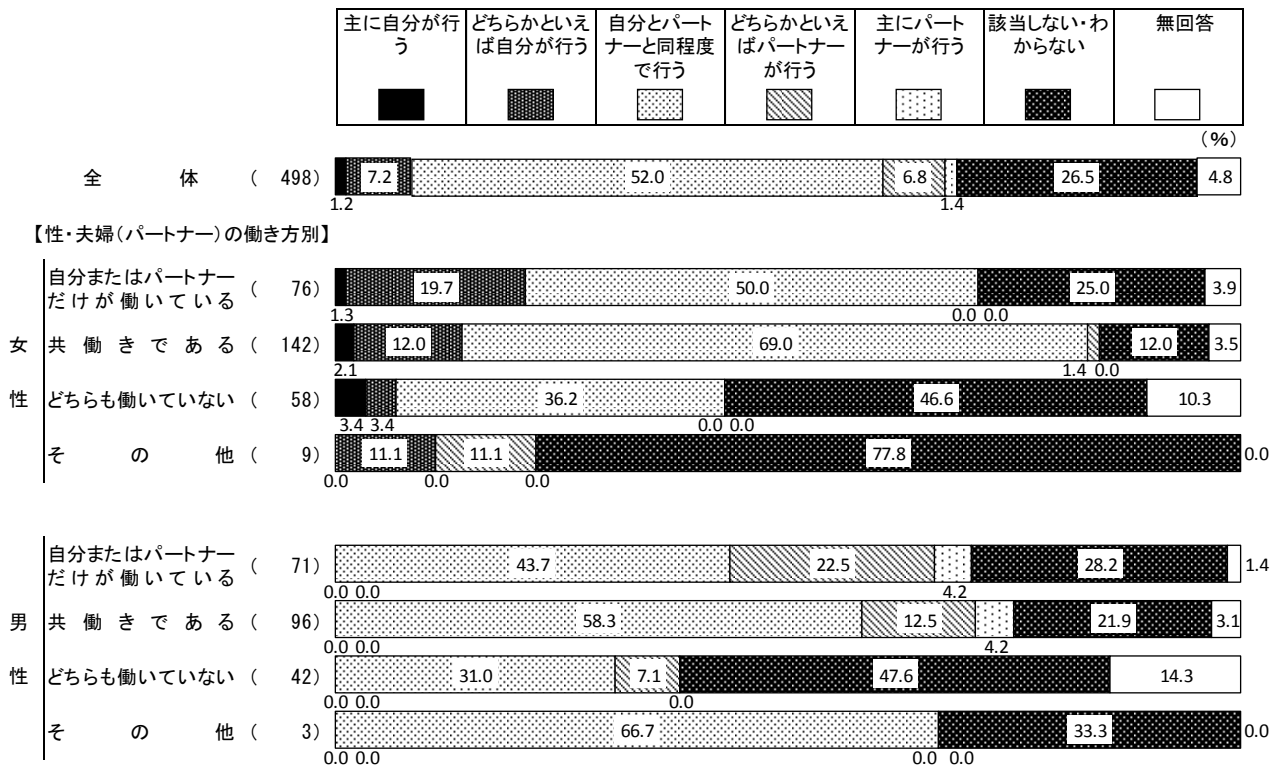
ーイ. 育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別で見ると、『自分が行う』は“女性/自分またはパートナーだけが働いている”（21.0%）で約2割と最も高くなっている。一方、『パートナーが行う』は“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（26.7%）で2割半ばを超え最も高くなっている。（図3-34）

図3-34 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 -イ. 育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ

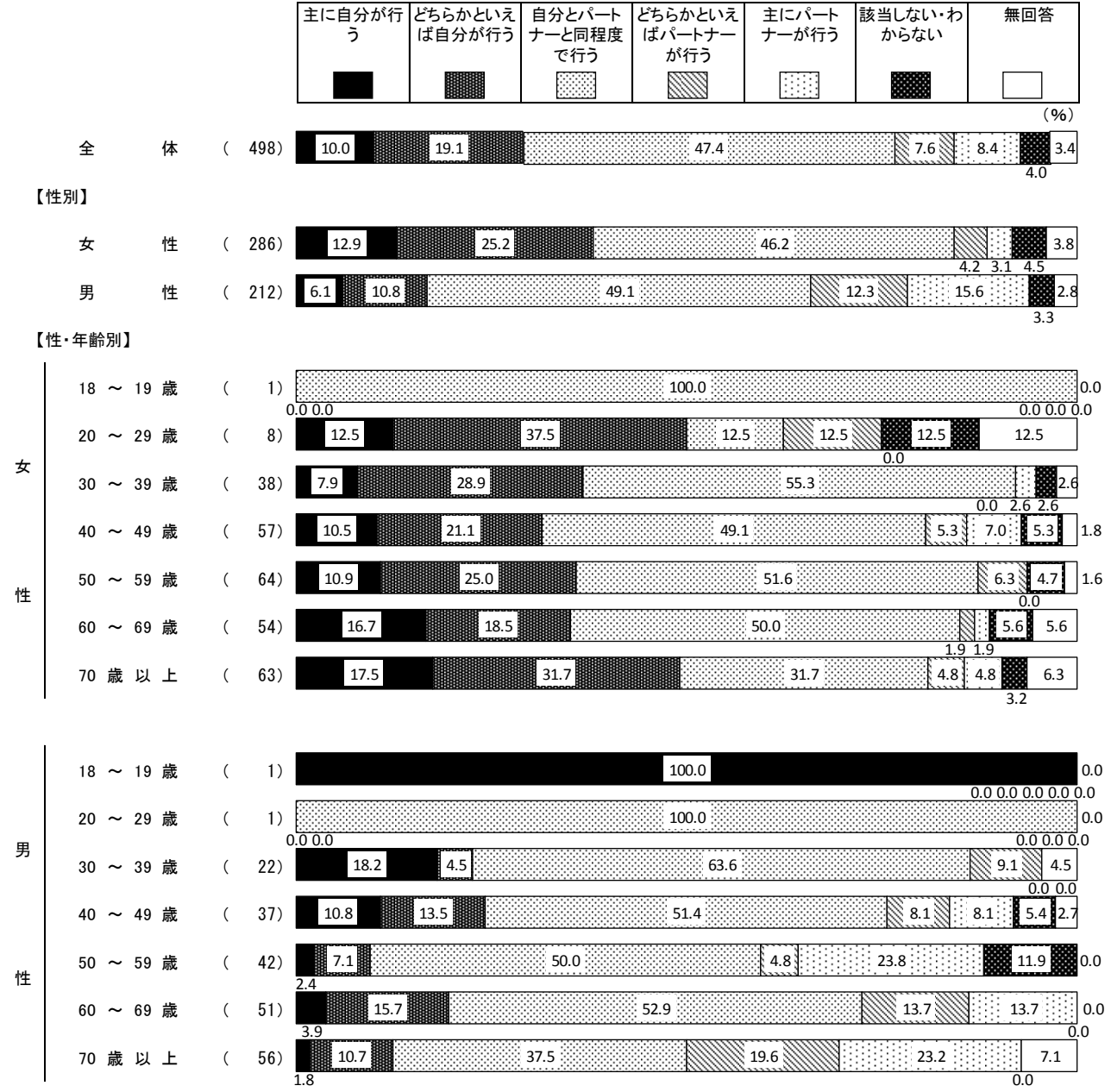


家計の管理

《家計の管理》を性別でみると、『自分が行う』は女性（38.1%）が男性（16.9%）より21.2ポイント高い一方、『パートナーが行う』は男性（27.9%）が女性（7.3%）より20.6ポイント高く、女性と男性で大きな差がみられる。

性別・年齢別でみると、『自分が行う』は、女性70歳以上（49.2%）で約5割と最も高くなっている。『パートナーが行う』は、男性70歳以上（42.8%）で4割を超えて最も高くなっている。（図3-35）

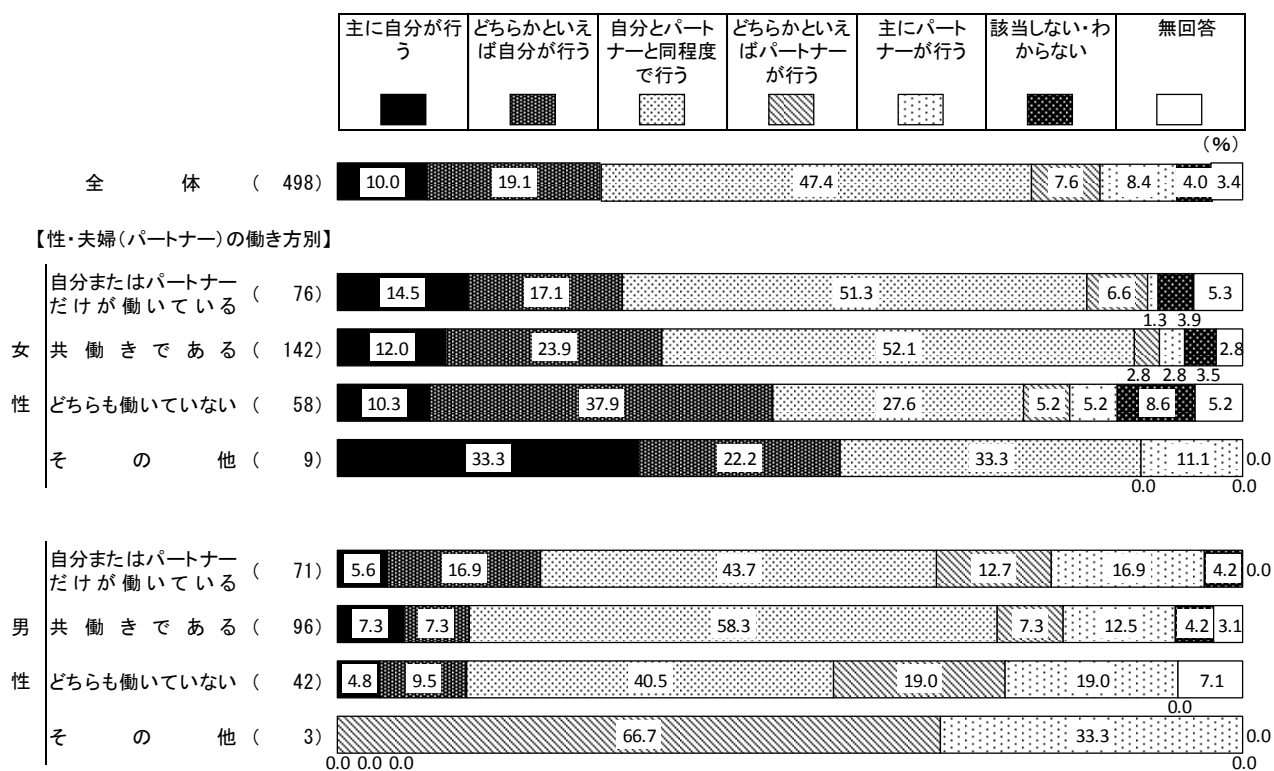
図3-35 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・年齢別）
 ウ. 家計の管理



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《家計の管理》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別で見ると、『自分が行う』は“女性/どちらも働いていない”（48.2%）で約5割と最も高くなっている。一方、『パートナーが行う』は“男性/どちらも働いていない”（38.0%）で約4割と最も高くなっている。（図3-36）

図3-36 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 ウ. 家計の管理



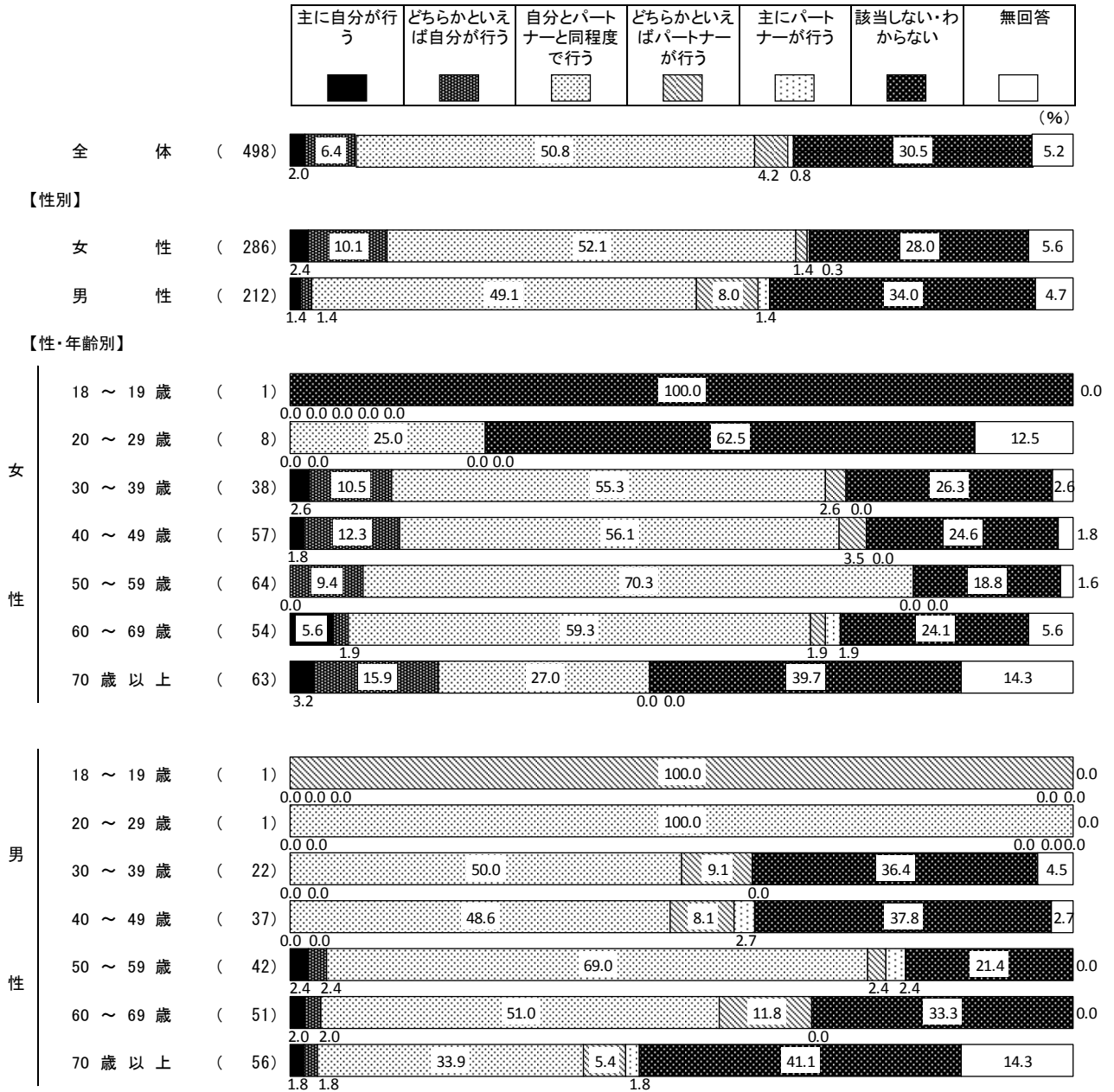
親や家族の介護、看護

《親や家族の介護、看護》を性別で見ると、『自分が行く』は女性（12.5%）が男性（2.8%）より9.7ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「自分とパートナーと同程度で行う」は女性 50～59 歳（70.3%）、男性 50～59 歳（69.0%）で約7割と、どちらも他の年代に比べて高くなっている。（図3-37）

図3-37 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・年齢別）

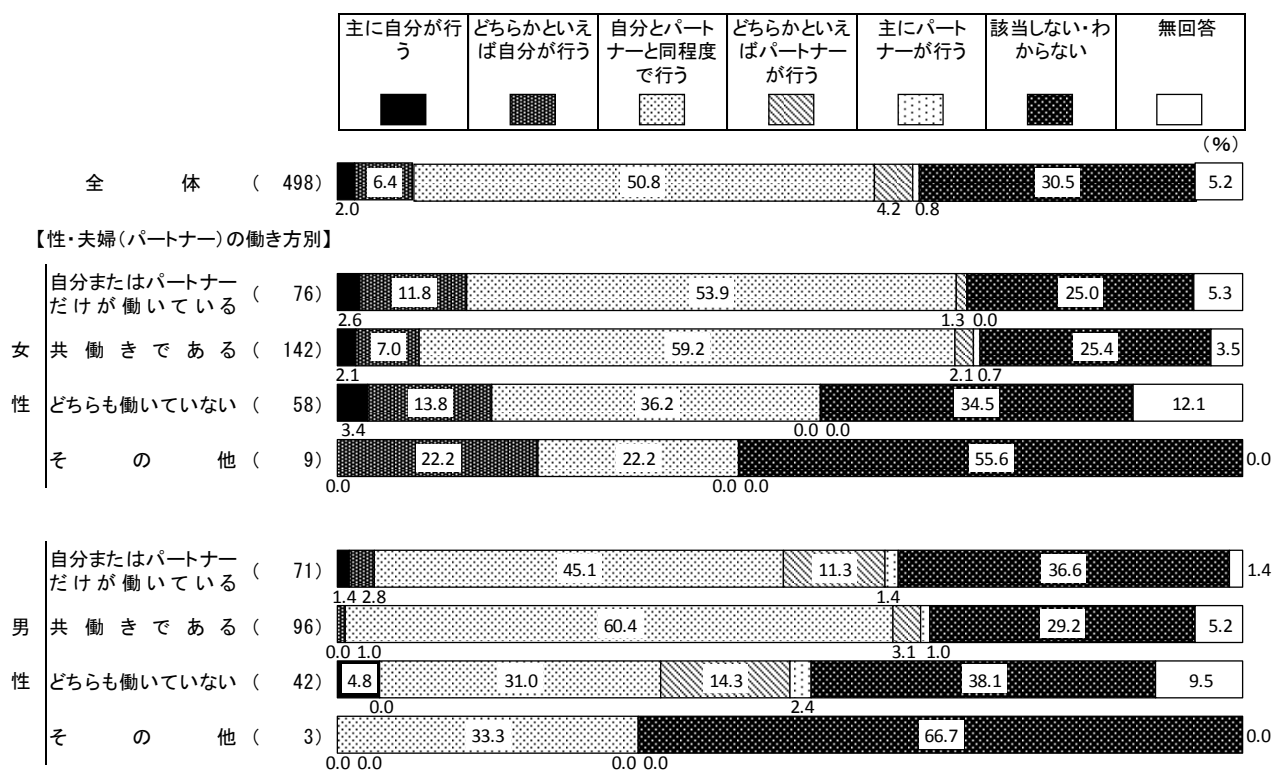
一エ. 親や家族の介護、看護



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《親や家族の介護、看護》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、「自分とパートナーと同程度で行う」は“男性/共働きである”（60.4%）で約6割と最も高くなっている。（図3-38）

図3-38 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 一エ. 親や家族の介護、看護



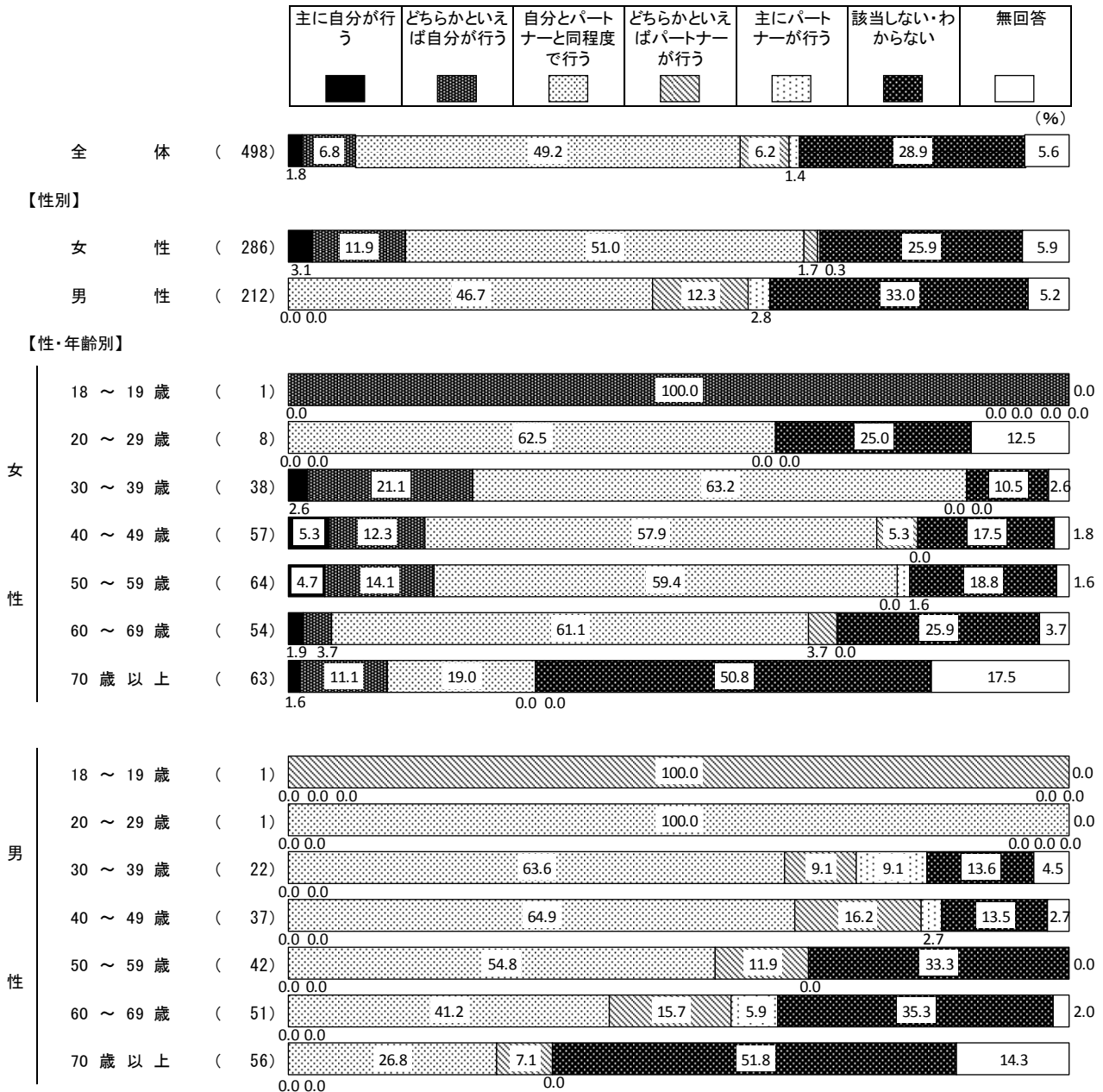
子どもが通う保育所・学校等の行事への参加

《子どもが通う保育所・学校等の行事への参加》を性別で見ると、『自分が行く』は男性が0.0%、女性が15.0%、『パートナーが行く』は男性（15.1%）が女性（2.0%）より13.1ポイント高く、いずれも女性と男性で大きな差がみられる。

性別・年齢別で見ると、「自分とパートナーと同程度で行う」は、男性40～49歳（64.9%）で6割台半ばと最も高くなっている。（図3-39）

図3-39 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・年齢別）

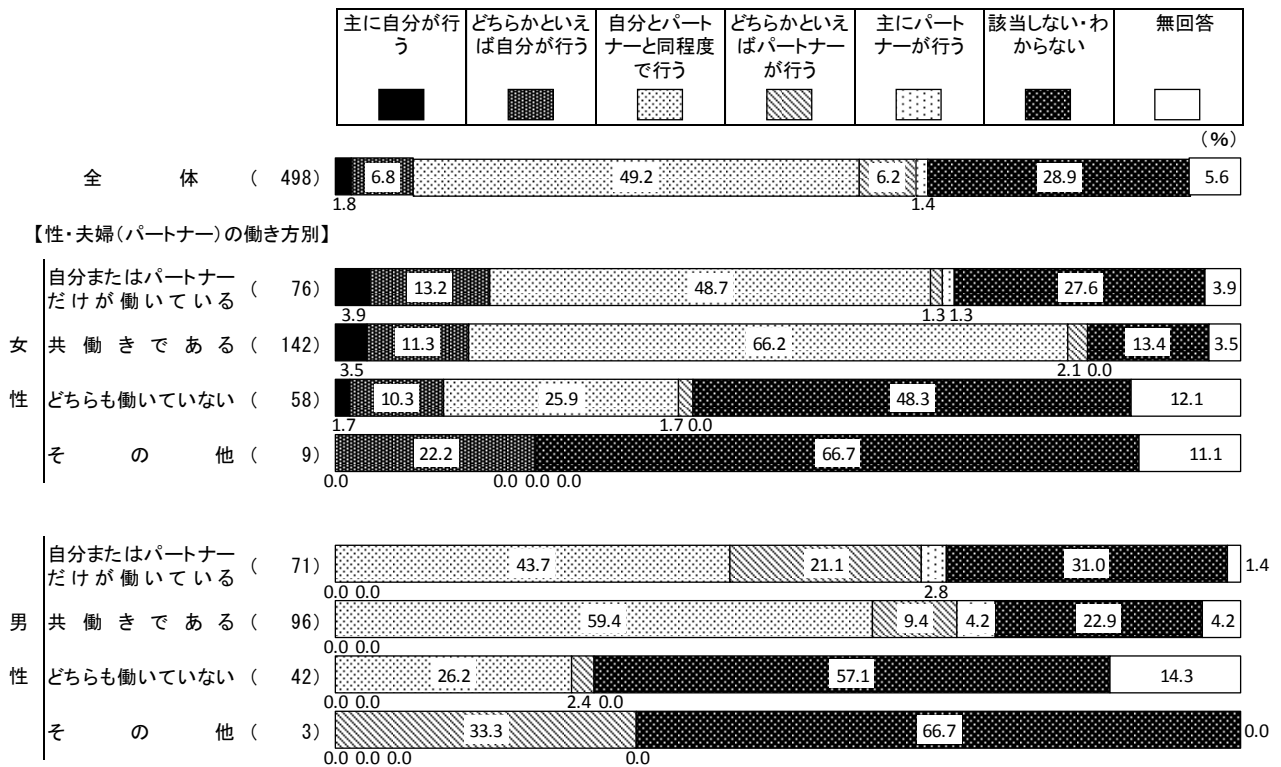
一オ. 子どもが通う保育所・学校等の行事への参加



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《子どもが通う保育所・学校等の行事への参加》を性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、「自分とパートナーと同程度で行う」は“女性/共働きである”（66.2%）で6割台半ばと最も高くなっている。一方、『パートナーが行う』は“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（23.9%）で2割を超えて最も高くなっている。（図3-40）

図3-40 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 一オ. 子どもが通う保育所・学校等の行事への参加



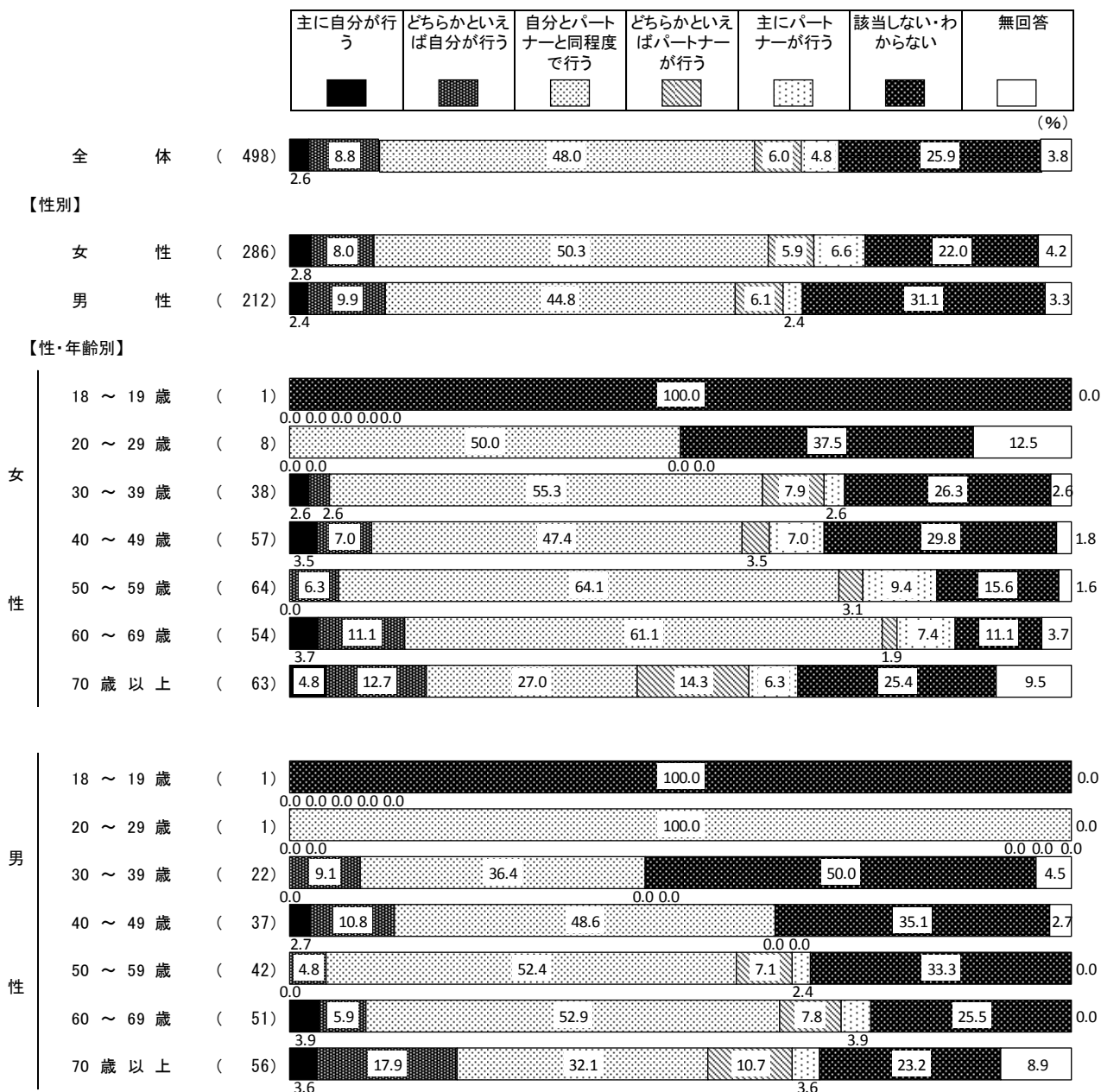
町会・自治会などの地域活動

《町会・自治会などの地域活動》を性別で見ると、『パートナーが行う』は女性（12.5%）が男性（8.5%）より4.0ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『パートナーが行う』は女性70歳以上（20.6%）で約2割となっている。
 (図3-41)

図3-41 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・年齢別）

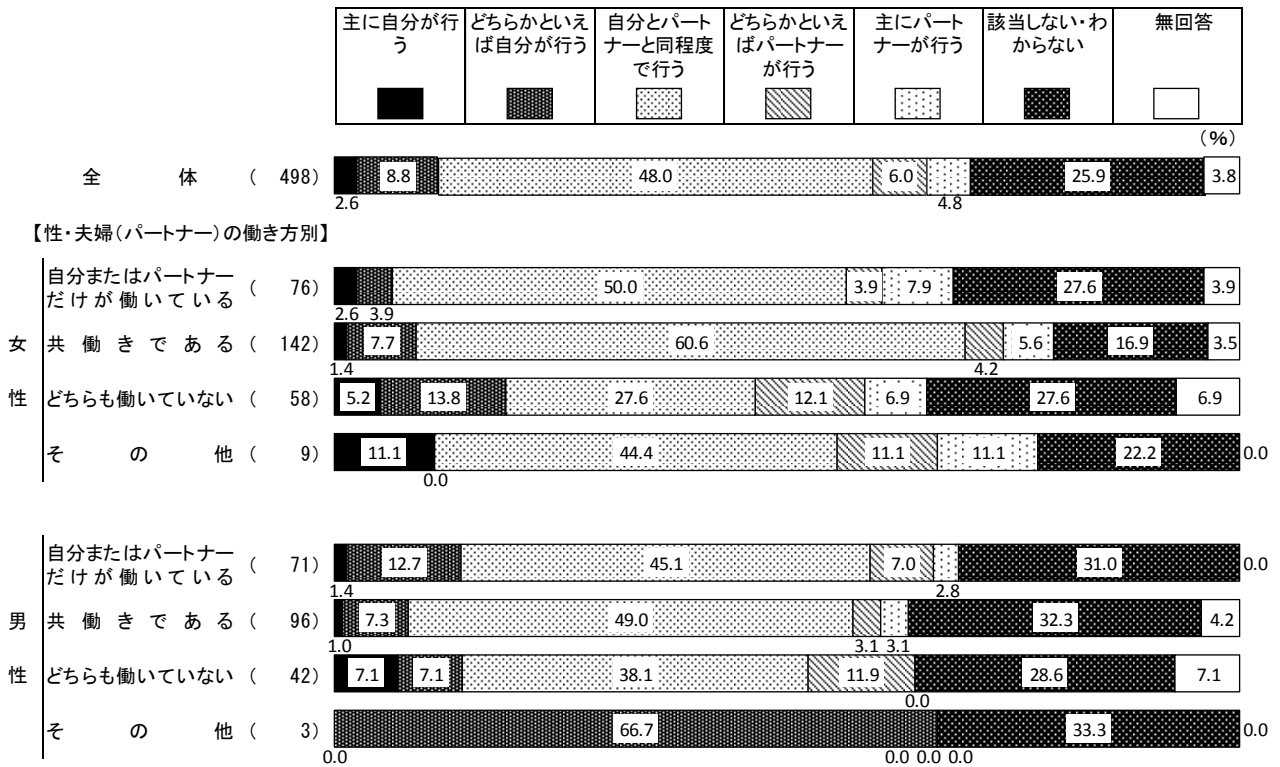
一カ. 町会・自治会などの地域活動



※女性・男性ともに「18～19歳」「20～29歳」、男性の「30～39歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

《町会・自治会などの地域活動》を性別・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「自分とパートナーと同程度で行う」は“女性/共働きである”（60.6%）で約6割と最も高くなっている。（図3-42）

図3-42 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）（性別・夫婦（パートナー）の働き方別）
 ーカ. 町会・自治会などの地域活動



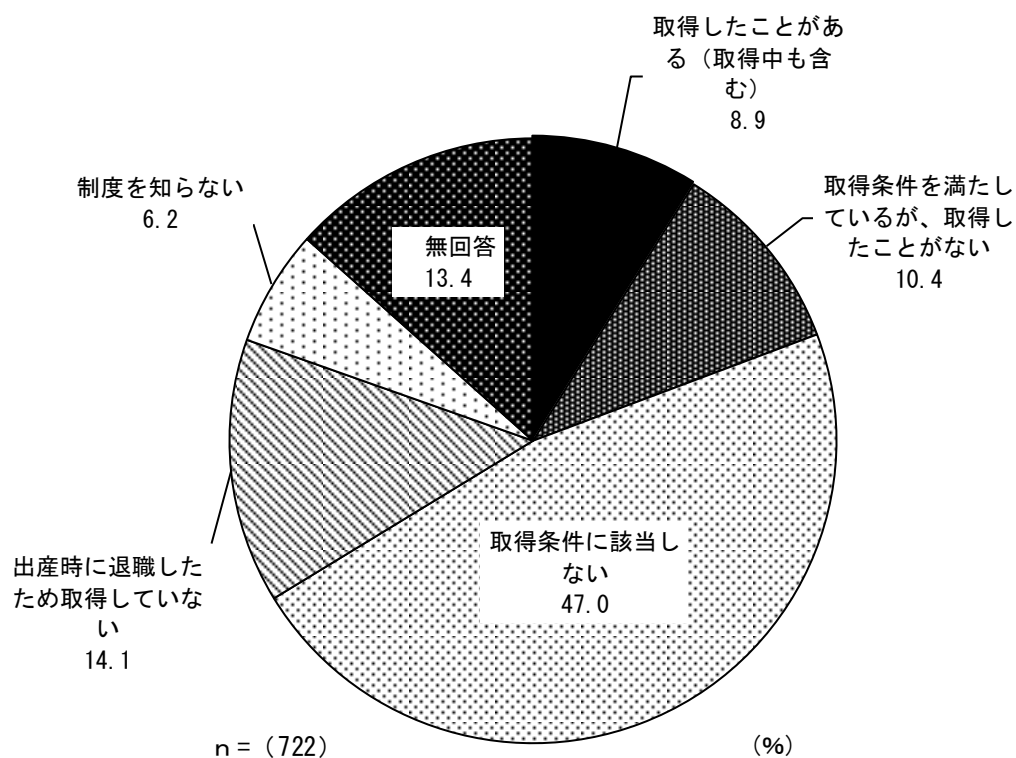
(4) 育児休業取得の実態

◇「取得したことがある」は1割未満

◇「取得条件に該当しない」は4割台半ばを超えている

問9 あなたは育児休業を取得したことがありますか。

図3-43

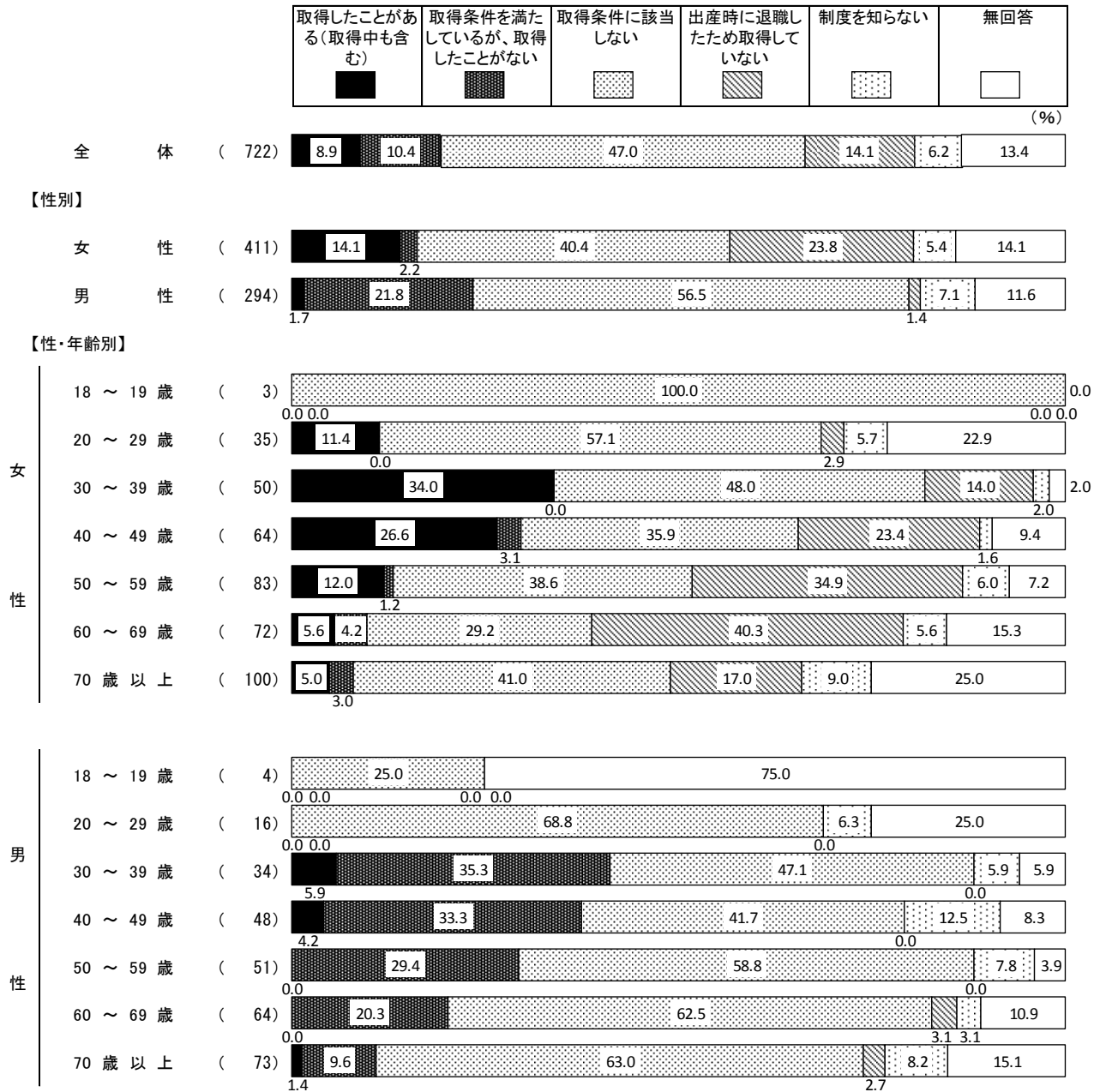


育児休業を取得したことがあるか聞いたところ、「取得したことがある(取得中も含む)」(8.9%)は1割未満、「取得条件に該当しない」(47.0%)は4割台半ばを超えている。(図3-43)

性別でみると、「取得条件を満たしているが、取得したことがない」は男性(21.8%)が女性(2.2%)より19.6ポイント高くなっている。一方、「取得したことがある(取得中も含む)」は女性(14.1%)が男性(1.7%)より12.4ポイント高くなっており、女性と男性で大きな差がみられる。

性別・年齢別でみると、「取得したことがある(取得中も含む)」は女性30～39歳(34.0%)で3割台半ばと他の年代に比べ高くなっている。(図3-44)

図3-44 育児休業取得の実態(性別・年齢別)



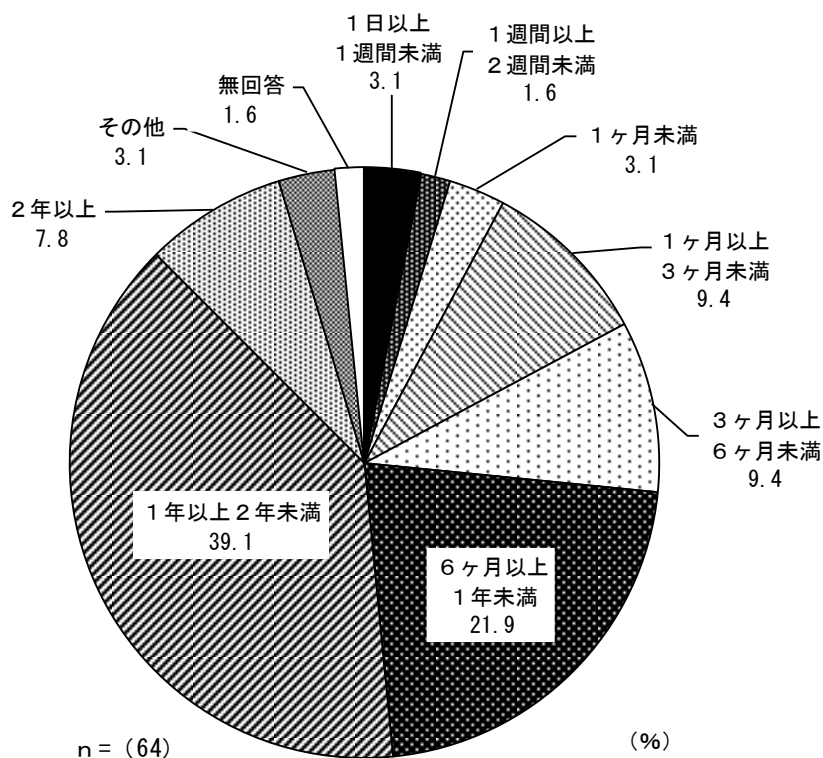
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(4-1) 育児休業の取得期間

◇「1年以上2年未満」が約4割

問9-1 育児休業の取得期間の長さを教えてください。あてはまる番号に1つ○をつけてください。複数回取得したことがある方は、取得した中で最長の期間に○をつけてください。

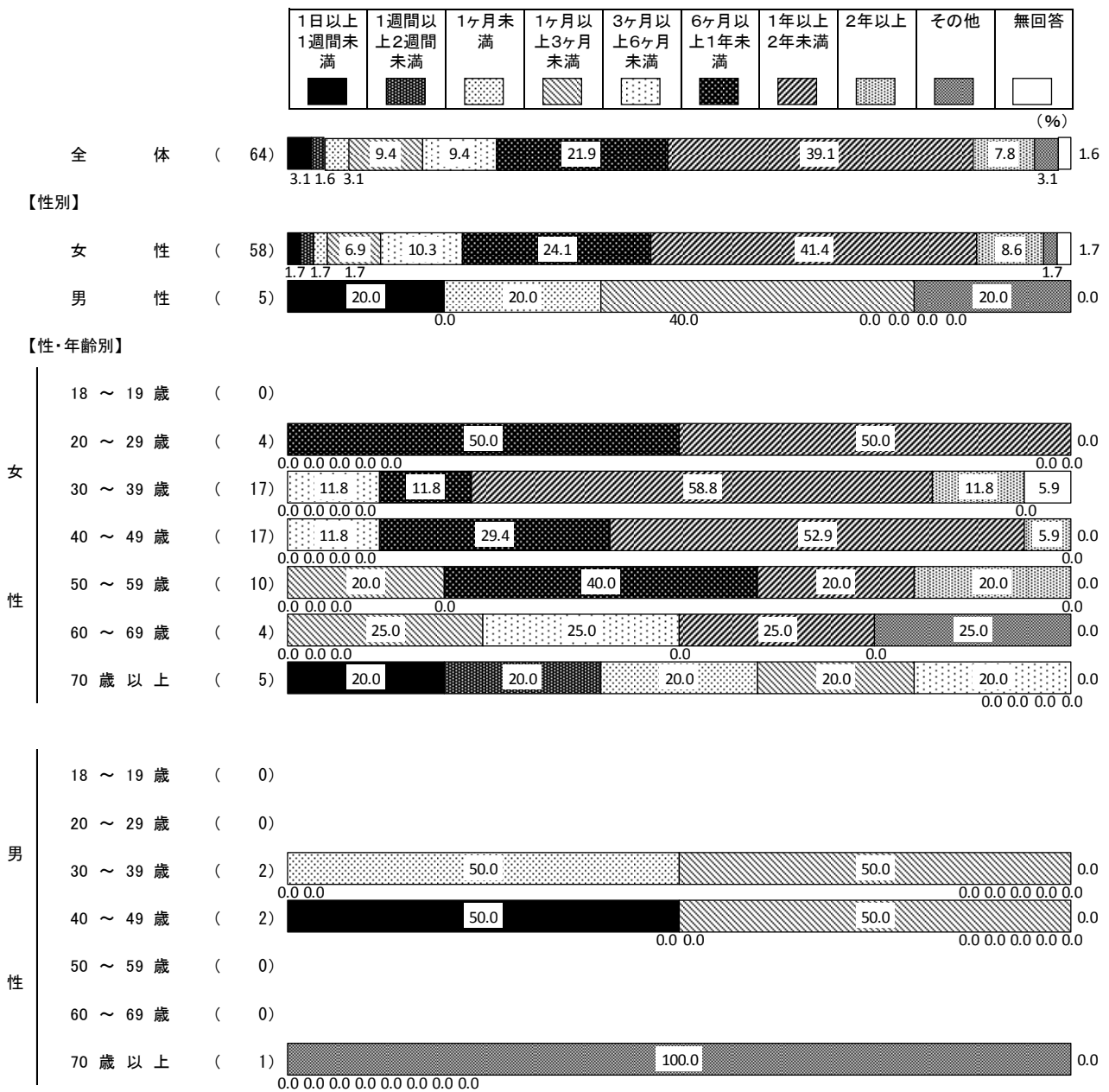
図3-45



育児休業の取得期間の長さを聞いたところ、「1年以上2年未満」(39.1%)が約4割で最も高く、次いで、「6ヶ月以上1年未満」(21.9%)、「1ヶ月以上3ヶ月未満」、「3ヶ月以上6ヶ月未満」(ともに9.4%)の順となっている。(図3-45)

性別でみると、女性では「1年以上2年未満」(41.4%)が約4割で最も高くなっている。
性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図3-46)

図3-46 育児休業の取得期間(性別・年齢別)



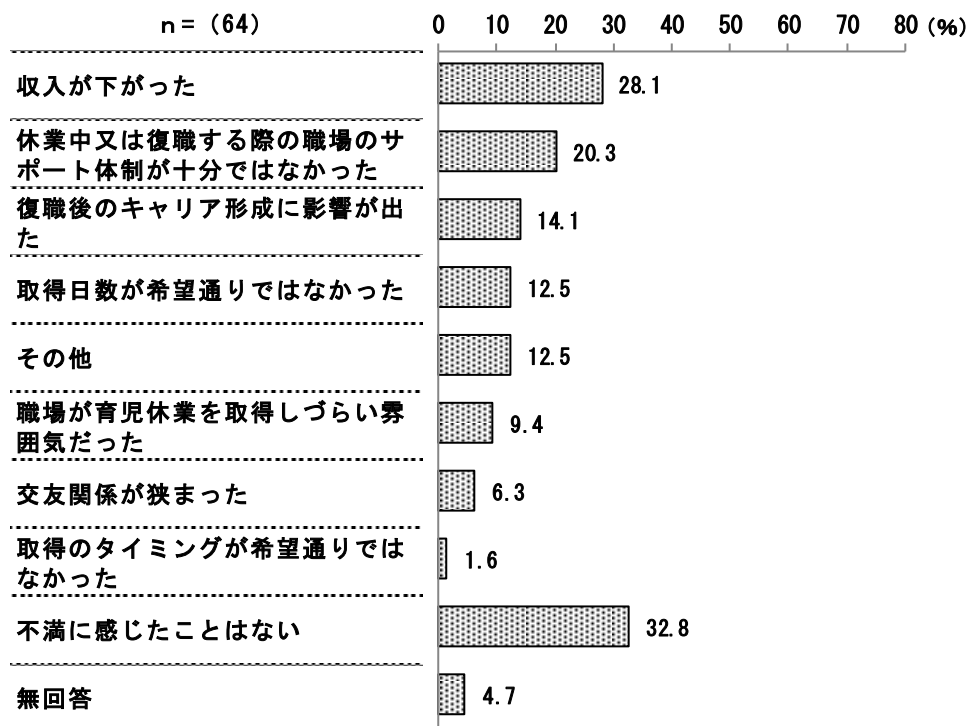
※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

(4-2) 育児休業を取得したなかでの不満

◇「不満を感じたことはない」が3割を超える

問9-2 育児休業を取得したなかであなたが不満を感じたことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図3-47

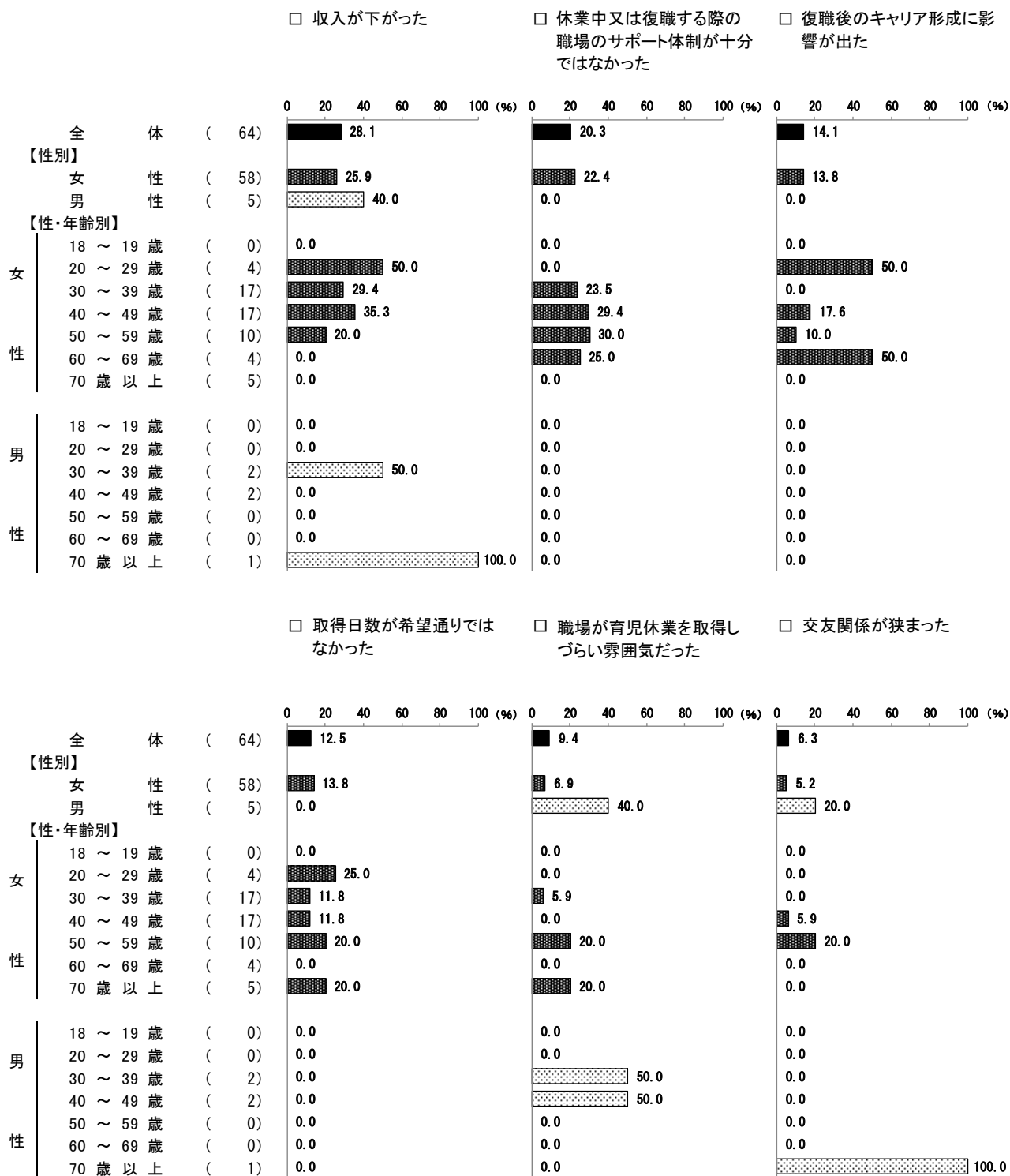


育児休業を取得したなかで不満を感じたことを聞いたところ、「不満を感じたことはない」(32.8%)が3割を超え最も高くなっている。不満を感じた中では、「収入が下がった」(28.1%)が約3割で最も高く、次いで「休業中又は復職する際の職場のサポート体制が十分ではなかった」(20.3%)、「復職後のキャリア形成に影響が出た」(14.1%)の順となっている。(図3-47)

不満を感じたなかで上位6項目に挙げられた項目を性別でみると、女性では「収入が下がった」(25.9%)が2割台半ばとなっている。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図3-48)

図3-48 育児休業を取得したなかでの不満(性別・年齢別) <上位6項目>



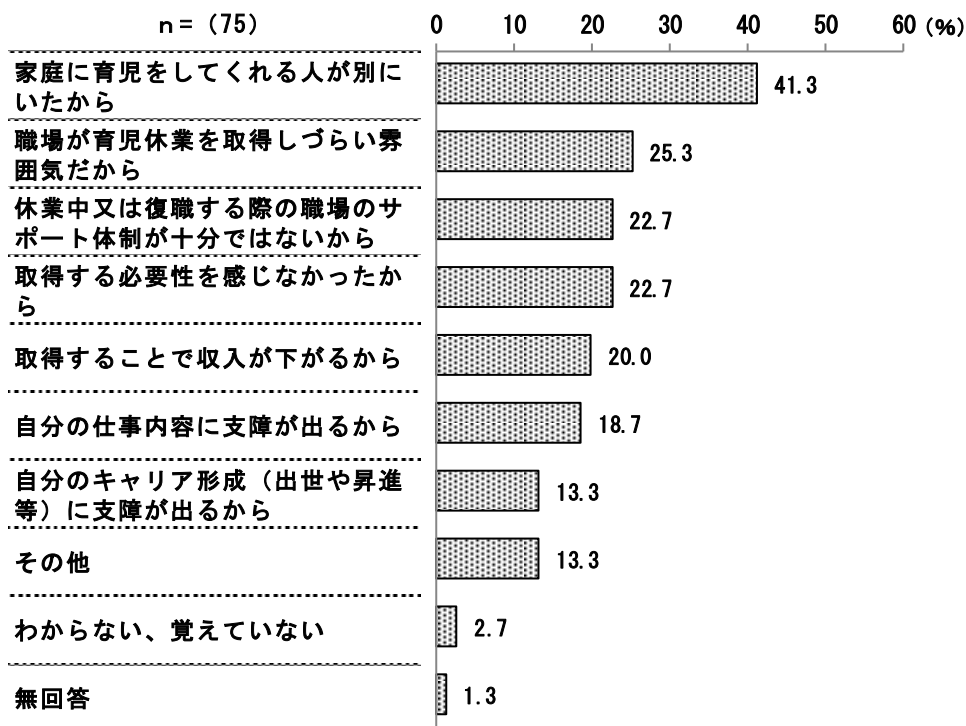
※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

(4-3) 育児休業を取得しなかった理由

◇「家庭に育児をしてくれる人が別にいたから」が4割強

問9-3 育児休業を取得しなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図3-49

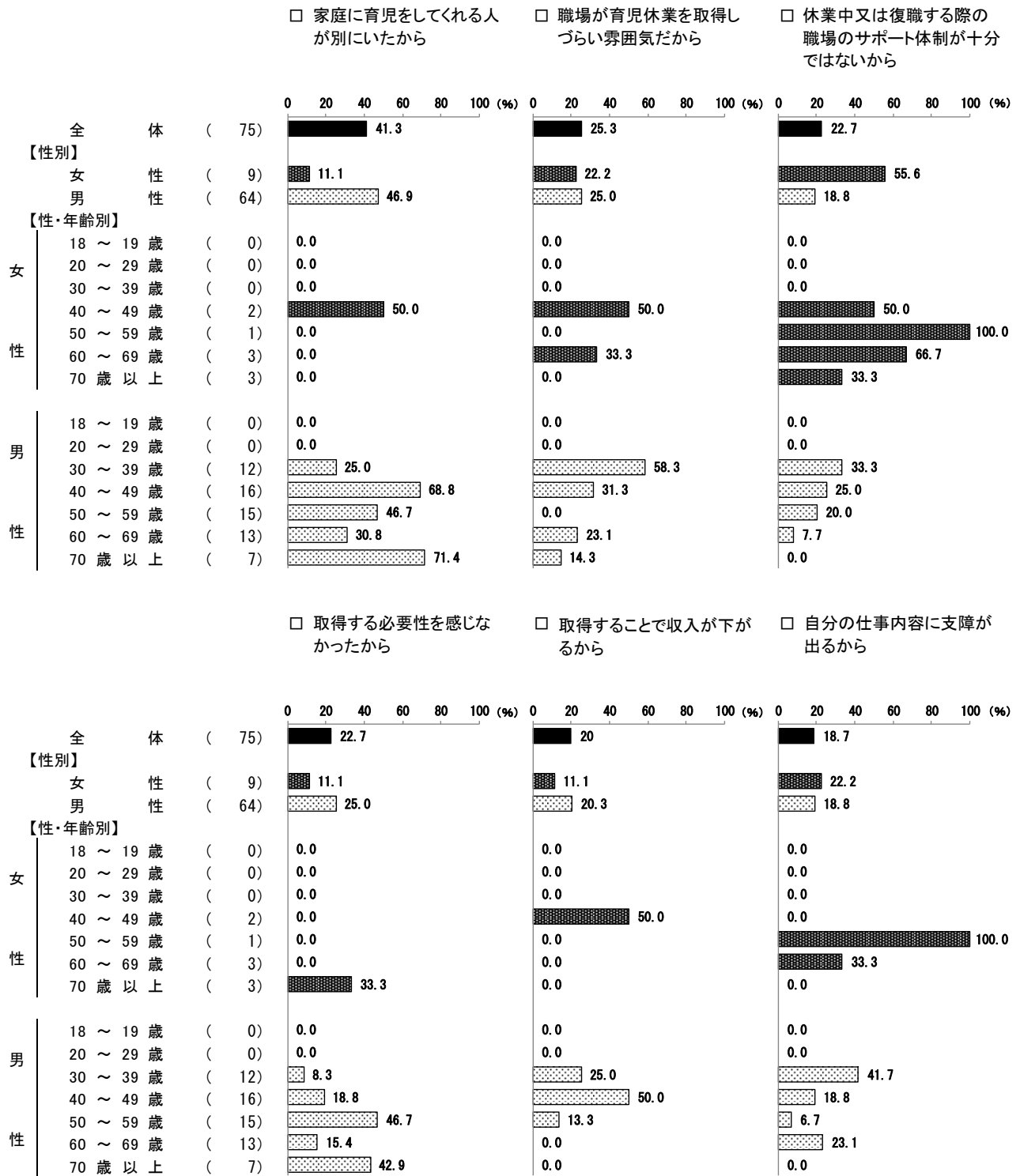


育児休業を取得しなかった理由を聞いたところ、「家庭に育児をしてくれる人が別にいたから」(41.3%) が4割強で最も高く、次いで、「職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だから」(25.3%)、「休業中又は復職する際の職場のサポート体制が十分ではないから」、「取得する必要性を感じなかったから」(ともに22.7%) などの順となっている。(図3-49)

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別でみると、「家庭に育児をしてくれる人が別にいたから」は男性（46.9%）が4割台半ばを超えている。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。（図3-50）

図3-50 育児休業を取得しなかった理由（性別・年齢別）＜上位6項目＞



※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

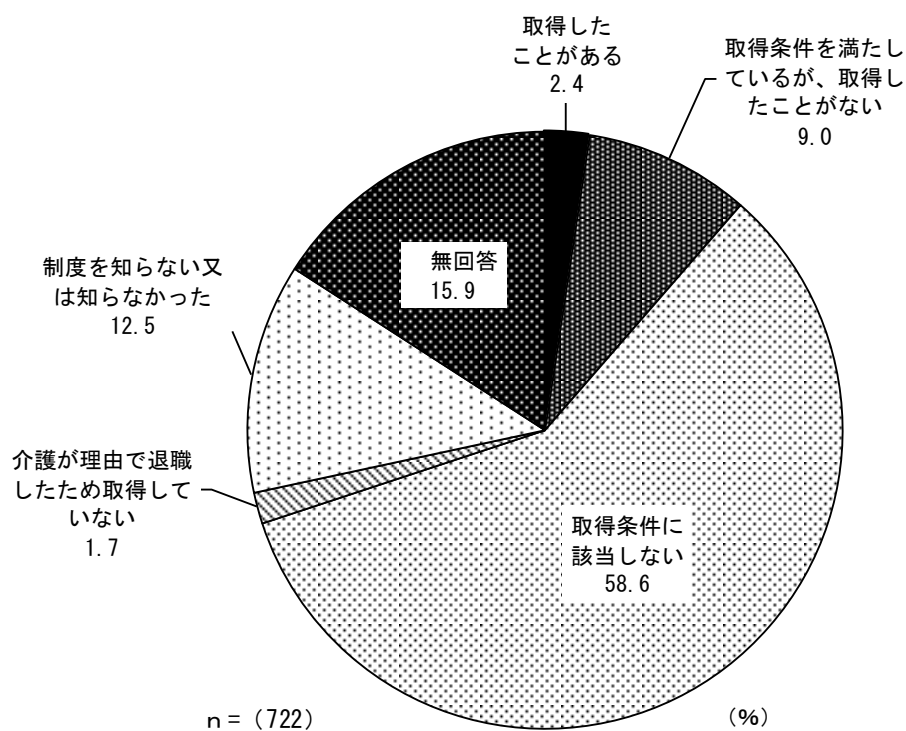
(5) 介護休業取得の実態

◇「取得したことがある」は1割未満

◇「取得条件に該当しない」は約6割

問10 あなたは介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）を取得したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

図3-51

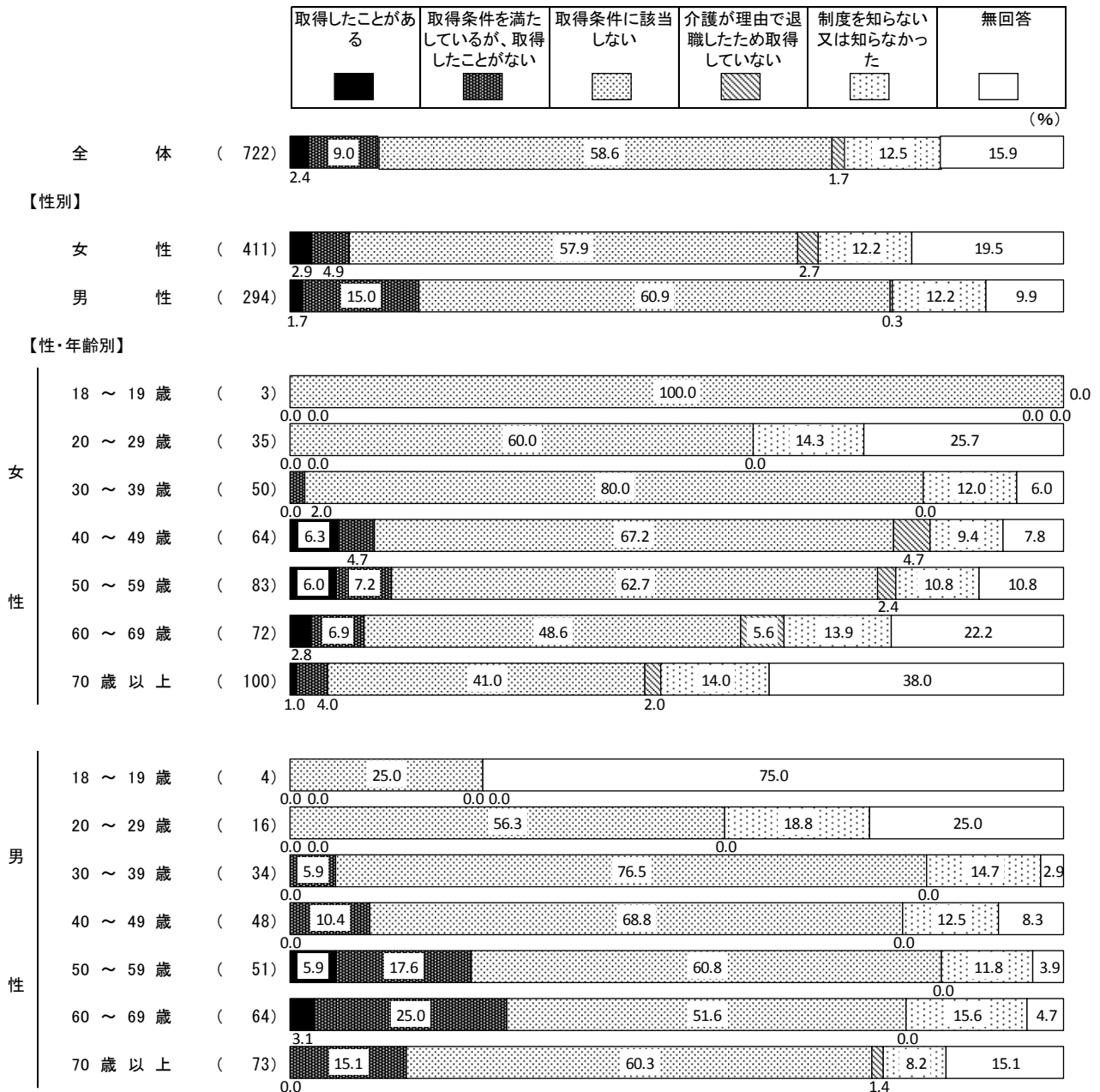


介護休業を取得したことがあるか聞いたところ、「取得したことがある」(2.4%)は1割未満、「取得条件に該当しない」(58.6%)は約6割となっている。(図3-51)

性別でみると、「取得条件を満たしているが、取得したことがない」は男性(15.0%)が女性(4.9%)より10.1ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「取得条件を満たしているが、取得したことがない」は男性60～69歳(25.0%)で2割台半ばと最も高くなっている。(図3-52)

図3-52 介護休業取得の実態(性別・年齢別)



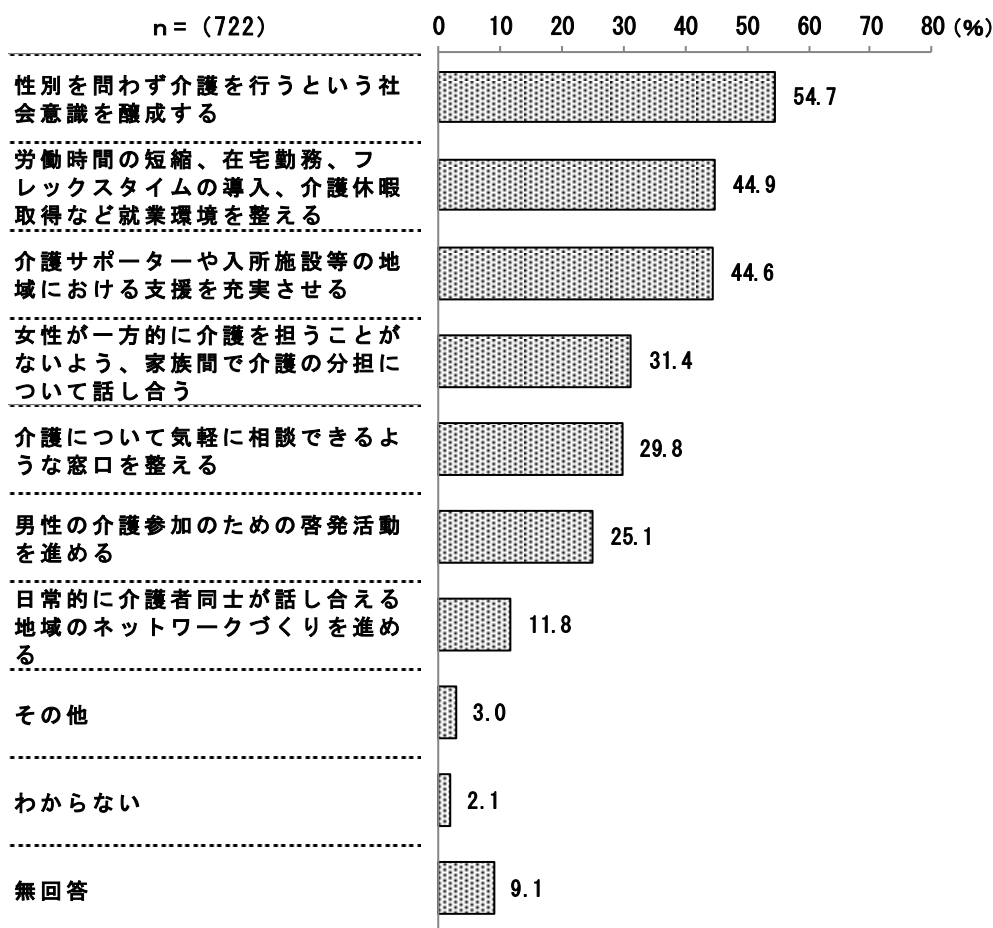
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(6) 男性の介護への参加を進めるために重要なこと

◇「性別を問わず介護を行うという社会意識を醸成する」が5割台半ば

問11 これまで、高齢者や病人の介護は、女性に負担が偏りがちでしたが、男性の介護への参加を進めるためには、どのようなことが重要だと思いますか。重要と思われるものを3つまで選び、○をつけてください。

図3-53

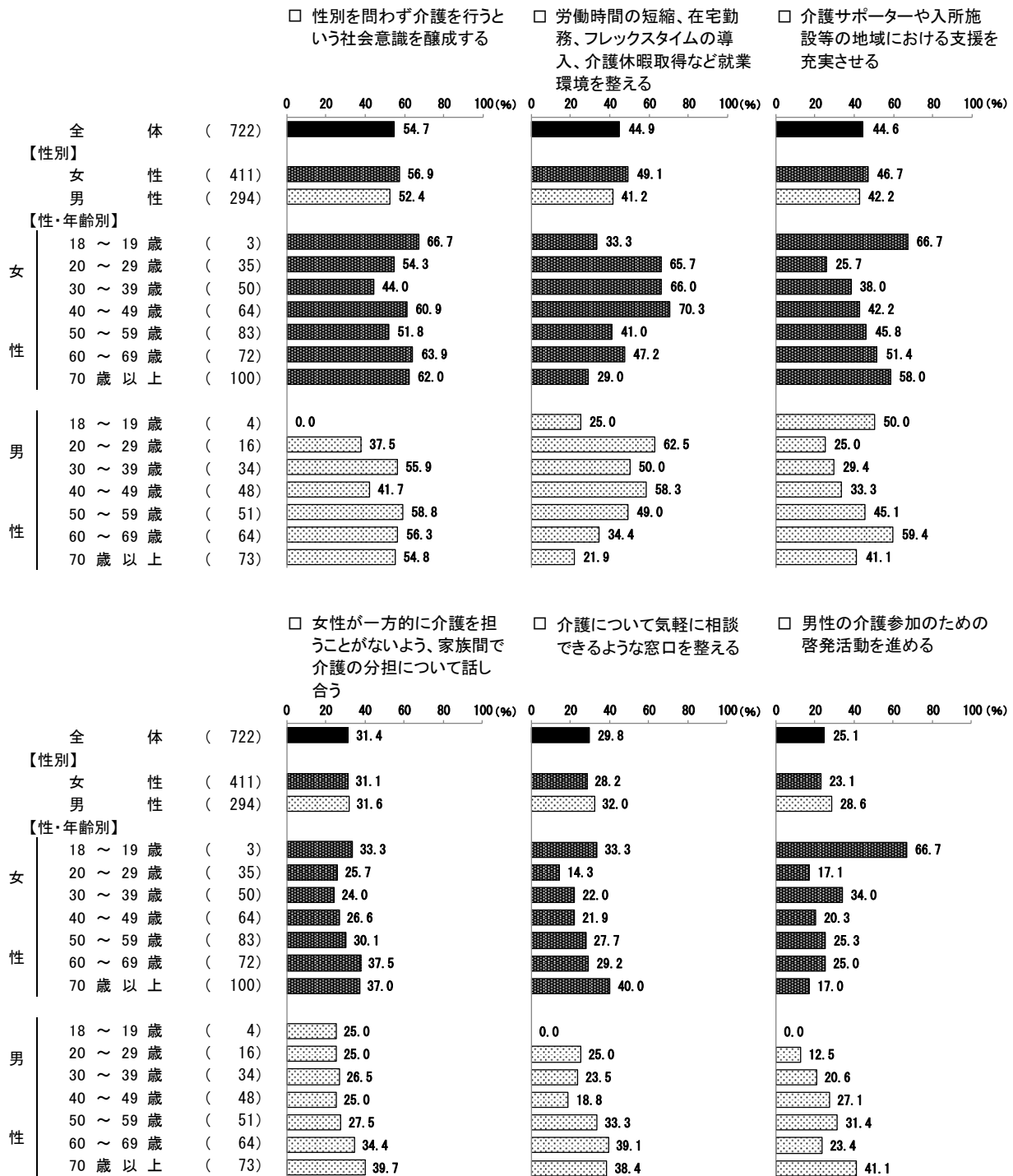


男性の介護への参加を進めるために重要なことを聞いたところ、「性別を問わず介護を行うという社会意識を醸成する」(54.7%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「労働時間の短縮、在宅勤務、フレックスタイムの導入、介護休暇取得など就業環境を整える」(44.9%)、「介護サポーターや入所施設等の地域における支援を充実させる」(44.6%)の順となっている。(図3-53)

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別でみると、「労働時間の短縮、在宅勤務、フレックスタイムの導入、介護休暇取得など就業環境を整える」は女性（49.1%）が男性（41.2%）より7.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「労働時間の短縮、在宅勤務、フレックスタイムの導入、介護休暇取得など就業環境を整える」は女性40～49歳（70.3%）で約7割と最も高くなっている。また、「介護サポーターや入所施設等の地域における支援を充実させる」はおおむね女性と男性ともに年代が高くなるほど割合が高く、男性60～69歳（59.4%）で約6割と最も高くなっている。（図3-54）

図3-54 男性の介護への参加を進めるために重要なこと（性別・年齢別）＜上位6項目＞

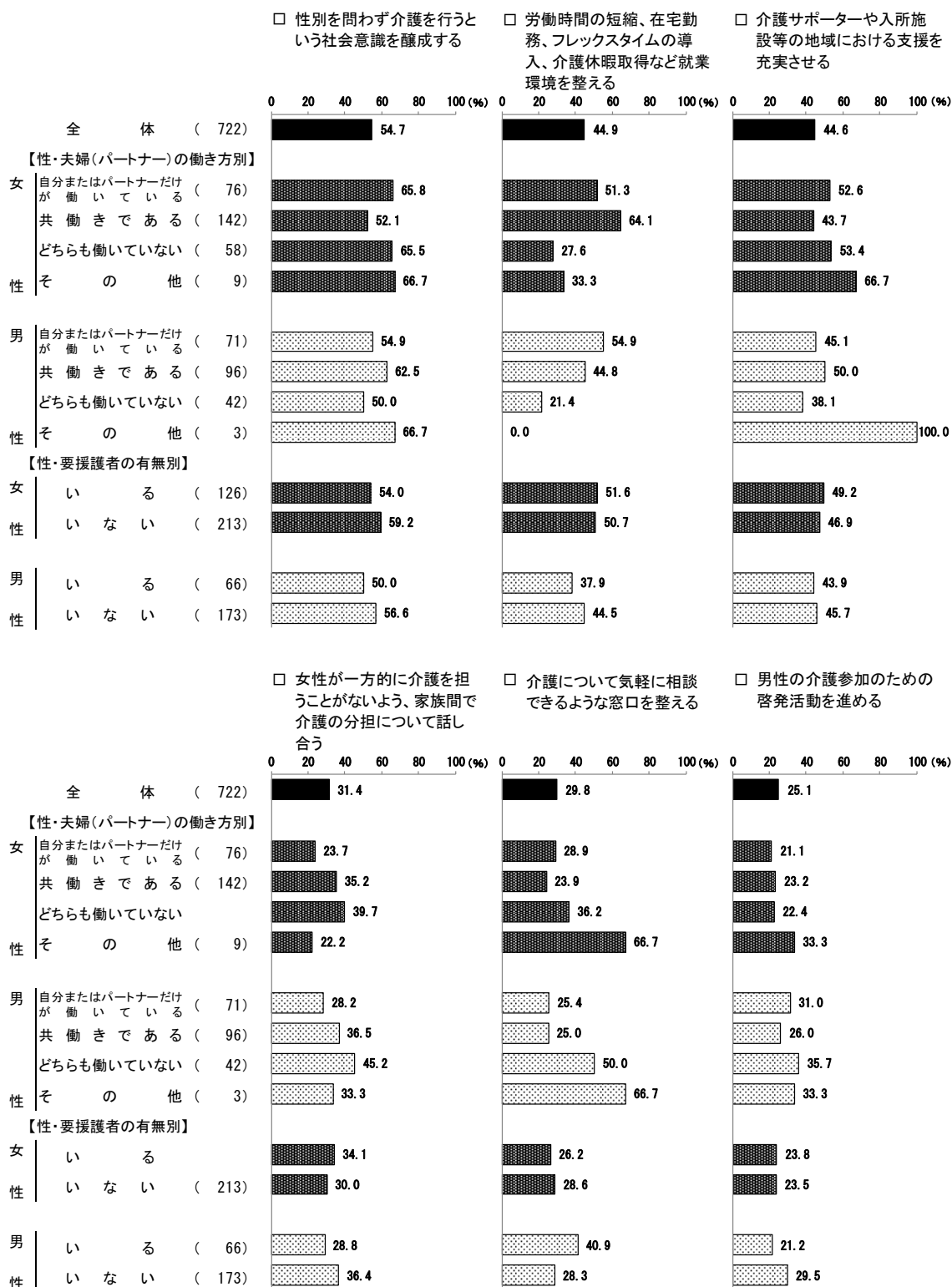


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

全体で上位6項目に挙げられた項目を性・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「労働時間の短縮、在宅勤務、フレックスタイムの導入、介護休暇取得など就業環境を整える」は“女性/共働きである”（64.1%）で6割台半ばと最も高くなっている。

性別・要援護者の有無別でみると、「介護について気軽に相談できるような総合窓口をととのえる」は“男性/要援護者がいる”（40.9%）で約4割と高くなっている。（図3-55）

図3-55 男性の介護への参加を進めるために重要なこと
（性別・夫婦の働き方別、性別・要援護者の有無別）＜上位6項目＞

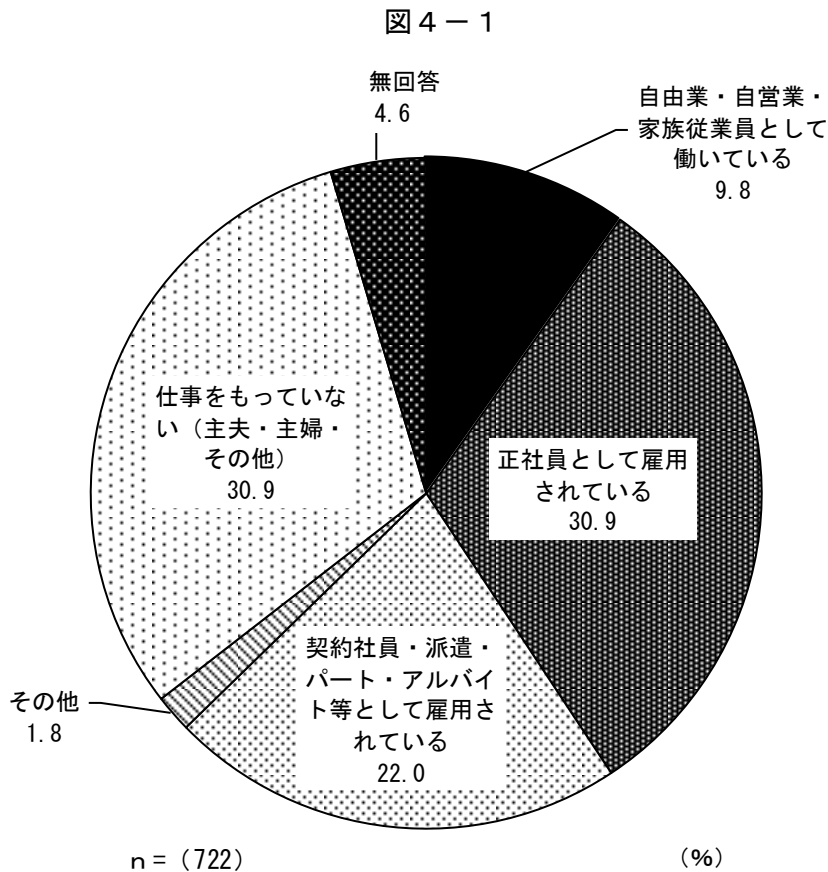


4. 仕事について

(1) 働き方

◇「正社員として雇用されている」、「仕事をもっていない（主夫・主婦・その他）」がいずれも約3割

問12 あなたは現在、収入を伴う仕事をしていますか。出産や育児・介護のために休んでいる場合（育児・介護休業）は働いているとお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

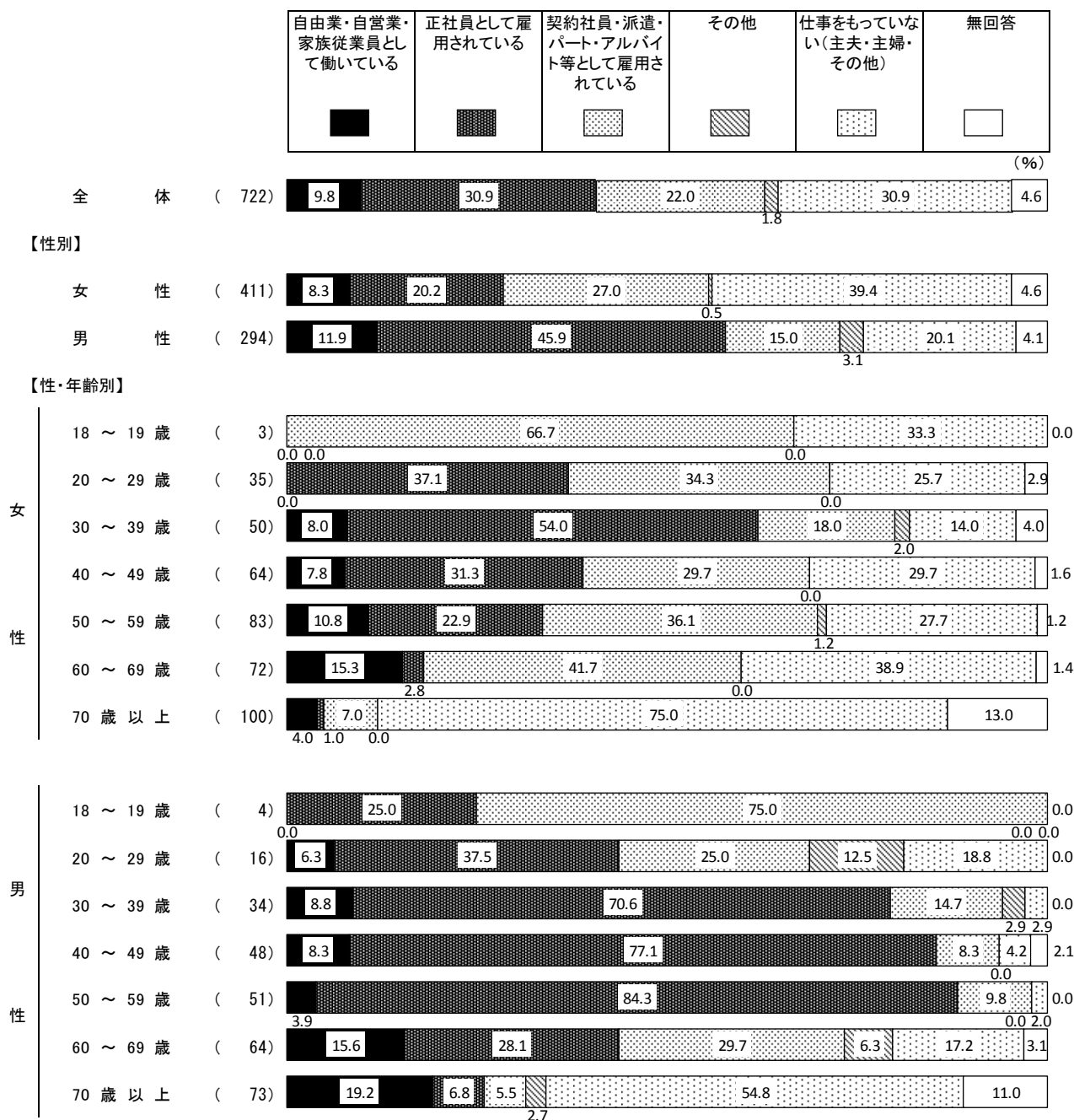


現在、収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「正社員として雇用されている」と「仕事をもっていない（主夫・主婦・その他）」（ともに30.9%）が約3割で高く、次いで、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」（22.0%）、「自由業・自営業・家族従業員として働いている」（9.8%）の順となっている。（図4-1）

性別でみると、「正社員として雇用されている」は男性（45.9%）が女性（20.2%）より 25.7 ポイント高くなっている。一方、「仕事をもっていない（主夫・主婦・その他）」は女性（39.4%）が男性（20.1%）より 19.3 ポイント高くなっており、女性と男性で差が見られる。

性別・年齢別でみると、「正社員として雇用されている」は男性 50～59 歳（84.3%）で 8 割台半ばと最も高くなっている。また、「仕事をもっていない（主夫・主婦・その他）」は女性 70 歳以上（75.0%）で 7 割台半ばと高くなっている。（図 4-2）

図 4-2 働き方（性別・年齢別）



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

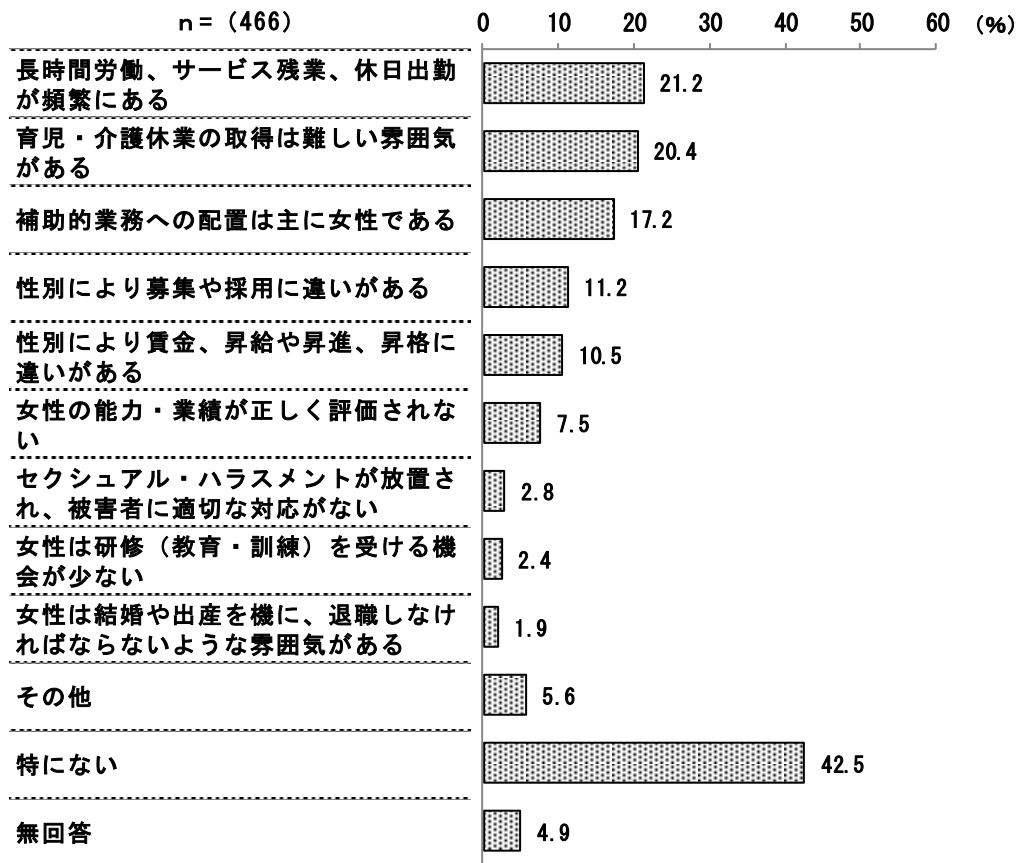
(2) 職場での仕事の内容や待遇面の問題

◇「特にない」が4割強、「長時間労働、サービス残業、休日出勤が頻繁にある」が約2割

収入を伴う仕事をされている方（問12で1～4と回答した方）におたずねします

問12-1 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で次のようなことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図4-3

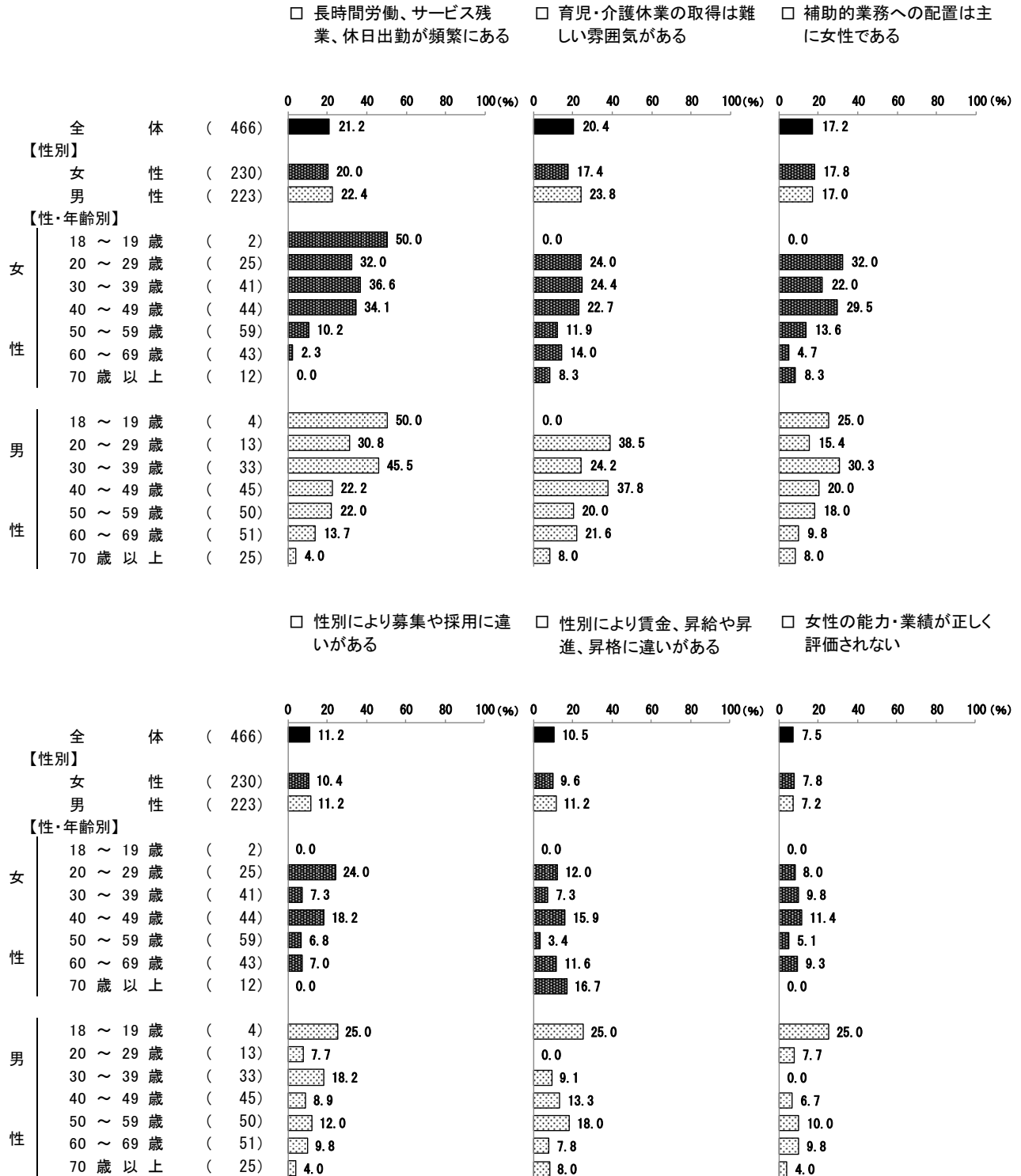


有職の方に、職場での仕事の内容や待遇面の問題を聞いたところ、「特にない」（42.5%）が約4割で最も高くなっている。何らかの問題がある中では、「長時間労働、サービス残業、休日出勤が頻繁にある」（21.2%）が約2割で最も高く、次いで、「育児・介護休業の取得は難しい雰囲気がある」（20.4%）、「補助的業務への配置は主に女性である」（17.2%）の順となっている。（図4-3）

「特にない」を除き、全体で上位6項目に挙げられた項目を性別で見ると、「育児・介護休暇の取得は難しい雰囲気がある」は男性（23.8%）が女性（17.4%）より6.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「長時間労働、サービス残業、休日出勤が頻繁にある」は男性30～39歳（45.5%）で4割台半ばと最も高く、「補助的業務への配置は主に女性である」でも男性30～39歳（30.3%）で約3割と高くなっている。（図4-4）

図4-4 職場での仕事の内容や待遇面の問題（性別・年齢別）＜「特にない」を除く上位6項目＞



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「特にない」を除き、全体で上位6項目に挙げられた項目を性別・雇用形態別で見ると、「長時間労働、サービス残業、休日出勤が頻繁にある」は“女性/正社員”(41.0%)で約4割となっている。(表4-1)

表4-1 職場での仕事の内容や待遇面の問題(性別・雇用形態別)
 <「特にない」を除く上位6項目>

		n	に長 あ業 る時 、間 休 日 働 出 、 勤 が サ ー ビ ス 残 業 が 頻 繁 に あ る	は育 難児 し・ い介 護 困 気 が 取 得 が あ る	主補 に助 女的 業務 である への 配置 は	に性 違別 い に が よ り 募 集 や 採 用 は	あや 昇性 別 に よ り 賃 金 、 昇 給 が 給 与 に よ り 違 い が あ る	し女 く性 評の 価能 さ力 れさ ない ・業 績 が 正 し い	
全体		466	21.2	20.4	17.2	11.2	10.5	7.5	
性・雇用形態別	女性	自由業・自営業・ 家族従業員	34	11.8	5.9	5.9	5.9	2.9	8.8
		正社員	83	41.0	19.3	25.3	10.8	14.5	10.8
		契約社員・派遣・ パート・アルバイト	111	7.2	19.8	15.3	10.8	8.1	4.5
		その他	2	-	-	50	50	-	50
		仕事を持っていない (主夫・主婦・その他)	0	-	-	-	-	-	-
	男性	自由業・自営業・ 家族従業員	35	26.7	26.7	22.2	10.4	14.1	9.6
		正社員	135	18.2	20.5	15.9	11.4	6.8	-
		契約社員・派遣・ パート・アルバイト	44	22.2	11.1	-	11.1	-	-
		その他	9	-	-	-	-	-	-
		仕事を持っていない (主夫・主婦・その他)	0	-	-	-	-	-	-

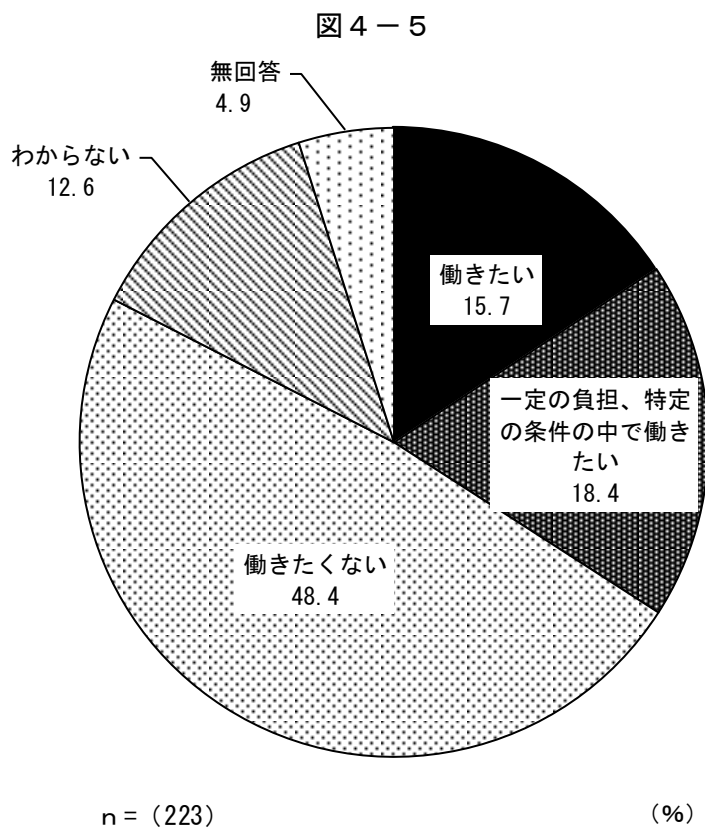
※女性・男性ともに「その他」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(3) 就業意向

◇『働きたい』が3割台半ば

仕事をもっていない方（問12で5と回答した方）におたずねします

問12-2 あなたは、これから働きたいと思えますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

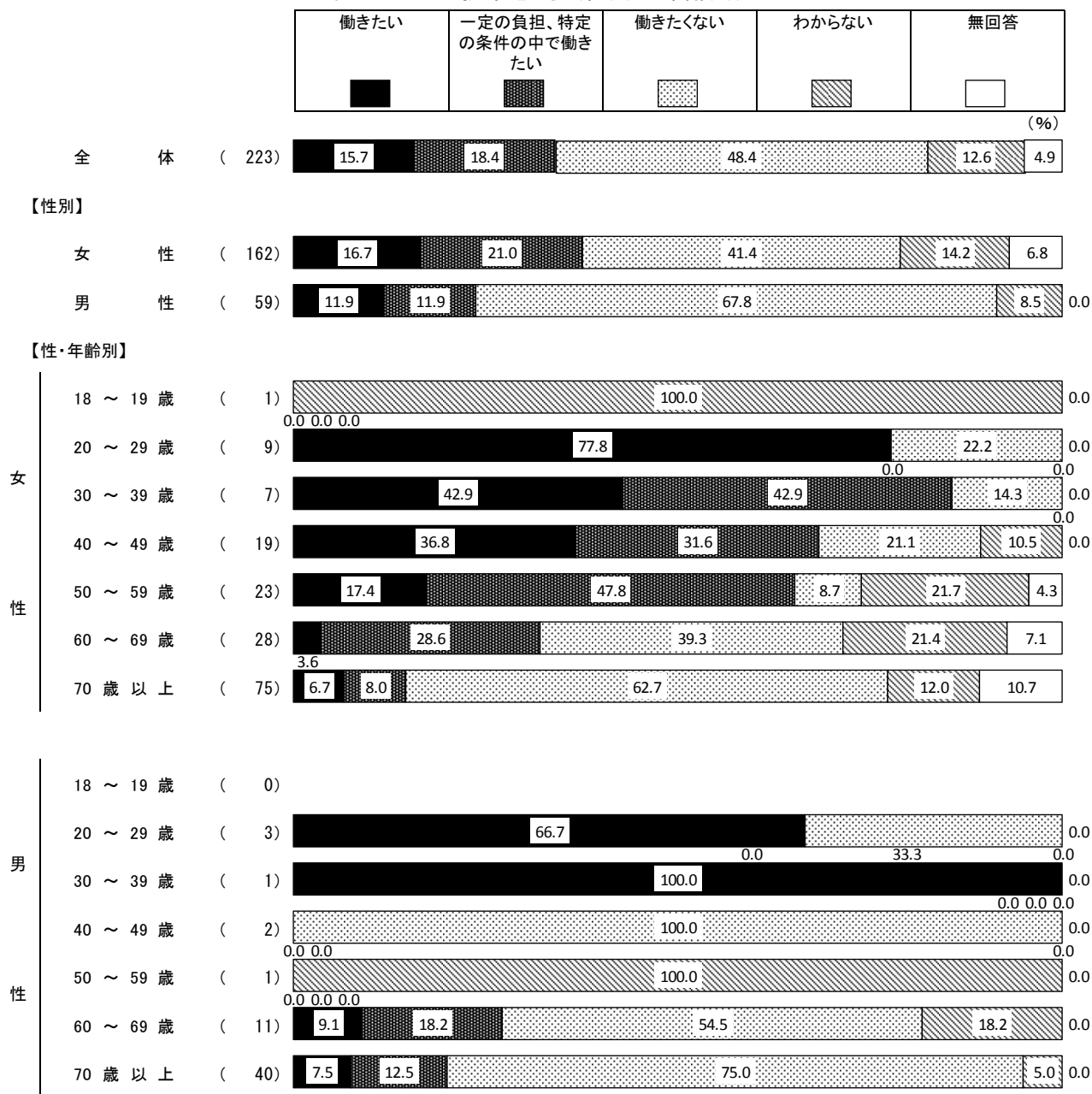


仕事をもっていない方に、これから働きたいと思うか聞いたところ、「働きたい」(15.7%)と「一定の負担、特定の条件の中で働きたい」(18.4%)を合わせた『働きたい』(34.1%)が3割台半ば、「働きたくない」(48.4%)は約5割となっている。(図4-5)

性別で見ると、「働きたい」と「一定の負担、特定の条件の中で働きたい」を合わせた『働きたい』は女性（37.7%）が男性（23.8%）より 13.9 ポイント高くなっている。一方、「働きたくない」は男性（67.8%）が女性（41.4%）より 26.4 ポイント高くなっている。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。（図 4-6）

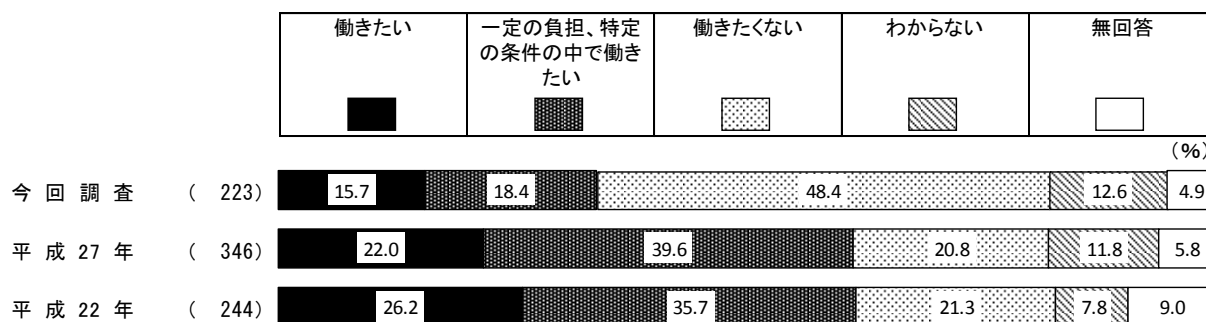
図 4-6 就業意向（性別・年齢別）



※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

時系列比較でみると、「働きたい」と「一定の負担、特定の条件の中で働きたい」を合わせた『働きたい』は今回調査（34.1%）が平成27年（61.6%）より27.5ポイント減少している。一方、「働きたくない」は今回調査（48.4%）が平成27年（20.8%）より27.6ポイント増加しており、大きな差がみられる。（図4-7）

図4-7 就業意向（時系列比較）



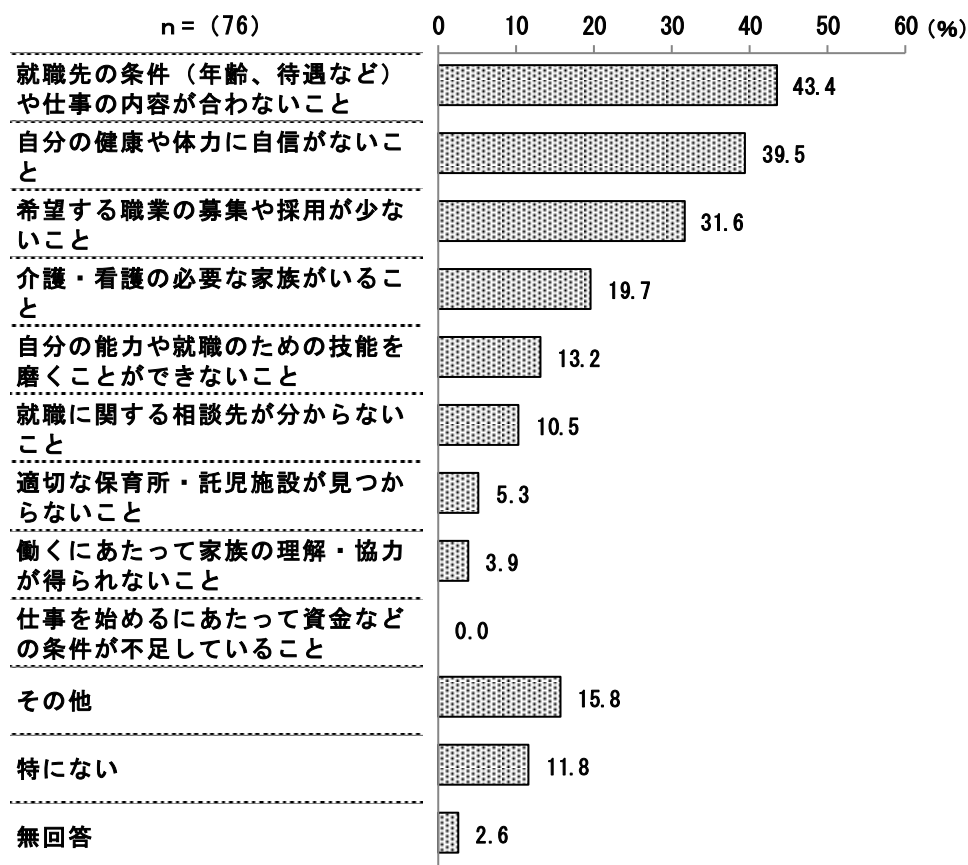
(4) 働く上で障害になっていること

◇「就職先の条件（年齢、待遇など）や仕事の内容が合わないこと」が4割を超える

問 12-2 で働きたいと回答した方（1または2と回答した方）におたずねします

問 12-3 あなたが働く上で現在困っていることはどのようなことですか。主なものを3つまで選び、○をつけてください。

図 4-8

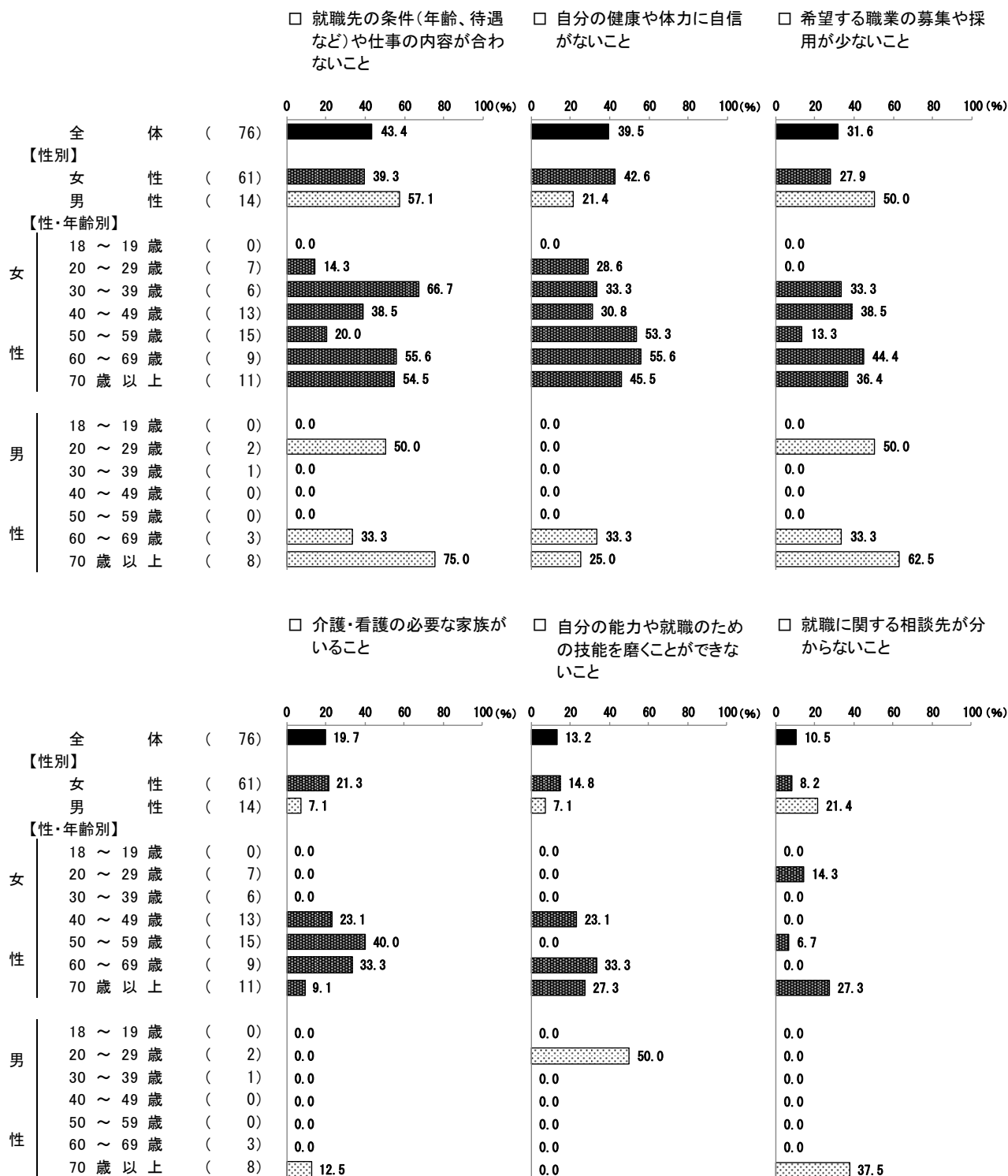


仕事をもっておらず、これから働きたい方に、現在困っていることを聞いたところ、「就職先の条件（年齢、待遇など）や仕事の内容が合わないこと」（43.4%）が4割を超え最も高く、次いで、「自分の健康や体力に自信がないこと」（39.5%）、「希望する職業の募集や採用が少ないこと」（31.6%）の順となっている。（図4-8）

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別で見ると、「自分の健康や体力に自信がないこと」は女性（42.6%）が4割超えと高くなっている。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。（図4-9）

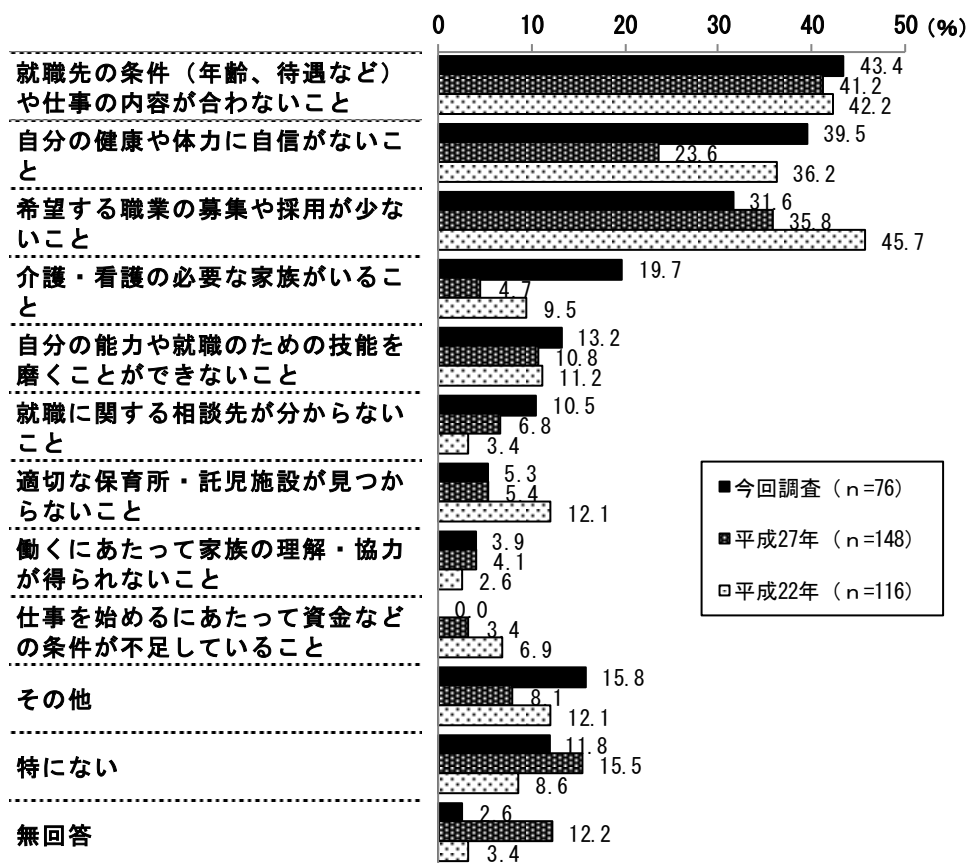
図4-9 働く上で障害になっていること（性別・年齢別）＜上位6項目＞



※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

時系列比較でみると、「自分の健康や体力に自信がないこと」は今回調査（39.5%）が平成27年（23.6%）より15.9ポイント、「介護・看護の必要な家族がいること」は今回調査（19.7%）が平成27年（4.7%）より15.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「希望する職業の募集や採用が少ないこと」は今回調査（31.6%）が平成27年（35.8%）より4.2ポイント減少しており、平成22年以降減少傾向にある。（図4-10）

図4-10 働く上で障害になっていること（時系列比較）



5. 社会的な活動について

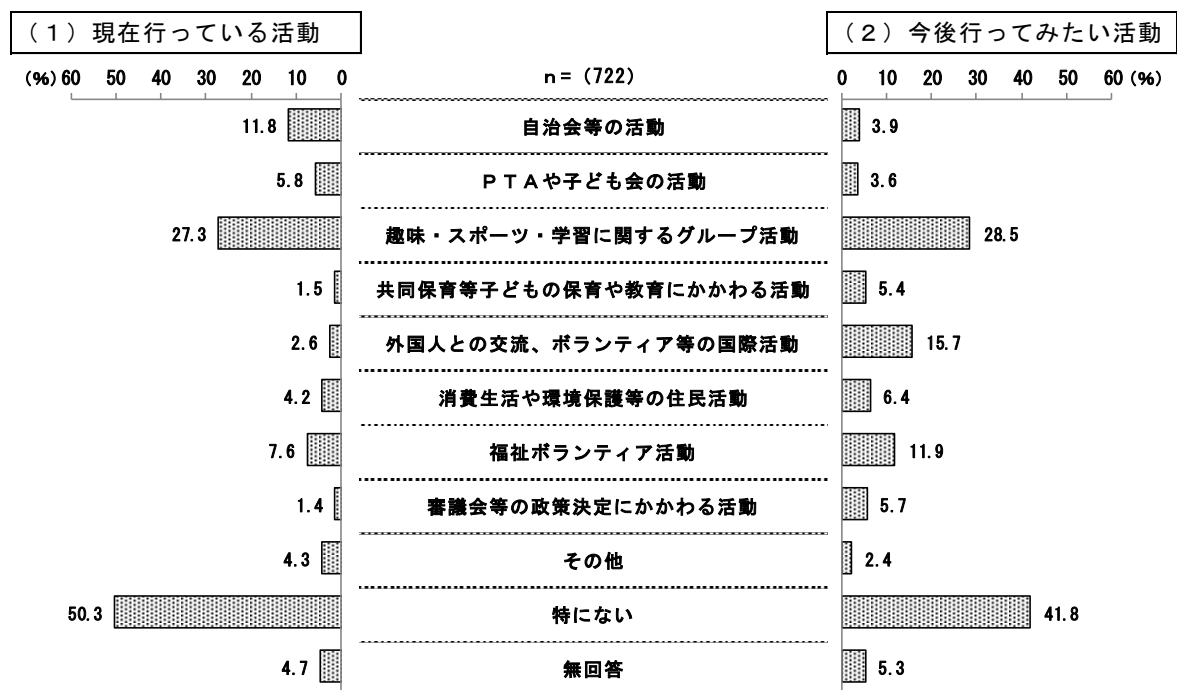
(1) 社会的活動への参加状況と意向

◇現在行っている活動では、「特にない」が約5割、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」が約3割

◇今後行ってみたい活動では、「特にない」が約4割、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」が約3割

問13 あなたは現在、学業又は仕事以外に社会的な活動をしていますか。また、今後行ってみたい社会的な活動は何ですか。

図5-1



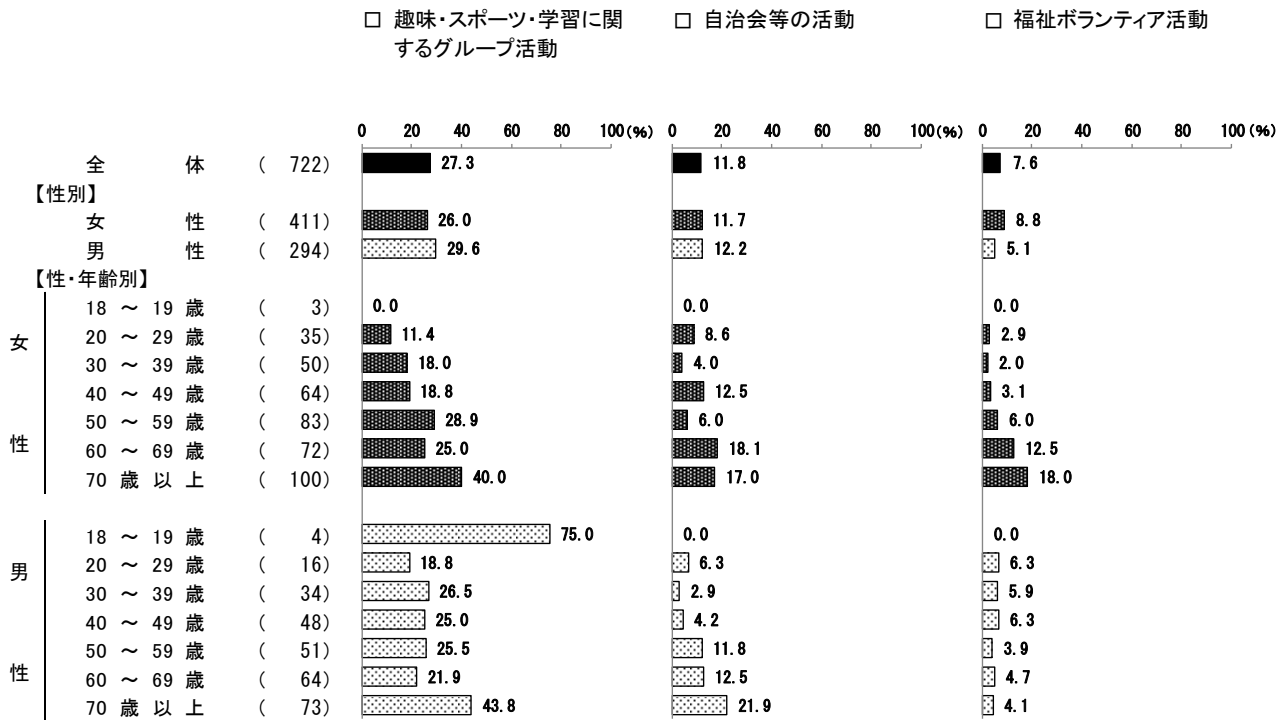
社会的活動への参加状況と意向を聞いたところ、現在行っている活動では、「特にない」(50.3%)が約5割で最も高くなっている。行っている活動の中では、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」(27.3%)が約3割で最も高く、次いで、「自治会等の活動」(11.8%)、「福祉ボランティア活動」(7.6%)の順となっている。

今後行ってみたい活動では、「特にない」(41.8%)が4割を超えて最も高くなっている。行ってみたい活動がある中では、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」(28.5%)が約3割と最も高く、次いで、「外国人との交流、ボランティア等の国際活動」(15.7%)、「福祉ボランティア活動」(11.9%)の順となっている。(図5-1)

現在行っている活動について「特にない」を除く上位3項目を性別で見ると、「福祉ボランティア活動」は女性（8.8%）が男性（5.1%）より3.7ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」は男性70歳以上（43.8%）で4割を超え、女性70歳以上（40.0%）で4割と他の年代に比べ高くなっている。また、「自治会等の活動」は男性70歳以上（21.9%）で2割を超えて他の年代に比べ高く、「福祉ボランティア活動」は女性70歳以上（18.0%）で約2割と他の年代に比べ高くなっている。（図5-2）

図5-2 社会的活動への参加状況と意向（性別・年齢別）
 ー（1）現在行っている活動＜「特にない」を除く上位3項目＞



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

現在行っている活動について「特にない」を除く上位3項目を性・夫婦（パートナー）の働き方でみると、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」は“男性/どちらも働いていない”（38.1%），“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（36.6%）で3割台半ばを超え、他と比べて高くなっている。「自治会等の活動」は“男性/どちらとも働いていない”（21.4%）で約2割となっている。「福祉ボランティア活動」は“女性/どちらも働いていない”（19.0%）で約2割となっている。

性別・居住地域別でみると、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」は“女性/谷保地域”（32.1%），“女性/東地域”（31.4%），“男性/北地域”（32.3%），“男性/西地域”（32.4%）で3割を超え他地域と比べて高くなっている。（表5-1）

表5-1 社会的活動への参加状況と意向（性別・夫婦（パートナー）の働き方別、性別・居住地域別）－（1）現在行っている活動<「特にない」を除く上位3項目>

		n	に趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動	自治会等の活動	福祉ボランティア活動	
全体		722	27.3	11.8	7.6	
性・夫婦（パートナー）の働き方別	女性	自分またはパートナーだけが働いている	76	22.4	9.2	9.2
		共働きである	142	27.5	9.9	4.2
		どちらも働いていない	58	32.8	15.5	19
		その他	9	33.3	-	11.1
	男性	自分またはパートナーだけが働いている	71	36.6	8.5	5.6
		共働きである	96	22.9	11.5	5.2
		どちらも働いていない	42	38.1	21.4	4.8
		その他	3	66.7	66.7	-
性・居住地域別	女性	北	45	24.4	20	11.1
		東	70	31.4	15.7	14.3
		中	52	28.8	3.8	5.8
		西	39	28.2	7.7	12.8
		富士見台	82	25.6	11	6.1
		谷保	53	32.1	11.3	5.7
		青柳	23	-	17.4	-
		石田	1	100	-	-
	男性	北	31	32.3	12.9	3.2
		東	49	30.6	10.2	12.2
		中	34	29.4	8.8	-
		西	37	32.4	2.7	2.7
		富士見台	61	26.2	16.4	3.3
		谷保	36	30.6	22.2	11.1
		青柳	16	25	-	-
		石田	0	-	-	-
泉	10	30	10	-		

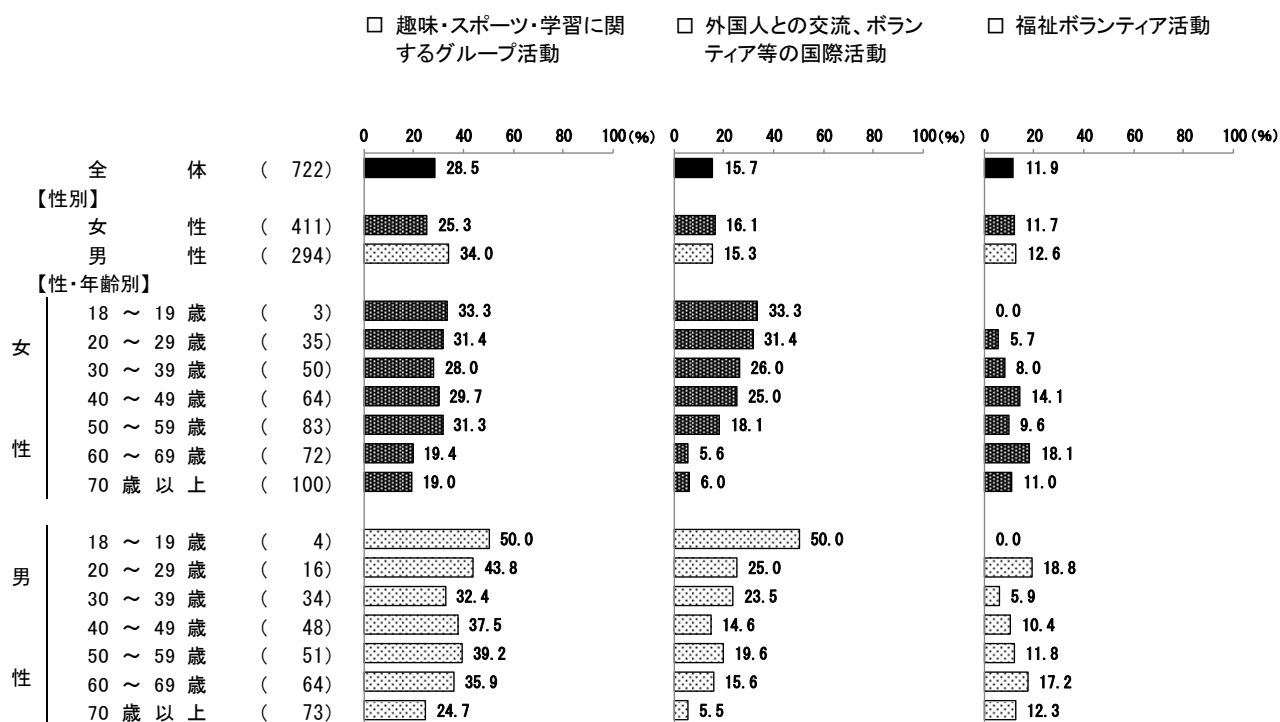
※女性・男性ともに「青柳」「石田」「泉」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

今後行ってみたい活動について「特にない」を除く上位3項目を性別で見ると、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」は男性（34.0%）が女性（25.3%）より8.7ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」は男性50～59歳（39.2%）で約4割、男性40～49歳（37.5%）で3割台半ばを超えと高くなっている。「外国人との交流、ボランティア等の国際活動」は女性20～29歳（31.4%）で約3割と高くなっている。「福祉ボランティア活動」は女性60～69歳（18.1%）、男性60～69歳（17.2%）で約2割と高くなっている。（図5-3）

図5-3 社会的活動への参加状況と意向（性別・年齢別）

一（2）今後行ってみたい活動＜「特にない」を除く上位3項目＞



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

今後行ってみたい活動について「特にない」を除く上位3項目を性・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」は“男性/自分またはパートナーだけが働いている”（40.8%）で約4割と他に比べ高くなっている。

性別・居住地域別でみると、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」は“男性/谷保地域”（44.4%）、「男性/中地域」（44.1%）で4割台半ばと他地域に比べ高く、「外国人との交流、ボランティア等の国際活動」は“女性/東地域”（22.9%）、「男性/富士見台」（21.3%）で2割を超え他の地域に比べ高くなっている。（表5-2）

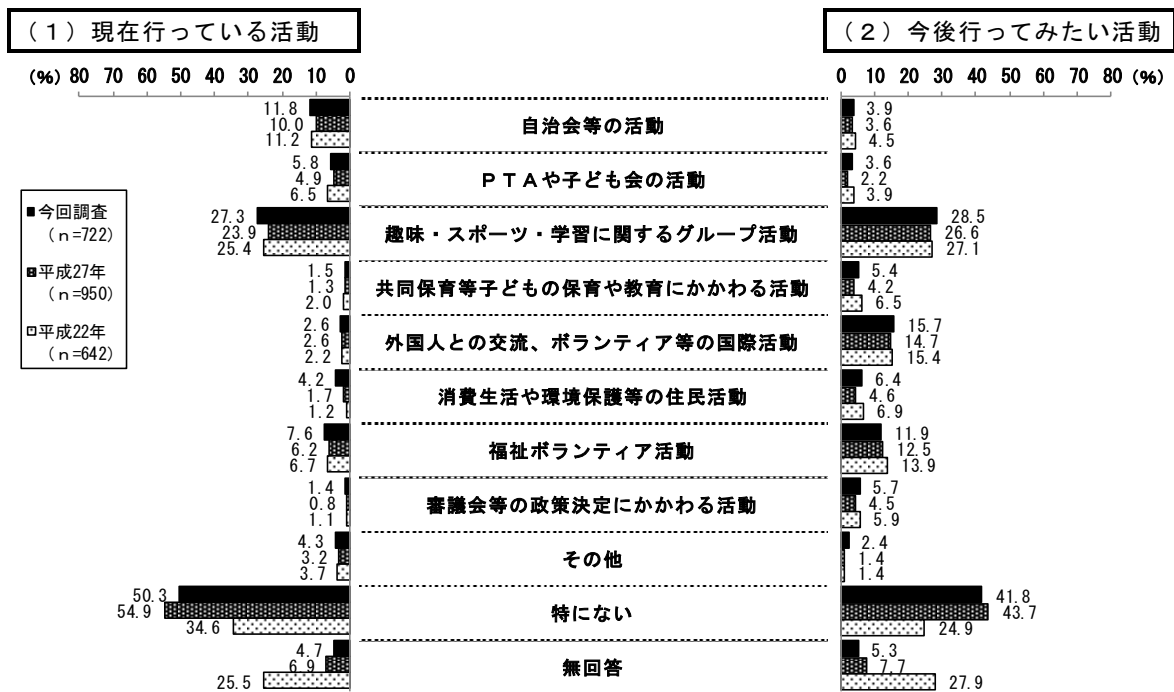
表5-2 社会的活動への参加状況と意向
 （性別・夫婦（パートナー）の働き方別、性別・居住地域別）
 ー（2）今後行ってみたい活動<「特にない」を除く上位3項目>

		n	に趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動	ン外国人との交流、ボランティア等の国際活動	福祉ボランティア活動	
全体		722	28.5	15.7	11.9	
性・夫婦（パートナー）の働き方別	女性	自分またはパートナーだけが働いている	76	22.4	11.8	13.2
		共働きである	142	28.2	21.8	9.2
		どちらも働いていない	58	17.2	5.2	12.1
		その他	9	11.1	22.2	22.2
	男性	自分またはパートナーだけが働いている	71	40.8	22.5	15.5
		共働きである	96	36.5	15.6	12.5
		どちらも働いていない	42	26.2	2.4	11.9
		その他	3	33.3	-	33.3
性・居住地域別	女性	北	45	28.9	13.3	8.9
		東	70	20.0	22.9	11.4
		中	52	38.5	17.3	15.4
		西	39	23.1	20.5	7.7
		富士見台	82	13.4	8.5	17.1
		谷保	53	26.4	13.2	11.3
		青柳	23	34.8	13.0	-
		石田	1	-	-	-
	泉	15	33.3	6.7	20.0	
	男性	北	31	32.3	12.9	12.9
		東	49	34.7	18.4	22.4
		中	34	44.1	11.8	11.8
		西	37	13.5	10.8	18.9
		富士見台	61	37.7	21.3	6.6
		谷保	36	44.4	19.4	13.9
		青柳	16	37.5	6.3	-
石田		0	-	-	-	
泉	10	10.0	20.0	-		

※女性・男性ともに「青柳」「石田」「泉」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

時系列比較でみると、現在行っている活動、今後行ってみたい活動ともに、今回調査と平成 27 年では大きな傾向の違いはみられない。(図 5-4)

図 5-4 社会的活動への参加状況と意向 (時系列比較)

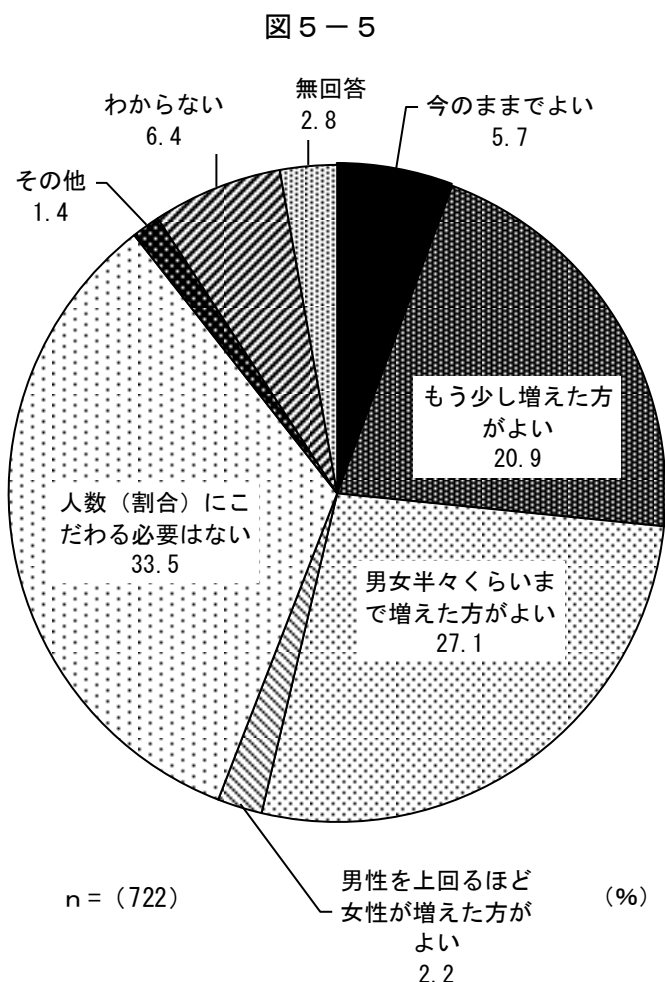


(2) 市議会、審議会への女性の参画について

◇「人数（割合）にこだわる必要はない」が3割を超える

◇「もう少し増えた方がよい」、「男女半々くらいまで増えた方がよい」、「男性を上回るほど女性が増えた方がよい」を合わせた『増えた方がよい』が約5割

問 14 あなたは国立市の公職につく女性の数についてどうお考えになりますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

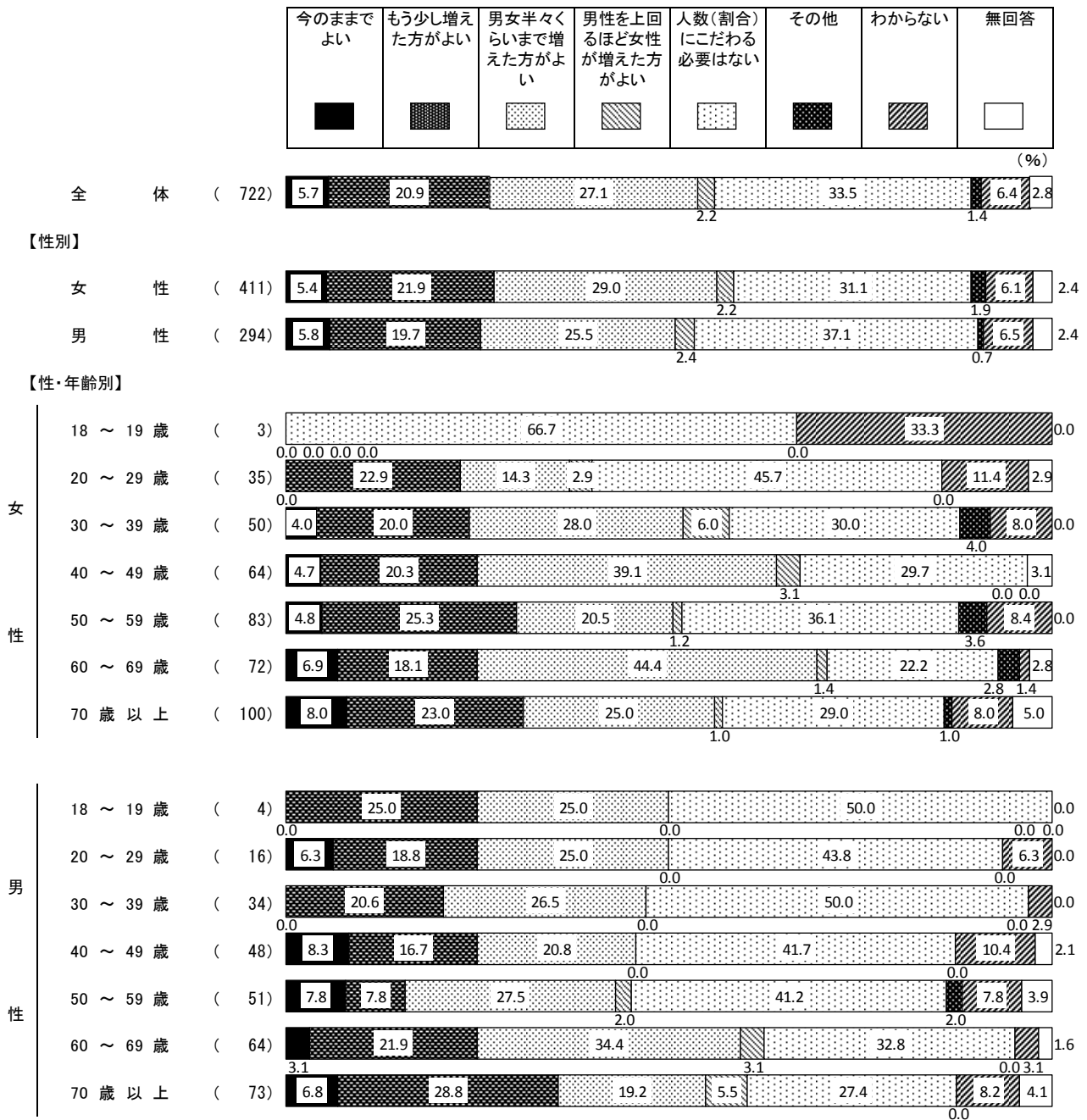


国立市の公職につく女性の数について聞いたところ、「人数（割合）にこだわる必要はない」（33.5%）が3割超えで最も高く、次いで、「男女半々くらいまで増えた方がよい」（27.1%）、「もう少し増えた方がよい」（20.9%）の順となっている。「もう少し増えた方がよい」、「男女半々くらいまで増えた方がよい」、「男性を上回るほど女性が増えたよい」を合わせた『増えた方がよい』は50.2%で半数を超えている。（図5-5）

性別でみると、「人数（割合）にこだわる必要はない」は男性（37.1%）が女性（31.1%）より6.0ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「男女半々くらいまで増えた方がよい」は女性60～69歳（44.4%）で4割台半ばと最も高くなっている。また「もう少し増えた方がよい」、「男女半々くらいまで増えた方がよい」、「男性を上回るほど女性が増えた方がよい」を合わせた『増えた方がよい』は女性60～69歳（63.9%）、女性40～49歳（62.5%）で6割を超え、男性60～69歳（59.4%）で約6割と、他の年代に比べて高くなっている。（図5-6）

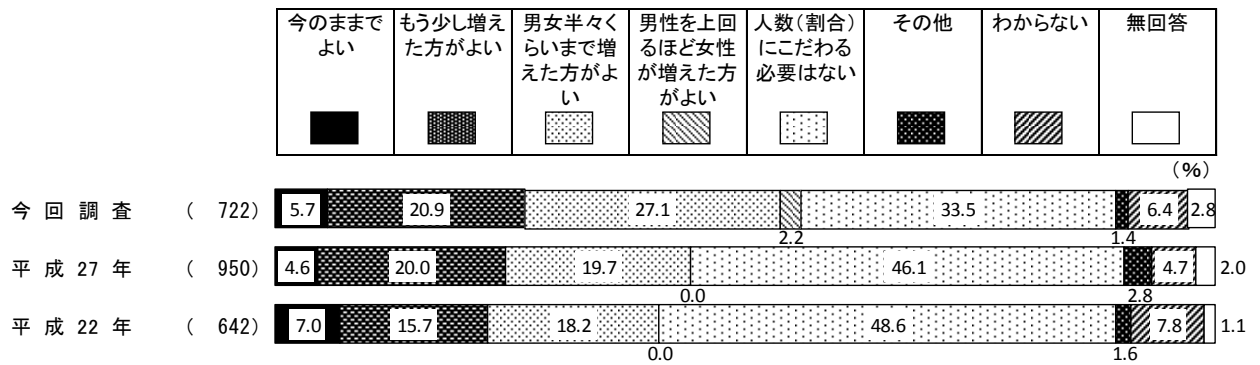
図5-6 市議会、審議会への女性の参画について（性別・年齢別）



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

時系列比較でみると、「男女半々くらいまで増えた方がよい」は平成22年以降増加傾向にある。(図5-7)

図5-7 市議会、審議会への女性の参画について（時系列比較）

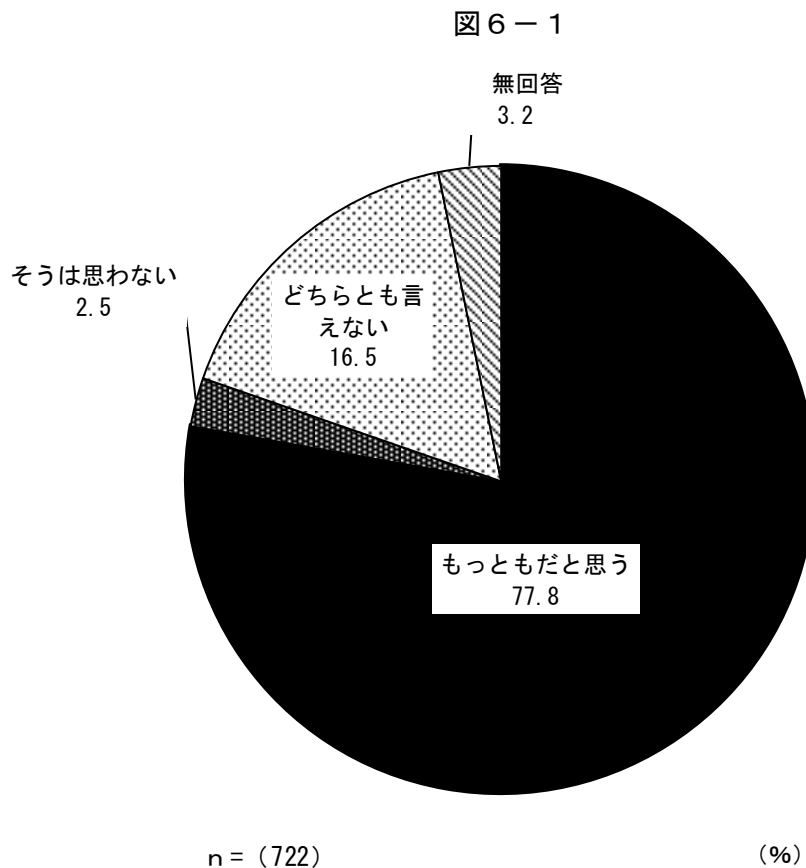


6. 人権をおびやかす行為について

(1) 基本的人権の侵害についての考え方

◇「もっともだと思う」が約8割

問 15 年齢、性別、性自認、性的指向、しょうがいの有無、国籍、民族、宗教、部落出身などを理由にしたあらゆる差別は、基本的人権の侵害であり、是正されるべきだと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

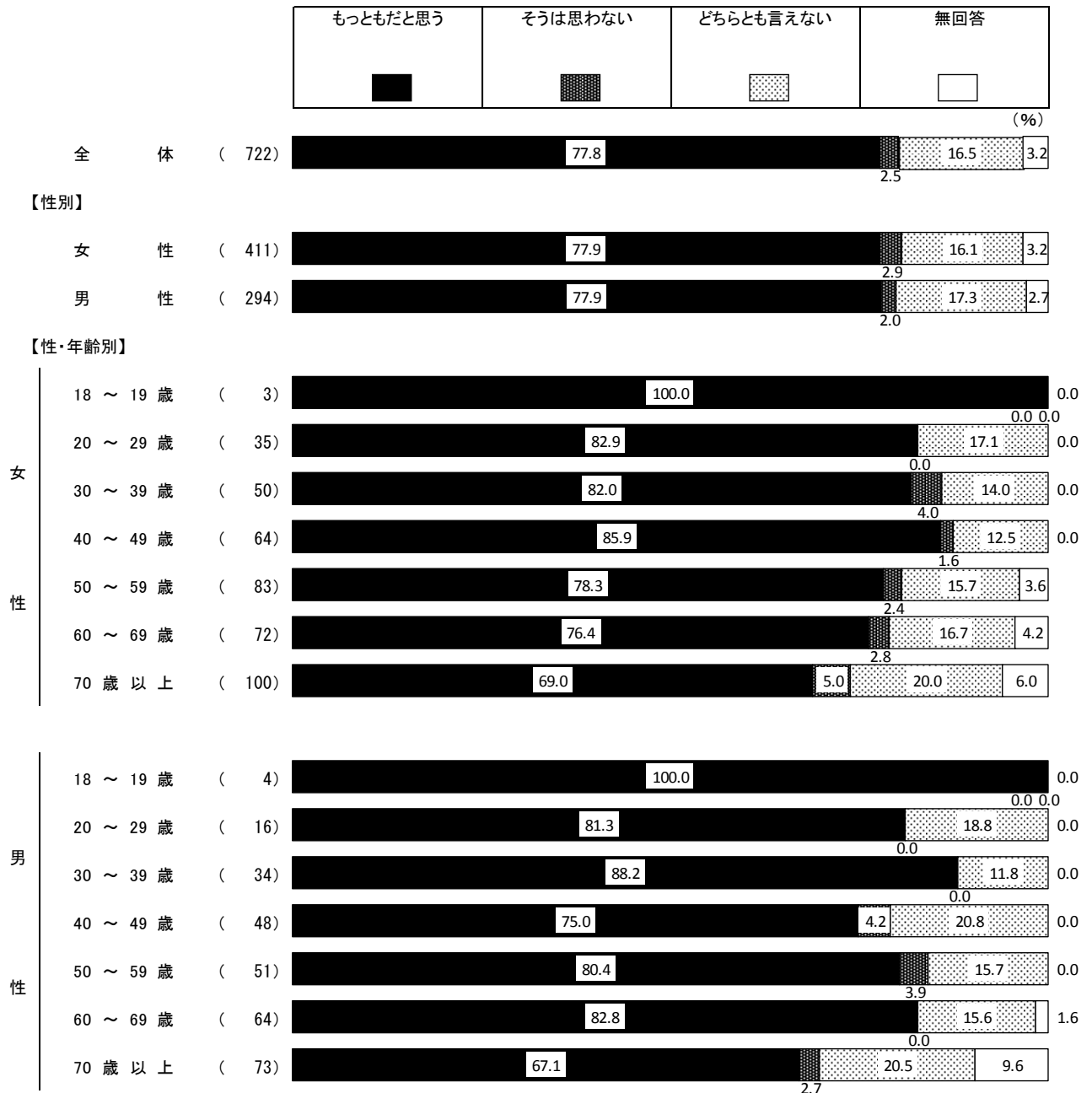


あらゆる差別は、基本的人権の侵害であり、是正されるべきだと思うか聞いたところ、「もっともだと思う」(77.8%)が約8割で最も高く、「そうは思わない」(2.5%)が1割未満、「どちらとも言えない」(16.5%)は1割半ばを超えている。(図6-1)

性別でみると、女性と男性ともに「もっともだと思う」が8割弱と高くなっている。

性別・年齢別でみると、「もっともだと思う」は男性30～39歳（88.2%）で約9割と最も高くなっている。一方、女性70歳以上（69.0%）、男性70歳以上（67.1%）では、7割弱と他の年代に比べ低くなっている。（図6-2）

図6-2 基本的人権の侵害についての考え方（性別・年齢別）



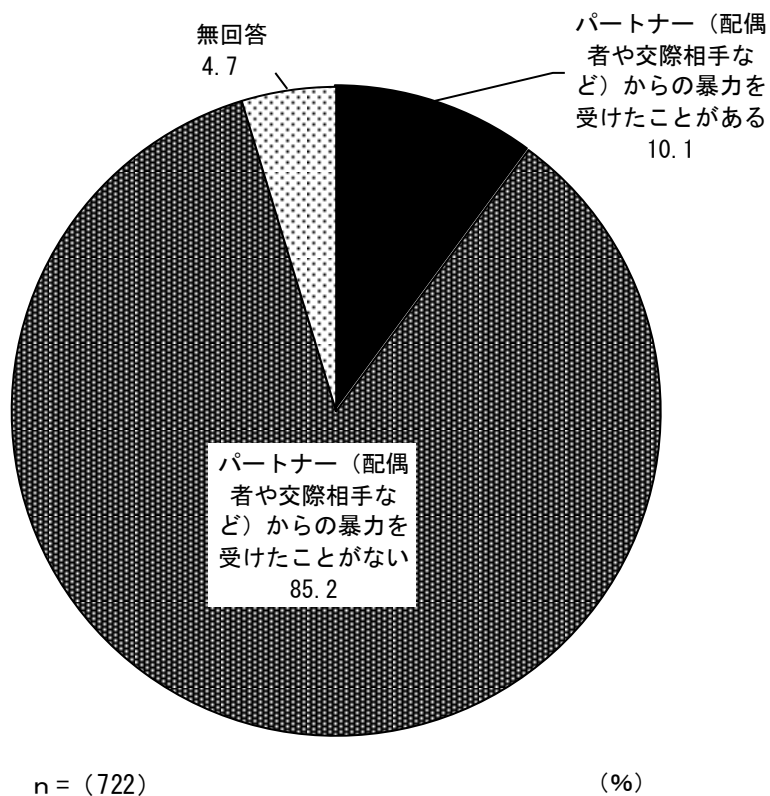
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(2) パートナーから暴力を受けた経験

◇「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある」が約1割

問16 あなたは、今までにパートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けた（と感じる）ことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

図6-3

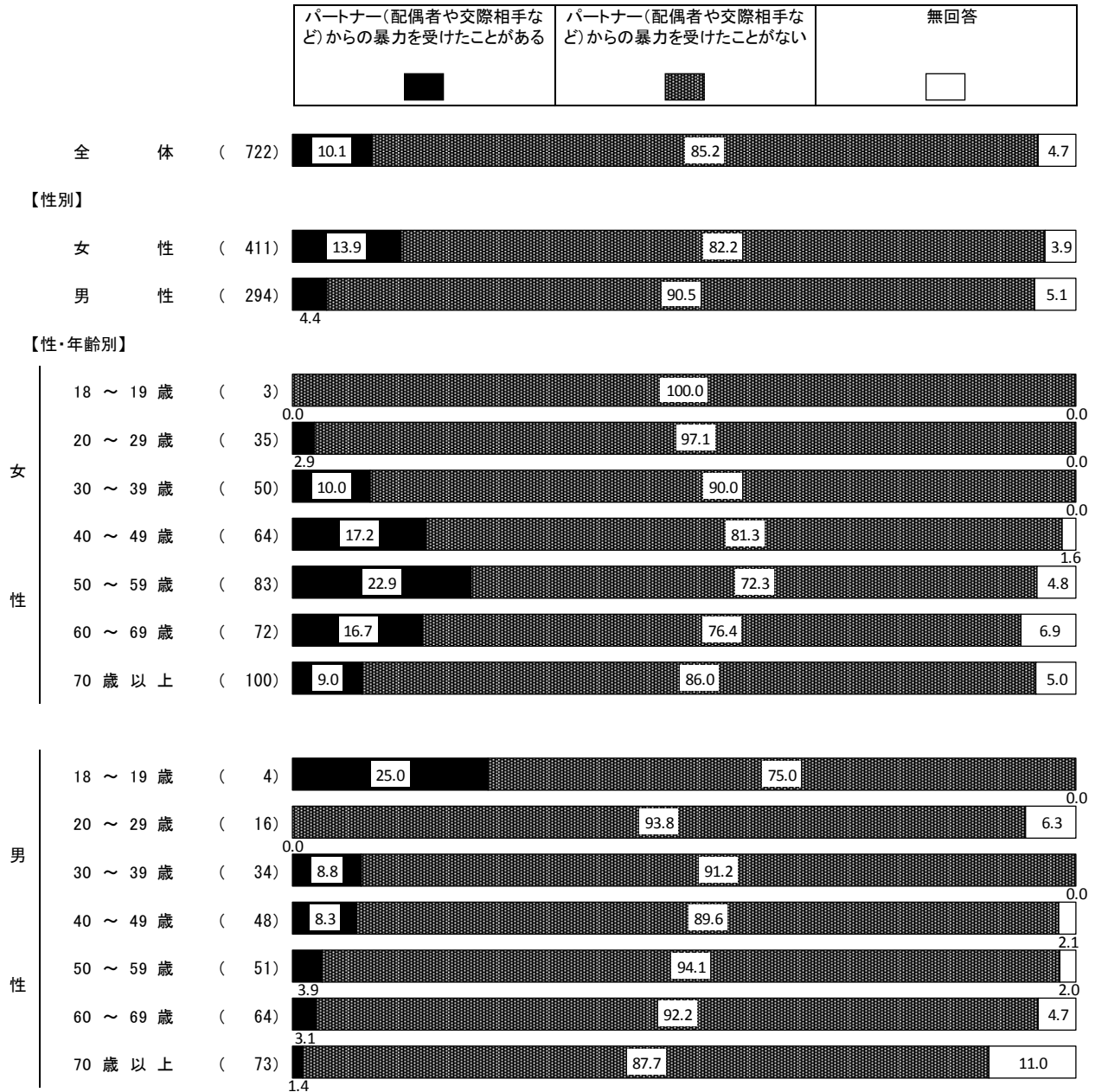


パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けた（と感じる）ことがあるか聞いたところ、「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある」（10.1%）が約1割、「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがない」（85.2%）は8割台半ばとなっている。（図6-3）

性別で見ると、「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある」は女性（13.9%）が男性（4.4%）より9.5ポイント高くなっており、女性と男性で差が見られる。

性別・年齢別で見ると「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある」は女性50～59歳（22.9%）で2割を超え他の年代に比べ高くなっている。（図6-4）

図6-4 パートナーから暴力を受けた経験（性別・年齢別）



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

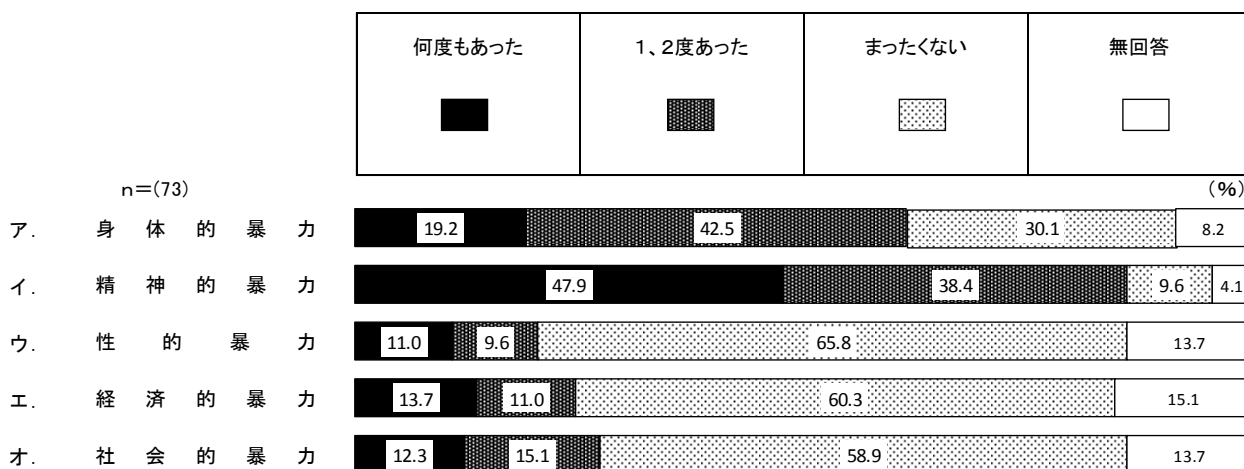
(2-1) 受けた暴力の内容

◇「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『あった』は、《精神的暴力》で8割台半ばを超えている

問 16 で 1 (パートナー (配偶者や交際相手など) からの暴力を受けたことがある) と回答した方におたずねします

問 16-1. あなたはパートナー (配偶者や交際相手など) から次のような行為をされたことがありますか。ア～オの項目について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

図 6-5



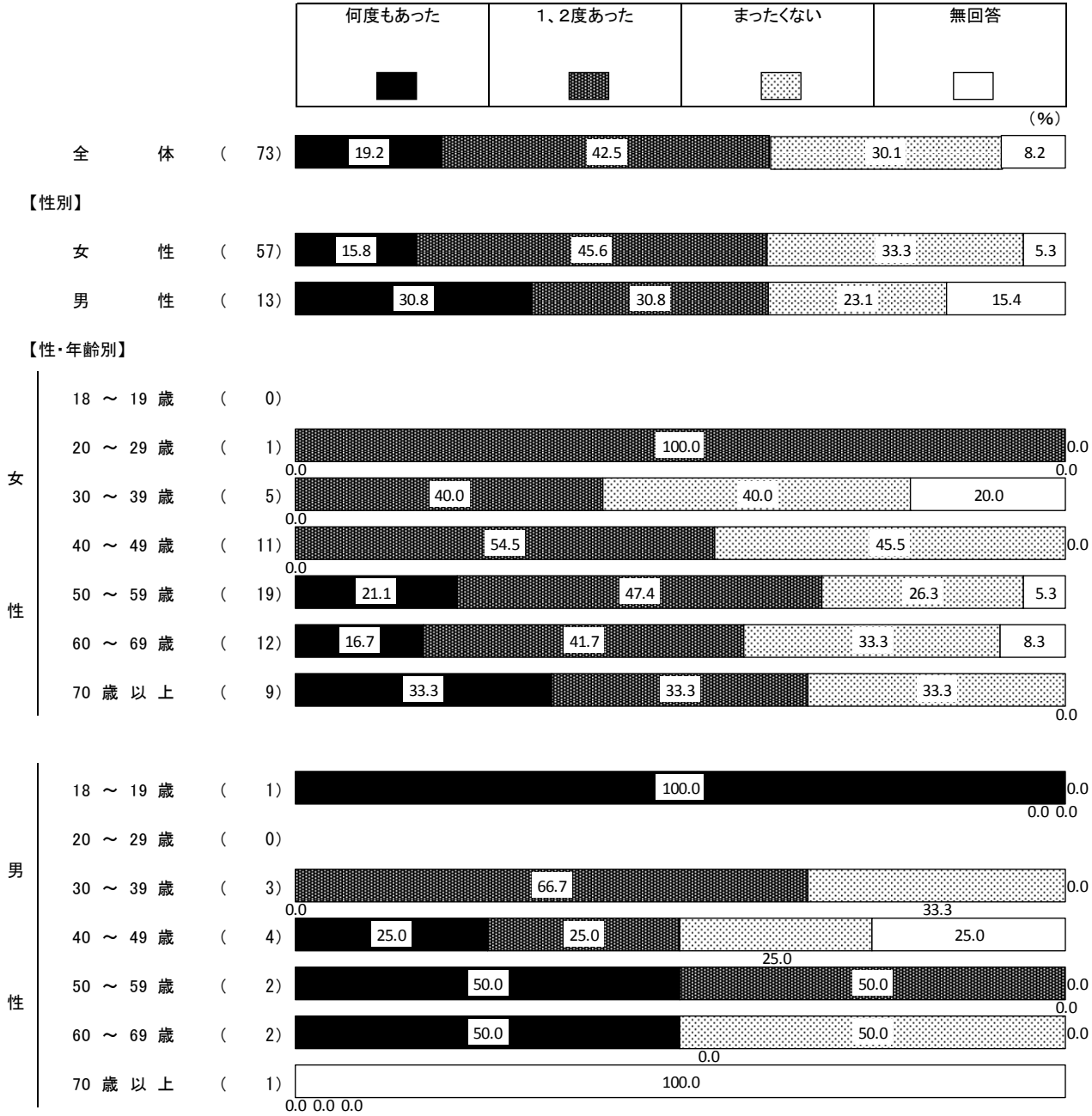
パートナー (配偶者や交際相手など) からの暴力を受けたことがあると回答した方に、受けた暴力の内容を聞いたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『あった』は、《精神的暴力》(86.3%)で8割台半ばを超え最も高く、次いで、《身体的暴力》(61.7%)が6割を超えている。(図6-5)

身体的暴力

性別で見ると、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた『あった』は61.4%で約6割の女性が《身体的暴力》を受けたと回答している。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図6-6)

図6-6 受けた暴力の内容(性別・年齢別) -ア. 身体的暴力



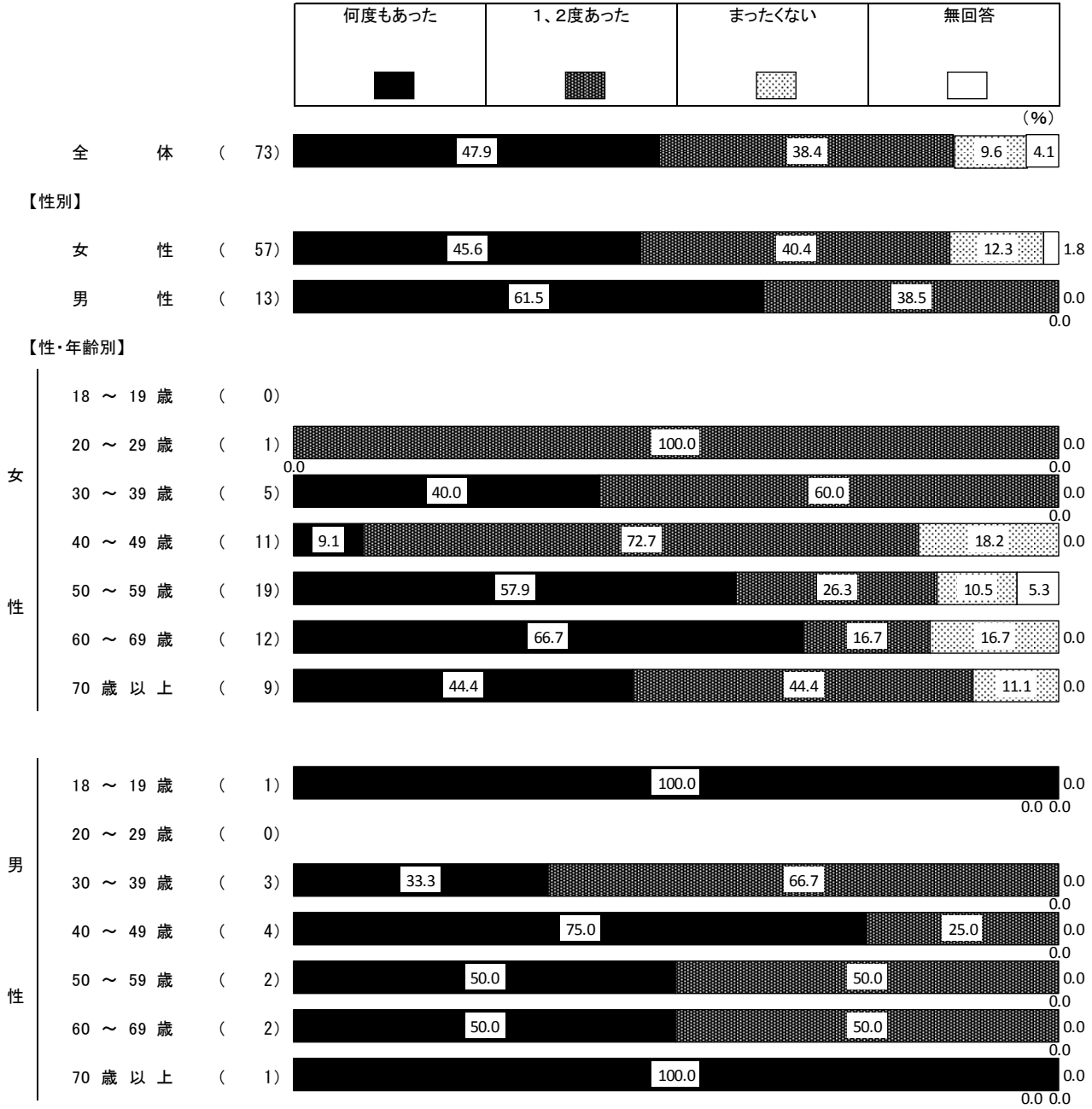
※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

精神的暴力

性別でみると、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた『あった』は86.0%で8割台半ばを超えた女性が《精神的暴力》を受けたと回答している。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図6-7)

図6-7 受けた暴力の内容(性別・年齢別) -イ. 精神的暴力



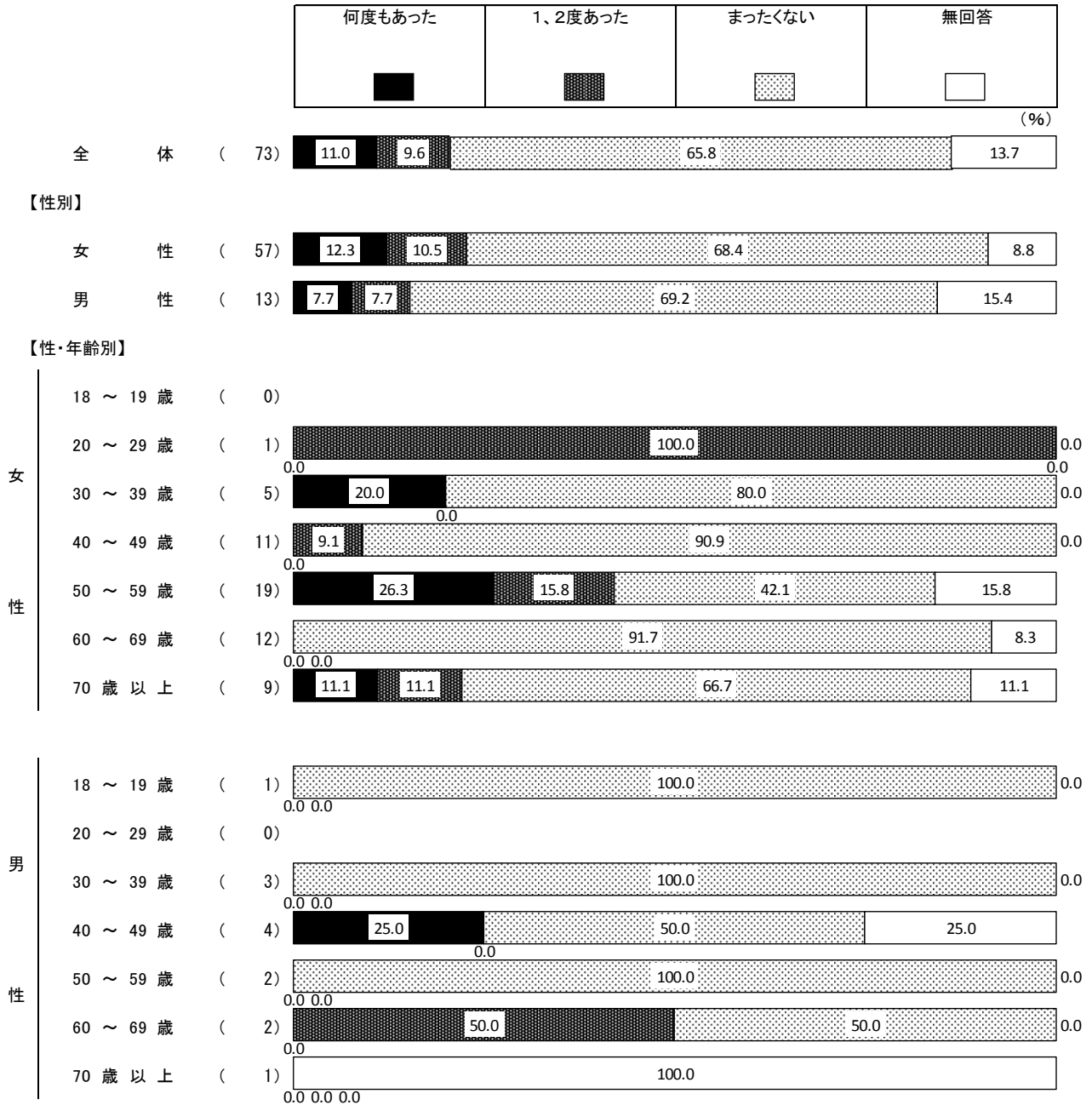
※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

性的暴力

性別で見ると、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた『あった』は22.8%と2割を超えた女性が《性的暴力》を受けたと回答している。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図6-8)

図6-8 受けた暴力の内容(性別・年齢別) -ウ. 性的暴力



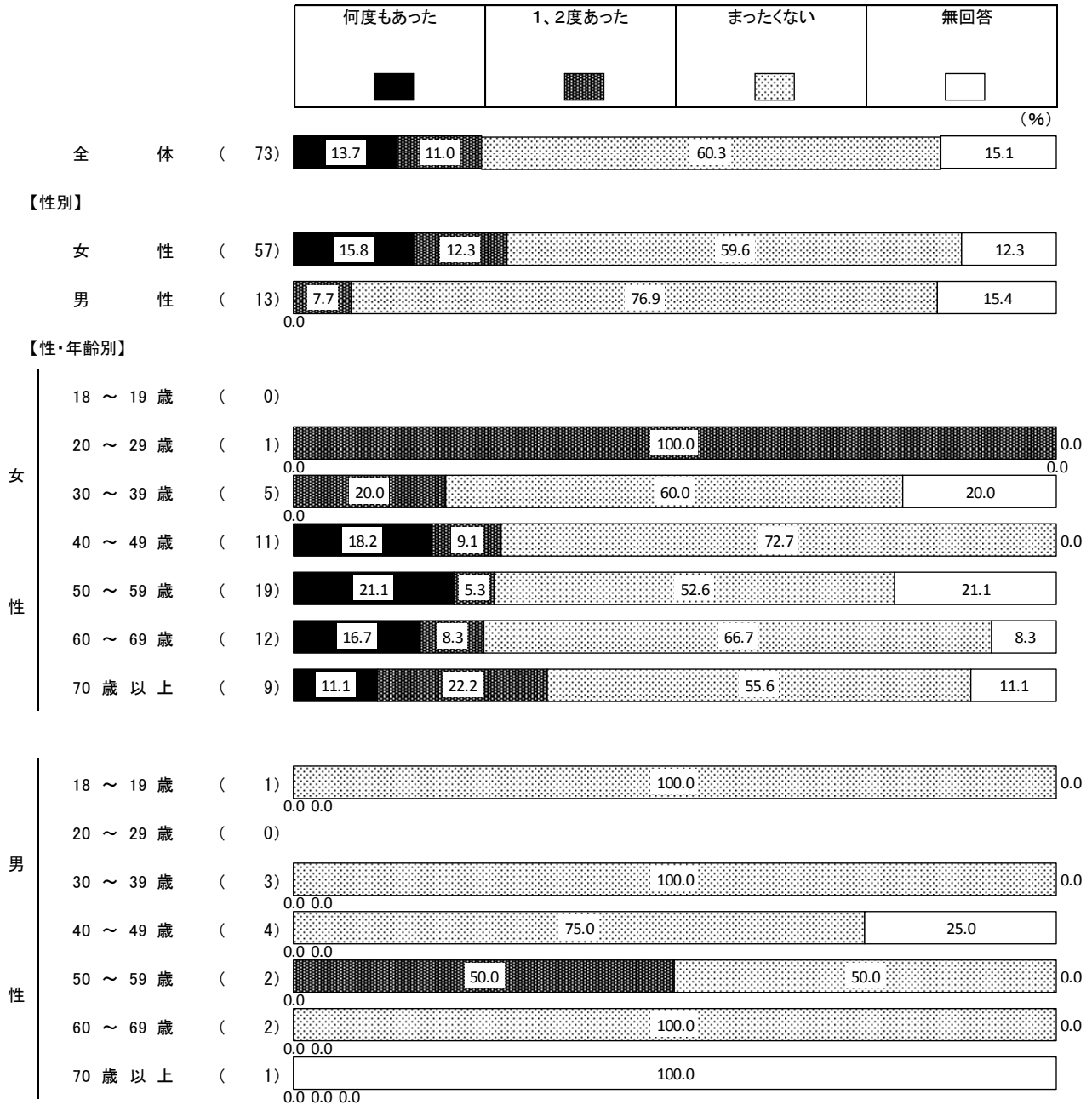
※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

経済的暴力

性別でみると、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた『あった』は28.1%と約3割の女性が《経済的暴力》を受けたと回答している。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図6-9)

図6-9 受けた暴力の内容(性別・年齢別) —工. 経済的暴力



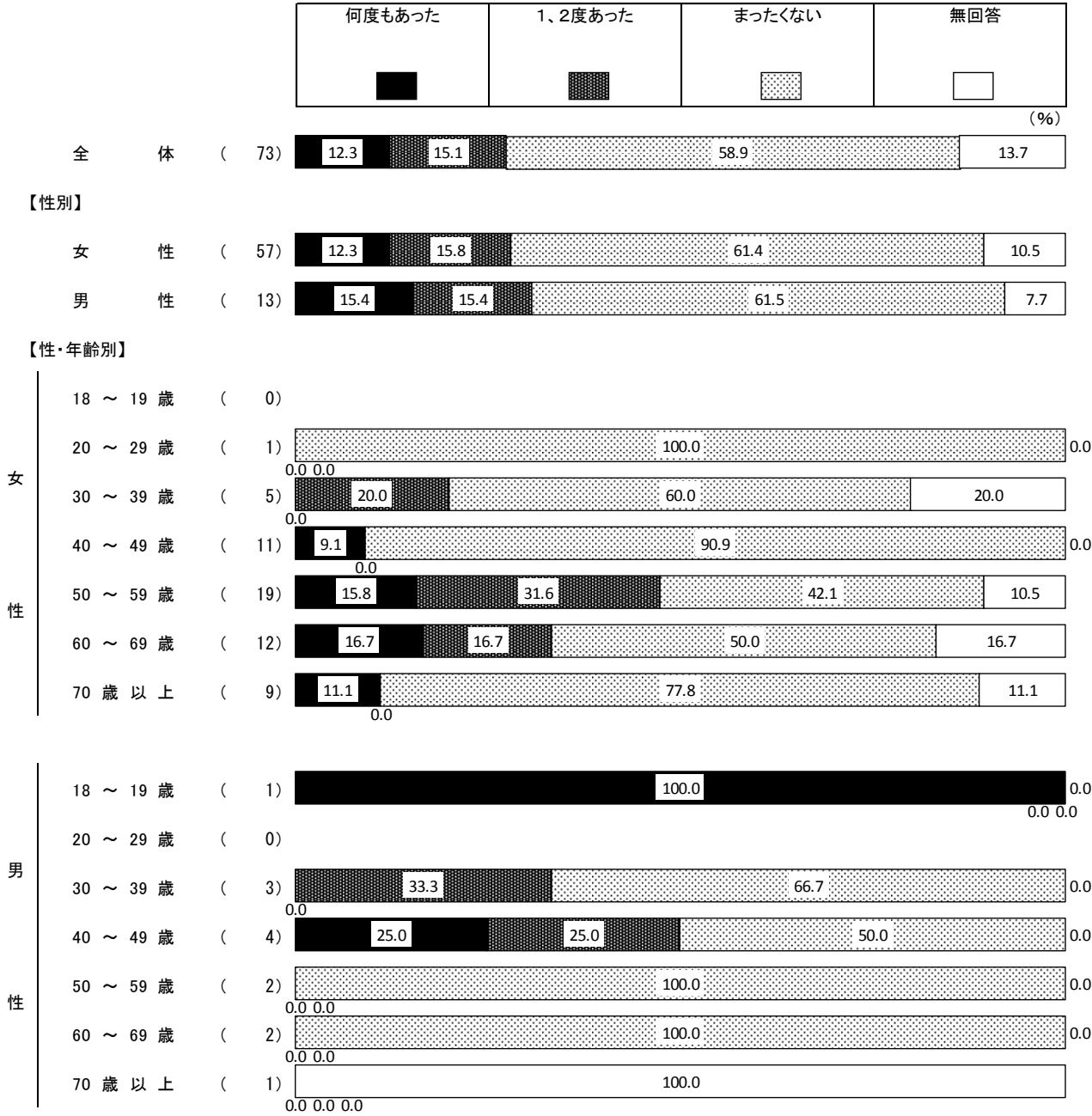
※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

社会的暴力

性別で見ると、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた『あった』は28.1%と約3割の女性が《社会的暴力》を受けたと回答している。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図6-10)

図6-10 受けた暴力の内容（性別・年齢別）—才. 社会的暴力



※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

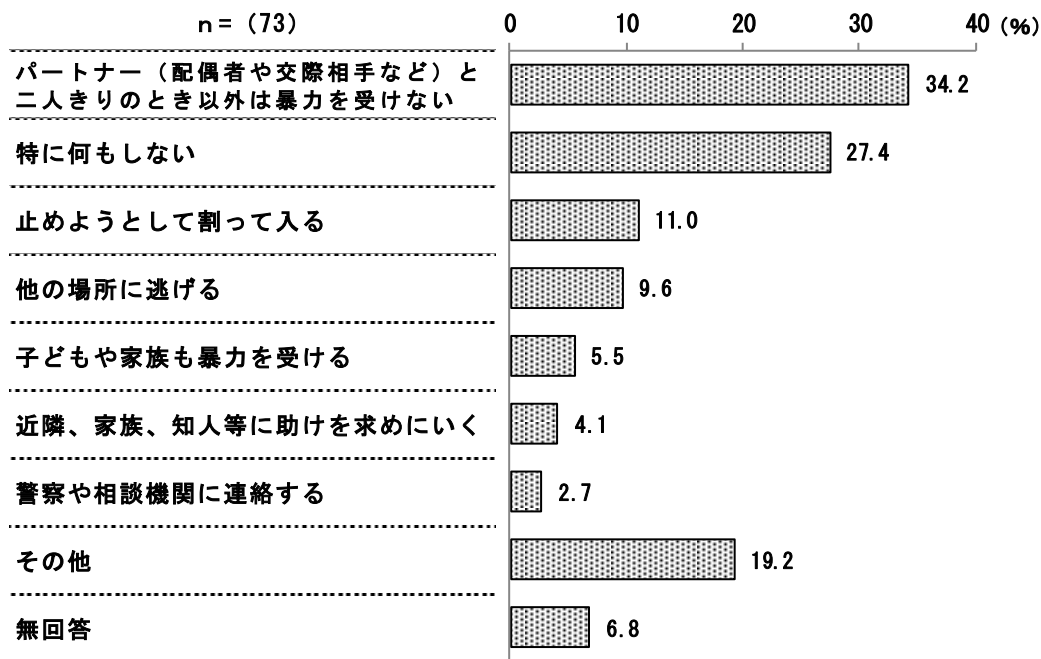
(2-2) 子どもや他の家族の対応

◇「パートナー（配偶者や交際相手など）と二人きりのとき以外は暴力を受けない」が3割台半ば

問16で1（パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある）と回答した方におたずねします

問16-2 パートナー（配偶者や交際相手など）から暴力を受けているときに子どもや他の家族はどうしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図6-11

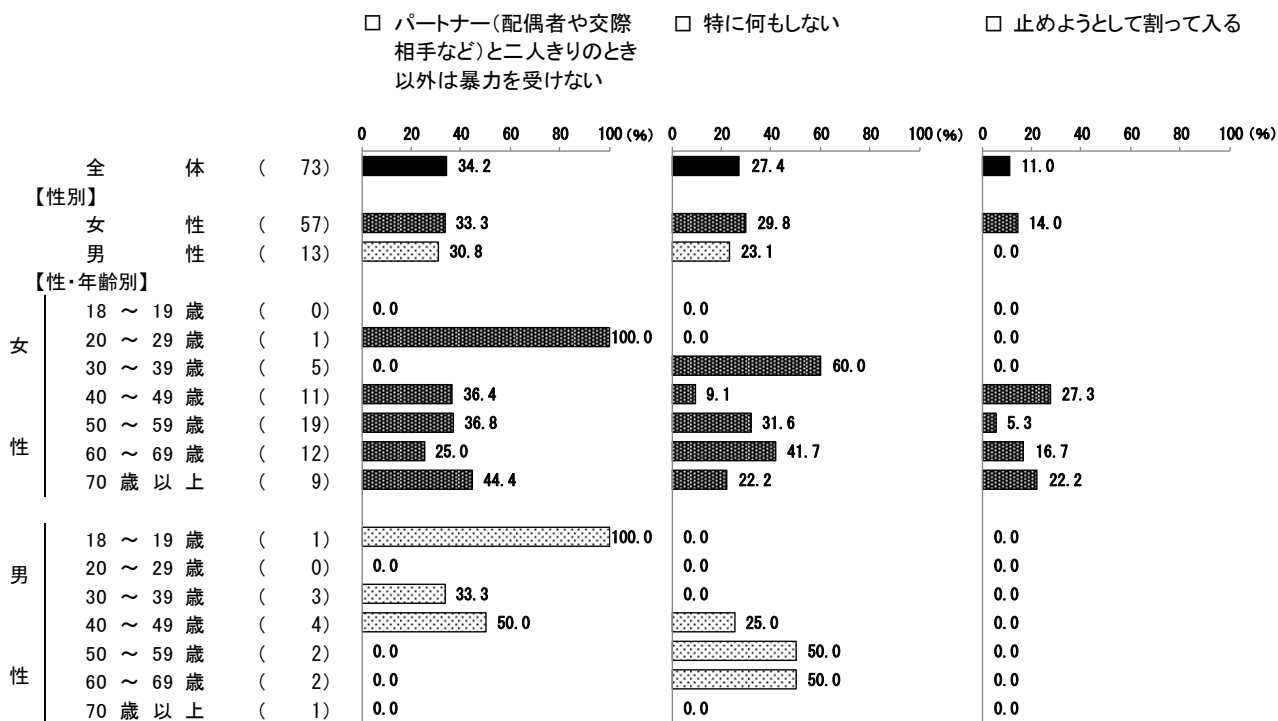


パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがあると回答した方に、暴力を受けているときに子どもや他の家族はどうしているか聞いたところ、「パートナー（配偶者や交際相手など）と二人きりのとき以外は暴力を受けない」(34.2%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「特に何もしない」(27.4%)が2割台半ばを超えている。(図6-11)

全体で上位3項目に挙げられた項目を性別で見ると、「止めようとして割って入る」は女性(14.0%)が1割台半ばとなっている。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図6-12)

図6-12 子どもや他の家族の対応(性別・年齢別) <「その他」を除く上位3項目>



※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

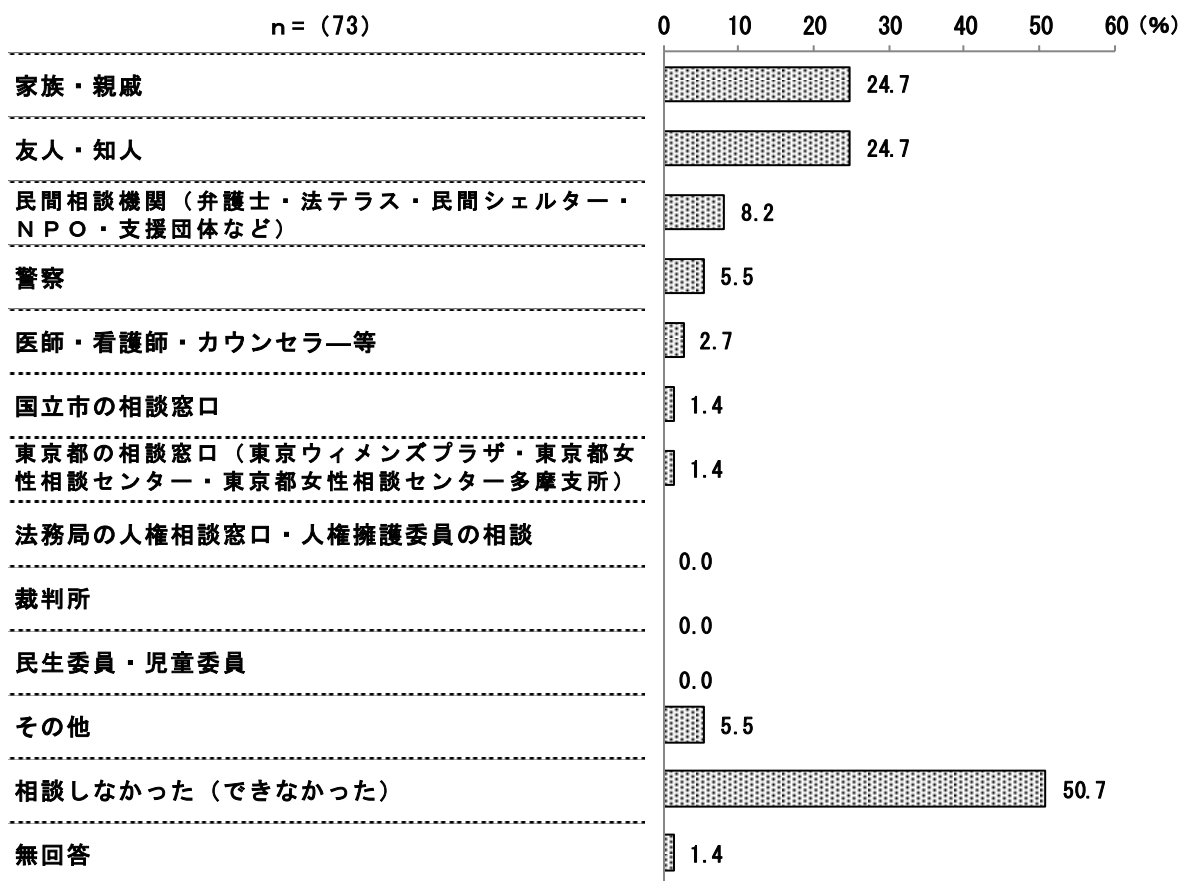
(2-3) 相談先

◇「相談しなかった（できなかった）」が約5割、「家族・親戚」「友人・知人」が2割台半ば

問16で1（パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある）と回答した方におたずねします

問16-3 暴力を受けたとき、どなたかに相談をしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図6-13

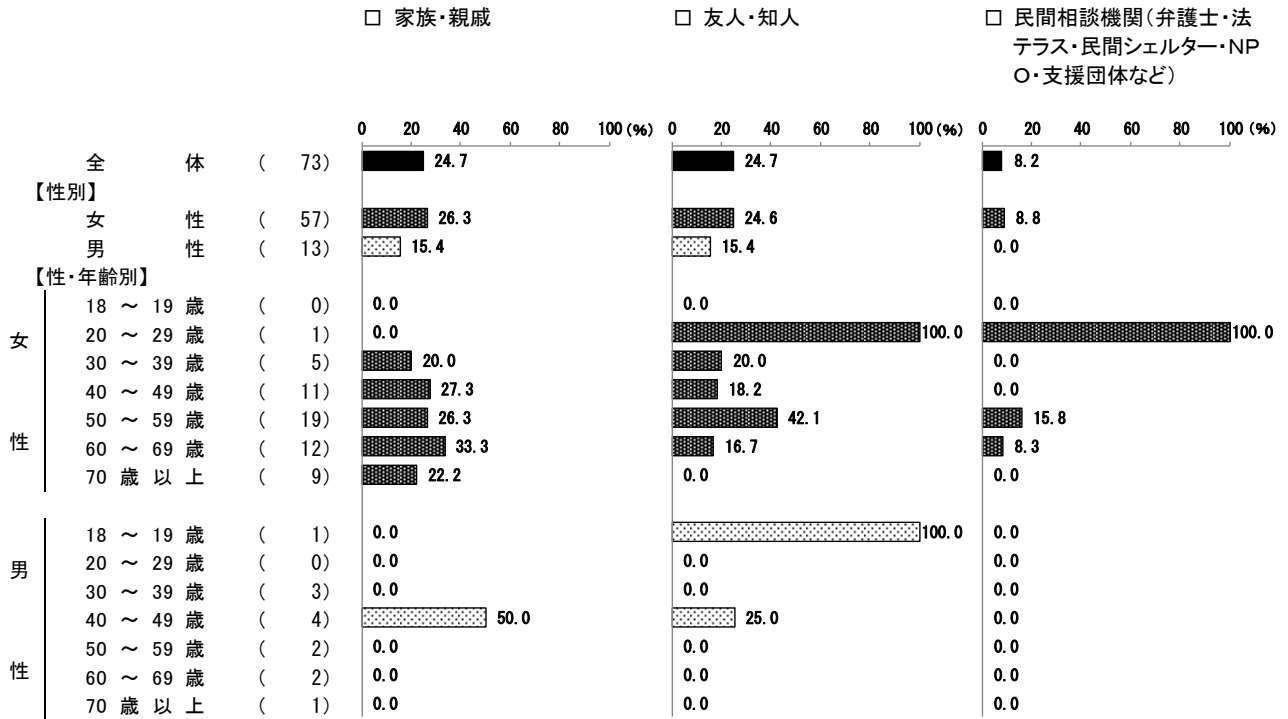


パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがあると回答した方に、暴力を受けたときの相談先を聞いたところ、「相談しなかった（できなかった）」(50.7%) が約5割で最も高くなっている。相談した人の中では、「家族・親戚」と「友人・知人」（ともに24.7%）が2割台半ばで最も高くなっている。（図6-13）

全体で上位3項目に挙げられた項目を性別でみると、「家族・親戚」は女性（26.3%）が2割台半ばを超え、「友人・知人」は女性（24.6%）が2割台半ばとなっている。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。（図6-14）

図6-14 相談先（性別・年齢別）＜「相談しなかった（できなかった）」を除く上位3項目＞



※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

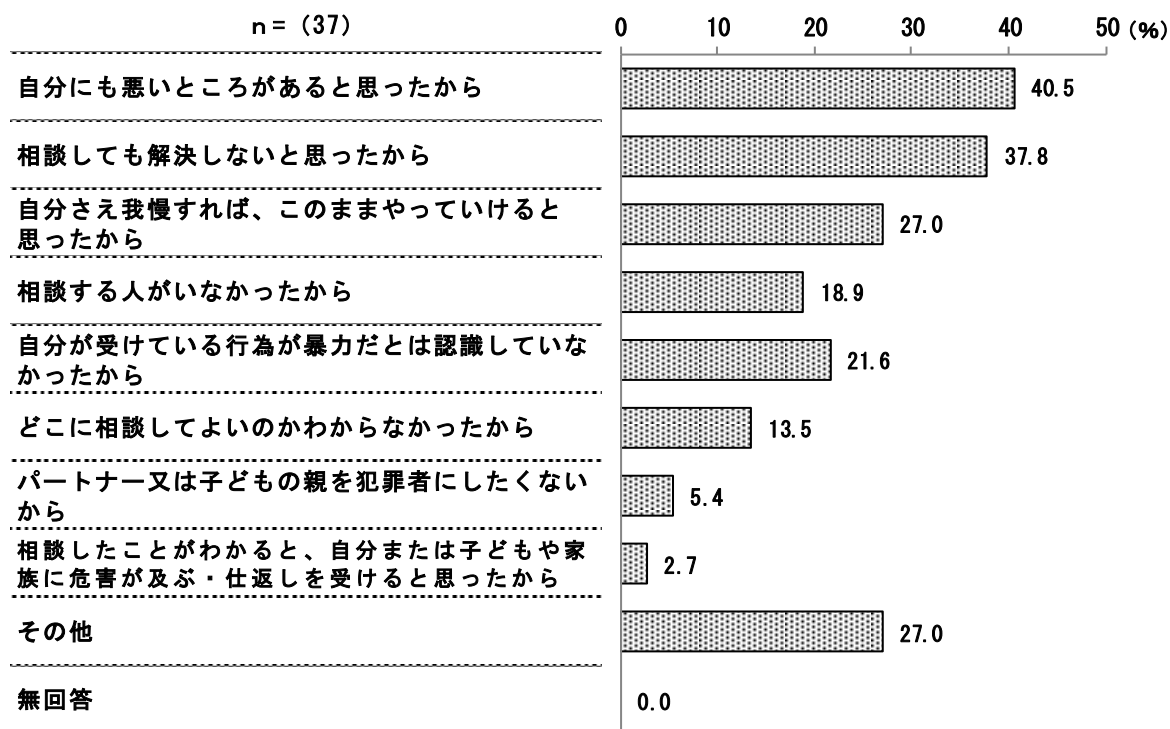
(2-4) 相談しなかった理由

◇「自分にも悪いところがあると思ったから」が約4割

問16-3で12「相談しなかった（できなかった）」と回答した方におたずねします

問16-4. その理由としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

図6-15

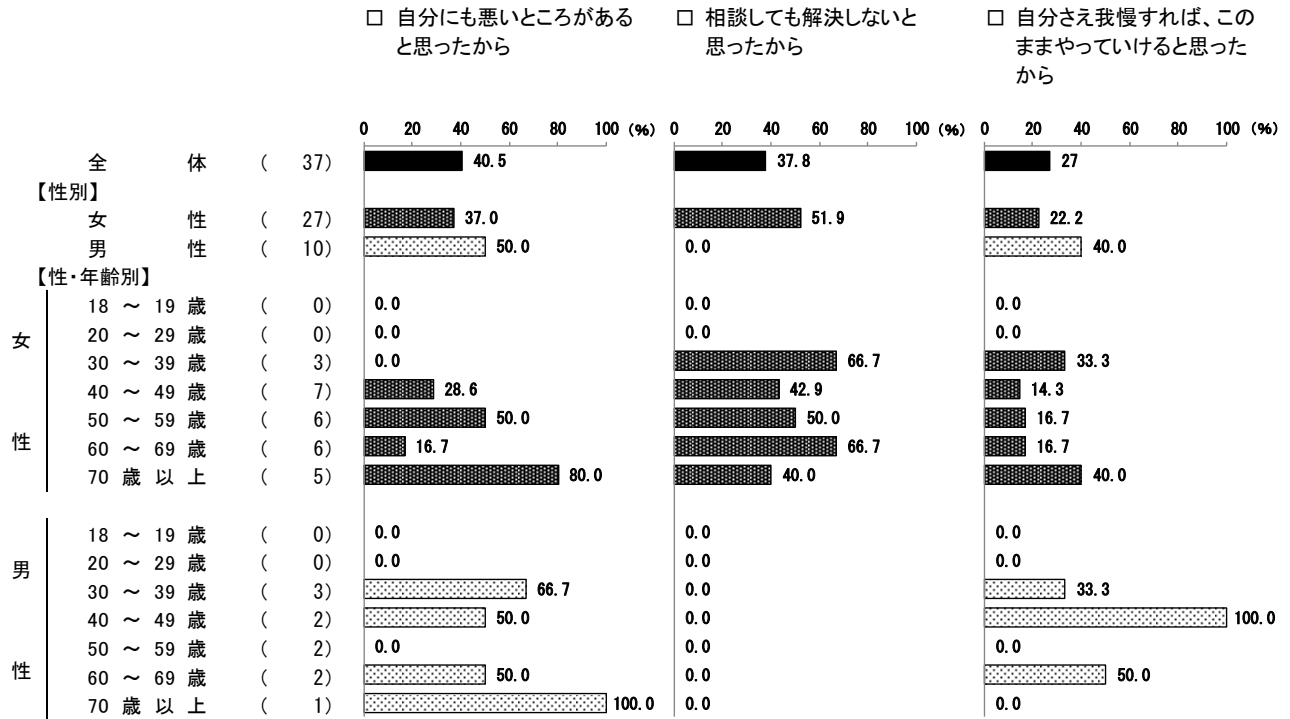


パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたとき、「相談しなかった（できなかった）」と回答した方に、相談しなかった理由を聞いたところ、「自分にも悪いところがあると思ったから」（40.5%）が約4割で最も高く、次いで、「相談しても解決しないと思ったから」（37.8%）も約4割と続いている。（図6-15）

全体で上位3項目に挙げられた項目を性別で見ると、女性で「相談しても解決しないと思ったから」(51.9%)が約5割と高くなっている。

性別・年齢別は基数が少数のため、参考に図示する。(図6-16)

図6-16 相談しなかった理由(性別・年齢別) <「その他」を除く上位3項目>



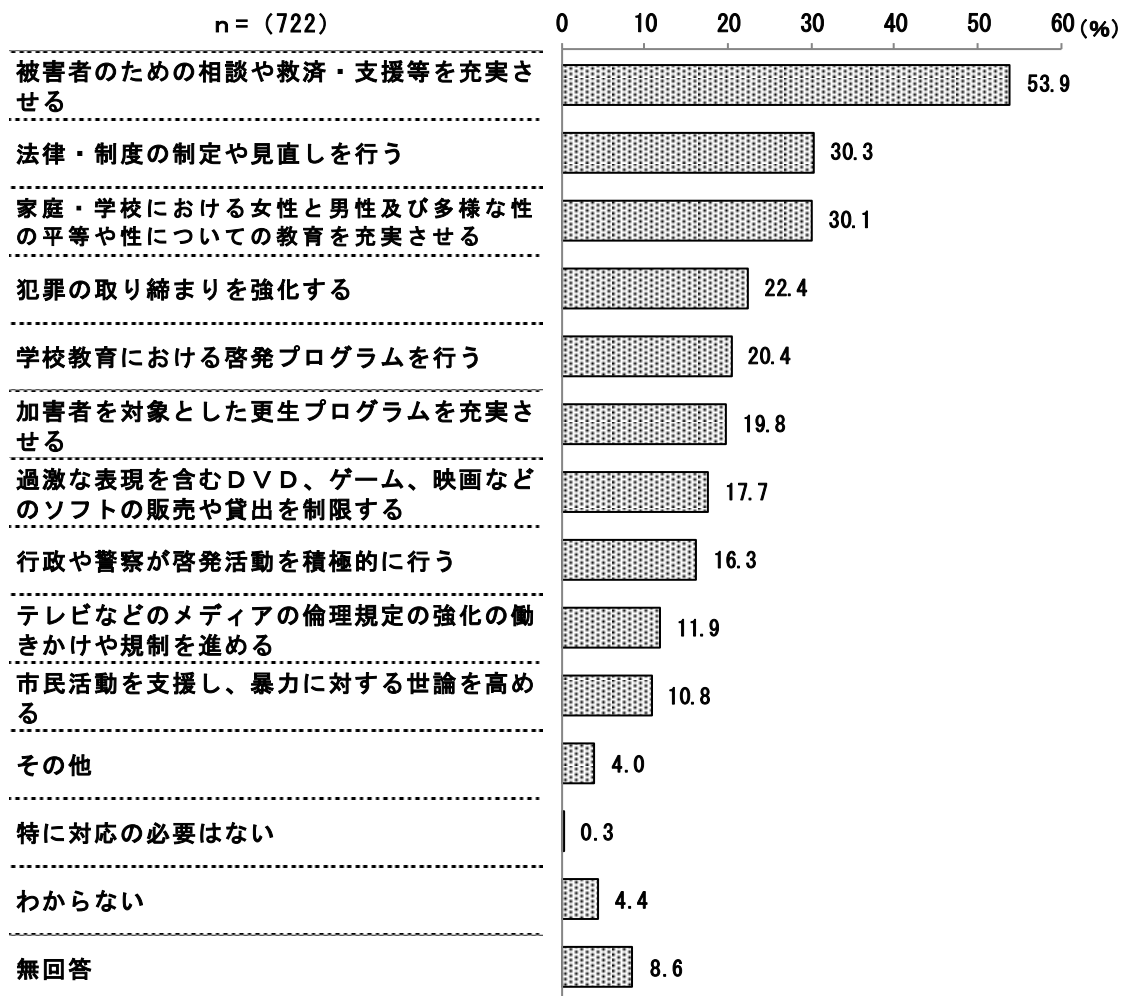
※女性・男性ともに年齢別の基数が少数のため、構成比は参考値になります。

(3) 暴力をなくすために必要な対策

◇「被害者のための相談や救済・支援等を充実させる」が5割超え

問17 子どもが両親間等の暴力を目撃することは心理的虐待にあたります。心理的虐待、性犯罪、パートナーからの暴力をなくすために、どのようなことを行っていくべきだと思いますか。あてはまると思われるものを3つまで選び、○をつけてください。

図6-17

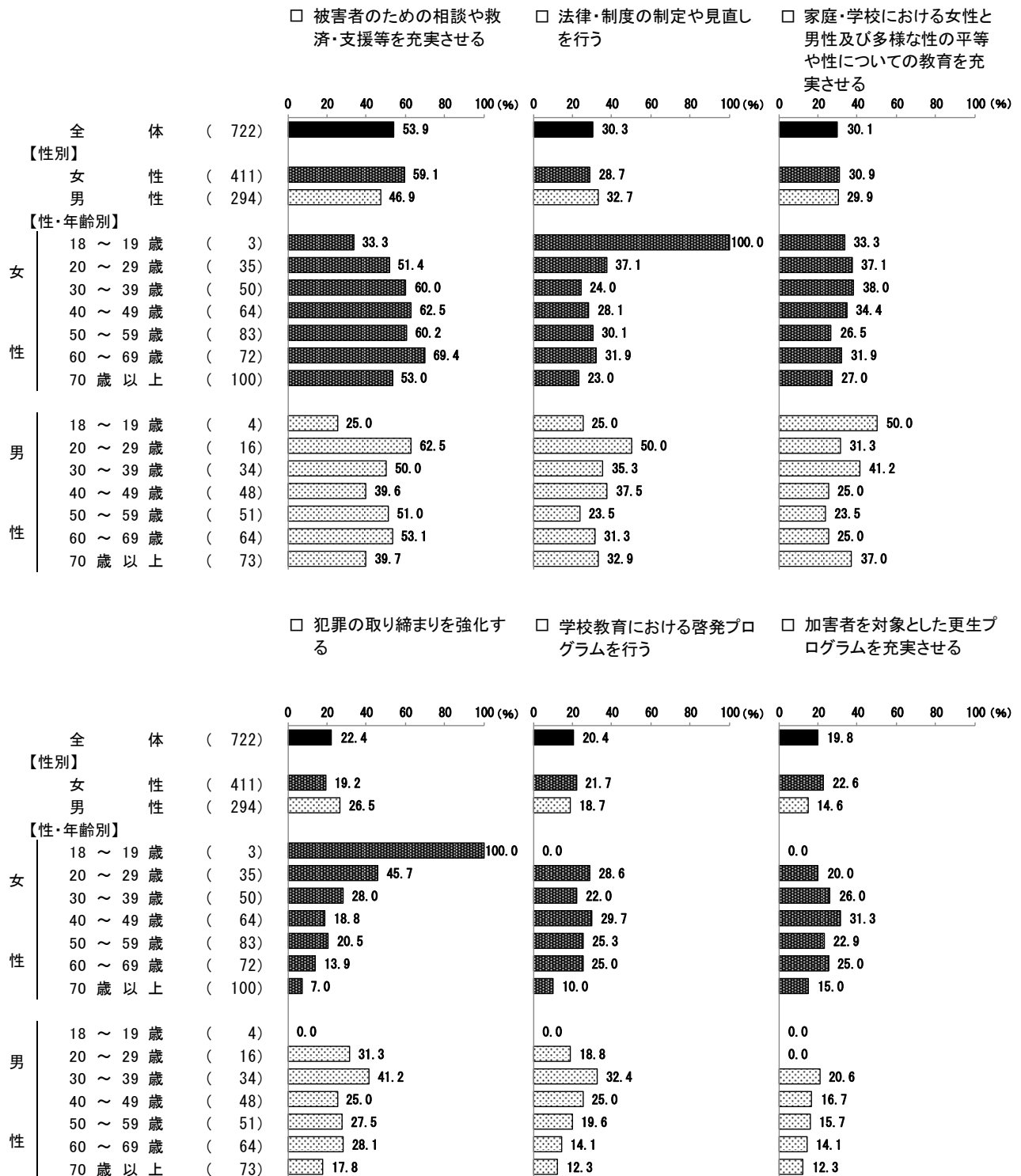


心理的虐待、性犯罪、パートナーからの暴力をなくすために必要な対策を聞いたところ、「被害者のための相談や救済・支援等を充実させる」(53.9%)が約5割と最も高く、次いで、「法律・制度の制定や見直しを行う」(30.3%)、「家庭・学校における女性と男性及び多様な性の平等や性についての教育を充実させる」(30.1%)の順となっている。(図6-17)

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別でみると、「被害者のための相談や救済・支援等を充実させる」は女性（59.1%）が男性（46.9%）より12.2ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「被害者のための相談や救済・支援等を充実させる」は女性 60～69 歳（69.4%）で約7割と高くなっている。（図6-18）

図6-18 暴力をなくすために必要な対策（性別・年齢別）＜上位6項目＞

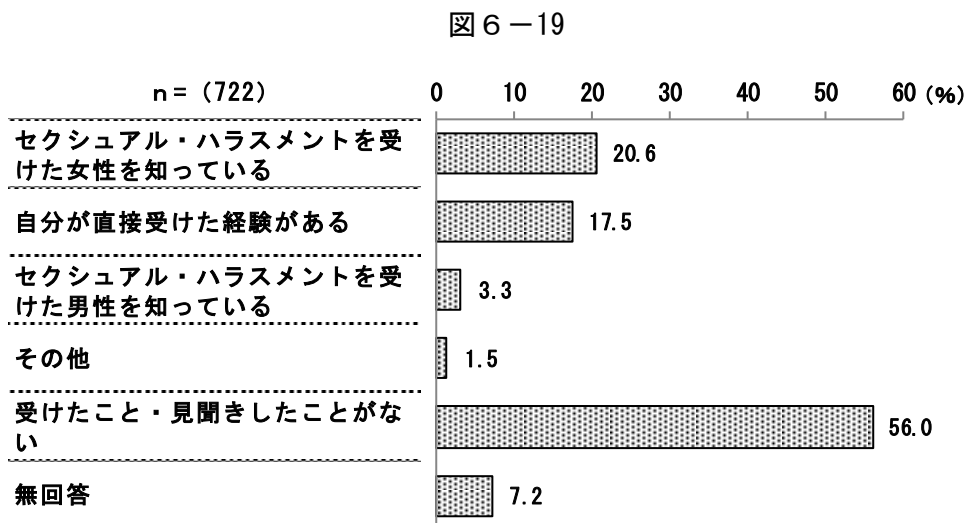


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(4) セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きしたりした経験

◇「受けたこと・見聞きしたことがない」が5割台半ば、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」が約2割

問18 あなたは、職場（飲み会の席を含む）、学校、社会的活動の場等においてセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたりした経験がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

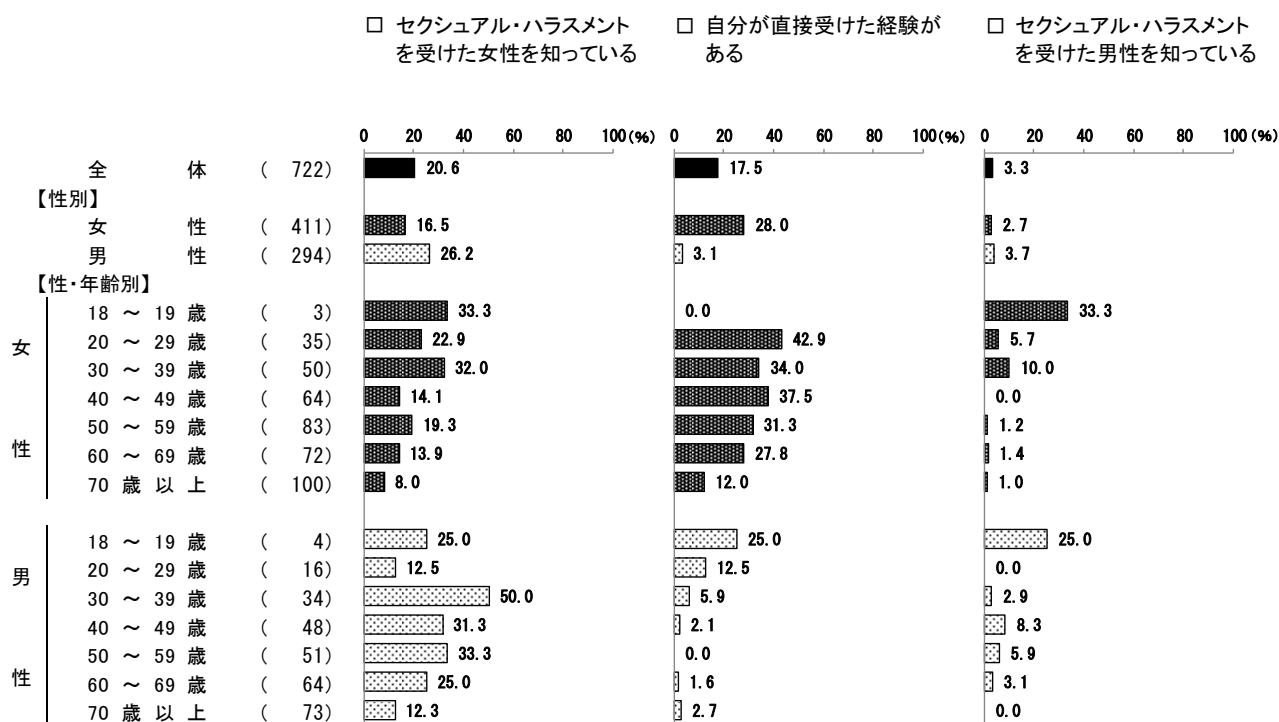


セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きしたりした経験を聞いたところ、「受けたこと・見聞きしたことがない」(56.0%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」(20.6%)、「自分が直接受けた経験がある」(17.5%)の順となっている。(図6-19)

全体で上位3項目に挙げられた項目を性別で見ると、「自分が直接受けた経験がある」は女性（28.0%）が男性（3.1%）より24.9ポイント高くなっている。一方、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」は男性（26.2%）が女性（16.5%）より9.7ポイント高くなっており、女性と男性で差が見られる。

性別・年齢別で見ると、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」は男性30～39歳（50.0%）で5割と最も高くなっている。また、「自分が直接受けた経験がある」は女性20～29歳（42.9%）で4割を超えて最も高くなっている。（図6-20）

図6-20 セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きしたりした経験（性別・年齢別）
 <上位3項目>



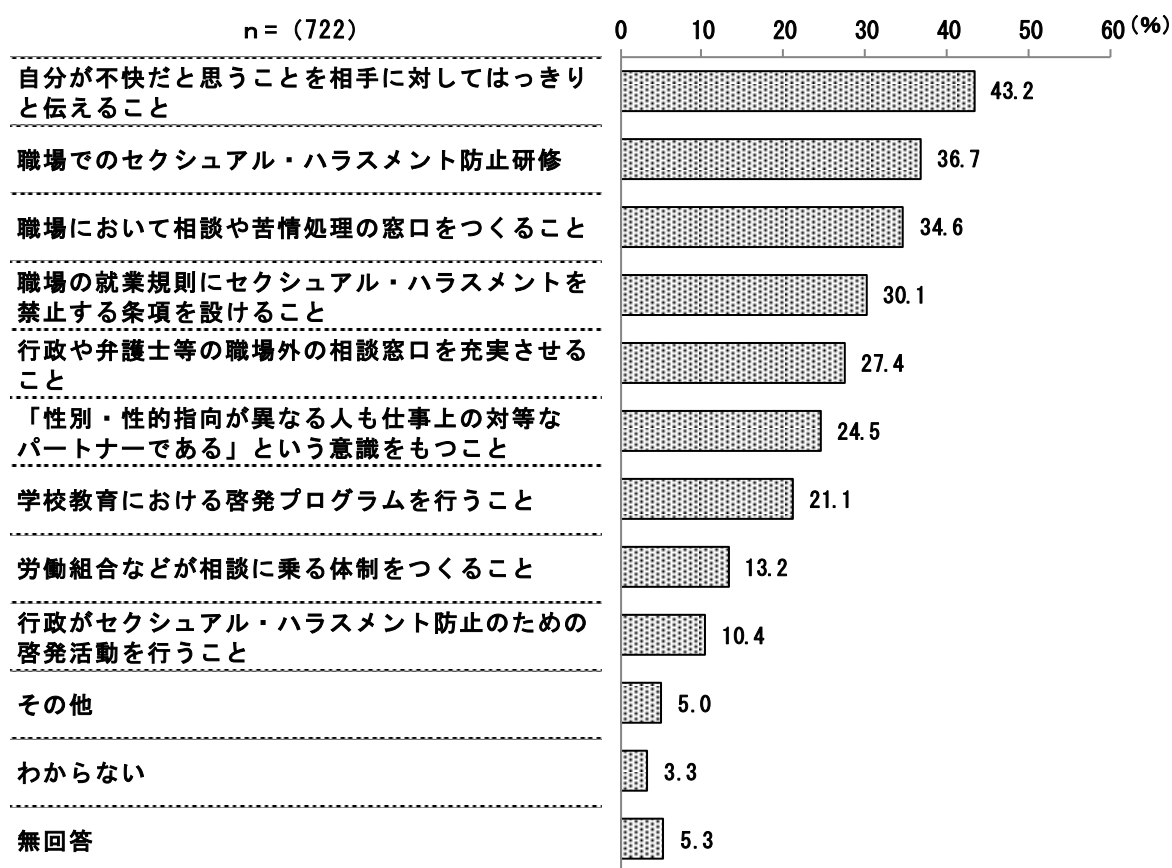
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(5) 職場や学校などでのセクシュアル・ハラスメントをなくすために必要なこと

◇「自分が不快だと思うことを相手に対してはっきりと伝えること」が4割を超える

問 19 あなたは、職場（飲み会の席を含む）、学校、社会的活動の場等におけるセクシュアル・ハラスメントをなくすために、どのようなことが必要だと思いますか。必要と思われるものを3つまで選び、○をつけてください。

図 6-21



職場（飲み会の席を含む）、学校、社会的活動の場等におけるセクシュアル・ハラスメントをなくすために必要なことを聞いたところ、「自分が不快だと思うことを相手に対してはっきりと伝えること」（43.2%）が4割を超えて最も高く、次いで、「職場でのセクシュアル・ハラスメント防止研修」（36.7%）、「職場において相談や苦情処理の窓口をつくること」（34.6%）の順となっている。

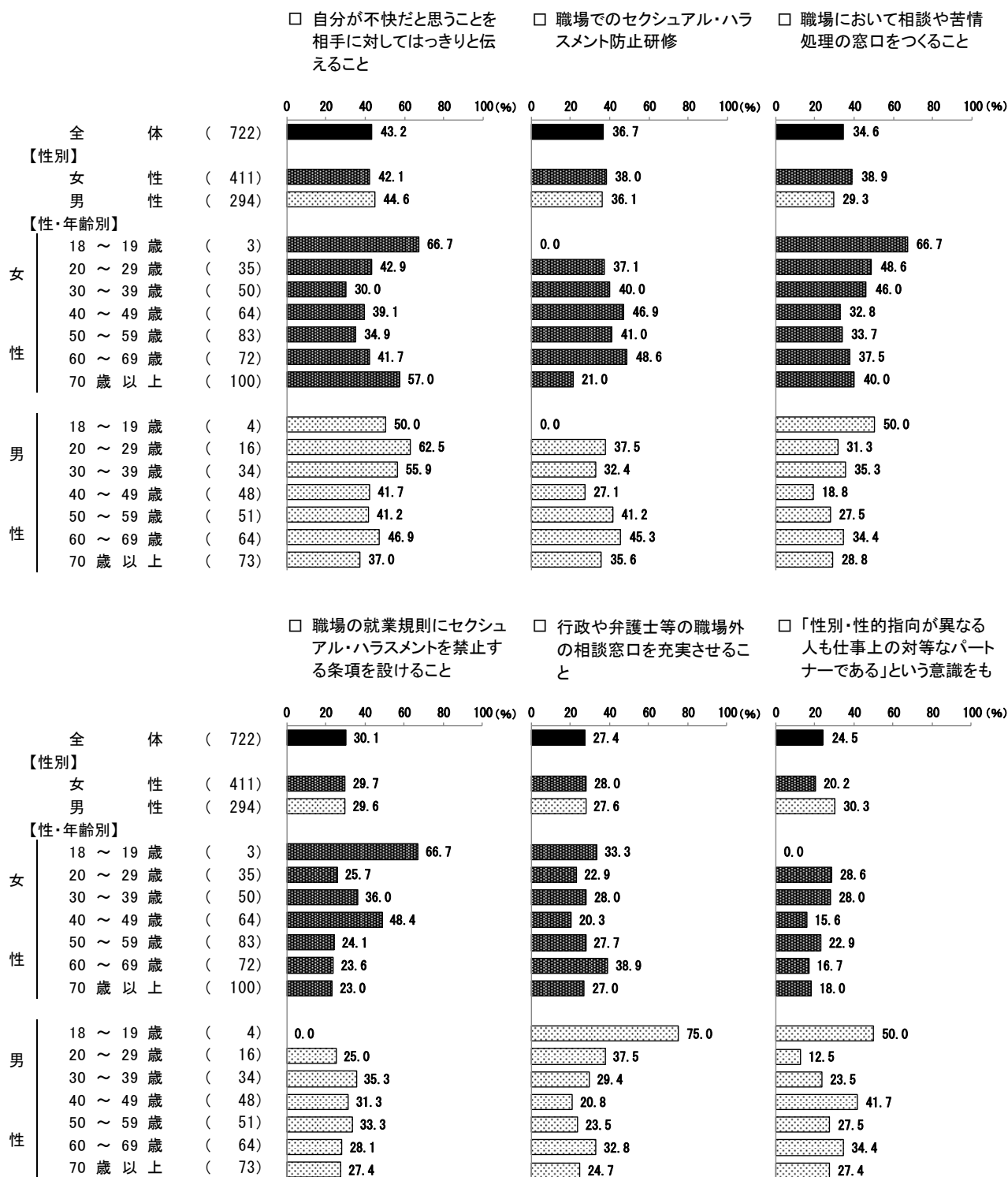
（図 6-21）

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別でみると、「職場において相談や苦情処理の窓口をつくること」は女性（38.9%）が男性（29.3%）より9.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「職場の就業規則にセクシュアル・ハラスメントを禁止する条項を設けること」は女性40～49歳（48.4%）で約5割と他の年代に比べ高くなっている。（図6-22）

図6-22 職場や学校などでセクシュアル・ハラスメントをなくすために必要なこと

（性別・年齢別）＜上位6項目＞



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

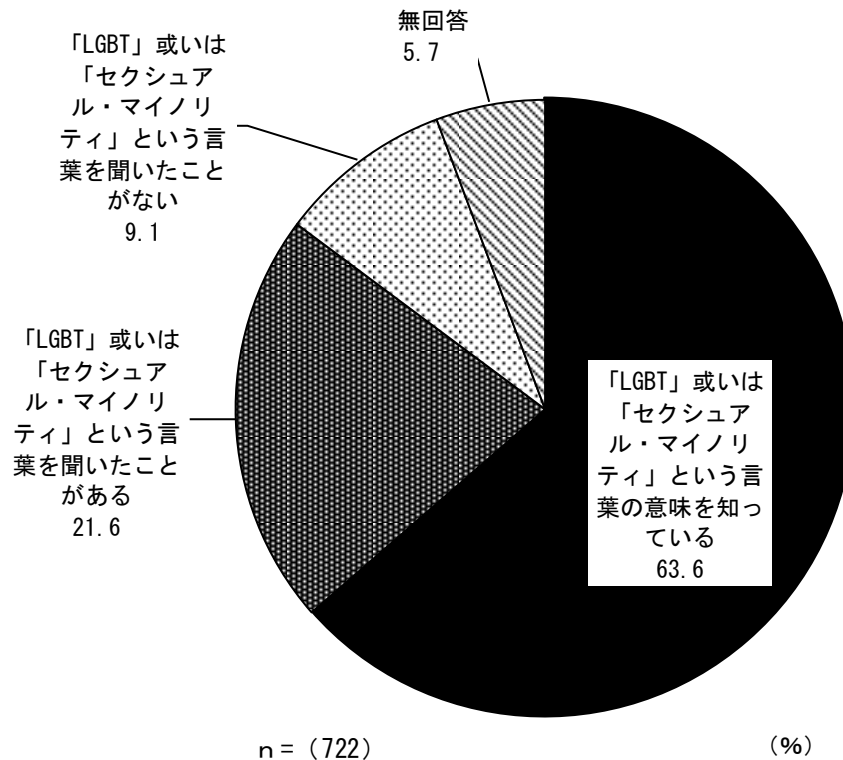
7. LGBT（セクシュアル・マイノリティ）を含む多様な性について

(1) LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の認知度

◇「『LGBT』或いは『セクシュアル・マイノリティ』という言葉の意味を知っている」が6割を超えている

問20 「LGBT（セクシュアル・マイノリティ）」という言葉を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

図7-1



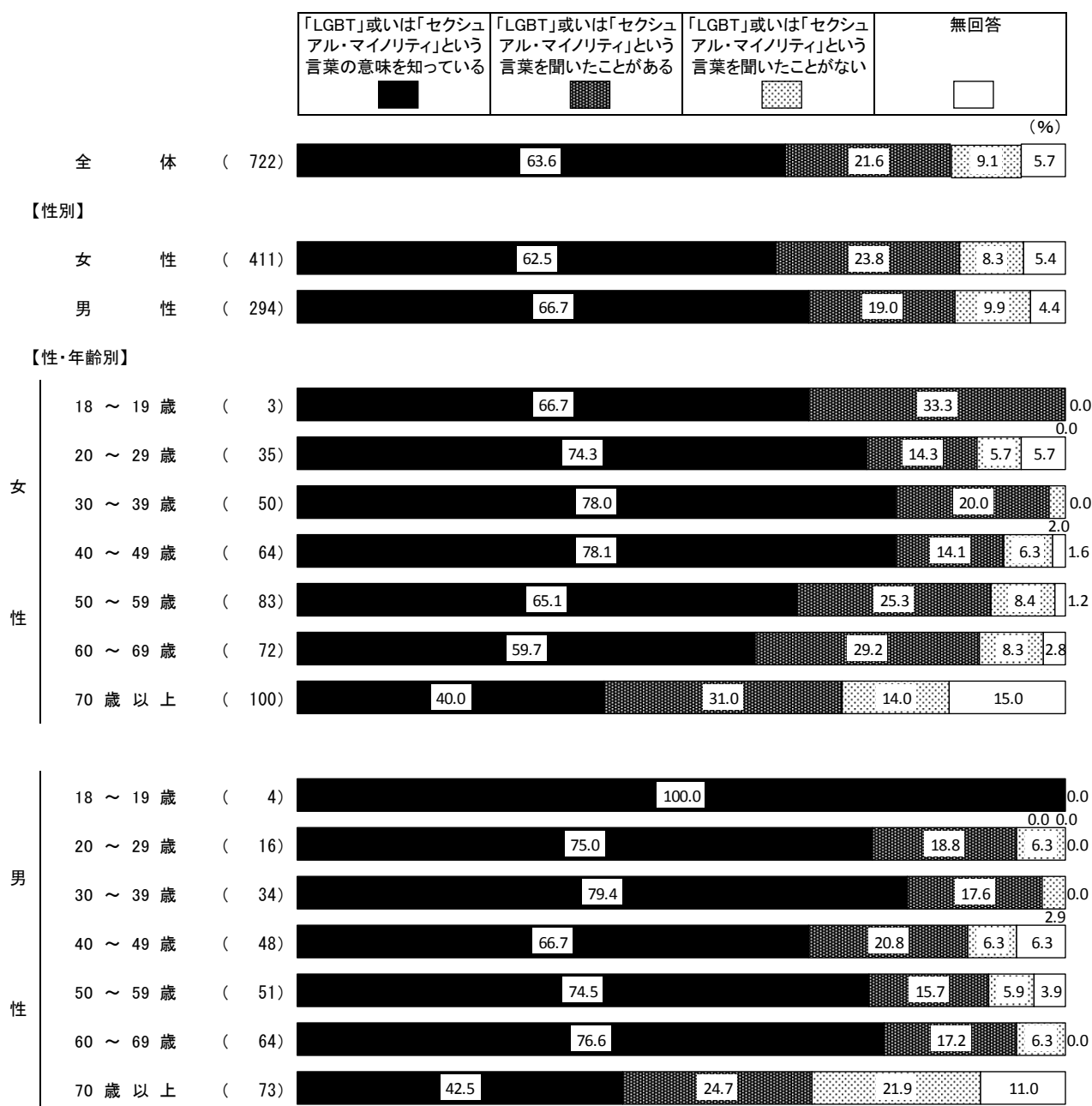
※LGBT（エル・ジー・ビー・ティー）とは、レズビアン（Lesbian）、ゲイ（Gay）、バイセクシュアル（Bisexual）、トランスジェンダー（Transgender）の方々の総称を表す頭字語（頭文字をつづり合わせて作った言葉）です。

LGBT（セクシュアル・マイノリティ）という言葉を知っているか聞いたところ、「『LGBT』或いは『セクシュアル・マイノリティ』という言葉の意味を知っている」（63.6%）が6割を超えて最も高く、「『LGBT』或いは『セクシュアル・マイノリティ』という言葉を知っている」（21.6%）が2割超えとなっている。一方、「『LGBT』或いは『セクシュアル・マイノリティ』という言葉を知っていない」（9.1%）は約1割となっている。（図7-1）

性別でみると、『LGBT』或いは『セクシュアル・マイノリティ』という言葉の意味を知っている」は男性（66.7%）が女性（62.5%）より4.2ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「『LGBT』或いは『セクシュアル・マイノリティ』という言葉の意味を知っている」は男性30～39歳（79.4%）で約8割と最も高くなっている。また、『LGBT』或いは『セクシュアル・マイノリティ』という言葉聞いたことがない」は男性70歳以上（21.9%）で2割超えとなっている。（図7-2）

図7-2 LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の認知度（性別・年齢別）



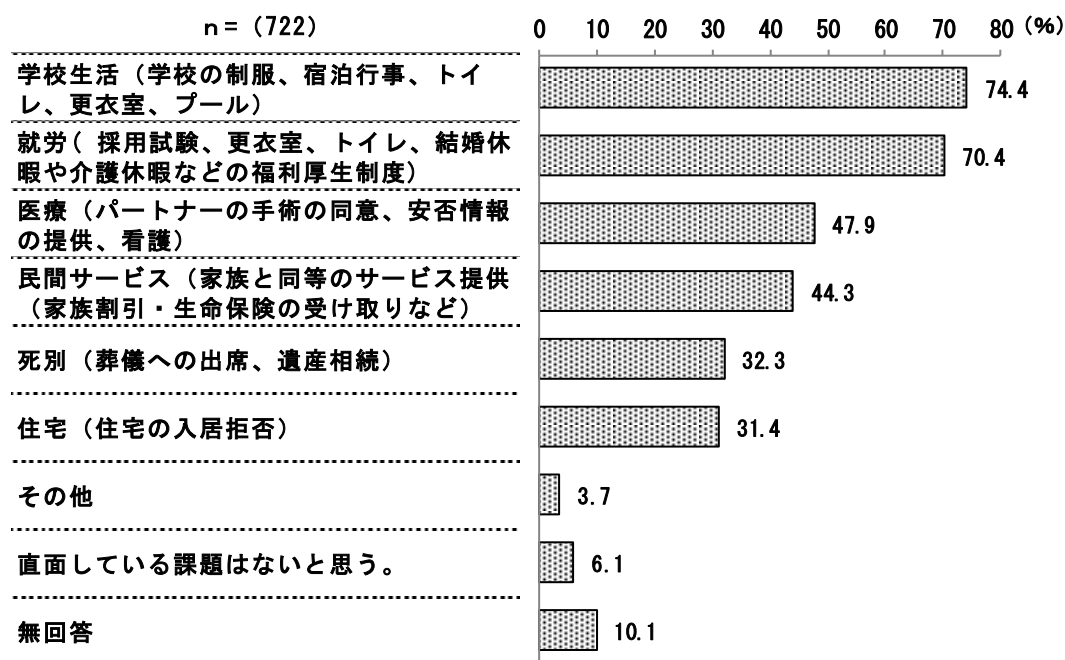
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(2) LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の方が直面している課題

◇「学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）」が7割台半ば

問 21 LGBT などのセクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上で、直面している課題と思われるものを、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図 7-3

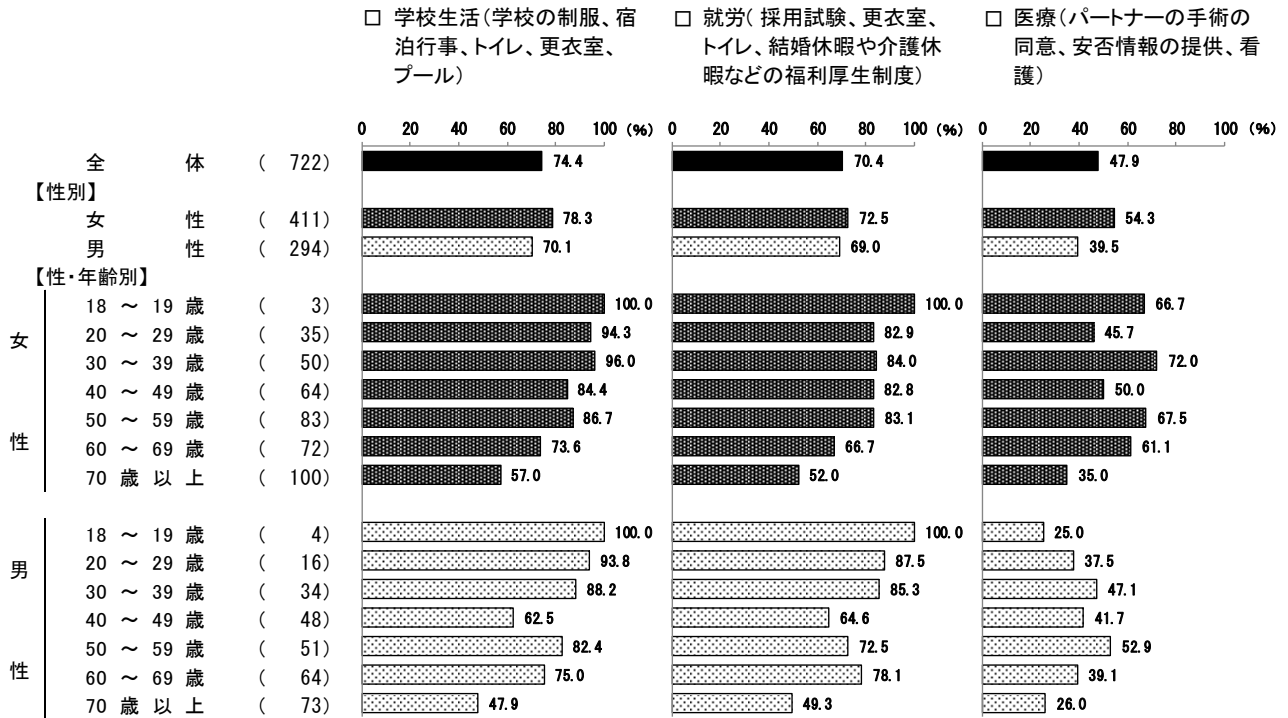


LGBTなどのセクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上で、直面している課題と思われるものを聞いたところ、「学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）」（74.4%）が7割台半ばで最も高く、次いで、「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度）」（70.4%）で約7割となっている。（図7-3）

全体で上位3項目に挙げられた項目を性別で見ると、「医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）」は女性（54.3%）が男性（39.5%）より14.8ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）」は女性30～39歳（96.0%）で9割台半ばと最も高くなっている。（図7-4）

図7-4 LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の方が直面している課題（性別・年齢別）
 <上位3項目>



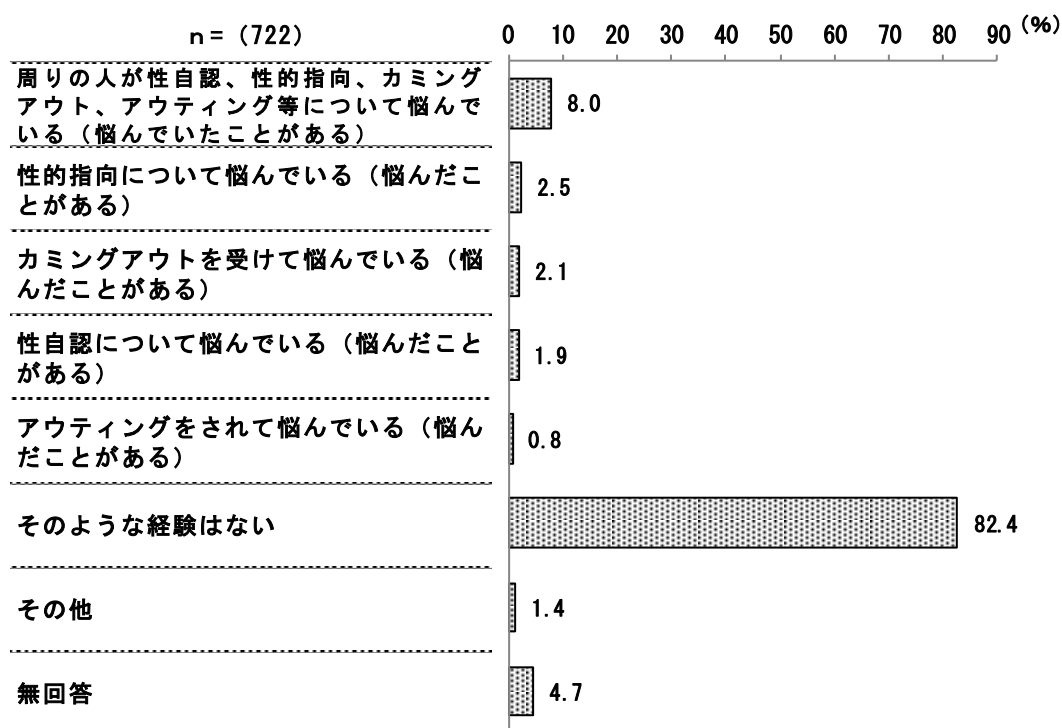
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(3) 性のあり方の悩みについての経験

◇「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」「性的指向について悩んでいる（悩んだことがある）」「カミングアウトを受けて悩んでいる（悩んだことがある）」「性自認について悩んでいる（悩んだことがある）」「アウティングをされて悩んでいる（悩んだことがある）」を合わせた『悩んでいる/悩んだことがある』が1割台半ば

問 22 あなたは今までに自分が性のあり方について悩んだり、周りの人が悩んでいるのを見聞きしたりした経験がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図 7 - 5

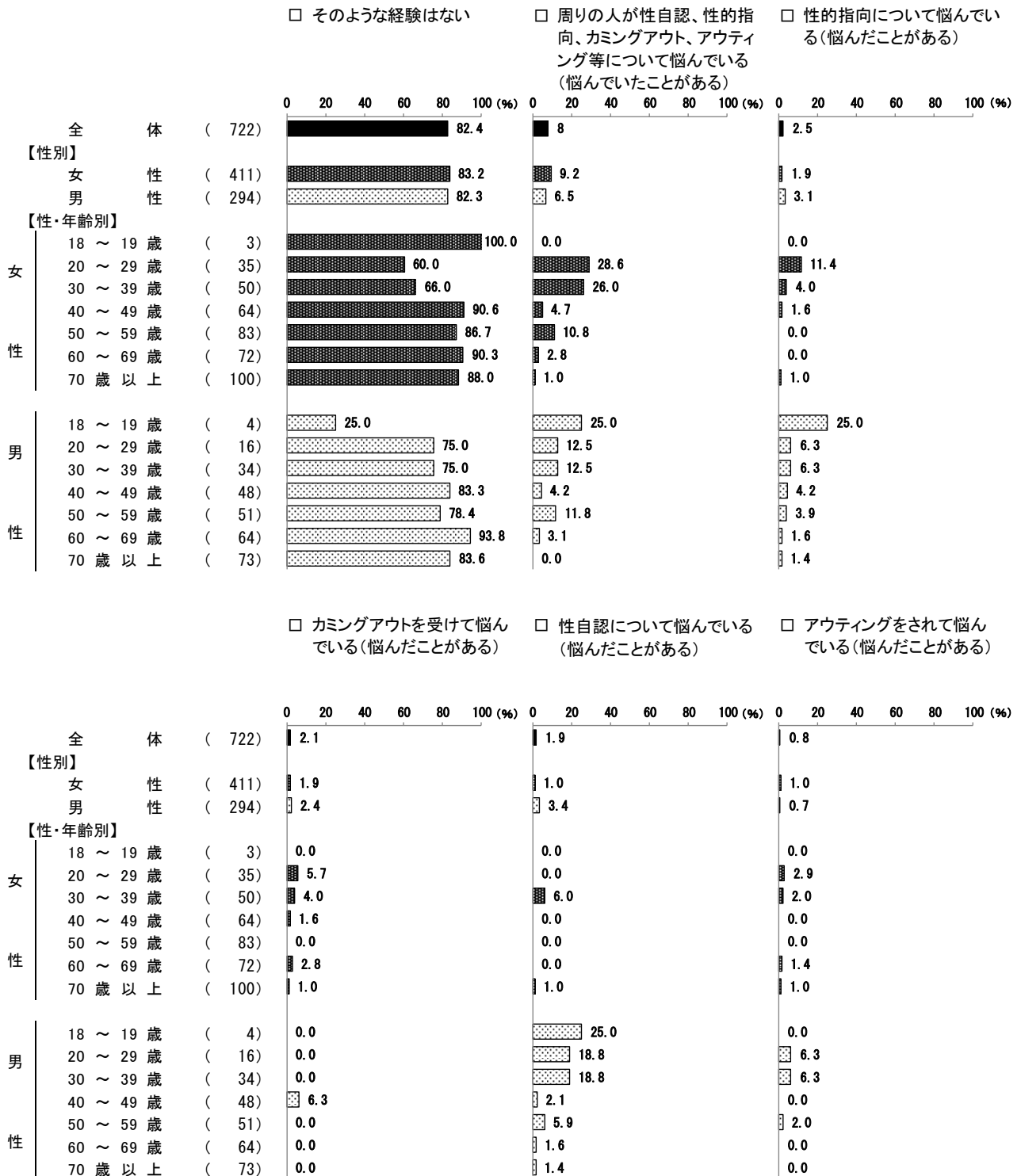


自分が性のあり方について悩んだり、周りの人が悩んでいるのを見聞きしたりした経験があるか聞いたところ、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」(8.0%)で最も高く、次いで「性的指向について悩んでいる（悩んだことがある）」(2.5%)「カミングアウトを受けて悩んでいる（悩んだことがある）」(2.1%)「性自認について悩んでいる（悩んだことがある）」(1.9%)「アウティングをされて悩んでいる（悩んだことがある）」(0.8%)の順となっている。(図7-5)

性別でみると、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」は女性（9.2%）が男性（6.5%）より2.7ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」は女性の20～29歳（28.6%）で約3割、30～39歳（26.0%）で2割台半ば、「性自認について悩んでいる（悩んだことがある）」は男性30～39歳で約2割となっている。（図7-6）

図7-6 性別の悩みについての経験（性別・年齢別）＜上位6項目＞



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

8. 国や自治体の取組について

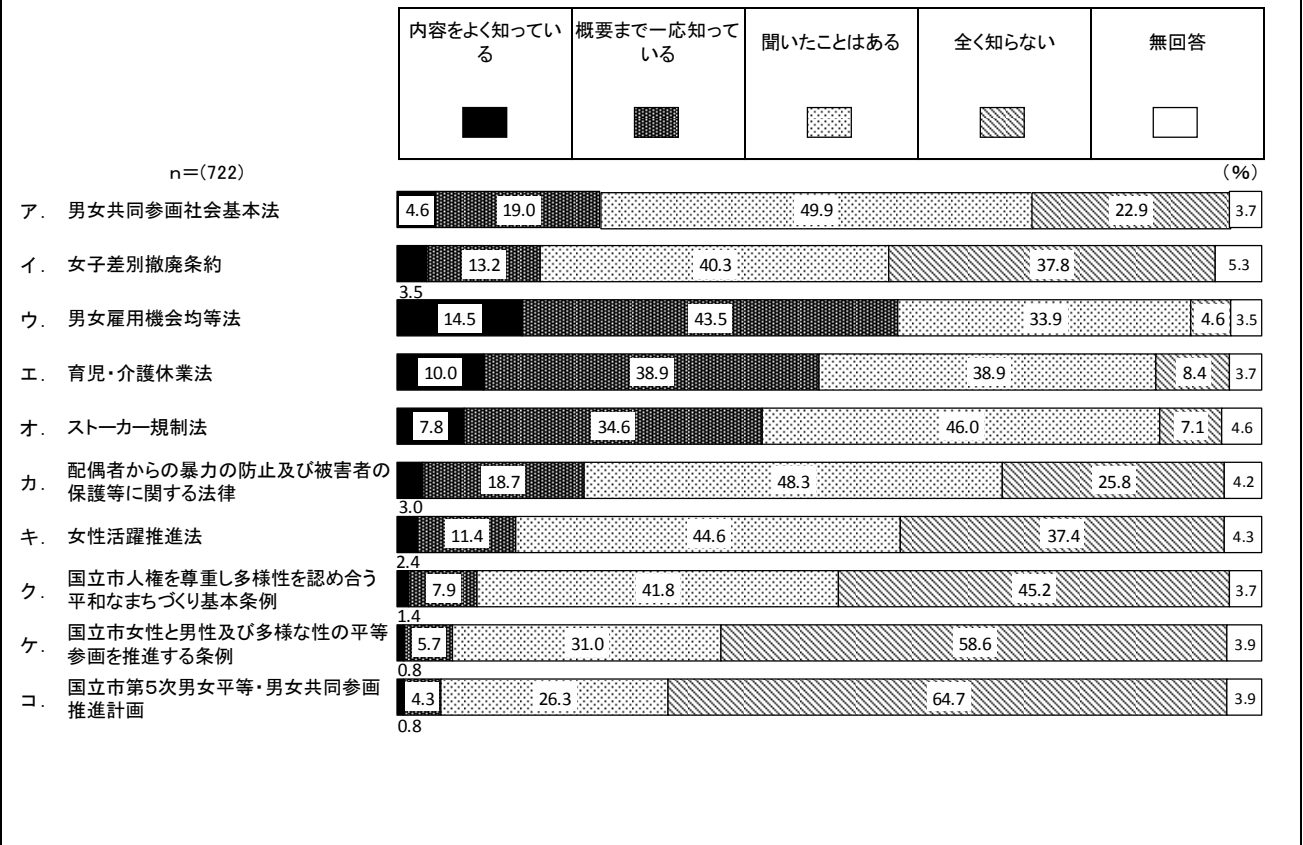
(1) 法律や市の施策の認知度

◇「男女雇用機会均等法」の認知度が約6割

◇「育児・介護休業法」の認知度が約5割

問 23 あなたは、次のような法律や市の施策などについて知っていますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

図 8 - 1

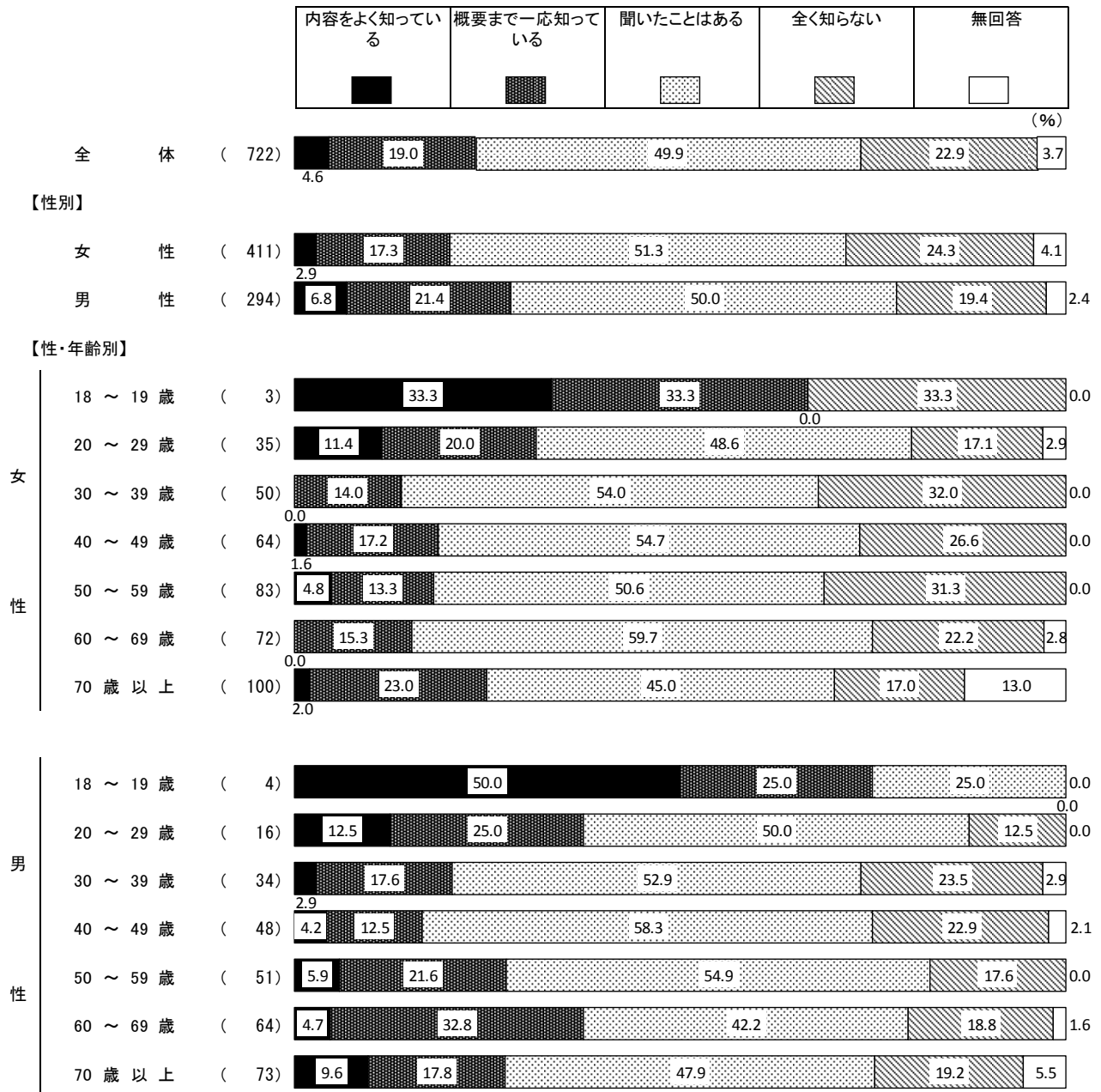


法律や市の施策の認知度について聞いたところ、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は「男女雇用機会均等法」(58.0%)が約6割と最も高く、次いで、「育児・介護休業法」(48.9%)、「ストーカー規制法」(42.4%)などの順となっている。(図8-1)

「男女共同参画社会基本法」の認知度を性別で見ると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は男性（28.2%）が女性（20.2%）より8.0ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『知っている』は男性60～69歳（37.5%）で3割半ばを超え最も高くなっている。（図8-2）

図8-2 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）—ア. 男女共同参画社会基本法

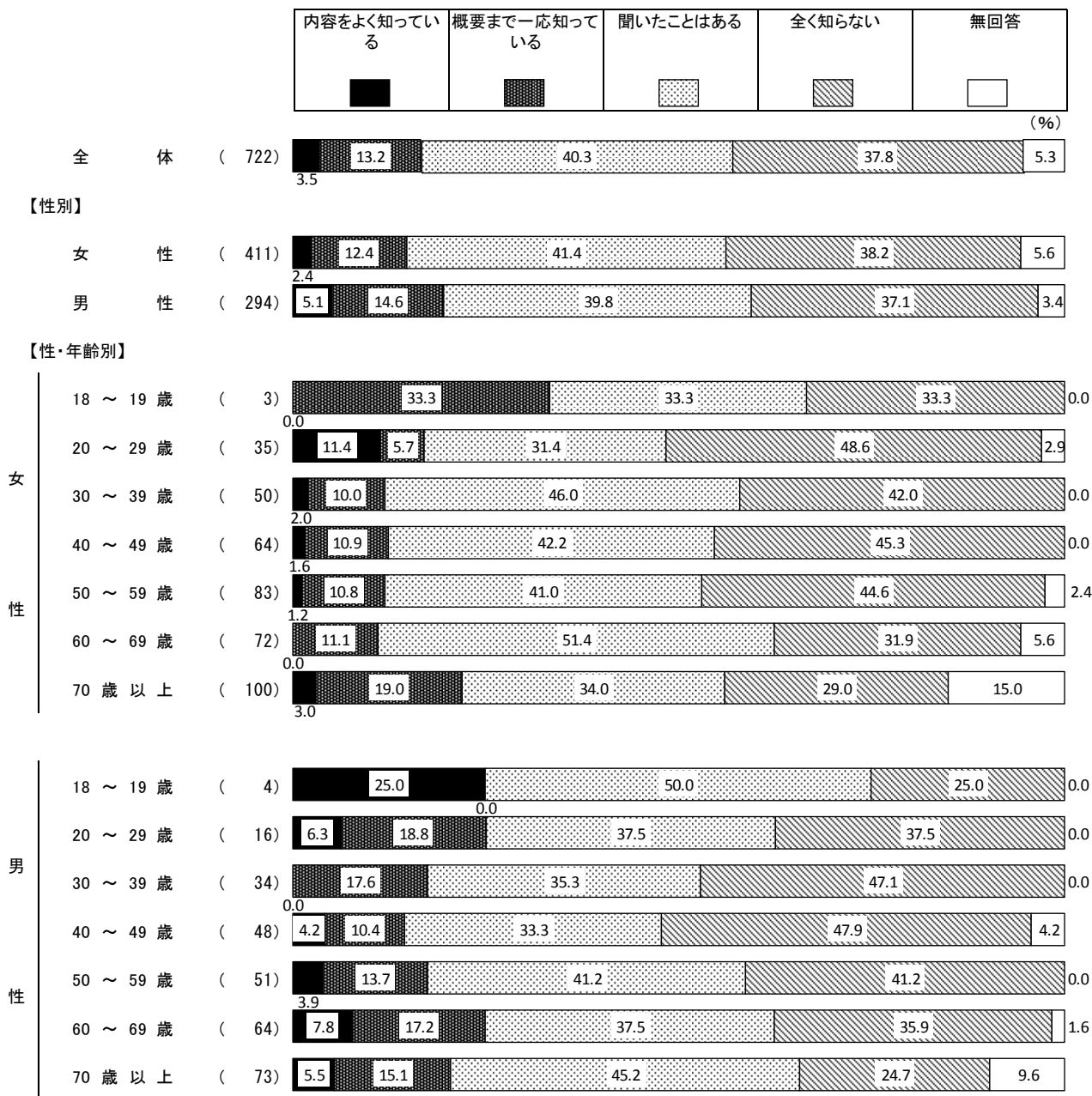


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「女子差別撤廃条約」の認知度を性別でみると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は男性（19.7%）が女性（14.8%）より4.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、『知っている』は男性60～69歳（25.0%）で2割台半ばと最も高く、女性70歳以上（22.0%）で2割を超え、男性70歳以上（20.6%）で約2割となっている。（図8-3）

図8-3 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）—イ. 女子差別撤廃条約

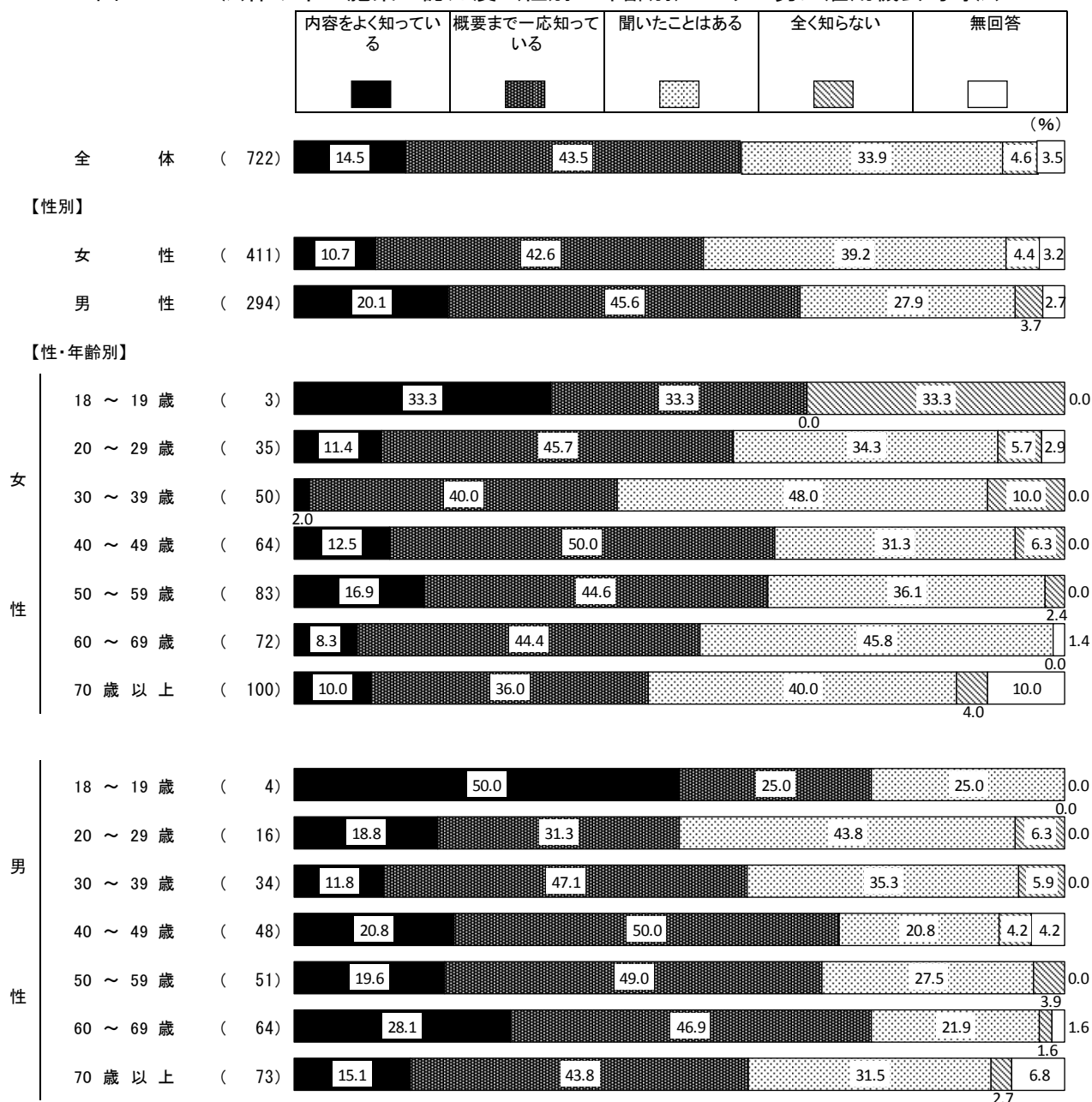


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「男女雇用機会均等法」の認知度を性別でみると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は男性（65.7%）が女性（53.3%）より12.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、『知っている』は男性60～69歳（75.0%）で7割台半ばと最も高く、男性40～49歳（70.8%）でも約7割となっている。（図8-4）

図8-4 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）—ウ. 男女雇用機会均等法

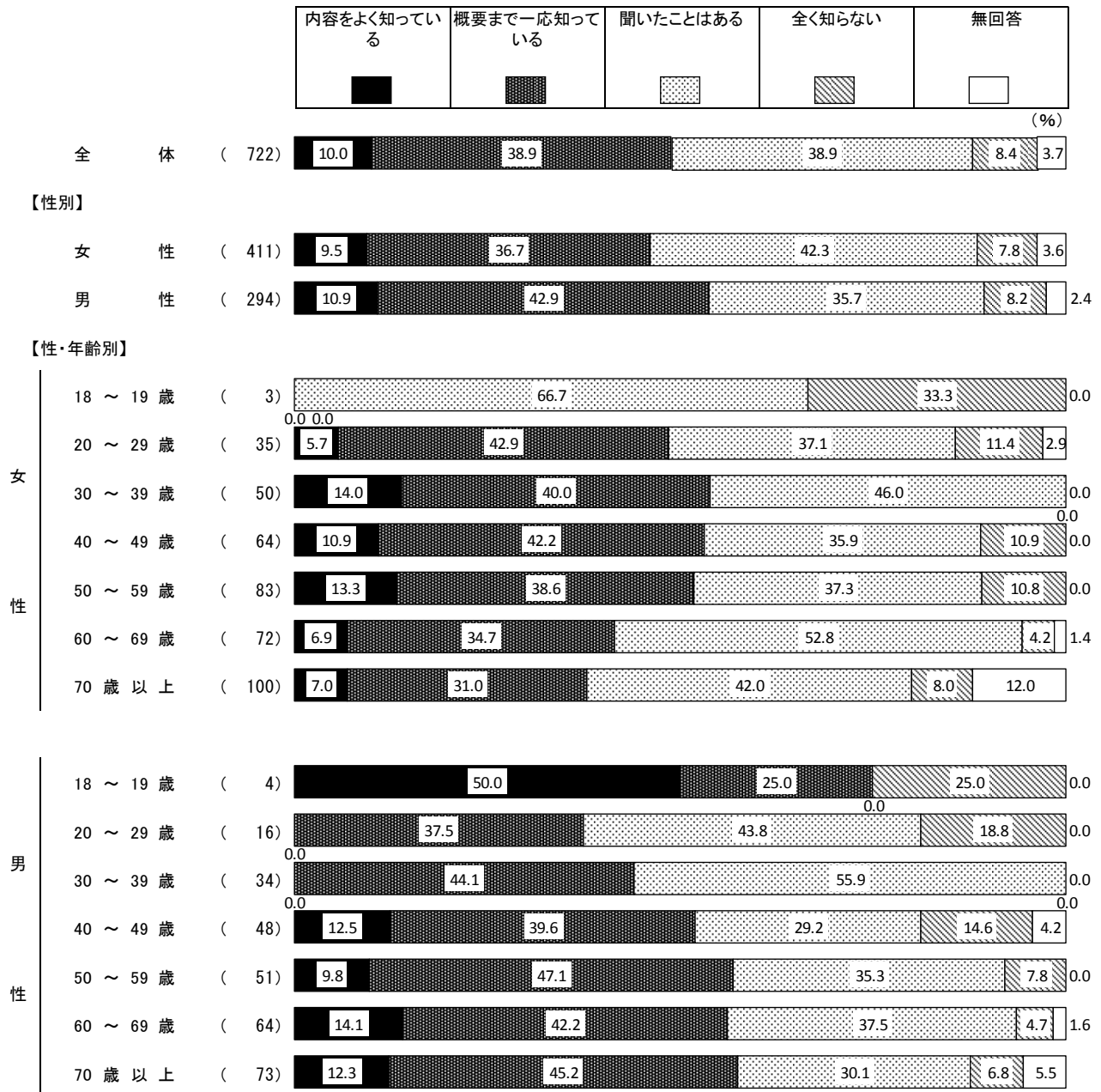


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「育児・介護休業法」の認知度を性別でみると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は男性（53.8%）が女性（46.2%）より7.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、『知っている』は男性70歳以上（57.5%）で5割台半ばを超え最も高くなっている。（図8-5）

図8-5 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）—エ. 育児・介護休業法

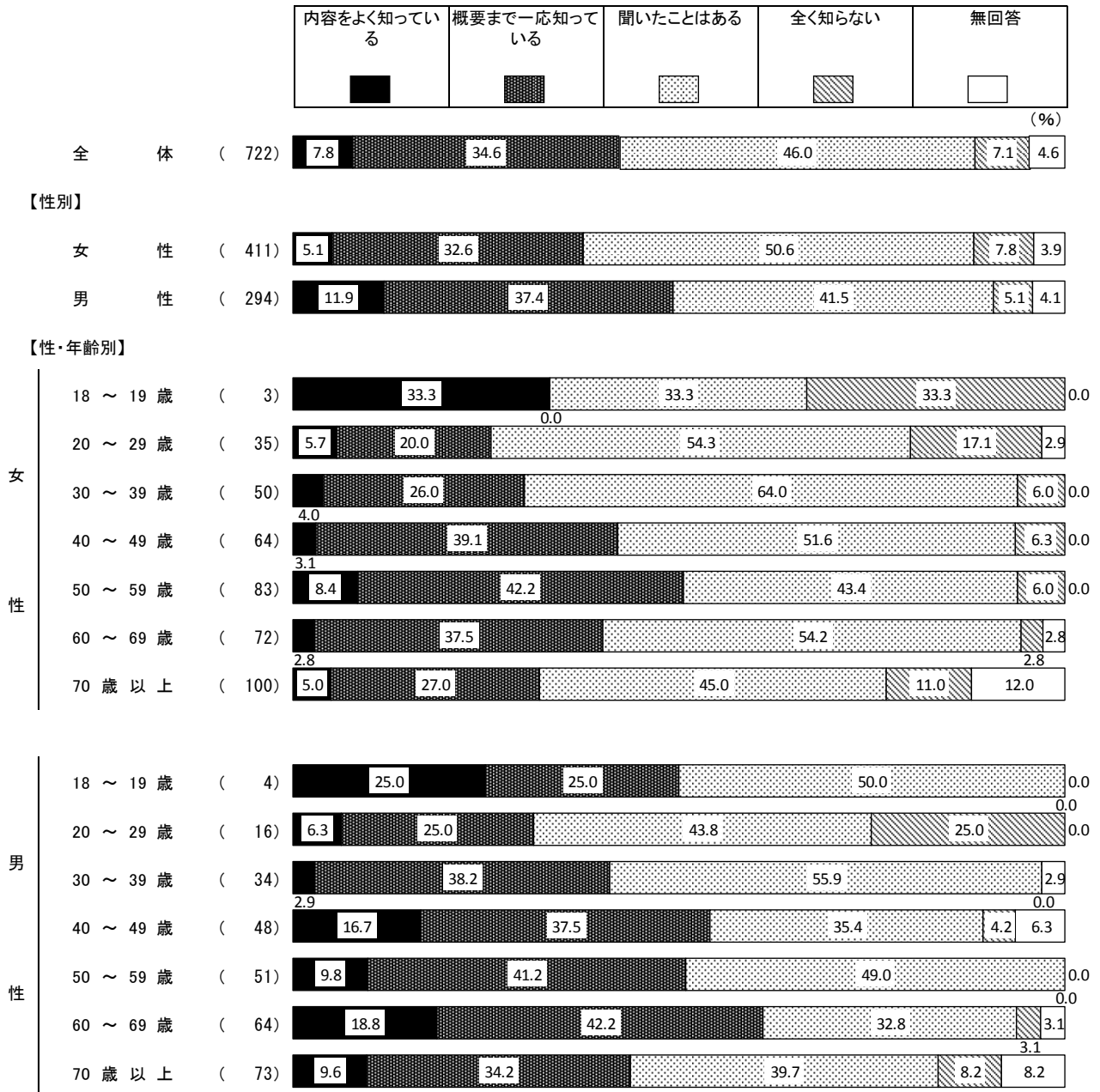


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「ストーカー規制法」の認知度を性別でみると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は男性（49.3%）が女性（37.7%）より 11.6 ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、『知っている』は男性 60～69 歳（61.0%）で約 6 割と最も高くなっている。（図 8－6）

図 8－6 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）—オ. ストーカー規制法

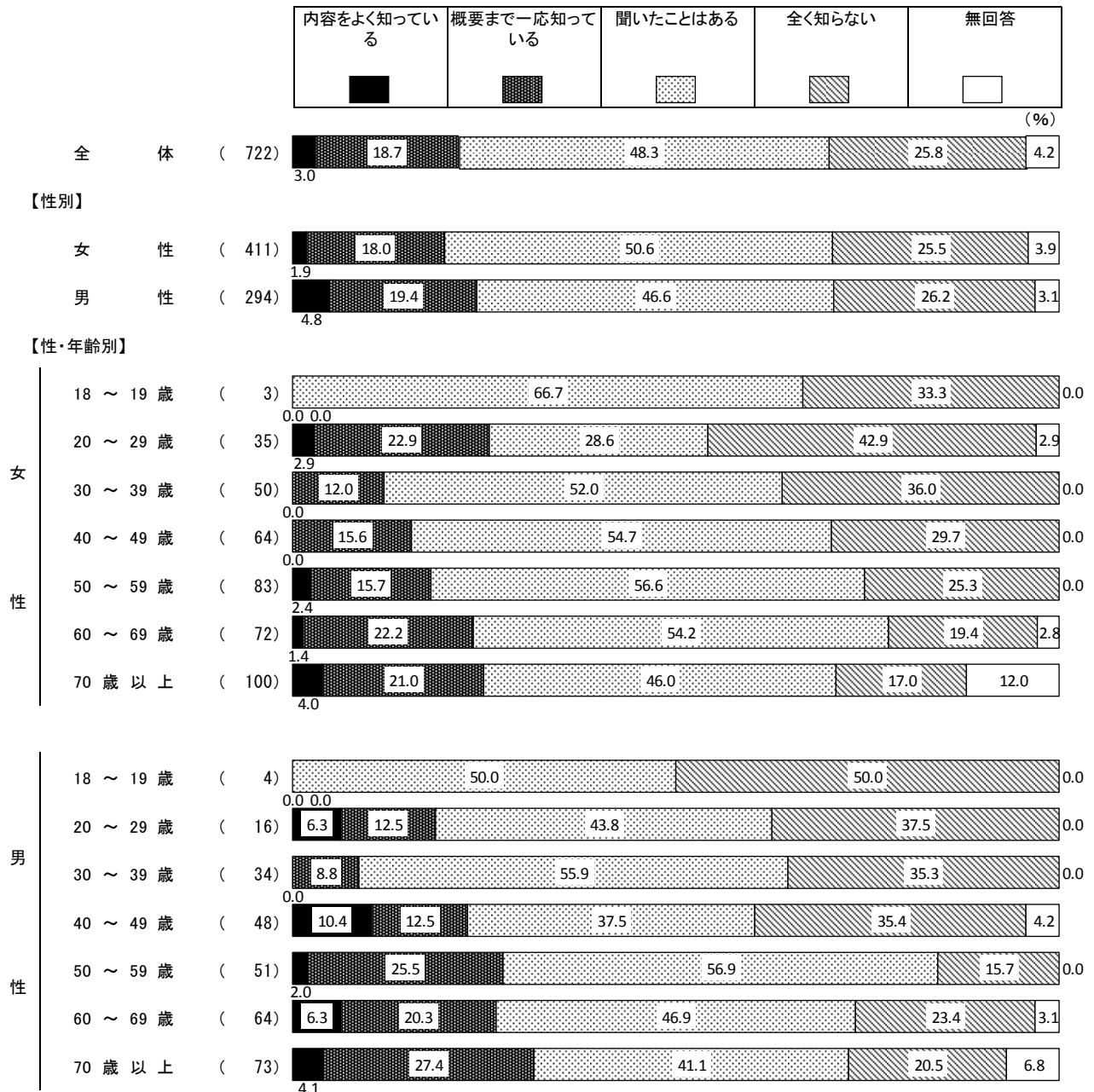


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度を性別で見ると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は男性（24.2%）が女性（19.9%）より4.3ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『知っている』は男性70歳以上（31.5%）で約3割と最も高くなっている。（図8-7）

図8-7 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）
一カ．配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律

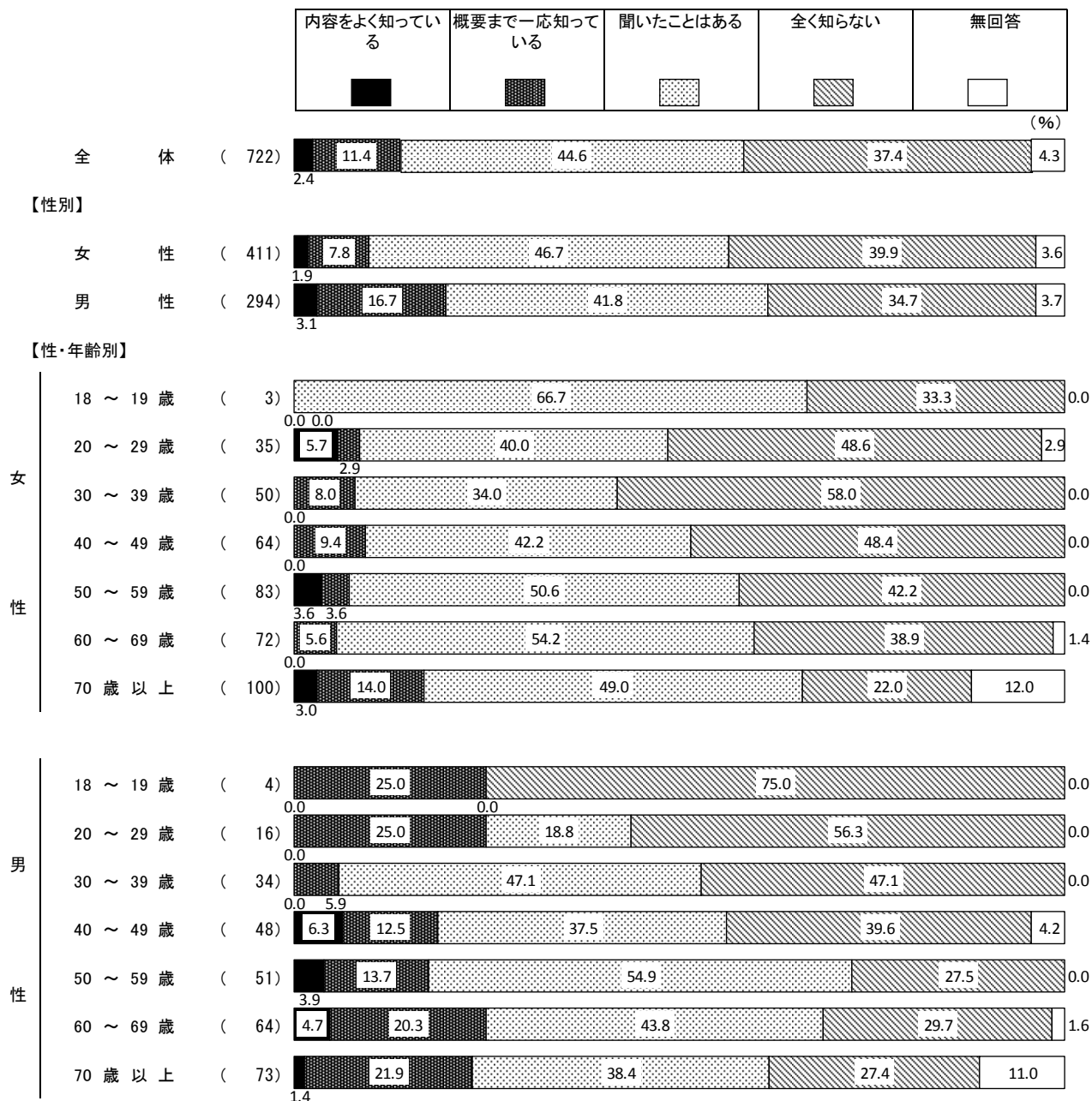


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「女性活躍推進法」の認知度を性別で見ると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は男性（19.8%）が女性（9.7%）より10.1ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『知っている』は男性60～69歳（25.0%）で2割台半ばと最も高く、男性70歳以上（23.3%）でも2割を超えている。（図8-8）

図8-8 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）—キ. 女性活躍推進法



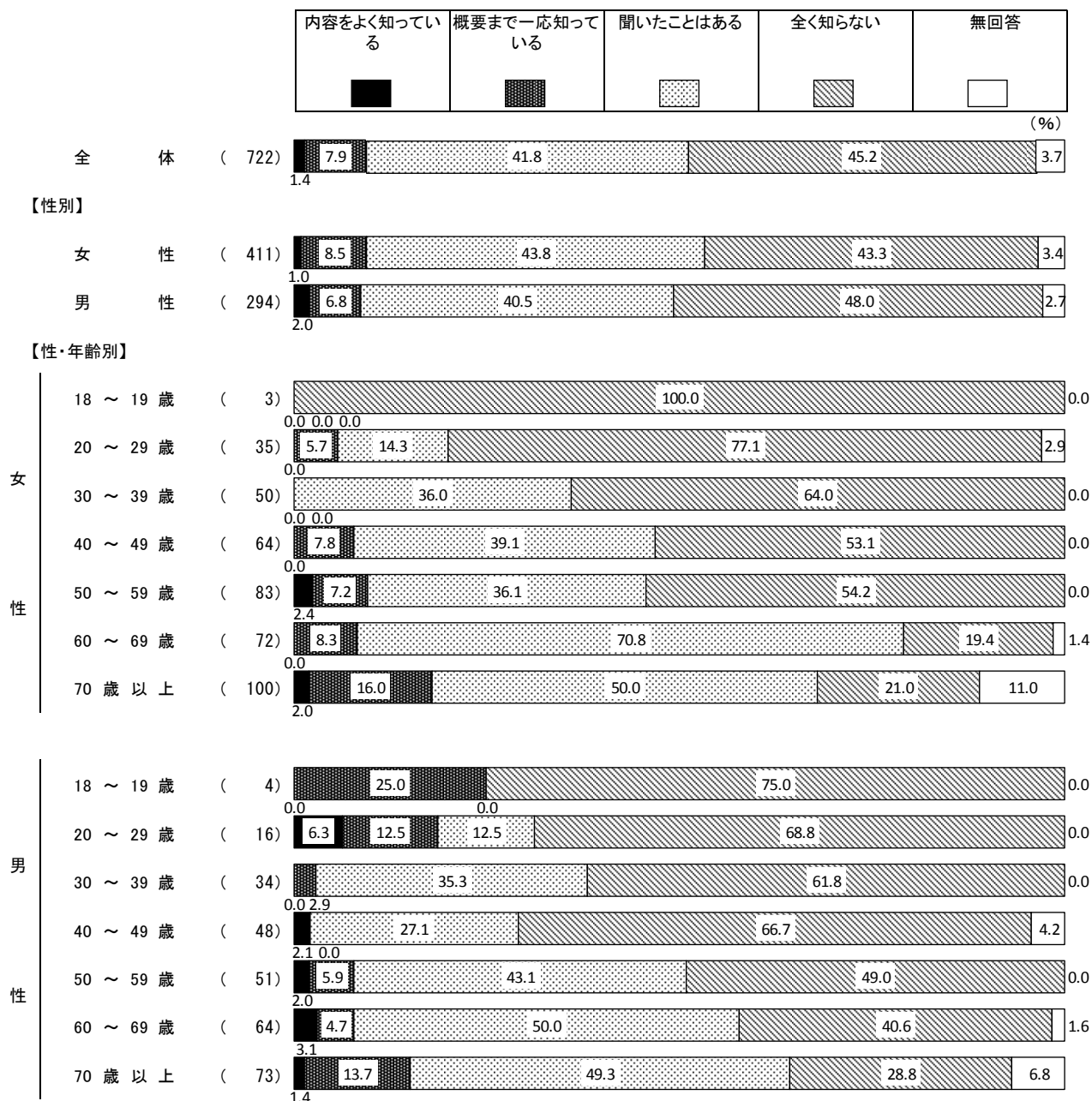
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」の認知度を性別で見ると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は女性(9.5%)が男性(8.8%)より0.7ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『知っている』は女性70歳以上(18.0%)で約2割と最も高く、男性70歳以上(15.1%)で1割台半ばと、どちらも他の年代に比べて高くなっている。(図8-9)

図8-9 法律や市の施策の認知度(性別・年齢別)

一ク. 国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例



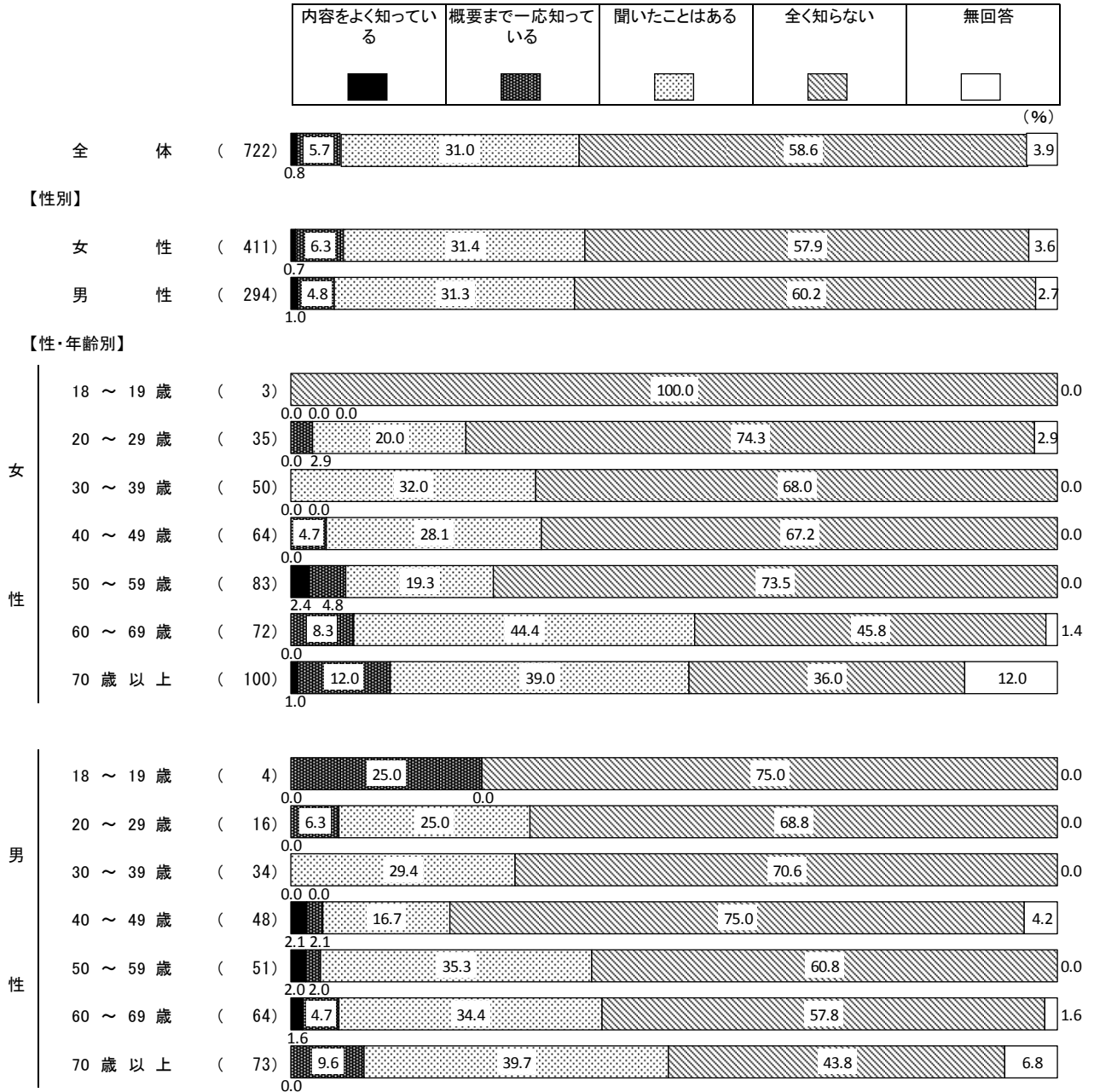
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」の認知度を性別で見ると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は女性（7.0%）が男性（5.8%）より1.2ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『知っている』は女性70歳以上（13.0%）で1割を超えて最も高くなっている。（図8-10）

図8-10 法律や市の施策の認知度（性別・年齢別）

一ケ. 国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例



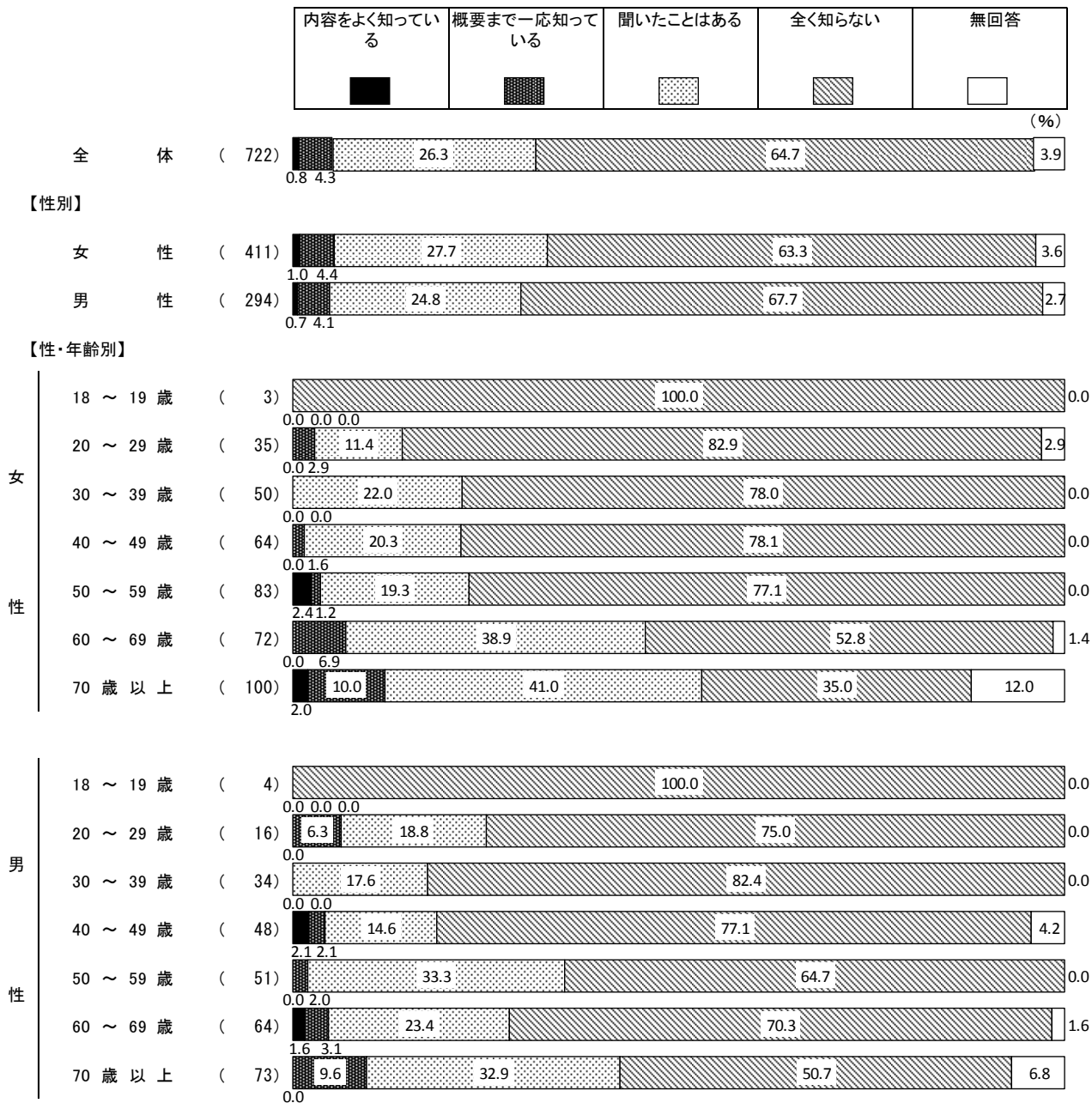
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

「国立市第5次男女平等・男女共同参画推進計画」の認知度を性別で見ると、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は女性(5.4%)が男性(4.8%)より0.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、『知っている』は女性70歳以上(12.0%)で1割を超えて最も高くなっている。(図8-11)

図8-11 法律や市の施策の認知度(性別・年齢別)

—コ. 国立市第5次男女平等・男女共同参画推進計画



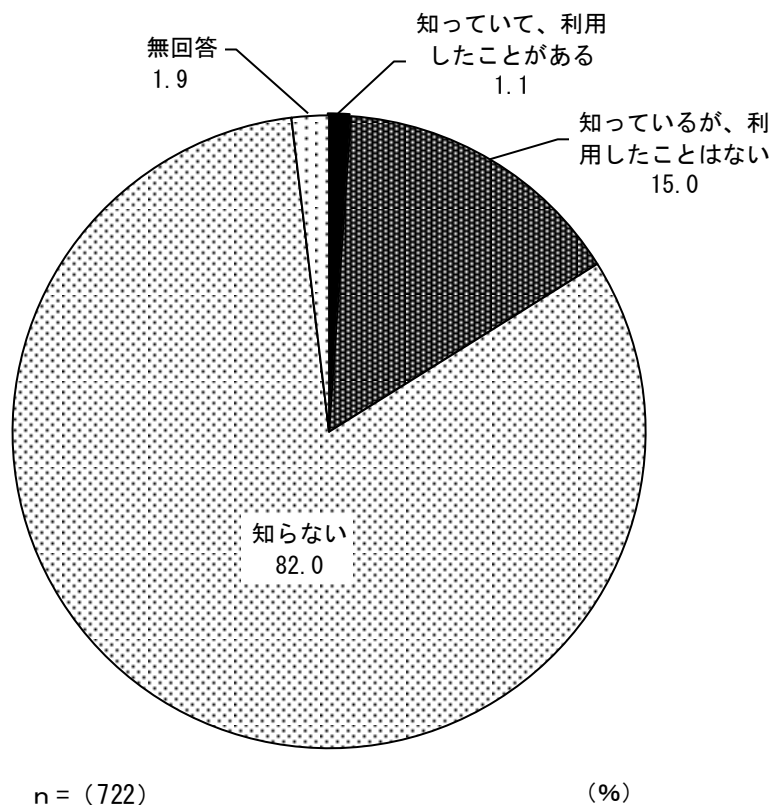
※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(2) 「くにたち男女平等参画ステーション パラソル」の利用状況

◇「知らない」が8割超え

問 24 あなたは、くにたち男女平等参画ステーションを利用したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

図 8-12

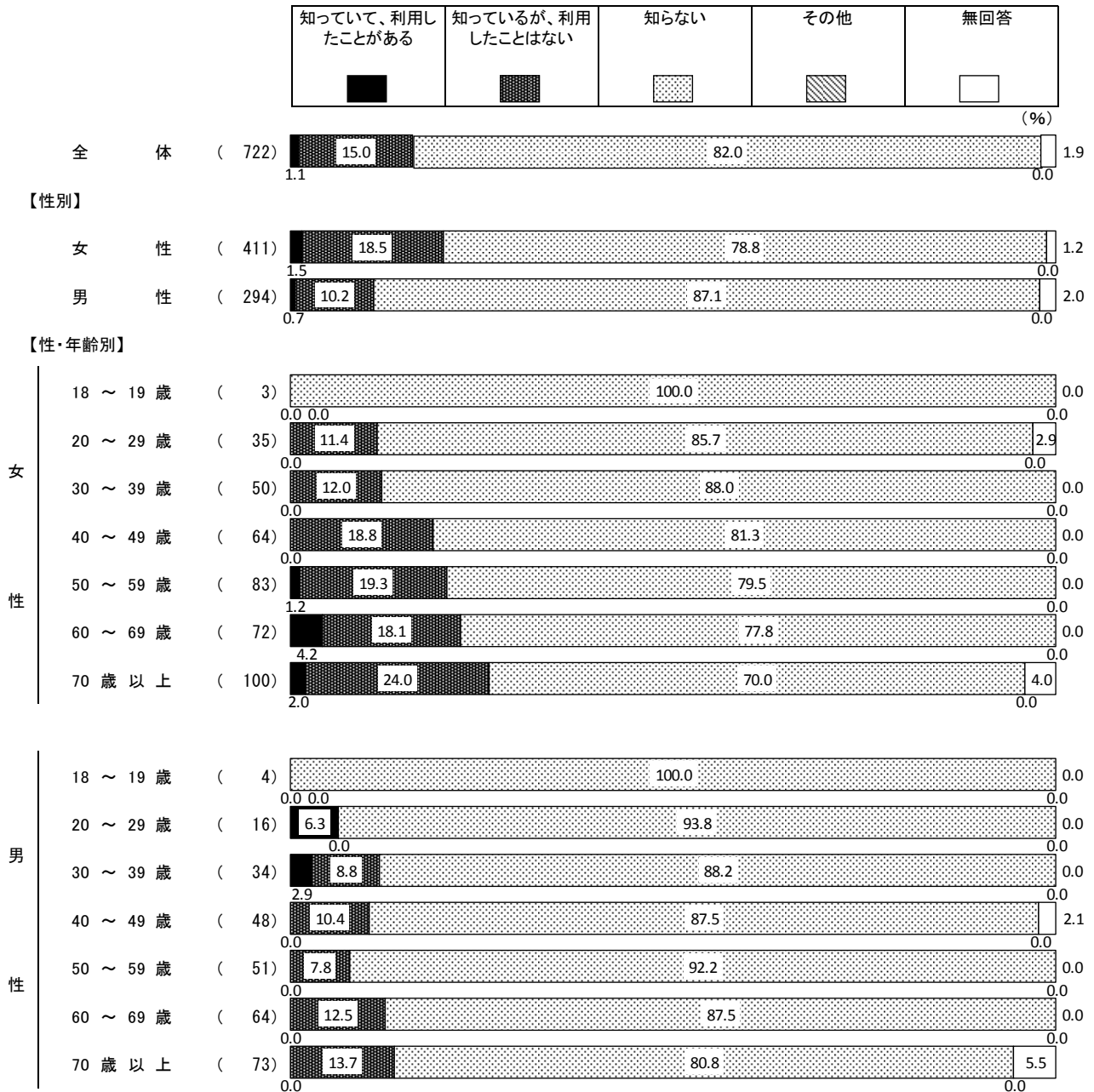


くにたち男女平等参画ステーションを利用したことがあるか聞いたところ、「知らない」(82.0%)が8割を超え最も高く、次いで、「知っているが、利用したことはない」(15.0%)、「知っていて、利用したことがある」(1.1%)の順となっている。(図8-12)

性別でみると、女性と男性ともに「知らない」が8割前後と高くなっているが、男性（87.1%）が女性（78.8%）より8.3ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、「知っているが、利用したことはない」は、女性では年代が高くなるにつれ増加しており、女性70歳以上（24.0%）では2割台半ばとなっている。（図8-13）

図8-13 「くにたち男女共同参画ステーション パラソル」の利用状況（性別・年齢別）

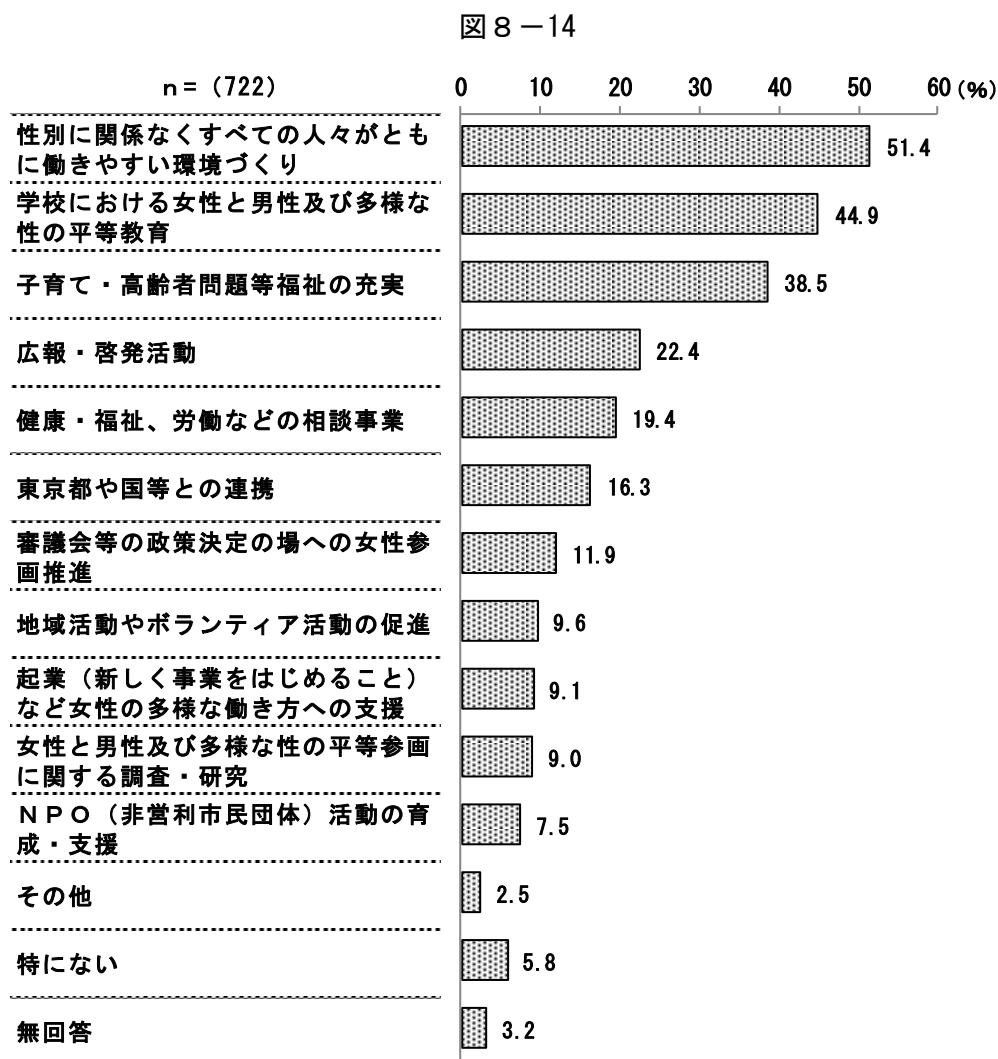


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(3) 女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け力を入れていくべきこと

◇「性別に関係なくすべての人々がともに働きやすい環境づくり」が約5割

問 25 女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け、今後国立市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまると思われるものを3つまで選び、○をつけてください。

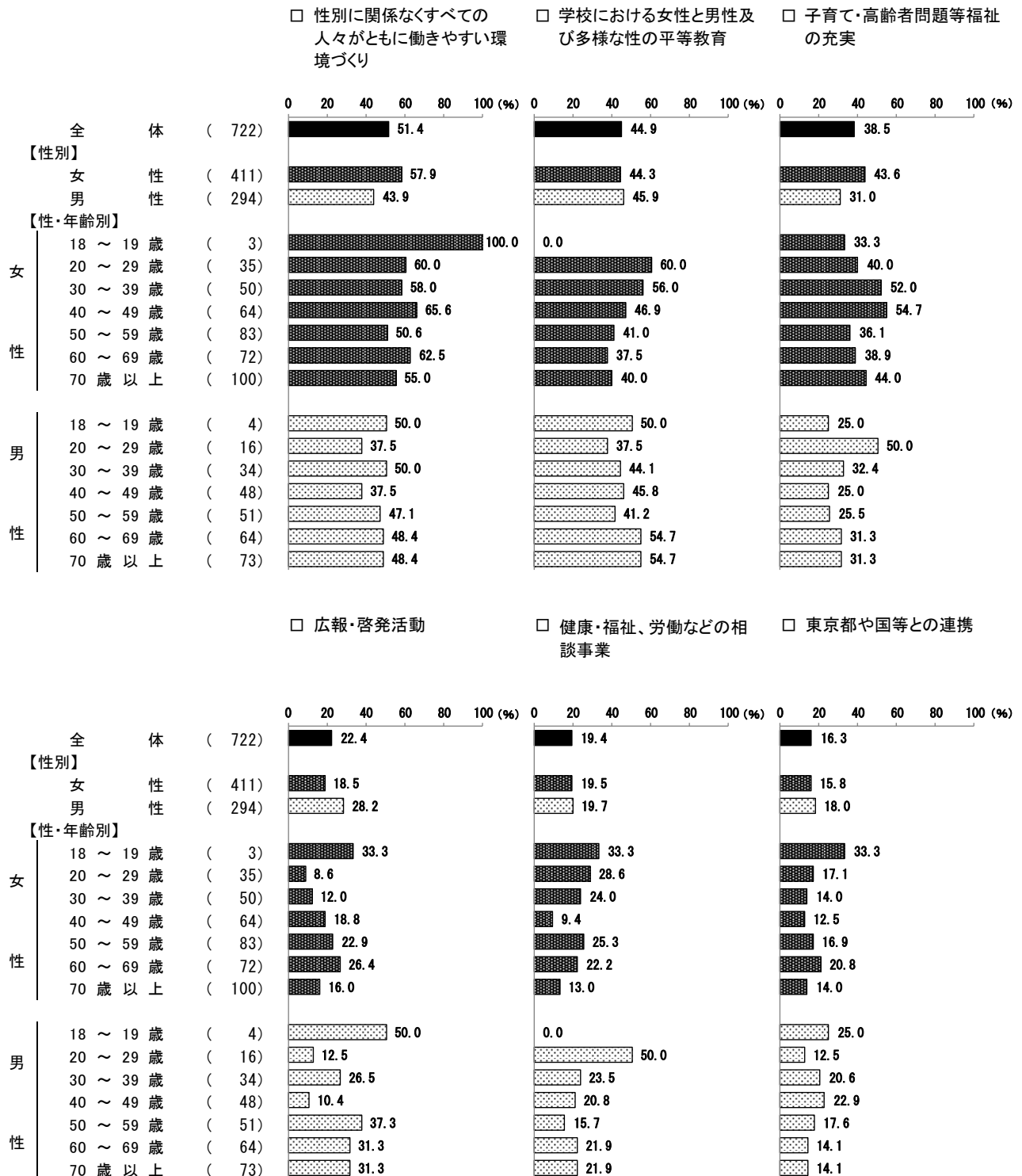


女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け、今後国立市はどのようなことに力を入れていくべきだと思うか聞いたところ、「性別に関係なくすべての人々がともに働きやすい環境づくり」（51.4%）が約5割で最も高く、次いで「学校における女性と男性及び多様な性の平等教育」（44.9%）が4割台半ば、「子育て・高齢者問題等福祉の充実」（38.5%）が約4割となっている。（図8-14）

全体で上位6項目に挙げられた項目を性別で見ると、「性別に関係なくすべての人々がともに働きやすい環境づくり」は女性（57.9%）が男性（43.9%）より14.0ポイント高く、また「子育て・高齢者問題等福祉の充実」は女性（43.6%）が男性（31.0%）より12.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると、「子育て・高齢者問題等福祉の充実」は女性40～49歳（54.7%）が5割台半ばで最も高いのに対し、男性40～49歳（25.0%）では最も低くなっている。（図8-15）

図8-15 女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け力を入れていくべきこと
（性別・年齢別）＜上位6項目＞

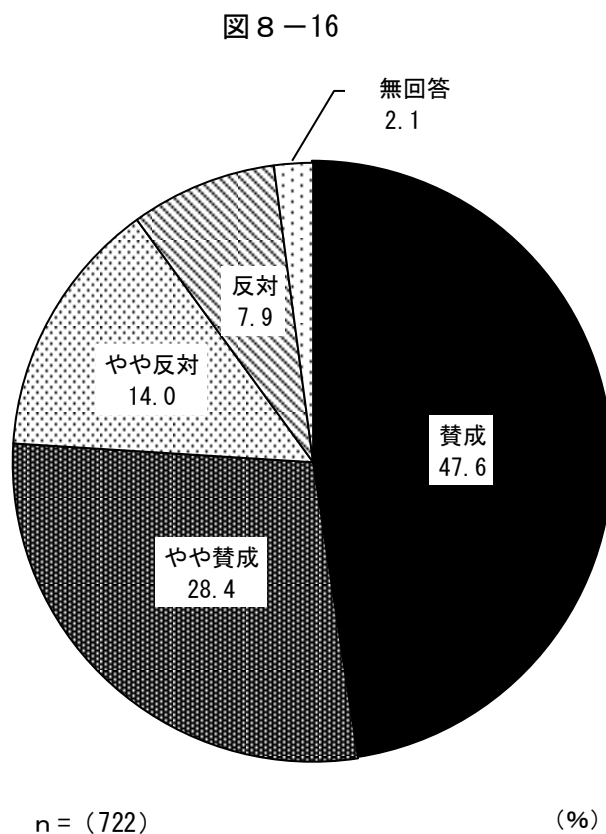


※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

(4) 同性カップルのパートナーシップ証明制度の導入について

◇「賛成」と「やや賛成」を合わせた『賛成』が7割台半ば

問 26 国立市が、同性カップルのパートナーシップを証明する制度を導入するとしたら、あなたは賛成ですか反対ですか。あなたのお考えに最も近いもの1つに○をつけてください。

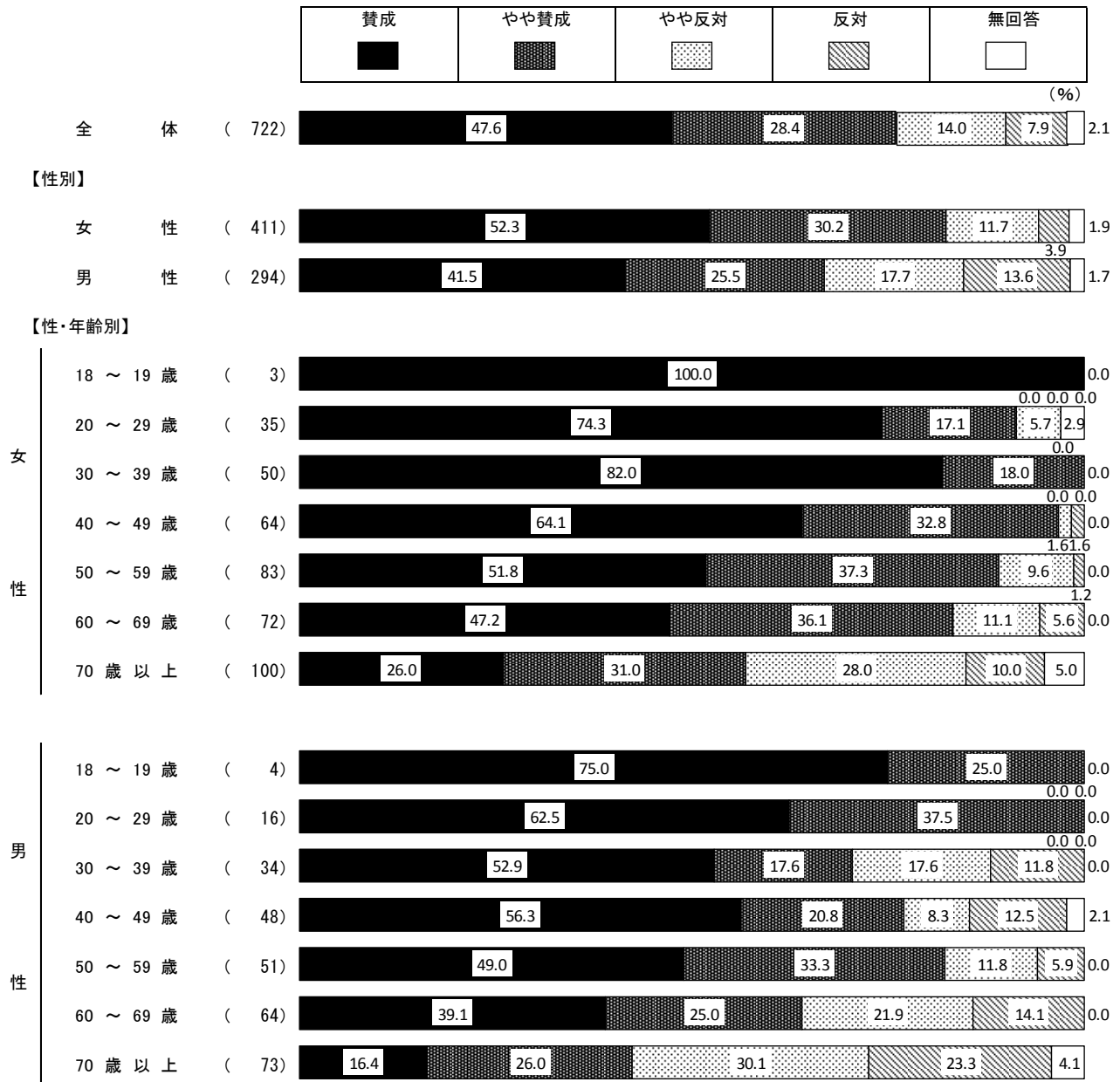


同性カップルのパートナーシップを証明する制度の導入に賛成か反対か聞いたところ、「賛成」と「やや賛成」を合わせた『賛成』が76.0%で7割台半ばと最も高く、「反対」(7.9%)と「やや反対」(14.0%)を合わせた『反対』は21.9%と2割を超えている。(図8-16)

性別でみると、女性と男性ともに「賛成」と「やや賛成」を合わせた『賛成』が6割を超え高くなっているが、女性（82.5%）が男性（67.0%）より15.5ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、『賛成』はほとんどの年代で高くなっているが、女性70歳以上（57.0%）では6割未満、男性70歳以上（42.4%）では5割未満となっている。（図8-17）

図8-17 同性カップルのパートナーシップ証明制度の導入について（性別・年齢別）



※女性・男性ともに「18～19歳」、男性の「20～29歳」と回答された方は少数のため、構成比は参考値になります。

9. 自由意見

あなたが日頃、女性と男性及び多様な性の平等について感じていること、困っていること、国立市に希望すること、今後期待すること、イベントなどをご自由にお書きください。(自由記述)

日頃、女性と男性及び多様な性の平等について感じていること、困っていること、国立市に希望すること、今後期待するイベントなどを自由に記入していただいたところ、175人から、のべ219件の意見が寄せられた。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれを1件として数えた。紙面の都合により、一部抜粋して掲載する。

1. 感想	99 件
(1) 男女平等のあり方、考え方	18 件
(2) 平等についての考え方	10 件
(3) 男女平等参画がすすんでいる	1 件
(4) さらに男女平等参画社会をめざす	3 件
(5) 女性優遇の偏り	2 件
(6) 男女平等への意識不足	3 件
(7) 男女平等や多様な性に対する消極的意見	11 件
(8) 教育・啓発	14 件
(9) 労働環境の整備	6 件
(10) 性別役割分業	11 件
(11) ハラスメント	1 件
(12) その他	19 件
2. 希望すること	21 件
(1) 市政への期待、要望	16 件
(2) 法整備、制度改正（パートナーシップ制度）	1 件
(3) 女性のさらなる政治参画	1 件
(4) 夫婦別姓	3 件
3. 今後期待するイベント	14 件
4. その他	85 件
(1) アンケートに関して	18 件
(2) その他	67 件

1. 感想

(1) 男女平等のあり方、考え方

- ・ 男性、女性を社会では意識することがないことを望みます。 (女性・55～59歳)
- ・ 若い時に痴漢にあたり、性的な嫌悪を男性から受け、自分は、女子だから、だから、嫌なことをされる、そう思い、男っぽさ、男らしくなれば、嫌なことをされたい。又、もともと、おてんば娘の幼少期、あった為、男の子っぽいところもあり、それでも思春期、女子中学にも入れ、その中でも、ごく普通に、林間学校へも楽しく、学友と過ごすことできた。けれど、その片方で、電車、映画館などで、性的な嫌悪あったわけで今、思えば、すごいストレス、退学も自前で、それも、致仕方ない。こういう私から言えば、男と女とハッキリしてもらった方が、ありがたい男の人？だったら、危ないぞ！！そう、身がまえることができる”。そうじゃない、ことへの不安がすごく大きい。医者に対しても、必要以上の(医者からの)好奇を感じ、嫌なことにもあって、今は、医療へも、拒んでいる状態。この先の介護時など、変てこりんな噂みたいなの、一連の、一掃してもらえれば、少しはラクかな… 余計にも記させて戴きました。 (女性・60～64歳)
- ・ 現在少しずつですが、平等意識が広がりつつありますが、仕事でも介護でも、男性、女性の視点や捉え方が異なると思う。例として介護→女性の方が生活に地をつけた目線で介護が出来る。男性は気持ちがあっても分からない所があるので行動しない。 なにもかも同一線上で考えるのではなく特性を生かす方向に持って生活してゆく事が大切。 (女性・70歳以上)
- ・ 女性と男性は可能な限り平等である事を希望します。ただ何から何までと言うのは少し無理があると思われれます。考えが古いかも知れませんが肉体的な違いはどうしようもない。構造が違う。よって仕事上やむなく平等でなくなる場合がある。それを無くすのが今の時代なのだろうが。その上でどこまでが平等か。男性に出産しろと言っても無理だし。平等、すごくあたりまえで簡単なようだが、非常に難しい問題です。ただつねに平等でありましようとの気持ちは、けっして忘れてはいけなと考えます。 (男性・65～69歳)
- ・ 男女、性の平等と冠をつけてしまうと、どうしても堅苦しく、自分には関係ないと思いたくなくなってしまうので(だってややこしい問題だから)大きくとらえてみんながみんなを尊重できる生活空間がイイネ！くらいにとっつきやすくしてもらいたい。年齢、健康状態などさまざまな差異による差別がよくないのと同じように男女、性のこともとらえてもらいたい。特別なことと意識させてしまわぬようにこの大きな課題に取り組んでもらえたらなと思えます。 (女性・45～49歳)
- ・ 男女平等=同じことを同様にすると思っている人が多い気がします。性に関係なく、望んだことを努力して叶えられる可能性を手にかけることが大切だと思います。ただ様々な事件もあるので、介護や保育園・幼稚園は女性が望まれることが多くなります。全てにおいて、内容に合わせて適材適所であってほしい。 (女性・35～39歳)
- ・ 男女の特性を配慮した適材適所の活躍がのぞまれる社会が理想。金銭的な生産性ばかりに重きを置いている社会のため子育てや家事は評価されにくい。そういった活躍にもリスクがされるべき。 (女性・50～54歳)
- ・ 1. 男女の平等参画推進は当然のこと 2. 多様な性と個人の人権について否定するものではない (男性・70歳以上)

- ・ まず、多様性が尊重される社会に向かっている、ということの評価します。生き方が定められていた時代と異なり、一人一人がどう生きるか考え、時に悩む時代に私たちは向っています。私がいつもエーッと感じるのは制度のはざ間で不利益を受ける人たちのことです。制度は本当は公平ではありません。古い既成概念が染み付いています。同性カップルの結婚が認められないこと、身近では、未婚の親ということで、寡婦控除が受けられないこと、そこには、カップルは男女であるべき、とか離婚の親はかわいそうだから守らなくちゃいけない、未婚の親はしたたかな、ドロボー猫だから守らなくても良いという頭のカタイ、おじさんたちの考えがあります。←断言！多くの開かれた討論の場が必要です。（女性・55～59歳）
- ・ 今の世の中、「男」「女」で物事を区切るのはナンセンスだと思います。恋愛も結婚も自由で開かれたものであるべきですし、性的少数者が堂々と生きられるようになって欲しいと思っています。差別のない国立市にして欲しいです。（女性・40～44歳）
- ・ 男、女平等については、もともと男と女は考え方、体格など違い、平等になるのは、難しいのではと思います。しかし、時代も変わり、平等に近づけられる事も多いのではないかという気もしています。（女性・55～59歳）
- ・ 物事を決める人たちが特に差別しているように思う。そうやって育ってきたのだからしょうがないとしか言えない。男女平等と言っている時点でずっと違和感を感じます。男性が育休を1年半とったらどう思いますか？その後キャリアはあると思いますか？市レベルではなく企業が国が習慣を見直さないと変わらない。市はこの大きすぎる問題ではなく、もっと具体的な「すみやすさ」を考えて1つ1つ実行して住んでよかったといろいろな人に言ってもらえるような市になったらいいなと思ってます。（女性・35～39歳）
- ・ 男性・女性という差（優劣ではなく）は厳然としてあると思っています。そしてその性差は平等にはなり得ない差です。（男性が妊娠・出産ができない等）それを認めた上で精神的にも肉体（身体）的にも社会的にも公平感をもてる社会であって欲しいと願っています。（女性・70歳以上）
- ・ 男性でも女性でも関係なしに、様々な仕事に就ければいい。（男性＝体力仕事、女性＝軽作業という固定概念ではなく）（男性・20～24歳）
- ・ 男女は平等であるべきなのでしょうが、そこにあまりにも意識が傾くもどうなのかなと思います。男性は男性として、女性は女性としてというより、人としてどう生きるかと考えた方がシンプルだと思います。（女性・35～39歳）

(2) 平等についての考え方

- ・ 男女平等といっても近頃の平等意識には、不安を覚える事も多い。お互い、尊重しながら、マナーの良い素敵な社会に、していく努力をして行きたい。（女性・70歳以上）
- ・ 「男女平等といっても歴史的、習慣的に、不平等なのが現実です。人は性別、国籍、社会は地位、財力などにより差別されてはなりません。ヒトはヒトとして尊重されてこそ生きる価値があります。（女性・70歳以上）
- ・ イベント等は特に希望していないが、お互いにお互いが相手の事をおもいやっていければ、性別での優劣を感じなくなるのではないかと思う。性別にこだわりすぎず、その人の能力を正統に評価してもらえればいいと思う。（女性・30～34歳）

- ・特に困っている事はありませんが、男性だからこそ、女性だからこそ多様な性の方だからこそ、できる事があり、得意な事があると思います。数字（人数）がイコールだから平等ではなく、それぞれの特性が生かされ、お互い認め合い尊重する事こそ、平等になるのではないかと思います（女性・50～54歳）
- ・性別にかかわらずお互いを尊重し合えるといいですね。戦後の貧しい中で両親が対立して争ってばかりでした。深く傷付いて来ました。今一人での老後を静かに、ここ国立市で生活できて幸せに思っています。（女性・70歳以上）
- ・性別で物事を判断する枠組ではなく、「1人1人の人間」として互いを見ていくことを推進する広報やそういった姿勢。性別にとらわれない自由な生き方を、まずは市の職員や議員が受け入れていく姿を見せ、寛容であることを期待する。（女性・20～24歳）
- ・男女平等とかどちらかの性が優遇されるとかよく言われておりますが、それぞれの特性を上手に活かすのが一番かと思います。〇ハラスメント系だけでなくモンペア等も入ってくるが、言葉を使って存在をカテゴリーとしてしまうと、それによって助長される面も出てくると思う。（女性・35～39歳）
- ・人を見る時に、個ではなく、十把一絡げで見ってしまう傾向を無くす事で、LGBT問題はかなり解決されると思います。才能（色々な方面で）のある人、魅力的な人は、ノンケ（この言い方もかなり侮蔑的ですが）の人よりLGBTの人々に多い様感じられます。いろいろな人が居て、楽しい場が作れます。（女性・70歳以上）
- ・女性と男性に分けて考えるので、不平等の考え方が出てくるのではと考えます。同じ男性でも多様で、女性も多様です。個人が性別に関係なく尊重される社会をめざすべきではと考えます。（男性・45～49歳）
- ・「お互いの違いを1人1人が認めあい、互いにリスペクトする」これからの世の中はこのことによって大きく変化していくと言っても過言ではない。日本の歴史は「差別」することが基本になり成り立ってきた。今回のテーマが国民の中で理解され広がれば人々は声を出し、改善の方向に進むと考える。（男性・70歳以上）

(3) 男女平等参画がすすんでいる

- ・男・女平等、及び多様な性の平等は外国にかなり遅れをとっているが日本（都心？）にも大分ゆきわたってきた感がある。あとは日本人各個人の考え方と行動に任せるだけの様に思う。とはいえ、実際職場などでLGBTかな？という方にどう接すれば良いか迷います。（女性・45～49歳）

(4) さらに男女平等参画社会をめざす

- ・病院の医者に、女性が増えたらいいと思う。（女性・35～39歳）
- ・自然の出生比は男：女＝105：100であるが、このままでは平和な日本で男が余る可能性がある。男女産み分けによる人工的な女児出産を奨励すべきである。（男性・35～39歳）
- ・女性、男性多様な性の平等というのはなかなかむずかしい事だと思いますが、一人一人が考えて、出来るだけ平等で暮らしやすい世の中になれば良いと思います。（男性・70歳以上）

(5) 女性優遇の偏り

- ・ 男女平等…とは無理なことだと思っている。子を産めるのは女性だけ、力の強さや考えがちがう。それぞれが自分の性に合っている役割がある。女性がヒステリックに「男女平等」とか「女性の方が不利」と言えば言うほど、一番男女平等は無理だと思っているからだろうと感じる。女性、男性、多様な性…そんなことを感じたりさわがなくても良い世の中になってこそ、平等なのだろうと思う。私は女性だが、女性の方が得をしたり、優遇されたりしている部分も多いはずだ。と思う。女性は「男女平等」をさげんだり「女性だから」と言ってみたり。女性はズルがしこいと我ながら思う。 (女性・50～54歳)
- ・ 街中どこを見ても少し探せば女性を優遇する広告が多い。男性が生きづらい世の中になっていると思う。 (男性・40～44歳)

(6) 男女平等への意識不足

- ・ 日本人はLGBTや性差別に関して非常に鈍感だ。国際的にも女性の権利が低い国だと認識されている。それが最も如実に現れているのが、国会議員や閣僚における女性割合の低さであり、そこを見れば、その国のレベルがよくわかる。厄介なのは、日本人全体が、その程度の低さに殆ど気づいてすらいないこと。今の政治家のジジイ共の頭がもはや変わる訳もない。日本が国際的に恥をかきたくないなら、欧米等の性教育等について、国や行政が本気で学び子供達から、根本的に意識を変える必要があると思う。このアンケートのように自分の性を選択する項目についても、大変細かく分かれているという。今の日本人になど、想像もつかないだろう。 (男性・45～49歳)
- ・ ①そもそも男性の価値観でできあがっている社会であり、男性優位に全てが進んでいる。そして女性自身も、「疑問を持たない」のが問題。職場でも女性の出世は男性よりも遅く、足を引っ張られる。②国立市はどこに向かっているのか不明。国立市として男女平等として何に取り組んでいるのか、さっぱりわからない。③商店街の実態は知っていますか？商店街の組合は、ひどい！まさしく男女差別です。昔からいる地主は、世間を知らなすぎ。1国1城の主として、男尊女卑、さらに変化を求めない、認めない、そんな人達ばかり、男性が中心になっているから国立の店はつまらない、魅力がない、国立のブランドが失墜しているのだと思う。(例：女性の発言を聞かない。役割も雑用ばかり。)④①にも書いたが、女性自身が変わらないと進まない。家庭でも「夫の支え」というスタンスから「パートナー(対等である)」という認識を持たないと、自分の子供も結果同じ価値観の人間に育っていく、ということです。 (女性・45～49歳)

(7) 男女平等や多様な性に対する消極的意見

- ・ 男女平等もつきつめすぎると、弊害が目立ってくると思われる。性差別で本当に困っている人に、個別対応でよいのではないか。 (男性・45～49歳)
- ・ 既にポリティカルコレクトネスはアメリカで行詰っている。どんな問題があったか、特に国家の分断について深く考えるべき。ポリコレの問題の立て方は病的である。アメリカであることが、日本である訳でもない。軽薄な政策はただただ迷惑。 (男性・55～59歳)
- ・ 私は、自然体が良い。男と女とあるのは、それが理にかなっていると神が決められたのだと思っています。国立は良い街、良い行政施行の行われている街だと思います。リタイヤの夫婦家なので、あまり参考にならず失礼しました。 (女性・70歳以上)

- ・日本の伝統的な男女のあり方続いて欲しい。それに該当しない男女は最低限の自由を保障してあげればよい。過大な特権を与えるべきでない。マイノリティとしての自覚も必要。
(男性・70歳以上)
- ・LGBTは、問題は判るがまだ正直偏見である。気持ち悪い。(男性・70歳以上)
- ・男女平等な社会であるべきだが古くからの風習(男らしさ、女らしさ)や男女の体の違い(女性しか授乳できない等)自身が育てられてきた環境、教育により限界を感じる。(女性・50～54歳)

(8) 教育・啓発

- ・性教育が不十分なまま育った世代(ほとんどの人に該当すると思います)が性に対して誤った理解をしている。次の世代の子どもたちにはそのようなことはしてほしくないで、しっかりとした教育を。(女性・25～29歳)
- ・恐らく、今の日本では男性が考えるよりも遥かに女性は男女の性差(差別)を感じていると思う。ささいな事柄で言えば、駅のホームを歩いていて正面から男性が歩いて来ていて、対向から女性が来たとする。大抵の場合、男性は道をゆずらない。下手をすれば体当たりして来る。でも相手が同性(男性)ならしないのだ。こうした無意識下(意識している可能性もあるが)、の常識と化してしまっているような不平等はいくつもある。それらを変えていこうと思ったら、きっと抜本的な意識の改革が必要となる。でも既にそうした従来の価値観で構成されてしまった人(特に高齢者)はもう変わることはないだろう。だからこそ、子供らにおける意識の教育というのは大切だと思う。「昔はこれが当たり前だった」が「それは変だ、おかしい」と考えることができる子供を育てて欲しいと思う。そうした新しい考え方ができる人々が増えれば、次第と世界は変わっていくだろうと思う。だからこそ、子供に接する大人(親・教育者)には古い価値観であって欲しくない。特に学校教育は閉鎖された空間であり、生徒も然ることながら、教師も学校が全世界というような狭い視野になりがちなのではないかと危惧する。子供にとっては親と教師の言うことは絶対だということを念頭に置き、常に自らの言動におかしな点や差別的な表現がないかを疑ってもらいたい。きっと狭い世界に詰め込まれていれば、何が正しいのかおかしいのかを分からなくなることもあるだろう。だからそこに外部からの情報や指摘を加えていく必要があると思う。人はすぐに変わることは出来ないだろうが、根気よく伝え続けることで変わることもあると期待している。市にはあきらめず、途中で止めずに何が今の時代に即しているのかを伝え続けて欲しいと思っている。古くからある制度や決め事は確かに大切なものや良いものだったりするかも知れないが、それが現代(その時代)に合っているものなのかどうかということを、常に考え続け、正しいもの(即しているもの)にアップデートし続けて欲しいと思っている。夫婦別姓、パートナーシップ制度、この2つは不要である理由が私には分からない。早期導入すべき案件だと思う。そして私は市がそれらの制度やその他平等における活動をするに当たり「そういう風潮だから」「流行りだから」といった馬鹿みたいな理由でなく、きちんとした理想や将来像、また具体的な利点等を根拠として欲しいと思う。周囲に流されるのではなく確固としたビジョンのある市としてあって欲しいし、そうした活動には協力をおしまない。若い議員も多く国立市にはとても期待しています。(女性・30～34歳)

- ・子どもの頃からの教育が大切だと思います。性の平等、セクハラなどの定義など教育の場でも教えてほしいと思います。LGBT、セクハラなど問題発言、行動を起す人は昭和前半生まれの男性に多いと感じます。年配の方にもわかりやすく、根気強く考え方をなおすように教えないといけないとも思います。石塚市議の件も、なさげなく感じます。（女性・50～54歳）

(9) 労働環境の整備

- ・まず、アンケートのご送付、誠にありがとうございます。こういった形で、国立市に参加できることを嬉しく思うと同時に、貴重な経験をさせて頂きました。私の勤め先（東証一部上場企業でさえも）では、就業規則等の法的面では、問題は、ありませんが、時間外労働の黙認や、女性は、出産・育児のために、転勤を拒むため、管理職への昇格が見送られています。また、職場では、「冗談だよ」「コミュニケーションの一環だよ」と最後につければ良いと思っているのかセクハラ、パワハラは日常的で、社内研修を半年に一度行っても、変わらない環境です。きっと、各個人の「意識」だと思うのですが、知らないことには、意識することすらできません。多様な性、世代、人種の人々が活躍できる国立市になることを、心から期待し、応援しています。ありがとうございます。（女性・25～29歳）
- ・共働きです。女性は妊娠すると、会社にとって不利なので言いづらい、又は言っても困られる。男性は会社に報告しても頑張れよ、おめでとうと言われる。その実体験からして、共働きで育てたくても女性はかなり不利だし精神的につらい。（女性・30～34歳）
- ・平等は一人一人の自覚に頼るところの多いので、まず出来ることは、職場の平等、そして、男性の優遇措置などを取り払って欲しい。給料の差別をなくす、そして、上司の部下に対する特に女性に対する差別的態度、言葉を使わないように研修を行うのがいいと思います。（女性・70歳以上）

(10) 性別役割分業

- ・世代の違いそれぞれに育ってきた家庭環境にもよる、はあると思うが、社会に出た男性が、積極的に家庭の中で家事や子育てに参加できる様な、地域的な取り組みやきっかけが、国立市であれば良いと思う。一度社会に出ると自分の家庭内にある立場が（女性がすべて家庭の仕事をやるべき）考えが、間違っているという認識が、しにくくなってしまふ。女性から積極的にやってほしいと言っても相手は、自分が養っているという認識が強く聞き入れてくれない。◎今回このようなアンケート調査は今後の国立市にとって非常に有益だと思ひました。（女性・50～54歳）
- ・女性の方が、仕事を犠牲にし、収入をへらし、介護についやして、あたり前の社会を何とかしたい。（女性・40～44歳）
- ・生まれてからずっと男性優位の世の中で生きて来て、男に従って、生きた経緯があると思う。積極的に、女が出ない方が良く自分の気持ちをおさえて生きた過去がある。現在、家事、子育て、等の分担している若い世代は、多いと思うが男女の性差によるものまで完全な分担は、出来ないと思う。それ等を助ける、社会が求められる。世の中が変化していく事を望むばかりである。（女性・70歳以上）

(11) ハラスメント

- ・ セクハラ・パラハラについて、国立市議会議員の職員に対する事件、今回の選挙にて復活。大変残念です。 （男性・70歳以上）

(12) その他

- ・ 偶然“人権”というお尋ねならば、私は現在、人生最大の侵害を受けていると感じています。高令、女性というハンデが原因と思うと残念ですが、現在なす術がありません。 （女性・70歳以上）
- ・ 女性平等という言葉をよく耳にしますが女性の私から見ても、女性は感情論で動くのでホルモンのバランス等科学的に証明されているので、そういう人が職場にいると疲れるし自己満足で仕事をしているように思う。権利ばかりを主張する困った女性も多いし出産や育児など（子供の熱で早引けも）責任のある仕事が任せられない現実を男女平等とうたい男性へ負担させるのもどうかと思う。仕事をしたい気持ちはわかるが出来る範囲の仕事をしてくればいいのかに「女性だからですか?」「時短だからこの仕事なんですか?」と。仕事の効率も考えてほしい… ただ古い考えの年寄り男性の男尊女卑はもちろんイラッとしますが… （女性・30～34歳）
- ・ デンマーク出身の外国人英語講師と仕事したことあり。相手の形態(苦手なことも含めて)を、読み取り力を貸しつつ共同作業するプロセスは自然で身についていた。やはり国の方針や制度、福祉国家であることが人間を形成していく。日本と北欧とでは国のシステムも異なるので同様にとはいかない。少数の方達の希望するイベントを一つずつ取り上げていくことが遠回りでも道ができる。20数年前に国立市に、住んでいたのも、あのときよりは進化していると感じた。知恵を出し合って一步一步づつですネ。 （女性・65～69歳）
- ・ パートナーシップがないため悩んでいる。 （女性・20～24歳）
- ・ 昨年の暮れ頃の市報に国立市のパートナーシップへの取扱いがありえたが、以後、市報には何の記事もなく…やっぱり！という感じでしたが、今回のこのアンケートが役立ってくれば…！！と思います。LGBT、当事者！ （男性・70歳以上）
- ・ 困っていること 不妊治療中ですが、女性にかかる負担の方がやはりかなり大きいことです。まわりの理解も一歩かな、という実感があります。 （女性・30～34歳）

2. 希望すること

(1) 市政への期待、要望

- ・ 国立市社会福祉協議会は、男性ばかりで相談しにくい。女性の事を考えるなら、行政だけではなく、社会福祉にも改革が必要ではないでしょうか。やっている事が表面的すぎるのが良く分かります。 （女性・30～34歳）
- ・ 一度国立市報の中で大きく取りあげてみてはどうでしょうか。私の周りの人はけっこう見ているので、フィードバックできるシステムも加えるとよりよいかと思う。 （女性・25～29歳）
- ・ 行政が主導で、育児／介護を“母”や“女性”の仕事と前提としたような言葉使いをする事を改めてほしい。例えば、今ほとんどのパンフレットは“母と子の～”となっているが、これは“親と子の～”にするべき。 （女性・35～39歳）

- ・ 今回のアンケートで国立市このような政策を推進していることを初めて知った。市内でこれに関する問題がどの程度深刻なのかは知りたい。また、取り組み、途中経過、結果、評価まで、発信してもらいたいのと、その内容がどこに発信されているかわかり易くしてほしい。今回のアンケートの案内もその点では不親切。条例名と理念だけ記載されてもよくわからない。HP などに載せているなら、検索方法くらい書いてほしい。—どうせ市の HP はどこも見づらくて探したすの苦痛だから。また、取り組み方も、実際に性に関する問題をかかえている人を数人ピックアップして、試しに市が生活のバックアップを試みたら、アンケートよりも、もっと内容の濃い実態が見えるのでは？課題解決は、データや資料をながめていても意味ない。実際に体験してみないと見えないことがたくさんある。 （男性・35～39 歳）

(2) 法整備、制度改正（パートナーシップ制度）

- ・ 同性カップル、事実婚カップルにも結婚と同じような権利を持たせるべきだと思う。文京の街・国立市として前向きで明るい社会を作っていって欲しい。 （男性・60～64 歳）

(3) 女性のさらなる政治参画

- ・ スウェーデンに選挙自学ツアーに行ったり選挙制度を考える会に参加していることもあり、まず国立市の女性議員をもっと増えてほしいと思っているのですが、仕事もあってなかなか手がついていません。先日武蔵野市や小平市の女性市議の話もうかがって、国立もぜひとは思っているのですが。もちろん多用な性の平等も大きな重要なテーマだと思うのですが、現実はまだあまり関わっていないと思っているため。 （女性・60～64 歳）

(4) 夫婦別姓

- ・ 夫婦別姓を拡大して下さい。 （男性・70 歳以上）
- ・ 夫婦別姓を希望する世帯に対するサポートを地方行政レベルで行う事ができるか、先進的な取りくみをぜひすすめてほしい。 （女性・35～39 歳）
- ・ 婚姻届の内容が古すぎるので、現代に合った形式にしていきたいと強く願います。(別姓等) （女性・35～39 歳）

3. 今後期待するイベント

- ・ LGBT やセクシャル・マイノリティについて理解を深めるセミナー等を開催してほしい。市民レベルだけでなく、中・高・大といった学校の中でも先駆的な活動をしてほしい。 （女性・25～29 歳）
- ・ 私も、今回のアンケートで、法律や、市の施策についての項目は、恥しながら、無知の極みでした。「知らなかったから、やらない。できない。」を理由にしたくないので、ぜひ、若い世代にも取り組みやすいイベントや、講演会などを開催して頂けると、嬉しいです。 （女性・25～29 歳）

- ・ 家族・親族間で、特に女性の親族に対し、自分達の介護や子供の育児などを安易に頼んできたり、女性を独立した個人でなく、使用人のような扱いをすることがあった。家族における男女の差別的な考え方を改めるような企画・イベント等必要ではないか。学校、社会以前に家庭自体に差別があると思う。男性は多分に自信過剰だから、女性が例えば壁ドンも好きな人からはロマンチックだが、嫌な相手からはきょう迫やいやがらせでしかないとかお笑いでやるイベントがあったら良いかも （女性・60～64歳）

4. その他

(1) アンケートに関して

- ・ 私は85才の寡婦です。この様な質問に大変答えずらく、この様な回答になってしまいました。調査するに当たってその事をふまえて、現役の方を選んで下さい。大変困りました。 （女性・70歳以上）
- ・ このアンケートは比較的、子育て、会社勤めの年代のものが多く、80才以上の家庭該当のものは少なくあてはまる物が少なく空ランが多いです。 （男性・70歳以上）
- ・ あとアンケート本当長い。あんま身近にない問題だから、想像つきにくいし、基本情報←※実態こうなんだよという がない中で質問に回答するのしんどい。市の1人よがりの政策にならないことを祈ります。 （男性・35～39歳）
- ・ 意見を収集しようとする対象とアンケートの手法にGAPがある様に感じる。インターネット回答や、SNS等を積極的に活用すべきだと思う （男性・45～49歳）
- ・ このアンケートの集計結果とそれが国立市の市政にどのように反映されるのかをフィードバックしてほしい （男性・70歳以上）

(2) その他

- ・ 電子化をすすめてほしいです。(メールでの相談、Webアンケート、情報誌のPDF化) （女性・25～29歳）
- ・ 国立市は文教都市だという。教育と文化の薫る、自然豊かなこの街は、人権や多様性の尊重を語るにうってつけだと思う。名前も、立川と国分寺の中間だ。どちらか一方に偏ることなく、東京だけでなく日本を代表する、人権都市となることを期待したい。 （男性・45～49歳）
- ・ 近所と交流できる何かを作ってほしい。谷保の中でも外れで近くに同年の子がいるかもわからず、今から登下校が心配です。子育て交流センターで、集まりがあるという事で教えてもらってましたが、誰も来ず、驚きでした。月例会はあるのですが、地域別のもあるとうれしいです。後々、関わってくるのは、そちらの方が多いと思うので。よろしく願い致します。 （女性・30～34歳）
- ・ 小学生の時に国立市に移住してから、市内や近隣市へ居住して人生の大半を暮して、国立市は自分の故郷だと思っています。未だ仕事を続けている関係で市への恩返しが出来ていませんが、リタイヤしたらもっと積極的にお手伝いしていきたいと思います。市の北側に居ると不便(市政関係)でしたが(国立)駅前にサービス拠点が出来て助かっています。但し、まだ住民に周知されておらず、もっとアピールする必要があると感じています。(期日前投票では近くて助かりました。年配者の移動も考えて下さる様お願いします。) （男性・65～69歳）

- 多様な性についての議論は昨今よく耳にします。取り組むべき課題も非常に多いとは思いますが。しかし多様な性と同様に、多様な価値感、(発達障害による目には見えない障害による人間性など)にも注目して頂きたいです。特に発達障害を原因とする問題については社会での理解や認知も低いように感じます。 (女性・35～39歳)

IV 調査のまとめ

IV 調査のまとめ

1. 女性と男性の平等について

(1) 女性と男性の地位の平等感

女性と男性の地位の平等感について、“学校教育の場”では約半数が「平等になっている」と感じている。他の7項目では不平等感が強く出ている。特に“政治の場”と“社会通念・習慣・しきたり”での『男性優遇』と感じる割合が約8割と高くなっている。性別でみると、女性と男性で意識の差がみられるのは、“家庭生活（家事・育児・介護）”で、女性の方が21.9ポイント高く『男性優遇』であると感じている。

(2) 女性と男性についての考え方

“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ”という考え方について『否定的』の考えが7割台の半ばを超え、“同性カップル（女同士・男同士のカップル）の法的な結婚を認めるべきだ”は『肯定的』の考えが約6割となっている。“男女が一緒に暮らすのであれば結婚すべきだ”の考え方については、『肯定的』の考えが、年代が高くなるのに比例して割合も高くなっている。

(3) 女性が仕事をすることについての考え方

女性が仕事をすることについては、「妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい」との考えが半数を超えている。

2. 教育、子育てについて

(1) 学校教育の場で女性と男性及び多様な性の平等のために必要なこと

多様な性の平等のために学校教育の場で必要なことについては、「女性と男性と多様な性の平等の意識を育てる授業を行う」が約6割と最も高くなっている。性別・年齢別でみると、「女性と男性と多様な性の平等の意識を育てる授業を行う」は女性20～29歳が約8割と最も高い。

(2) 子育てに関して不安なこと

子育てに関して不安なことについて、「親の経済的負担（教育費等）が大きい」が半数を超えている。次いで「子どもの育つ将来の環境に不安がある」が4割を超え、「職場において育児・介護休業等の支援環境が整っていない」が約3割となっている。性別・年齢別でみると、「親の経済的負担（教育費等）が大きい」は女性20～29歳が6割を超えて最も高くなっている。性別・子どもの有無別でみると、ほとんどの項目で“子どもがいる”が“子どもがいない”よりも割合が高くなっているが、「保健所等の子育てを支援する制度が整っていない」の女性では、“子どもがいない”が“子どもがいる”よりも18.5ポイント高くなっている。

3. 家庭や暮らしについて

(1) 生活時間

ふだんの平日の生活時間において、《家事・育児に費やす時間》については、「2時間以上4時間未満」が最も高く、次いで「4時間以上8時間未満」の順となっている。性別でみると、「4時間以上8時間未満」は女性が男性より27.3ポイント高くなっている。性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、「1時間以上2時間未満」では“男性/共働きである”が3割を超えているが、全体的に男性よりも女性が費やす時間の割合が大きい。

《仕事・学業に費やす時間》については、「8時間以上12時間未満」が3割半ばを超え最も高くなっている。性別でみると、「0分」は女性が男性より11.3ポイント高くなっている。性別・夫婦（パートナー）の働き方別でみると、「8時間以上12時間未満」では“男性/共働きである”が“女性/共働きである”より40.1ポイント高くなっており、全体的に女性よりも男性の方が費やす時間が長くなっている。

《通勤・通学に費やす時間（往復）》については、「0分」が約3割と最も高くなっている一方、性別でみると、男性では「2時間以上4時間未満」が約4割と最も高くなっている。

(2) 夫婦（パートナー）の役割分担（現状）

結婚している方（事実婚含む）に夫婦の（またはパートナーとの）役割分担を聞いたところ、すべての項目で男性よりも女性が「主に自分が行う」もしくは「どちらかといえば自分が行う」と回答している方が多く、女性と男性とで大きな差がみられる。「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』で最も高くなっているのは、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”で約5割。

「自分とパートナーと同程度で行う」は、“家計の管理”で2割を超え、最も高くなっている。

“親や家族の介護”、“子どもが通う保育所・学校等の行事への参加”、“町会・自治会などの地域活動”では「該当しない・わからない」と回答されている方の割合が約半数となっている。

(3) 夫婦（パートナー）の役割分担（希望）

結婚している方（事実婚含む）に、夫婦の（またはパートナーとの）役割分担の希望を聞いたところ、「主に自分が行う」と「どちらかといえば自分が行う」を合わせた『自分が行う』は、“家計の管理”（29.1%）で約3割と最も高く、次いで、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（25.7%）、“町会・自治会などの地域活動”（11.4%）の順となっている。また、「自分とパートナーと同程度で行う」は、“育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ”（52.0%）で5割を超え最も高く、他の各項目でも5割前後となっている。「主にパートナーが行う」と「どちらかといえばパートナーが行う」を合わせた『パートナーが行う』は、“炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事”（19.0%）で約2割と最も高く、次いで、“家計の管理”（16.0%）、“町会・自治会などの地域活動”（10.8%）の順となっている。

(4) 育児休業取得の実態

育児休業の取得の有無については、「取得したことがある（取得中も含む）」は1割未満、「取得条件に該当しない」は4割台半ばを超えている。性別で見ると、「取得条件を満たしているが、取得したことがない」は男性が女性より19.6ポイント高くなっている。一方、「取得したことがある（取得中も含む）」は女性が男性より12.4ポイント高くなっており、女性と男性で大きな差がみられる。

(4-1) 育児休業の取得期間

育児休業の取得時間の長さについては「1年以上2年未満」が約4割で最も高く、次いで「6ヶ月以上1年未満」の順となっている。性別で見ると、女性では「1年以上2年未満」が約4割で最も高くなっている。

(4-2) 育児休業を取得したなかでの不満

育児休業を取得したなかでの不満については、「不満を感じたことはない」が3割を超え最も高くなっている。不満を感じた中では、「収入が下がった」が約3割で最も高く、次いで「休業中又は復職する際の職場のサポート体制が十分ではなかった」、「復職後のキャリア形成に影響が出た」の順となっている。

(4-3) 育児休業を取得しなかった理由

育児休業を取得しなかった理由としては、「家庭に育児をしてくれる人が別にいたから」が4割を超えて最も高く、次いで、「職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だから」（2割台半ば）、「休業中又は復職する際の職場のサポート体制が十分ではないから」、「取得する必要性を感じなかったから」（どちらも22.7%）の順となっている。性別で見ると「家庭に育児をしてくれる人が別にいたから」は男性が4割台半ばを超えている。

(5) 介護休業取得の実態

介護休業の取得経験については、「取得条件に該当しない」が約6割となっている。取得条件を満たした中では、「取得条件を満たしているが、取得したことがない」が約1割、「取得したことがある」は1割未満となっている。性別で見ると、「取得条件を満たしているが、取得したことがない」は男性が女性より10.1ポイント高くなっている。

(6) 男性の介護への参加を進めるために重要なこと

男性の介護への参加を進めるために重要なことについては、「性別を問わず介護を行うという社会意識を醸成する」が5割台半ばで最も高く、次いで、「労働時間の短縮、在宅勤務、フレックスタイムの導入、介護休暇取得など就業環境を整える」、「介護サポーターや入所施設等の地域における支援を充実させる」の順となっている。

性別・年齢別で見ると、「介護サポーターや入所施設等の地域における支援を充実させる」はおおむね女性と男性ともに年代が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。

性別・要援護者の有無別で見ると、「介護について気軽に相談できるような総合窓口をととのえる」は「男性/要援護者がいる」で約4割と高くなっている。

4. 仕事について

(1) 働き方

収入を伴う仕事をしているかについては、「正社員として雇用されている」と「仕事をもっていない（主夫・主婦・その他）」がどちらも約3割と高く、次いで、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」、「自由業・自営業・家族従業員として働いている」の順となっている。性別で見ると、「正社員として雇用されている」は男性が女性より25.7ポイント高くなっている一方、「仕事をもっていない（主夫・主婦・その他）」は女性が男性より19.3ポイント高くなっており、女性と男性で差が見られる。

(2) 職場での仕事の内容や待遇面の問題

有職の方の職場での仕事の内容や待遇面の問題については、「特にない」が約4割で最も高くなっている。何らかの問題がある中では、「長時間労働、サービス残業、休日出勤が頻繁にある」(21.2%)が約2割で最も高い。性別で見ると、「育児・介護休暇の取得は難しい雰囲気がある」は男性が女性より6.4ポイント高くなっている。性別・雇用形態別で見ると、「長時間労働、サービス残業、休日出勤が頻繁にある」は“女性/正社員”で約4割と高くなっている。

(3) 就業意向

仕事をもっていない方に、これから働きたいと思うかについて聞いたところ、「働きたい」と「一定の負担、特定の条件の中で働きたい」を合わせた『働きたい』(34.1%)が3割台半ば、「働きたくない」(48.4%)は約5割となっている。性別で見ると「働きたくない」は男性(67.8%)が女性(41.4%)より26.4ポイント高くなっている。

(4) 働く上で障害になっていること

仕事をもっておらず、これから働きたい方が現在困っていることについては、「就職先の条件（年齢、待遇など）や仕事の内容が合わないこと」が4割を超え最も高く、次いで、「自分の健康や体力に自信がないこと」、「希望する職業の募集や採用が少ないこと」の順となっている。性別で見ると、「自分の健康や体力に自信がないこと」は女性が4割を超えと高くなっている。

5. 社会的な活動について

(1) 社会的活動への参加状況と意向

現在行っている活動では「特にない」が約5割と最も高くなっており、行っている項目の中では、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」が約3割と高くなっている。性別・年齢別では、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」の女性70歳以上が4割となっている。

今後行ってみたい活動では「特にない」が4割を超えて最も高くなっている。行ってみたい項目の中では、「趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動」が約3割となっている。

(2) 市議会、審議会への女性の参画について

市議会、審議会への女性の参画については、「人数（割合）にこだわる必要はない」が3割を超え最も高く、次いで、「男女半々くらいまで増えた方がよい」、「もう少し増えた方がよい」の順となっている。「もう少し増えた方がよい」、「男女半々くらいまで増えた方がよい」、「男性を上回るほど女性が増えた方がよい」を合わせた『増えた方がよい』は50.2%で半数を超えている。性別で見ると、「人数（割合）にこだわる必要はない」は男性が女性より6.0ポイント高くなっている。時系列比較では、「男女半々くらいまで増えた方がよい」は平成22年以降増加傾向にある。

6. 人権をおびやかす行為について

(1) 基本的人権の侵害についての考え方

あらゆる差別は、基本的人権の侵害であり、是正されるべきだと思うかについて、「もっともだと思う」が約8割で最も高く、「そうは思わない」が1割未満、「どちらとも言えない」は1割半ばを超えている。

(2) パートナーから暴力を受けた経験

パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けた（と感じる）ことがあるかについて、「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある」が約1割、「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがない」は8割台半ばとなっている。「パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある」は女性が男性より9.5ポイント高くなっている。

(2-1) 受けた暴力の内容

パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがあると回答した方が、受けた暴力の内容については、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『あった』は、《精神的暴力》が8割台半ばを超え最も高く、次いで、《身体的暴力》が6割を超えている。

(2-2) 子どもや他の家族の対応

パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがあると回答した方が、暴力を受けているときに子どもや他の家族はどうしているかについては、「パートナー（配偶者や交際相手など）と二人きりのとき以外は暴力を受けない」が3割台半ばで最も高く、次いで、「特に何もしない」が2割台半ばを超えている。

(2-3) 相談先

パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがあると回答した方が、暴力を受けたときの相談先については、「相談しなかった（できなかった）」（50.7%）が約5割で最も高くなっている。相談した人の中では、「家族・親戚」と「友人・知人」がどちらも2割台半ばと最も高くなっている。性別で見ると、「家族・親戚」は女性（26.3%）が2割台半ばを超え、「友人・知人」は女性（24.6%）が2割台半ばとなっている。

(2-4) 相談しなかった理由

パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたとき、「相談しなかった（できなかった）」と回答した方が、相談しなかった理由については、「自分にも悪いところがあると思ったから」が約4割で最も高く、次いで、「相談しても解決しないと思ったから」も約4割と続いている。性別でみると、女性で「相談しても解決しないと思ったから」（51.9%）が約5割と高くなっている。

(3) 暴力をなくすために必要な対策

パートナーからの暴力、心理的虐待、性犯罪をなくすために必要な対策については、「被害者のための相談や救済・支援等を充実させる」が約5割と最も高く、次いで、「法律・制度の制定や見直しを行う」、「家庭・学校における女性と男性及び多様な性の平等や性についての教育を充実させる」の順となっている。性別でみると、「被害者のための相談や救済・支援等を充実させる」は女性が男性より12.2ポイント高くなっている。

(4) セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きしたりした経験

セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きしたりした経験について、「受けたこと・見聞きしたことがない」が5割台半ばで最も高く、次いで、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」、「自分が直接受けた経験がある」の順となっている。女性と男性で差がみられるのは、「自分が直接受けた経験がある」で女性が男性より24.9ポイント高い。性別・年齢別でみると、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」は男性30～39歳で5割と最も高くなっている。また、「自分が直接受けた経験がある」は女性20～29歳で4割を超えて最も高くなっている。

(5) 職場や学校などでのセクシュアル・ハラスメントをなくすために必要なこと

職場（飲み会の席を含む）、学校、社会的活動の場等におけるセクシュアル・ハラスメントをなくすために必要なことについては、「自分が不快だと思うことを相手に対してはっきりと伝えること」が4割を超えて最も高く、次いで、「職場でのセクシュアル・ハラスメント防止研修」、「職場において相談や苦情処理の窓口をつくること」の順となっている。性別でみると、「職場において相談や苦情処理の窓口をつくること」は女性が男性より必要だと思っている割合が高く、9.6ポイント高くなっている。

7. LGBT（セクシュアル・マイノリティ）を含む多様な性について

(1) LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の認知度

LGBT（セクシュアル・マイノリティ）という言葉を知っているかについて、「『LGBT』または『セクシュアル・マイノリティ』という言葉の意味を知っている」が6割を超えて最も高く、次いで「『LGBT』または『セクシュアル・マイノリティ』という言葉聞いたことがある」が2割超えとなっている。性別でみると、「『LGBT』または『セクシュアル・マイノリティ』という言葉の意味を知っている」は男性が女性より4.2ポイント高くなっている。

(2) LGBT（セクシュアル・マイノリティ）の方が直面している課題

LGBTなどのセクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上で、直面している課題について、「学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）」が約7割台半ばで最も高く、次いで、「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度）」で約7割となっている。性別で見ると、「医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）」は女性が男性より14.8ポイント高くなっている。

(3) 性のあり方の悩みについての経験

自分が性のあり方について悩んだり、周りの人が悩んでいるのを見聞きしたりした経験については、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」「性的指向について悩んでいる（悩んだことがある）」「カミングアウトを受けて悩んでいる（悩んだことがある）」「性自認について悩んでいる（悩んだことがある）」「アウティングをされて悩んでいる（悩んだことがある）」を合わせた『悩んでいる/悩んだことがある』（15.3%）は1割台半ばとなっている。性別で見ると、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」は女性が男性より2.7ポイント高くなっている。性別・年齢別で見ると、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」は女性の20～29歳で約3割、30～39歳で2割台半ば、「性自認について悩んでいる（悩んだことがある）」は男性30～39歳で約2割と、他と比べて高くなっている。

8. 国や自治体の取組について

(1) 法律や市の施策の認知度

法律や市の施策の認知度について、「内容をよく知っている」と「概要まで一応知っている」を合わせた『知っている』は、「男女雇用機会均等法」で約6割と最も高く、次いで、「育児・介護休業法」が約5割、「ストーカー規制法」が約4割の順で高い。「男女雇用機会均等法」の認知度を性別で見ると、『知っている』は男性が女性より12.4ポイント高くなっている。

(2) 「くにたち男女平等参画ステーション パラソル」の利用状況

くにたち男女平等参画ステーションを利用したことがあるかについて、「知らない」が8割を超え最も高く、次いで、「知っているが、利用したことはない」、「知っていて、利用したことがある」の順となっている。性別で見ると、女性と男性ともに「知らない」が8割前後と高くなっているが、男性が女性より8.3ポイント高い。「知っているが、利用したことはない」の項目は、女性では年代が高くなるにつれ増加しており、女性70歳以上では約2割台半ばと最も高くなっている。

(3) 女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け力を入れていくべきこと

女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け、今後国立市はどのようなことに力を入れていくべきだと思ふかについては、「性別に関係なくすべての人々がともに働きやすい環境づくり」が約5割で最も高くなっており、次いで、「学校における女性と男性及び多様な性の平等教育」、「子育て・高齢者問題等福祉の充実」などの順となっている。性別で見ると、女性と男性で差がみられるのは、「性別に関係なくすべての人々がともに働きやすい環境づくり」で、女性が男性より14.0ポイント高く力を入れるべきだと感じている。「子育て・高齢者問題等福祉の充実」の項目についてみると、女性40～49歳が5割台半ばで最も高くなっているが、男性40～49歳では最も低くなっている。

(4) 同性カップルのパートナーシップ証明制度の導入について

同性カップルのパートナーシップを証明する制度の導入に賛成か反対かについて、「賛成」と「やや賛成」を合わせた『賛成』が7割台半ばと最も高くなっている。性別で見ると、女性は男性より『賛成』が15.5ポイント高くなっている。ほとんどの年代で『賛成』が高くなっているが、男性70歳以上では5割未満と低くなっている。

V 調查票

V 調査票

国立市では、平成31（2019）年4月に「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」を制定し、“すべての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み支え合い共に生きる”というソーシャル・インクルージョンを理念としたまちづくりを推進しております。

この調査は、市が策定した「国立市第5次男女平等・男女共同参画推進計画（計画期間：平成28（2016）年度～令和5（2023）年度）」に基づき、計画の中間年度に実態調査と評価を行うためのものです。今回の調査は、皆様のご意見を市政に反映していくための大切な調査です。

調査の実施にあたっては、国立市にお住まいで18歳以上の男女3,000人を無作為に選ばせていただいております。回答は無記名でお願いします。結果はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはございません。

お答えになりにくい質問もあるかと思いますが、市民の皆様お一人おひとりの状況をできるだけ正確に市政に反映するために、ぜひご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

令和元年8月 国立市

●●● ご記入にあたってのお願い ●●●

- ① 封筒の宛名のご本人様をご記入ください。回答は無記名でお願いをいたします。
- ② 黒の鉛筆又は黒ボールペンでご記入ください。
- ③ 回答は、あてはまる番号などを○で囲んでください。質問によって○をつける数を「1つ」「いくつでも」など指定しておりますので、その範囲内でお答えください。
- ④ 「その他」にあてはまる場合は、〔 〕内に具体的にご記入ください。
- ⑤ 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（**切手は必要ありません**）に入れて、
8月26日（月）までにご投函ください。特に理由がない限り、記入漏れがないようにご協力ください。返信用封筒に記名の必要はありません。

女性と男性の平等についてのお考えをおたずねします

問1 あなたは現在、次のような分野で女性と男性の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、1～6のうちあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	常に男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	常に女性の方が優遇されている	わからない
ア. 家庭生活（家事・育児・介護）	1	2	3	4	5	6
イ. 職場	1	2	3	4	5	6
ウ. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
エ. 地域社会	1	2	3	4	5	6
オ. 政治の場	1	2	3	4	5	6
カ. 法律・制度	1	2	3	4	5	6
キ. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
ク. 社会全体	1	2	3	4	5	6

問2 次のことについて、1～5のうち、あなたの考えにもっとも近いものの番号に1つずつ○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえない	そう思わない	わからない
ア. 男は男らしく、女は女らしくあるべきだ	1	2	3	4	5
イ. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
ウ. 男女が一緒に暮らすのであれば結婚すべきだ	1	2	3	4	5
エ. 夫婦は別姓（名字を別にすること）を選択できるべきだ	1	2	3	4	5
オ. 同性カップル（女性同士・男性同士のカップル）の法的な結婚を認めるべきだ	1	2	3	4	5

問3 女性が仕事をする事について、どのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性は家事・育児に専念し、仕事をもたない方がよい 2. 結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念した方がよい 3. 妊娠・出産するまでは仕事をして、妊娠・出産後は家事・育児に専念した方がよい 4. 結婚や妊娠・出産に関わらず、それまでと同じ働き方でずっと仕事をもつ方がよい 5. 妊娠・出産後は、家事・育児と仕事のバランスを取りながら仕事をもつ方がよい 6. 妊娠・出産後は仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい 7. その他 [具体的に： _____] 8. わからない
--

教育、子育てについておたずねします

問4 女性と男性及び多様な性の平等のため、あなたは学校教育の場では特にどのようなことが必要だと思いますか。必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 女性と男性と多様な性の平等の意識を育てる授業を行う
2. 出席簿や名簿、座席、整列、服装など性別によって分ける慣習をなくす
3. 教職員、管理職（校長・副校長）に向けた研修を行う
4. 人権尊重の立場に立った性教育を充実させる
5. DVやデートDV、セクシュアル・ハラスメントに関する相談機能を充実させる
6. 管理職（校長・副校長）に女性を増やしていく
7. 文系・理系を問わず希望する進学先に進むための支援を行う
8. その他 [具体的に: _____]
9. わからない |
|---|

問5 あなたは子育てに関し何を不安に感じますか。不安だと考えるものを3つまで選び、○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| 1. 親の経済的負担（教育費等）が大きい
2. 親の精神的・肉体的負担が大きい
3. 保育所等の子育てを支援する制度が整っていない
4. 自分の時間を確保できない
5. 子育ての負担が母親又は父親に偏っている
6. 子どもの育つ将来の社会に不安がある | 7. 子育てと仕事を両立させることは、仕事に支障をきたす
8. 地域で子育てを支援する体制がない
9. 職場において育児・介護休業等の支援環境が整っていない
10. その他 [具体的に: _____]
11. わからない |
|--|---|

あなたの家庭や暮らしについておたずねします

問6 あなたのふだんの生活時間についておたずねします。

平日の1日、あなたが次のようなことに費やす時間は平均してどのくらいですか。それぞれについて、数値でお答えください。（ない場合は「0」（ゼロ）とご記入ください）

ア. 家事・育児に費やす時間	[時間 分]
イ. 介護に費やす時間	[時間 分]
ウ. 仕事（*1）・学業に費やす時間	[時間 分]
エ. 通勤・通学に費やす時間（往復）	[時間 分]
オ. 社会活動（*2）に費やす時間	[時間 分]
カ. 趣味・習い事に費やす時間	[時間 分]
キ. 休憩や気晴らし（睡眠時間を含む）	[時間 分]

*1 ここでは収入を得る仕事をさします。上司や同僚とのつきあいの時間も含めてお答えください。

*2 ボランティアや地域活動等をさします。移動時間も含めてお答えください。

*3 合計が24時間とならなくてもかまいません。24時間以内でおおよその時間をお答えください。

結婚している方におたずねします（事実婚（*）の方もお答えください）

問7 家庭生活での、夫婦の（またはパートナーとの）役割分担はどのようになさっていますか。それぞれについて、1～6のうちあてはまる番号に1つずつ〇をつけてください。

	主に自分が行う	どちらかといえば自分が行う	自分とパートナーと同程度で行う	どちらかといえばパートナーが行う	主にパートナーが行う	該当しない・わからない
ア. 炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事	1	2	3	4	5	6
イ. 育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ	1	2	3	4	5	6
ウ. 家計の管理	1	2	3	4	5	6
エ. 親や家族の介護、看護	1	2	3	4	5	6
オ. 子どもが通う保育所・学校等の行事への参加	1	2	3	4	5	6
カ. 町会・自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6

* 事実婚…婚姻届は出していないが、パートナーと共同生活をしていること

結婚している方におたずねします（事実婚の方もお答えください）

問8 家庭生活での、夫婦の（またはパートナーとの）役割分担はどのように分担することが望ましいと考えますか。それぞれについて、1～6のうちあてはまる番号に1つずつ〇をつけてください。

	主に自分が行う	どちらかといえば自分が行う	自分とパートナーと同程度で行う	どちらかといえばパートナーが行う	主にパートナーが行う	該当しない・わからない
ア. 炊事・洗濯・掃除・買い物などの家事	1	2	3	4	5	6
イ. 育児（乳幼児の世話）や子どもの教育、しつけ	1	2	3	4	5	6
ウ. 家計の管理	1	2	3	4	5	6
エ. 親や家族の介護、看護	1	2	3	4	5	6
オ. 子どもが通う保育所・学校等の行事への参加	1	2	3	4	5	6
カ. 町会・自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6

問9 育児休業・介護休業は男女とも取得できることが法律で認められています。育児休業・介護休業の取得の実態をおたずねします。

あなたは育児休業を取得したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 取得したことがある(取得中も含む) → 問9-1、問9-2	2. 取得条件を満たしているが、取得したことがない → 問9-3へ	3. 取得条件に該当しない	4. 出産時に退職したため取得していない	5. 制度を知らない
-------------------------------------	--------------------------------------	---------------	----------------------	------------

取得したことがある方(問9で1と回答した方)におたずねします

問9-1 育児休業の取得期間の長さを教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。複数回取得したことがある方は、取得した中で最長の期間に○をつけてください。

1. 1日以上1週間未満	4. 1ヶ月以上3ヶ月未満	7. 1年以上2年未満
2. 1週間以上2週間未満	5. 3ヶ月以上6ヶ月未満	8. 2年以上
3. 1ヶ月未満	6. 6ヶ月以上1年未満	9. その他 []

取得したことがある方(問9で1と回答した方)におたずねします

問9-2 育児休業を取得したなかであなたが不満に感じたことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 取得日数が希望通りではなかった	5. 収入が下がった
2. 取得のタイミングが希望通りではなかった	6. 復職後のキャリア形成に影響が出た
3. 職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だった	7. 交友関係が狭まった
4. 休業中又は復職する際の職場のサポート体制が十分ではなかった	8. その他 [具体的に:]
	9. 不満に感じたことはない

取得条件を満たしているが、取得したことがない方(問9で2と回答した方)におたずねします。

問9-3 育児休業を取得しなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 家庭に育児をしてくれる人が別にいたから	6. 休業中又は復職する際の職場のサポート体制が十分ではないから
2. 自分の仕事内容に支障が出るから	7. 取得する必要性を感じなかったから
3. 自分のキャリア形成(出世や昇進等)に支障が出るから	8. その他 [具体的に:]
4. 取得することで収入が下がるから	9. わからない、覚えていない
5. 職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だから	

問10 あなたは介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）を取得したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 取得したことがある	2. 取得条件を満たしているが、取得したことがない	3. 取得条件に該当しない	4. 介護が理由で退職したため取得していない	5. 制度を知らない又は知らなかった
--------------	---------------------------	---------------	------------------------	--------------------

問11 これまで、高齢者や病人の介護は、女性に負担が偏りがちでしたが、男性の介護への参加を進めるためには、どのようなことが重要だと思いますか。重要と思うものを3つまで選び、○をつけてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 性別を問わず介護を行うという社会意識を醸成する2. 女性が一方的に介護を担うことがないように、家族間で介護の分担について話し合う3. 男性の介護参加のための啓発活動を進める4. 介護について気軽に相談できるような窓口を整える5. 日常的に介護者同士が話し合える地域のネットワークづくりを進める6. 介護サポーターや入所施設等の地域における支援を充実させる7. 労働時間の短縮、在宅勤務、フレックスタイムの導入、介護休暇取得など就業環境を整える8. その他 [具体的に：]9. わからない |
|---|

あなたの仕事に関することについておたずねします

問12 あなたは現在、収入を伴う仕事をしていますか。出産や育児・介護のために休んでいる場合（育児・介護休業）は働いているとお答えください。ただし、学生で学費や生活費のためにアルバイトをしている場合は「3」、それ以外（お小遣いや趣味など）のためにアルバイトをしている場合は「5」です。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|--|----------|
| <ol style="list-style-type: none">1. 自由業・自営業・家族従業員として働いている2. 正社員として雇用されている3. 契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている4. その他（具体的に： ） | → 問 12-1 |
| <ol style="list-style-type: none">5. 仕事をもっていない（主夫・主婦・その他） | → 問12-2へ |

収入を伴う仕事をされている方（問12で1～4と回答した方）におたずねします

問12-1 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で次のようなことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 性別により募集や採用に違いがある
2. 性別により賃金、昇給や昇進、昇格に違いがある
3. 育児・介護休業の取得は難しい雰囲気がある
4. 長時間労働、サービス残業、休日出勤が頻繁にある
5. 女性の能力・業績が正しく評価されない
6. 補助的業務への配置は主に女性である
7. 女性は結婚や出産を機に、退職しなければならないような雰囲気がある
8. 女性は研修（教育・訓練）を受ける機会が少ない
9. セクシュアル・ハラスメントが放置され、被害者に適切な対応がない
10. その他 [具体的に：]
11. 特にない

仕事をもっていない方（問12で5と回答した方）におたずねします

問12-2 あなたは、これから働きたいと思えますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 働きたい2. 一定の負担、特定の条件の中で働きたい | <ol style="list-style-type: none">3. 働きたくない4. わからない |
|---|--|

➡ 問12-3へ

問12-2で働きたいと回答した方（1または2と回答した方）におたずねします

問12-3 あなたが働く上で現在困っていることはどのようなことですか。主なものを3つまで選び、○をつけてください。

1. 希望する職業の募集や採用が少ないこと
2. 就職先の条件（年齢、待遇など）や仕事の内容が合わないこと
3. 働くにあたって家族の理解・協力が得られないこと
4. 介護・看護の必要な家族がいること
5. 適切な保育所・託児施設が見つからないこと
6. 仕事を始めるにあたって資金などの条件が不足していること
7. 自分の健康や体力に自信がないこと
8. 自分の能力や就職のための技能を磨くことができないこと
9. 就職に関する相談先が分からないこと
10. その他 [具体的に：]
11. 特にない

社会的な活動についておたずねします

問13 あなたは現在、学業又は仕事以外に社会的な活動をしていますか。また、今後行ってみたい社会的な活動は何ですか。それぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(1) 現在行っている活動

1. 自治会等の活動	7. 福祉ボランティア活動
2. P T Aや子ども会の活動	8. 審議会等の政策決定にかかわる活動
3. 趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動	9. その他
4. 共同保育等子どもの保育や教育にかかわる活動	〔具体的に： 〕
5. 外国人との交流、ボランティア等の国際活動	10. 特にない
6. 消費生活(*)や環境保護等の住民活動	

* 消費生活…自分にとって必要な商品やサービスを購入してそれを消費する生活

(2) 今後行ってみたい活動

1. 自治会等の活動	7. 福祉ボランティア活動
2. P T Aや子ども会の活動	8. 審議会等の政策決定にかかわる活動
3. 趣味・スポーツ・学習に関するグループ活動	9. その他
4. 共同保育等子どもの保育や教育にかかわる活動	〔具体的に： 〕
5. 外国人との交流、ボランティア等の国際活動	10. 特にない
6. 消費生活や環境保護等の住民活動	

問14 市議会や審議会への女性の参画についておたずねします。平成31(2019)年4月時点で、国立市における市議会議員のなかに占める女性の数は21人中8人(38.0%)、審議会等の委員に占める女性委員の数は629人中188人(29.9%)です。

あなたは国立市の公職につく女性の数についてどうお考えになりますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 今のままでよい	5. 人数(割合)にこだわる必要はない
2. もう少し増えた方がよい	6. その他〔具体的に： 〕
3. 男女半々くらいまで増えた方がよい	7. わからない
4. 男性を上回るほど女性が増えた方がよい	

人権をおびやかす行為についておたずねします

問15 年齢、性別、性自認（*1）、性的指向（*2）、しょうがいの有無、国籍、民族、宗教、部落出身などを理由にしたあらゆる差別は、基本的人権の侵害であり、是正されるべきだと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. もっともだと思う	2. そうは思わない	3. どちらとも言えない
-------------	------------	--------------

*1 性自認…自分の性に対する自己認識（自分が男性又は女性であるか、中間であるか等）。

*2 性的指向…人の恋愛や性的関心がどのような性を対象とするか（異性愛、同性愛、両性愛等）。

問16 あなたは、今までにパートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けた（と感じる）ことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> → 問16-1、問16-2、問16-3へ </div>	2. パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがない
--	------------------------------------

問16で1（パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある）と回答した方におたずねします

問16-1 あなたはパートナー（配偶者や交際相手など）から次のような行為をされたことがありますか。ア～オの項目について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	あ 何 つ た も	あ 1、 つ た 2 度	な ま い つ た く
ア. 身体的暴力（殴られる、蹴られる、物を投げられる、突き飛ばされる、首を絞められる、タバコを押し付けられる、など）	1	2	3
イ. 精神的暴力（大声で怒鳴られる、無視される、日常的に罵る・蔑む言葉を言われる、脅迫される、身体的な暴力を振るうそぶりをされる、「誰のおかげで生活できるのか」などと言われる、など）	1	2	3
ウ. 性的暴力（性的行為を強要される、ポルノビデオ・アダルトサイトを見せられる・避妊に協力をしてもらえない・中絶を強要されるなど）	1	2	3
エ. 経済的暴力（生活費を渡されない、生活費を過度に要求される、貯金を勝手に使われる、無理な仕事をさせられる、外で働き収入を得ることを妨害される、など）	1	2	3
オ. 社会的暴力（交友関係や行き先、電話・郵便物・メールの内容を細かく監視される、外出や親族・友人との付き合いを制限される、など）	1	2	3

問16で1（パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある）と回答した方におたずねします

問16-2 パートナー（配偶者や交際相手など）から暴力を受けているときに子どもや他の家族はどうしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 止めようとして割って入る	6. 特に何もしない
2. 子どもや家族も暴力を受ける	7. パートナー（配偶者や交際相手など）と二人きりのとき以外は暴力を受けない
3. 他の場所に逃げる	8. その他〔具体的に： _____〕
4. 近隣、家族、知人等に助けを求めに行く	
5. 警察や相談機関に連絡する	

問16で1（パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力を受けたことがある）と回答した方におたずねします

問16-3 暴力を受けたとき、どなたかに相談をしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 警察	7. 民間相談機関（弁護士・法テラス・民間シェルター・NPO・支援団体など）
2. 国立市の相談窓口	8. 医師・看護師・カウンセラー等
3. 東京都の相談窓口（東京ウィメンズプラザ・東京都女性相談センター・東京都女性相談センター多摩支所）	9. 家族・親戚
4. 法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談	10. 友人・知人
5. 裁判所	11. その他〔具体的に： _____〕
6. 民生委員・児童委員	12. 相談しなかった（できなかった）
	➡ 問16-4へ

問16-3で12（相談しなかった（できなかった））と回答した方におたずねします

問16-4 その理由としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 相談する人がいなかったから
2. どこに相談してよいのかわからなかったから
3. 相談しても解決しないと思ったから
4. 相談したことがわかると、自分または子どもや家族に危害が及ぶ・仕返しを受けると思ったから
5. 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから
6. 自分にも悪いところがあると思ったから
7. 自分が受けている行為が暴力だとは認識していなかったから
8. パートナー又は子どもの親を犯罪者にしたくないから
9. その他〔具体的に： _____〕

問17 子どもが両親間等の暴力を目撃することは心理的虐待にあたります。心理的虐待、性犯罪、パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力をなくすために、どのようなことを行っていくべきだと思いますか。あてはまると思われるものを3つまで選び、○をつけてください。

1. 被害者のための相談や救済・支援等を充実させる
2. 家庭・学校における女性と男性及び多様な性の平等や性についての教育を充実させる
3. 市民活動を支援し、暴力に対する世論を高める
4. テレビなどのメディアの倫理規定の強化の働きかけや規制を進める
5. 過激な表現を含むDVD、ゲーム、映画などのソフトの販売や貸出を制限する
6. 法律・制度の制定や見直しを行う
7. 犯罪の取り締まりを強化する
8. 行政や警察が啓発活動を積極的に行う
9. 学校教育における啓発プログラムを行う
10. 加害者を対象とした更生プログラムを充実させる
11. その他 [具体的に：]
12. 特に対応の必要はない
13. わからない

問18 あなたは、職場（飲み会の席を含む）、学校、社会的活動の場等においてセクシュアル・ハラスメント（*）を受けたり、見聞きしたりした経験がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 自分が直接受けた経験がある
2. セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている
3. セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている
4. その他 [具体的に：]
5. 受けたこと・見聞きしたことがない

* セクシュアル・ハラスメント

- 性的な言動の例・・・性的な事実関係を尋ねること、性的な冗談やからかい、食事やデートへの執拗な誘い、性的な内容のうわさを流布すること、個人的な性的体験談を話すこと 等
- 性的な行動の例・・・性的な関係を強要すること、必要なく身体に接触すること、雑誌等の卑わいな写真・記事等をわざと見せたり読んだりすること、強制わいせつ行為 等

問19 あなたは、職場（飲み会の席を含む）、学校、社会的活動の場等におけるセクシュアル・ハラスメントをなくすために、どのようなことが必要だと思いますか。必要と思われるものを3つまで選び、○をつけてください。

1. 自分が不快だと思うことを相手に対してはっきりと伝えること
2. 「性別・性的指向が異なる人も仕事上の対等なパートナーである」という意識をもつこと
3. 職場でのセクシュアル・ハラスメント防止研修
4. 職場において相談や苦情処理の窓口をつくること
5. 労働組合などが相談に乗る体制をつくること
6. 職場の就業規則にセクシュアル・ハラスメントを禁止する条項を設けること
7. 行政や弁護士等の職場外の相談窓口を充実させること
8. 行政がセクシュアル・ハラスメント防止のための啓発活動を行うこと
9. 学校教育における啓発プログラムを行うこと
10. その他 [具体的に：]
11. わからない

LGBT などのセクシュアル・マイノリティを含む、性別に関する考え方についておたずねします。

問20 「LGBT（セクシュアル・マイノリティ）」という言葉を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 「LGBT」 或いは「セクシュアル・マイノリティ」という言葉の意味を知っている
2. 「LGBT」 或いは「セクシュアル・マイノリティ」という言葉を聞いたことがある
3. 「LGBT」 或いは「セクシュアル・マイノリティ」という言葉を聞いたことがない

* LGBT（エル・ジー・ビー・ティー）…レズビアン（Lesbian:同性愛者の女性）、ゲイ（Gay:同性愛者の男性）、バイセクシュアル（Bisexual:女性と男性の両方を好きになる両性愛者）、トランスジェンダー（Transgender:生まれたときの性別とは異なる性を自認する人）の頭文字をとった言葉。

* セクシュアル・マイノリティ…性的少数者のこと。

問21 LGBT などのセクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上で、直面している課題と思われるものを、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）
2. 就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度）
3. 住宅（住宅の入居拒否）
4. 医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）
5. 民間サービス（家族と同等のサービス提供（家族割引・生命保険の受け取りなど）
6. 死別（葬儀への出席、遺産相続）
7. その他 [具体的に：]
8. 直面している課題はないと思う。

問22 あなたは今までに自分が性のあり方について悩んだり、周りの人が悩んでいるのを見聞きしたりした経験がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 性自認（*1）について悩んでいる（悩んだことがある）
2. 性的指向（*2）について悩んでいる（悩んだことがある）
3. カミングアウト（*3）を受けて悩んでいる（悩んだことがある）
4. アウティング（*4）をされて悩んでいる（悩んだことがある）
5. 周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）
6. そのような経験はない
7. その他 [具体的に：] |
|---|

- *1 性自認…自分の性に対する自己認識（自分が男性又は女性であるか、中間であるか等）
- *2 性的指向…人の恋愛や性的関心がどのような性を対象とするか（異性愛、同性愛、両性愛等）。
- *3 カミングアウト…自らの性のあり方（性自認、性的指向等）を自覚し、それを誰かに開示すること。
- *4 アウティング…本人の性のあり方（性自認、性的指向等）を、同意なく第三者に暴露すること。

国や自治体の取組についておたずねします。

問23 あなたは、次のような法律や市の施策などについて知っていますか。ア～コの項目について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	内容をよく知っている	概要まで一応知っている	聞いたことはある	全く知らない
ア. 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
イ. 女子差別撤廃条約	1	2	3	4
ウ. 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
エ. 育児・介護休業法	1	2	3	4
オ. ストーカー規制法	1	2	3	4
カ. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律	1	2	3	4
キ. 女性活躍推進法	1	2	3	4
ク. 国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例	1	2	3	4
ケ. 国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例	1	2	3	4
コ. 国立市第5次男女平等・男女共同参画推進計画	1	2	3	4

問24 国立市では、女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する拠点施設として、JR 国立駅高架下に「くにたち男女平等参画ステーション パラソル」を平成30(2018)年5月に開設しています。あなたは、くにたち男女平等参画ステーションを利用したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| 1. 知っていて、利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない
4. その他〔具体的に： |] |
|--|---|

問25 女性と男性及び多様な性の平等参画の推進に向け、今後国立市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまると思われるものを3つまで選び、○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| 1. 学校における女性と男性及び多様な性の平等教育
2. 広報・啓発活動
3. 健康・福祉、労働などの相談事業
4. 性別に関係なくすべての人々がともに働きやすい環境づくり
5. 起業（新しく事業をはじめること）など女性の多様な働き方への支援
6. NPO（非営利市民団体）活動の育成・支援 | 7. 女性と男性及び多様な性の平等参画に関する調査・研究
8. 審議会等の政策決定の場への女性参画推進
9. 地域活動やボランティア活動の促進
10. 子育て・高齢者問題等福祉の充実
11. 東京都や国等との連携
12. その他〔具体的に：
13. 特にない |
|--|---|

問26 国立市が、同性カップルのパートナーシップを証明する制度を導入するとしたら、あなたは賛成ですか反対ですか。あなたのお考えに最も近いもの1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 賛成 | 2. やや賛成 | 3. やや反対 | 4. 反対 |
|-------|---------|---------|-------|

あなたのことについてもう少しおたずねします

F 1 あなたの性別は次のどちらですか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別]

1. 女性	2. 男性
-------	-------

*「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことを指します。

F 2 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別（上で○をつけたもの）と同じだととらえていますか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。左側で2や3に○をした方は、今の認識についてもお答えください。

1. 出生時の性別と同じ	→	今の認識にもっとも近い性別（○は1つ）
2. 別の性別だととらえている		1. 女性
3. 違和感がある		2. 男性
		3. その他 [具体的に：]

F 3 次の中で、あなたにもっとも近いと思うもの 1つに○をつけてください。

1. 異性愛者、すなわち <u>レズビアン・ゲイ等ではない</u> [異性のみに性愛感情を抱く人]	4. 無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]
2. レズビアン・ゲイ・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]	5. 決めたくない・決めていない
3. バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]	6. 質問の意味がわからない
	7. 答えたくない

F 4 あなたの年代は次のうちどれですか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

1. 18～19歳	4. 30～34歳	7. 45～49歳	10. 60～64歳
2. 20～24歳	5. 35～39歳	8. 50～54歳	11. 65～69歳
3. 25～29歳	6. 40～44歳	9. 55～59歳	12. 70歳以上

F 5 あなたは外国にルーツがありますか（外国籍である、父母や祖父母に外国出身の方がいる等）。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

1. 外国にルーツがある	2. 外国にルーツはない	3. 答えたくない
--------------	--------------	-----------

F 6 あなたの家族構成は次のうちどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 一人暮らし世帯 2. 夫婦のみ世帯（事実婚、同性パートナーを含む） 3. 核家族（親と未婚の子が同居）	4. 二世帯世帯（親と子ども世帯が同居） 5. 三世帯世帯（親と子どもと孫が同居） 6. その他〔具体的に： _____〕 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">➡ F6-1、F6-2へ</div>
--	--

F 6で2～6と回答した方におたずねします

F 6-1 あなたの家族の中には、同居・非同居にかかわらず、高齢者や病人等の介護を必要としている方がいますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 自分自身 2. 自分の親族 3. 配偶者またはパートナーの親族	4. その他〔具体的に： _____〕 5. いない
--	-------------------------------

F 6で2～6と回答した方におたずねします

F 6-2 あなたの家族の中には、同居・非同居にかかわらず、しょうがいがある方はいますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 自分自身 2. 自分の親族 3. 配偶者またはパートナーの親族	4. その他〔具体的に： _____〕 5. いない
--	-------------------------------

F 7 あなたは配偶者（事実婚のパートナーを含む）がいますか。現在の状況についてあてはまる番号1つに○をつけてください。法律婚・事実婚は問いません。

1. いる <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">➡ F7-1へ</div>	2. いない
---	--------

F 7で1と回答した方におたずねします

F 7-1 おふたりの働き方は次のうちどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 自分又はパートナーだけが働いている 2. 共働きである	3. どちらも働いていない 4. その他〔具体的に： _____〕
-----------------------------------	--------------------------------------

F 8 あなたにお子さんは何人いますか。別居の方も含めてお答えください。次のうちあてはまる番号 1つに○をつけてください。

1. 子どもはいない	3. 2人	5. 4人
2. 1人	4. 3人	6. 5人以上〔具体的に： 人〕

➡ F8-1へ

F 8で2～6と回答した方におたずねします

F 8-1 あなたの家庭には、次に該当する方がいらっしゃいますか。あてはまる番号 すべてに○をつけてください。

1. 未就学児	4. 中学生	7. 社会人以上
2. 小学1～3年生	5. 高校生	
3. 小学4～6年生	6. 大学生	

F 9 あなたは国立市に何年お住まいですか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

1. 1年未満	3. 3～5年未満	5. 10～20年未満
2. 1～3年未満	4. 5～10年未満	6. 20年以上

F 10 あなたがお住まいの地域はどちらですか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

1. 北	4. 西	7. 青柳
2. 東	5. 富士見台	8. 石田
3. 中	6. 谷保	9. 泉

最後に、女性と男性及び多様な性の平等についてのご意見を自由にお書きください

あなたが日頃、女性と男性及び多様な性の平等について感じていること、困っていること、国立市に希望すること、今後期待するイベントなどをご自由にお書きください。

Blank area for writing responses, containing horizontal dashed lines for writing.

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入後のアンケートは返信用封筒に入れ、8月26日（月）までにご投函ください。

お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（このアンケートや封筒には、お名前やご住所を記入しないでください。）

配偶者間等での暴力についての相談(DV相談)

DV被害者は心身への危害・危険があるだけでなく、無力感やPTSD(心的外傷後ストレス障害)など将来にも影響が起こりえます。また、子どもにとってDVを目撃すること自体が心理的虐待に当たり、DVが起きている家庭では子供自身も直接的な暴力を受けている場合が少なくありません。DVでは?と感じたらご相談・ご連絡ください。

●東京都女性相談センター(女性用)

電話:03-5261-3110(午前9時~午後8時/土日・祝日・年末年始を除く毎日)

*緊急の場合は03-5261-3911(夜間・休日のみ)

●東京都女性相談センター多摩支所(女性用)

電話:042-522-4232(午前9時~午後4時/土日・祝日・年末年始を除く毎日)

●東京ウィメンズプラザ(女性用)

電話:03-5467-2455(午前9時~午後9時/年末年始を除く毎日)

●東京ウィメンズプラザ(男性のための悩み相談)

電話:03-3400-5313(午後5時~午後8時/祝日・年末年始を除く月・水曜日)

●警視庁総合相談センター(女性・男性とも)

電話:03-3501-0110(午前8時30分~午後5時15分/土日・祝日・年末年始を除く毎日)

●立川警察署 生活安全課防犯係生活安全相談(女性・男性とも)

電話:042-527-0110(午前8時30分~午後5時15分/常時)*緊急の場合は110番(24時間)

悩みごとは市の相談窓口へ

●ひとり親家庭等の相談

母子・父子自立支援員がひとり親家庭等の相談に応じています。

国立市子ども家庭部 子育て支援課 子育て支援係 電話:042-576-2111(内線168,414)

(午前8時30分~午後5時15分/土日・祝日・年末年始を除く毎日)

●女性相談

女性が抱えている悩みごとの相談に応じています。

国立市政策経営部市長室男女平等・女性支援担当 電話:042-576-2111(内線403)

(午前8時30分~午後5時15分/土日・祝日・年末年始を除く毎日)

●夜間・休日女性相談(電話相談)

市役所の閉庁時に、国立市在住の女性のための電話相談を行っています。

電話:070-2632-1078

(平日午後7時~午後10時)(土日・祝日・年末年始:午後5時~午後10時)*受付は終了15分前まで

●生きかた相談室等(くにたち男女平等参画ステーション)

暮らしの中で抱える様々な問題についてお話を伺い、解決に向けて共に考えます。相談員による日々の相談の他、専門相談員による相談(要予約)も行っています。

電話:042-501-6990(問合せ)、042-501-6996(相談専用)

多様な性と人権に関する市民意識調査 報告書

令和元（2019）年 11 月発行

□発行／国立市 政策経営部 市長室 平和・人権・ダイバーシティ推進係
〒186-8501 東京都国立市富士見台 2 丁目 47 番地の 1
電話 042-576-2111（代表） （内線） 229・256

□実施／株式会社アストジェイ
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3 丁目 7 番 4 号
電話 03-3525-8439

本報告書は再生紙を使用しています